DAIHATSU

01999-B2669

MOVE CANBUS

取扱説明書

よくお読みになって使用してください。
取扱説明書はお車の中に保管しましょう。

DAIHATSU

このたびは、ダイハツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は、ムーヴ キャンバスの正しい取り扱いかたや、お手入れの方法などについて説明しているほか、お車を操作する上で必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

ご愛車のために

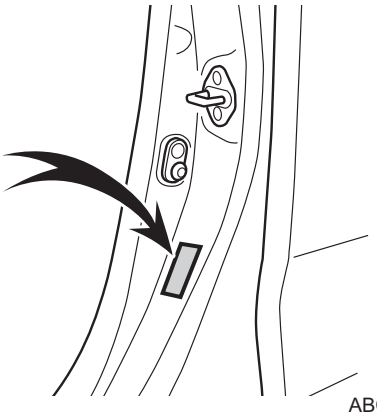
- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認した上で操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくと便利です。
- オーディオを装着された方は、別冊の取扱説明書も併せてご覧ください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書をお車に付けておいてください。
  - 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
  - ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネームプレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	KF 型エンジン
総排気量	658cc
車体色（番号）	
トランスミッション	CVT

ネームプレートは助手席側ドアを開けたところに貼り付けしてあります。



ABCB050001

イラスト目次　イラストから検索

1 安全・安心のために　お客様に必ずお読みいただきたいこと
2 計器の見方　メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3 各部の操作　ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4 運転　運転に必要な操作やアドバイス
5 室内装備・機能　室内装備の使い方など
6 お手入れのしかた　お車のお手入れ・メンテナンスの方法
7 万一の場合には　故障したときや、緊急時などの対処
8 車両情報　お車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん
症状から検索
音から検索
アルファベットで検索
五十音で検索

知っておいていただきたいこと …… 6
本書の見方 …… 10
検索のしかた …… 11
イラスト目次 …… 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に …… 22
安全なドライブのために …… 24
シートベルト …… 26
SRS エアバッグ …… 31
排気ガスに対する注意 …… 39

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは …… 40
チャイルドシート …… 41

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム …… 60
セキュリティアラーム …… 61

2 計器の見方

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 …… 66
計器類 …… 73
マルチインフォメーションディスプレイ …… 75
TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ …… 88

3 各部の操作

3-1. キー
キー …… 120

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
キーフリーシステム …… 123
フロントドア …… 133
スライドドア …… 143
バックドア …… 163

3-3. シートの調整
フロントシート …… 168
リヤシート …… 169
ヘッドレスト …… 172
シートアレンジ …… 174

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル …… 176
インナーミラー …… 178
ドアミラー …… 179

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ …… 182

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって …… 188
荷物を積むときの注意 …… 198

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ …… 199
CVT 車の運転 …… 204
方向指示レバー …… 207
パーキングブレーキ …… 209
電動パーキングブレーキ … 210
オートブレーキホールド機能 …… 215

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ …… 219
AHB（オートハイビーム） …… 224
ADB（アダプティブドライビングビーム）…… 228
フォグランプスイッチ …… 233
ワイパー & ウォッシャー（フロント） …… 234
ワイパー & ウォッシャー（リヤ） …… 236

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 …… 238

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト …… 242
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者） …… 259
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方） … 270
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能 …… 280
ふらつき警報 …… 288
先行車発進お知らせ機能 … 291
標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止） …… 293
全車速追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール） …… 297
LKC（レーンキープコントロール） …… 314
アイドリングストップシステム（eco IDLE）…… 322
コーナーセンサー …… 332
バックカメラ …… 339
パノラマモニター …… 343
スマートパノラマパーキングアシスト …… 350
プラスサポート（販売店オプション）…… 375
運転を補助する装置 …… 381

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 …… 388

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
オートエアコン …… 394
シートヒーター …… 401
5-2. オーディオの使い方
ステアリングスイッチ …… 402
5-3. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 …… 403
5-4. 収納装備
収納装備一覧 …… 406
ラゲージルーム内装備 …… 417
5-5. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 …… 419

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装のお手入れ …… 434
内装のお手入れ …… 439
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット …… 443
ガレージジャッキ …… 446
エンジンオイルについて … 447
ウォッシャー液の補充 …… 448
タイヤについて …… 450
タイヤの交換 …… 454
タイヤ空気圧について …… 460
エアコンフィルターの交換 …… 462
ワイパーゴムの交換 …… 464
キーの電池交換 …… 469
ヒューズの点検・交換 …… 472
電球（バルブ）の交換 …… 475

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは …… 490
非常点滅灯（ハザードランプ）…… 491
発炎筒 …… 492
車両を緊急停止するには … 494
水没・冠水したときは …… 495
車中泊が必要なときは …… 496
7-2. 緊急時の対処法
けん引について …… 497
フューエルポンプシャットオフシステム …… 504
警告灯がついたときは …… 505
警告メッセージが表示されたときは …… 513
「スマアシ停止」が表示されたときは …… 534
パンクしたときは …… 539
エンジンがかからないときは …… 552
電子カードキーが正常に働かないときは …… 553
バッテリーがあがったときは …… 555
オーバーヒートしたときは …… 559
スタックしたときは …… 562

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）…… 564
8-2. カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧 …… 570
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 …… 577

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） …… 580
お車から音が鳴ったときは（音さくいん） …… 583
アルファベット順さくいん …… 584
五十音順さくいん …… 585

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

ダイハツサービス工場で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

●ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

●車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、お車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

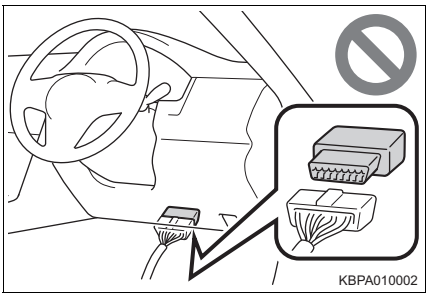
●次の場合はダイハツサービス工場にご相談ください。

- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- 電装品・無線機の取り付け・取り外し
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
  RF 送信機の取り付けについては P. 9 も参照してください。

●フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

●データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

●車両の各システムの作動状況

●アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

●車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。ダイハツに加え、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

●EDR データの情報開示

次の場合を除き、ダイハツは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

●EFI※ コンピューター

●スマートアシスト

●VSC

●SRS エアバッグ

●シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

※ “EFI” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポート※ について

ダイハツサービス工場で専用の電子カードキーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→ P. 375）の機能が利用可能になります。詳細については、ダイハツサービス工場にお問い合わせください。

※ “プラスサポート” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

本書の見方

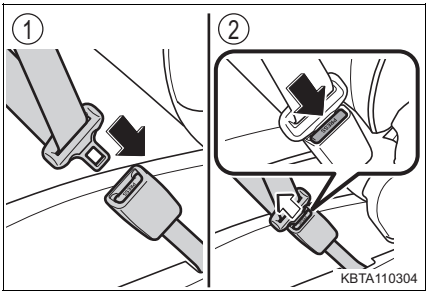
警告 お守りいただかないと、お客様ご自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

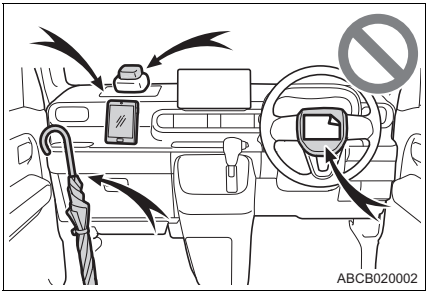
➡:押す・回すなど、していただきたい操作を示しています。

⇨:ふたが開くなど、操作後の作動を示しています。



➘:説明の対象となるもの・場所を示しています。

⃠:“してはいけません”
“このようにしないでください”
“このようなことを起こさないでください”という意味です。

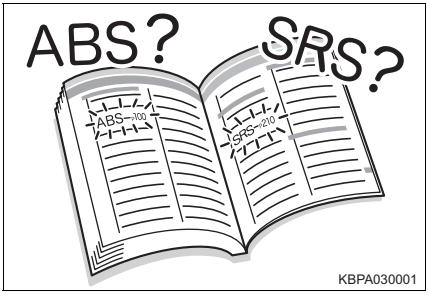


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

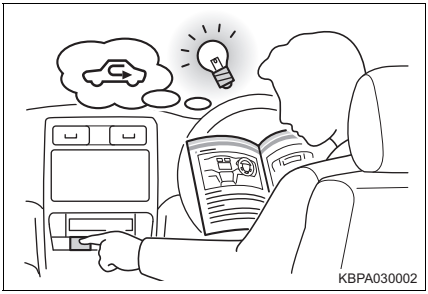
▶名称から探す

- 五十音順さくいん ……585
- アルファベット順さくいん ……584



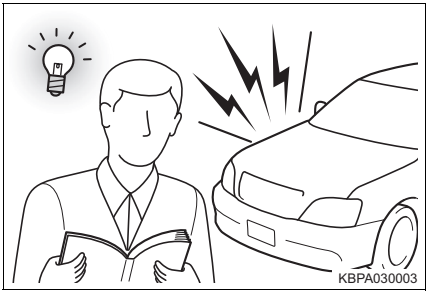
▶取り付け位置から探す

- イラスト目次 …… 12



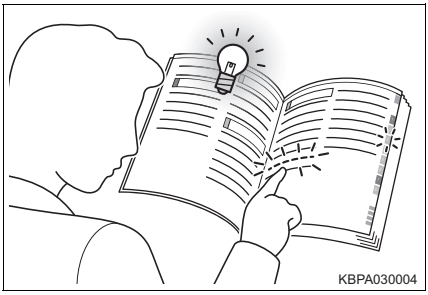
▶症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん） ……580
- お車から音が鳴ったときは（音さくいん） ……583



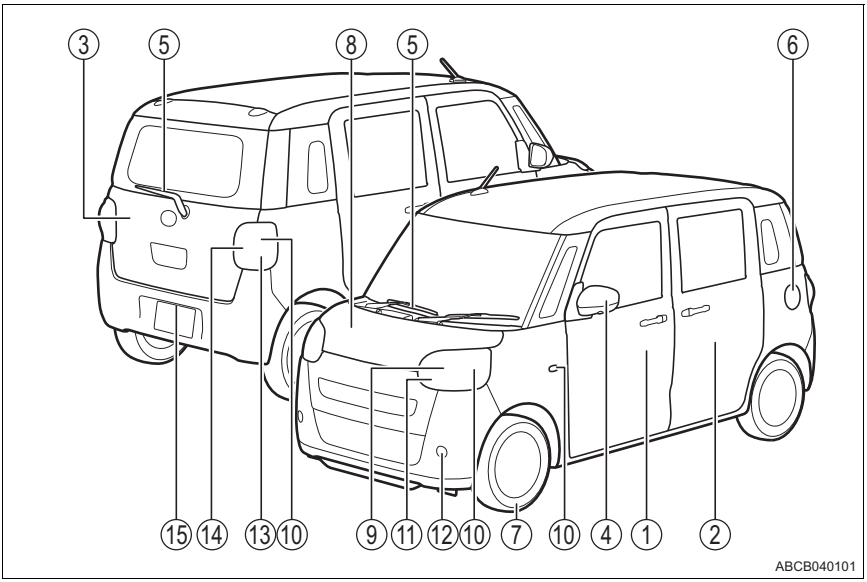
▶タイトルから探す

- 目次 …… 2



イラスト目次

外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。

① ドア …… P. 133
施錠／解錠 …… P. 123, 133
ドアガラスの開閉 …… P. 182
キーでの施錠／解錠 …… P. 134, 553
警告灯★・警告メッセージ★ …… P. 505, 513
② スライドドア …… P. 143
施錠／解錠 …… P. 143
ドアガラスの開閉 …… P. 182
スライドドアの開閉 …… P. 146
パワースライドドアの開閉 …… P. 144
警告灯★・警告メッセージ★ …… P. 505, 513
③ バックドア …… P. 163
施錠／解錠 …… P. 123, 163
警告灯★・警告メッセージ★ …… P. 505, 513

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

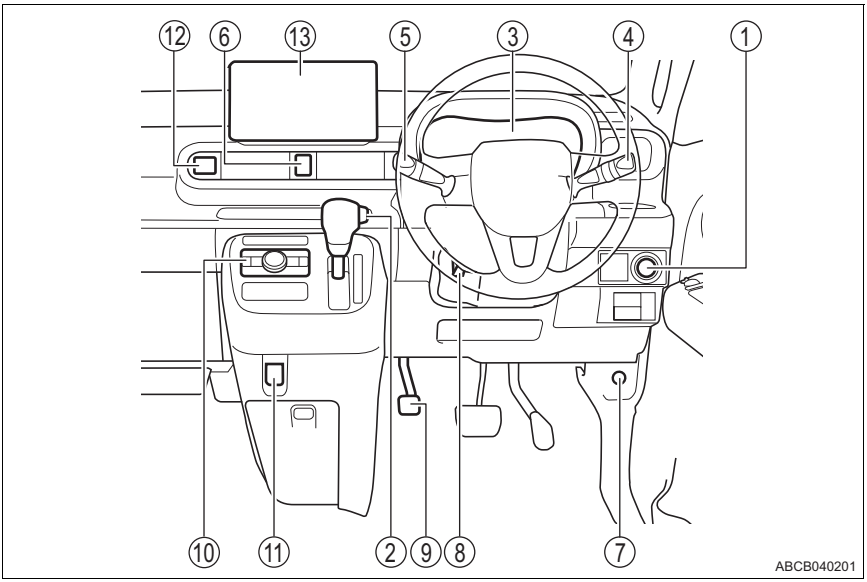
④ **ドアミラー** …… **P. 179**
鏡面の角度調整 …… P. 179
ミラーの格納 …… P. 180
曇りを取る（ミラーヒーター）★ …… P. 181
⑤ **ワイパー** …… **P. 234, 236**
冬季の注意 …… P. 388
ワイパーゴムの交換 …… P. 464
⑥ **給油口** …… **P. 238**
給油方法 …… P. 238
燃料の種類・燃料タンク容量 …… P. 564
⑦ **タイヤ** …… **P. 450**
サイズ・空気圧 …… P. 568
冬用タイヤ・タイヤチェーン …… P. 388
点検・ローテーション …… P. 450
パンク時の対処 …… P. 539
⑧ **ボンネット** …… **P. 443**
開け方 …… P. 443
エンジンオイル …… P. 564
オーバーヒート時の対処 …… P. 559

走行にかかわる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 475, ワット数：P. 569）

⑨ **ヘッドランプ** …… **P. 219**
⑩ **方向指示灯** …… **P. 207**
⑪ **車幅灯** …… **P. 219**
⑫ **フロントフォグランプ★** …… **P. 233**
⑬ **後退灯**
シフトポジションをRにする …… P. 204
⑭ **尾灯** …… **P. 219**
⑮ **番号灯** …… **P. 219**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インストルメントパネル



① エンジンスイッチ …… P. 199
エンジンの始動・モード切り替え …… P. 199
エンジンの緊急停止 …… P. 494
エンジンが始動できないときの対処 …… P. 552
警告灯★・警告メッセージ★ …… P. 505, 513
② シフトレバー …… P. 204
シフトポジションの切り替え …… P. 204
けん引時の注意 …… P. 497
シフトレバーが動かないときの対処 …… P. 205

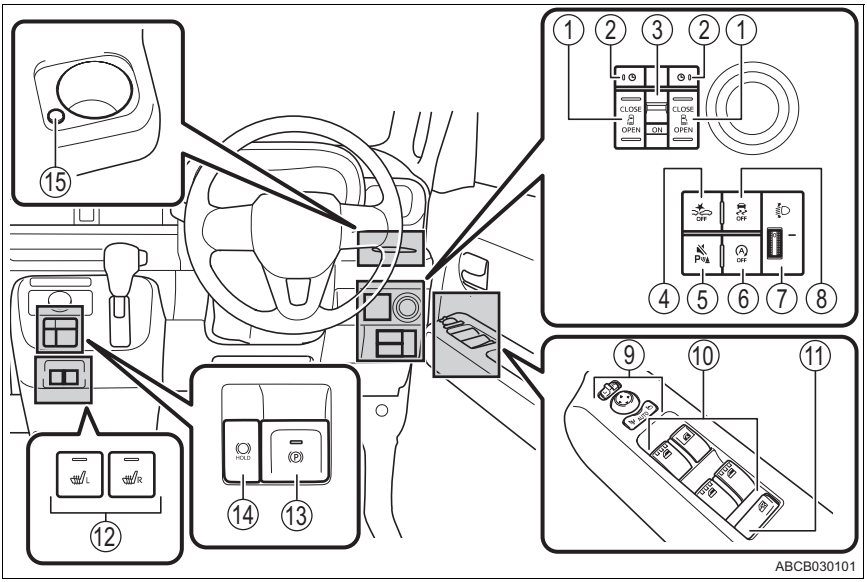
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

③ **メーター** …… **P. 73, 74**
見方・明るさの調整 …… P. 78, 100
警告灯／表示灯 …… P. 66
警告灯点灯時の対処 …… P. 505
マルチインフォメーションディスプレイ …… **P. 75**
TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★ …… **P. 88**
表示内容 …… P. 75, 88
警告メッセージ表示時の対処★ …… P. 513
④ **方向指示レバー** …… **P. 207**
ランプスイッチ …… **P. 219**
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯など …… P. 219
フロントフォグランプ★ …… P. 233
⑤ **ワイパー&ウォッシャースイッチ** …… **P. 234, 236**
使い方 …… P. 234, 236
ウォッシャー液の補充 …… P. 448
⑥ **非常点滅灯スイッチ** …… **P. 491**
⑦ **ボンネット解除レバー** …… **P. 443**
⑧ **チルトステアリング** …… **P. 176**
⑨ **パーキングブレーキ★** …… **P. 209**
かける・解除する …… P. 209
冬季の注意 …… P. 388
警告ブザー …… P. 71
⑩ **エアコン** …… **P. 394**
操作方法 …… P. 394
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） …… P. 396
⑪ **アクセサリーソケット** …… **P. 421**
⑫ **USB ソケット★** …… **P. 422**
⑬ **オーディオ★※**

※ オーディオに付属の取扱説明書を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スイッチ類



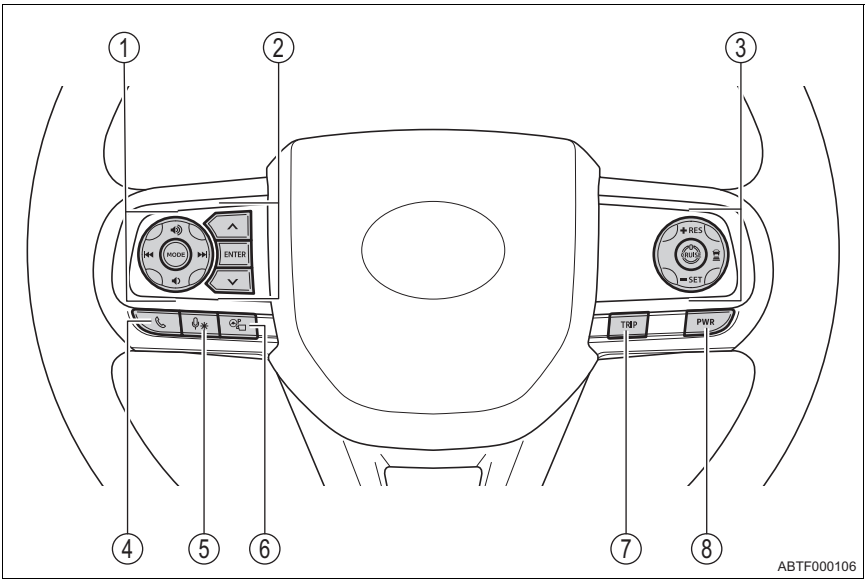
① パワースライドドアスイッチ …… P. 145
② ウェルカムオープン予約スイッチ★ …… P. 148
③ パワースライドドアメインスイッチ …… P. 146
④ スマートアシスト OFF スイッチ …… P. 246
⑤ コーナーセンサーブザー OFF スイッチ …… P. 334
⑥ eco IDLE OFF スイッチ …… P. 323
⑦ 手動光軸調整ダイヤル★ …… P. 221
⑧ VSC・TRC OFF スイッチ …… P. 382
⑨ ドアミラースイッチ …… P. 179
⑩ パワーウインドウスイッチ …… P. 182
⑪ ウインドウロックスイッチ …… P. 183
⑫ シートヒータースイッチ★ …… P. 401

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑬ **パーキングブレーキスイッチ★** …… **P. 210**
かける・解除する …… P. 210
冬季の注意 …… P. 388
警告ブザー・警告メッセージ …… P. 71, 515
⑭ **オートブレーキホールドスイッチ★** …… **P. 215**
⑮ **電源スイッチ（ホッとカップホルダー）★** …… **P. 409**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングスイッチ



ステアリングスイッチの配置は、グレードなどで異なります。

① オーディオ操作スイッチ★※

② メーター操作スイッチ★ ……P. 89

③ 全車速追従機能付 ACC 操作スイッチ★ …… P. 298

④ 電話スイッチ★※

⑤ トークスイッチ★※

⑥ カメラ／パーキングアシストスイッチ★ …… P. 350

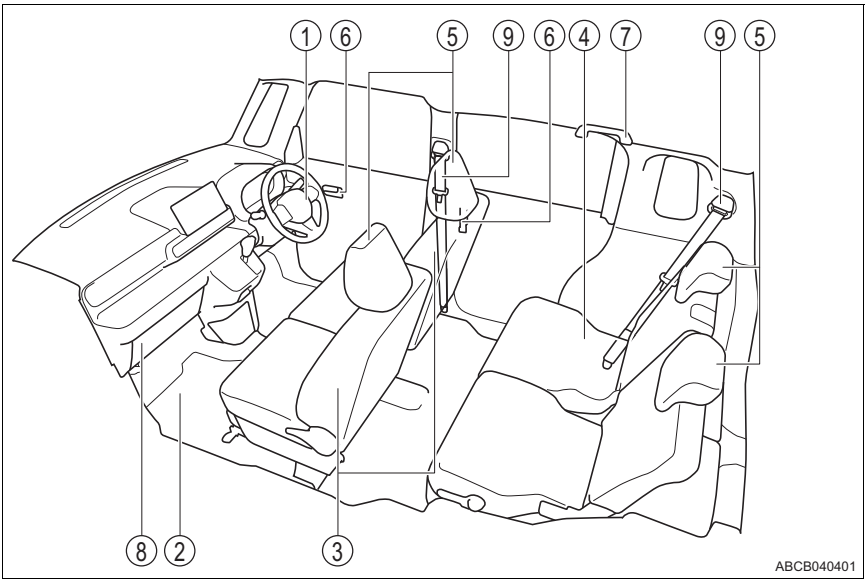
⑦ TRIP スイッチ★……P. 89

⑧ D assist 切替ステアリングスイッチ★ …… P. 205

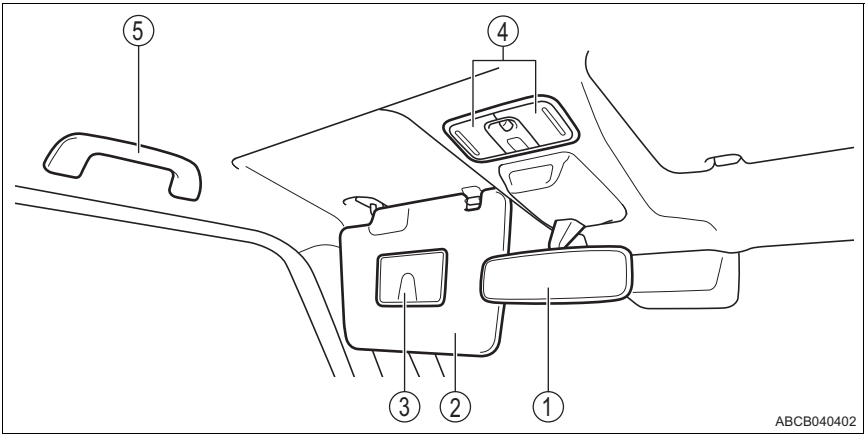
※ 装着されているオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内



① SRS エアバッグ……P. 31
② フロアマット……P. 22
③ フロントシート……P. 168
④ リヤシート……P. 169
⑤ ヘッドレスト……P. 172
⑥ ロックレバー……P. 134
⑦ 格納式アシストグリップ……P. 431
⑧ グローブボックス……P. 407
⑨ シートベルト……P. 26



① インナーミラー …… P. 178
② サンバイザー※ …… P. 419
③ バニティミラー …… P. 419
④ フロントパーソナルランプ …… P. 404
⑤ 格納式アシストグリップ …… P. 431

※ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 46）



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に …… 22
安全なドライブのために …… 24
シートベルト …… 26
SRS エアバッグ …… 31
排気ガスに対する注意 …… 39
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは …… 40
チャイルドシート …… 41
1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム …… 60
セキュリティアラーム …… 61

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

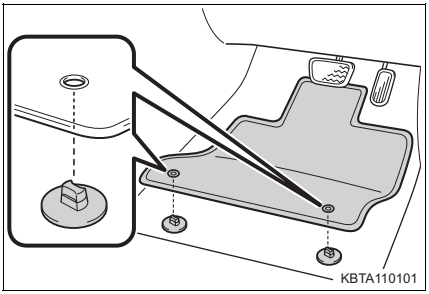
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、ダイハツサービス工場で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

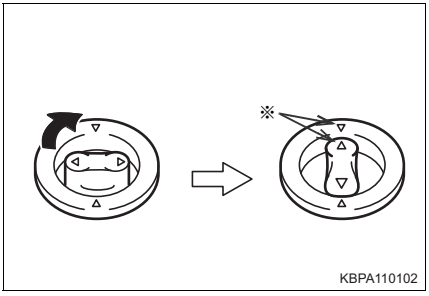
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかり固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーを回して、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

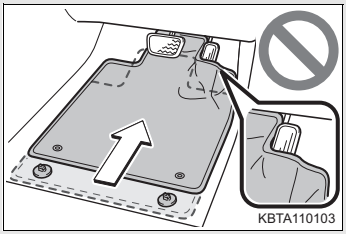
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりお車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ●ダイハツ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかり固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

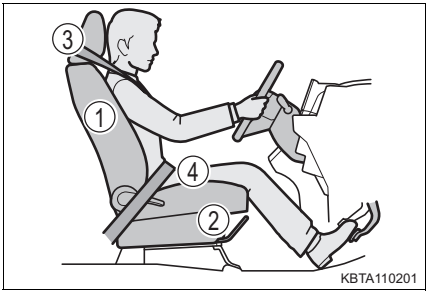
- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかり固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン停止およびシフトレバーがP の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 168）

② ペダルをしっかり踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 168）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 172）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 41）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 178, 179）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。

正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。

ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

●ペダル操作が確実に行える履物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

●他車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

●飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。

また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、ただちに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

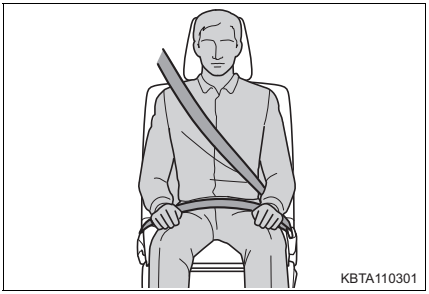
●肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩から外れないようにしてください。

●腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

●背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

●ねじれがないようにする

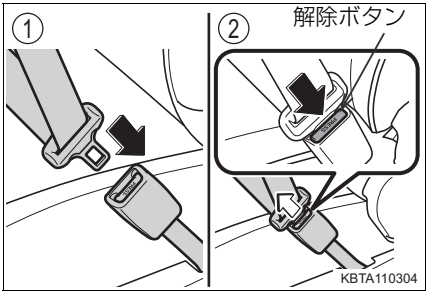


着け方・外し方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに差し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻してください。

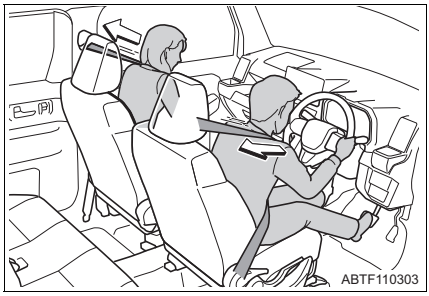


シートベルトプリテンショナー & フォースリミッター（フロント席）

■ プリテンショナー

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、後ろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



■ フォースリミッター

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸部への衝撃を緩和します。

前方からの衝撃が弱いときや、後ろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて（フロント席）

シートベルトプリテンショナー&フォースリミッターは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトの経路を妨げる荷物の積みかたはしない



- ●ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しない
- ●シートベルトに、洗濯ばさみやクリップなどでたるみを付けない
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまは後席に座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまのシートベルトの使い方

このお車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- ●シートベルトを正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 41）
- ●シートベルトを正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

⚠ 警告

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→ P. 55

■シートベルトが汚れた場合

中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。

■シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて（フロント席）

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずダイハツサービス工場で交換してください。

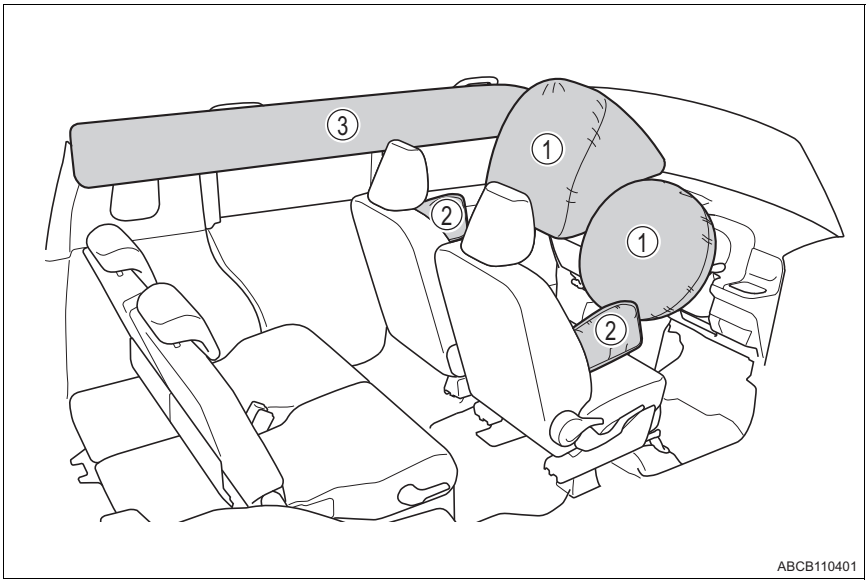
⚠ 警告

■シートベルトの損傷・故障について

- ●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- ●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- ●バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。
- ●プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにダイハツサービス工場に連絡してください。
- ●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- ●シートベルトの取り付けや取り外し・改造をしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。
- ●プリテンショナー & フォースリミッター付きシートベルトの取り付けや取り外し・分解・廃棄などは、ダイハツサービス工場以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ

② SRS サイドエアバッグ
（前席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

③ SRS カーテンシールドエアバッグ
（前席と後席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

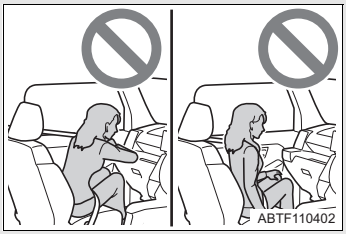
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

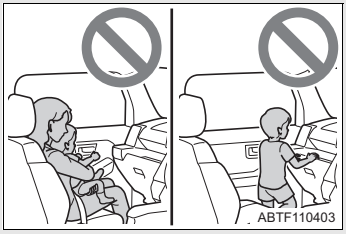
●お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまは後席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 41）

●シートのふちに座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

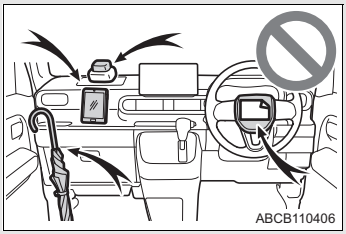


⚠ 警告

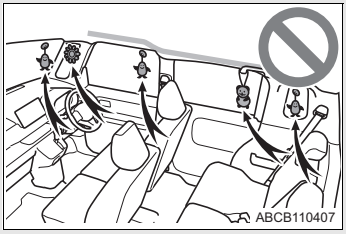
●助手席や後席では、ドアに向かってひざをついたり、手足や顔などを出したりしない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分やその周辺には何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限シールを除く：→ P. 546）



●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのを妨げ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、触れないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場で交換してください。

⚠ 警告

■SRS エアバッグが作動するとき

SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

■改造・廃棄について

ダイハツサービス工場への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●SRS エアバッグの取り外し・取り付け・分解・修理
- ●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取り外し・改造
- ●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- ●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- ●サスペンションの改造
- ●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動するとき

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロントシート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- 前方約30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき
- 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 25km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動します。

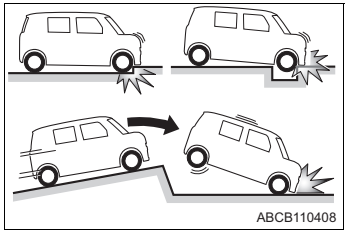
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



知識

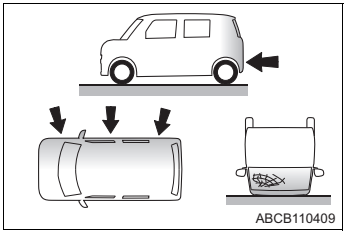
■SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグはエンジンスイッチが “OFF”、“ACC” のときに衝突しても作動しません。

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

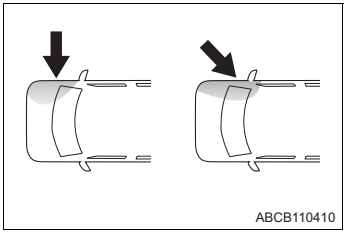
- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転



■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

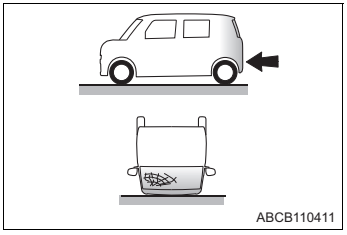
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- ●客室部分以外の側面への衝撃
- ●斜めからの衝撃



SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ●後方からの衝突
- ●横転



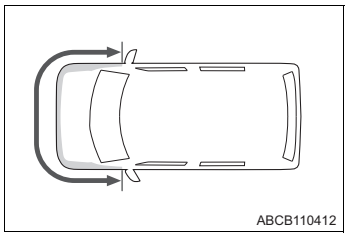
知識

■ダイハツサービス工場に連絡が必要な場合

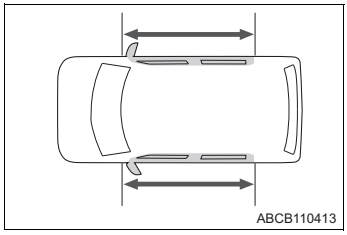
次のような場合には、修理・点検などが必要になります。できるだけ早くダイハツサービス工場へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

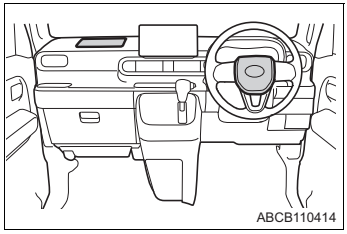
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



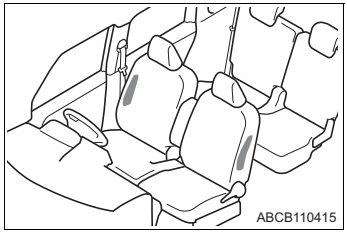
●SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

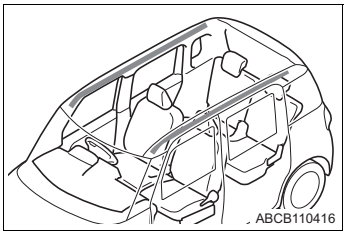


●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



知識

●SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れ替え、ただちにダイハツサービス工場で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。

  やむを得ないときは、開かれた場所にお車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

●お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 41）

●運転装置に触れるのを防ぐため、お子さまは後席に乗せることをおすすめします。

●走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 147）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 183）を使用してください。

●小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・ドアやシート・アームレストなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

●お子さまをお車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 41 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

●ダイハツでは、より安全にお使いいただくために、ダイハツ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

ダイハツ純正チャイルドシートは、ダイハツ車のために作られたチャイルドシートです。ダイハツサービス工場で購入することができます。

知っておいていただきたいこと

●チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトを着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。

●お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。

●すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 48）

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN（ECE）R44※ の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0： 10kg まで

グループ 0^+：13kg まで

グループⅠ： 9 ～ 18kg

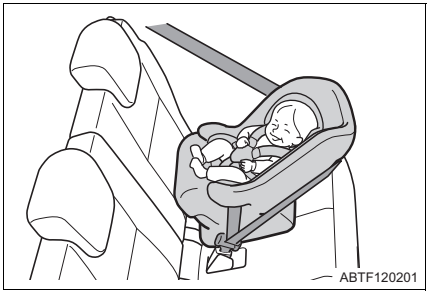
グループⅡ： 15 ～ 25kg

グループⅢ： 22 ～ 36kg

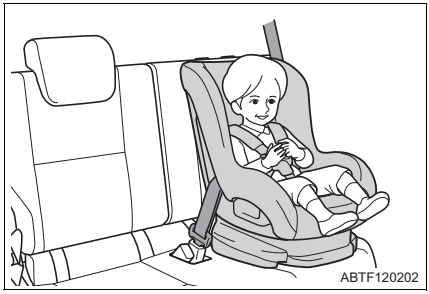
※UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

チャイルドシートの種類

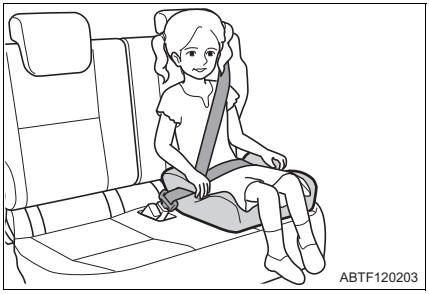
▶ベビーシート
UN（ECE）R44 基準のグループ 0、0^+ に相当



▶チャイルドシート
UN（ECE）R44 基準のグループ 0^+、Ⅰに相当



▶ジュニアシート
UN（ECE）R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当



⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ●ダイハツでは、お子さまの年齢や体格に合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- ●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

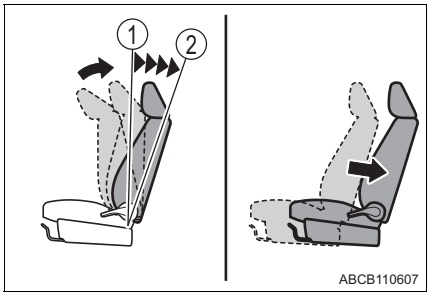
- ●事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- ●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、お車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 48）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- ●チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から外して保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを前向きに取り付けてください。



- 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置（①）まで起こし、5段目の固定位置（②）まで調整する
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外す（→ P. 172）
- シートをいちばん後ろに下げる

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

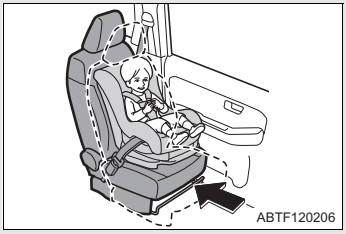
●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。

後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⚠ 警告

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

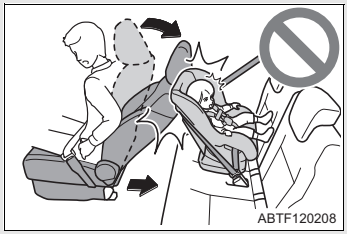


●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 49）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 52）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

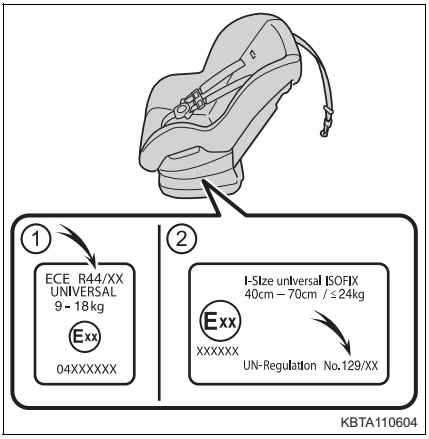
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

▶法規番号の表示例

① UN(ECE)R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN(ECE)R129認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

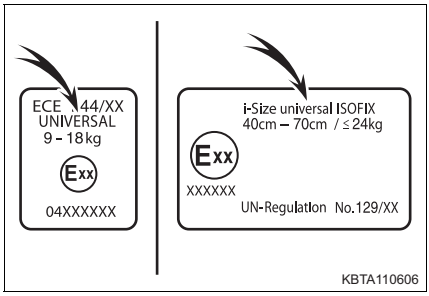
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

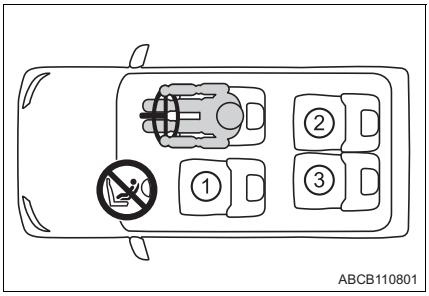
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル
「universal（汎用）」
- セミユニバーサル
「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド
「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック
「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



①※1、2、3	U ※6
②※3、4、5	U L i-Size ISOFIX
③※3、4、5	U L i-Size ISOFIX

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 52）に記載されたチャイルドシートに適しています。

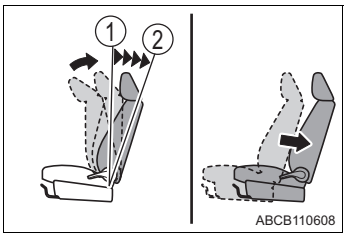
i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカーが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。

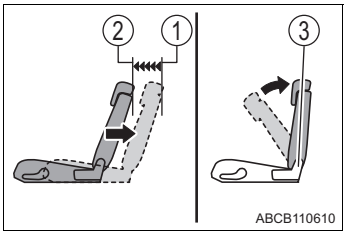
※1 シートをいちばん後ろに下げた状態で取り付けてください。

※2 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置（①）まで起こし、5 段目の固定位置（②）まで調整してください。

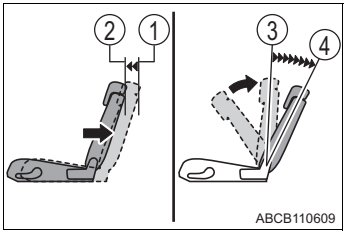


※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外してください。

※4 チャイルドシートをシートベルトで固定する場合、シートを一旦いちばん後ろに下げ、1 段目の固定位置（①）から 6 段目の固定位置（②）に調整してください。また、背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置（③）まで起こしてください。



※5 i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートを固定する場合、シートを一旦いちばん後ろに下げ、1 段目の固定位置（①）から 3 段目の固定位置（②）まで調整してください。また、背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置（③）まで起こし、9 段目の固定位置（④）まで調整してください。



※6 チャイルドシートは必ず前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
i-Size 着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後ろ向きチャイルドシート
R2	小型後ろ向きチャイルドシート
R2X	小型後ろ向きチャイルドシート
R1	後ろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適用範囲	搭載する向き	着座位置		
			①	②	③
ダイハツ純正チャイルドシート（i-Size）（ISOFIX 固定専用）	身長：～ 83cm（体重：～ 13kg）	後向き	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm（体重：～ 18kg）	前向き	×	○	○

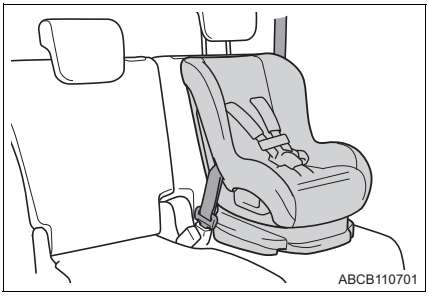
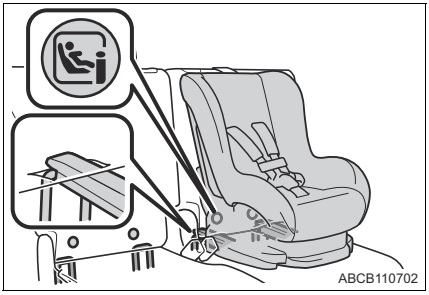
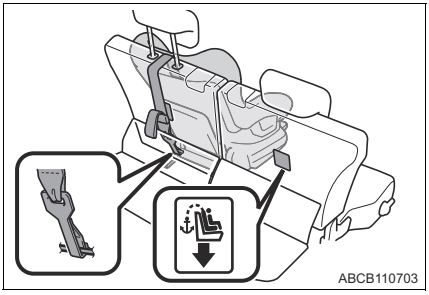
リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

⚠ 警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する	 ABCB110701	P. 54
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する	 ABCB110702	P. 56
テザーベルトを固定する	 ABCB110703	P. 58

チャイルドシートをシートベルトで固定する

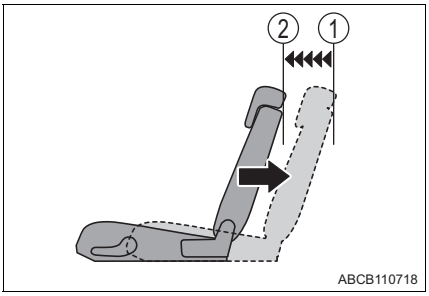
■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

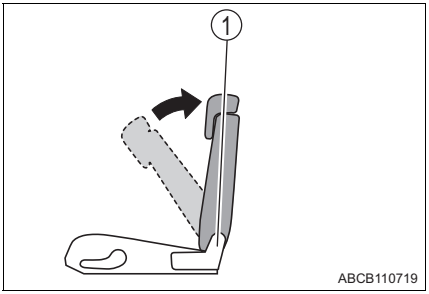
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 49）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整する（→ P. 45）

2 シートを一旦いちばん後ろに下げ、1 段目の固定位置（①）から 6 段目の固定位置（②）に調整する

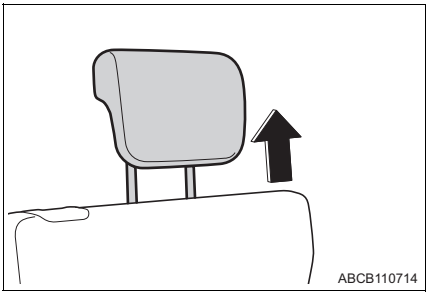


3 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置（①）まで起こす



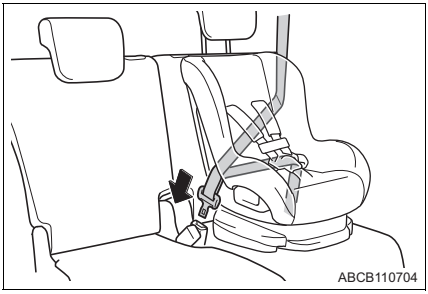
4 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。（→ P. 172）



5 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込み、ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

■ チャイルドシートの取り外し

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取り外す

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

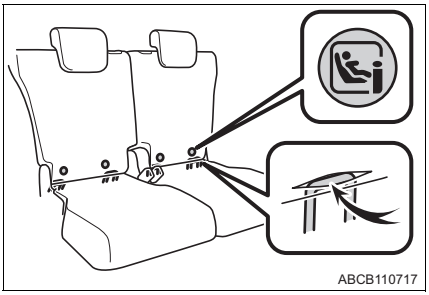
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

このお車はリヤ席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)

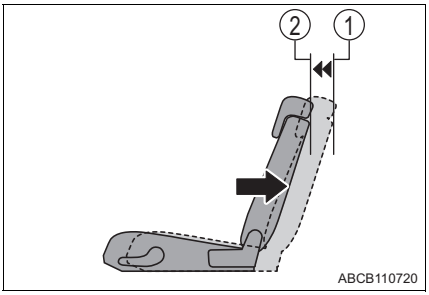

ABCB110717

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

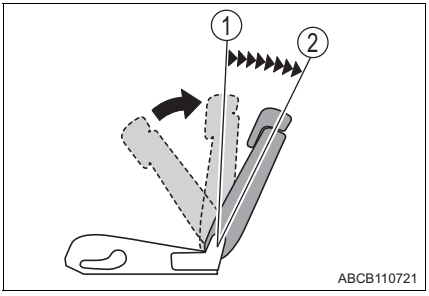
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 49)

1 シートを一旦いちばん後ろに下げ、1 段目の固定位置（①）から 3 段目の固定位置(②)に調整する



ABCB110720

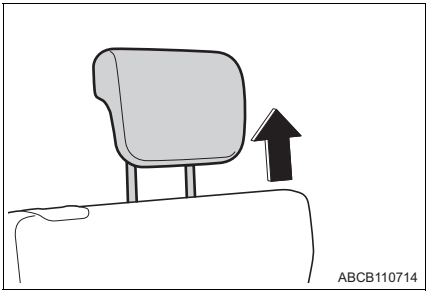
2 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置（①）まで起こし、9 段目の固定位置(②)まで調整する



ABCB110721

3 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

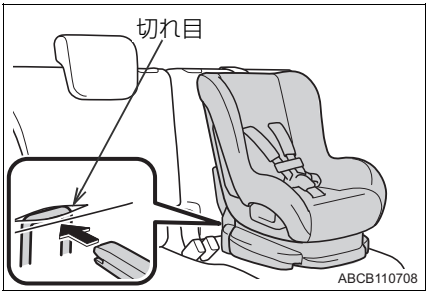
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。(→ P. 172)



4 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

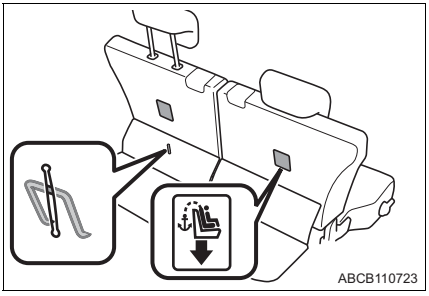
- ●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- ●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- ●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

このお車はリヤ席にトップテザーアンカーが装備されています。

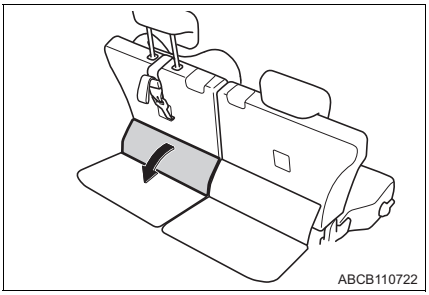
テザーベルトを固定するときに使います。



■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 カバーを手前に倒す

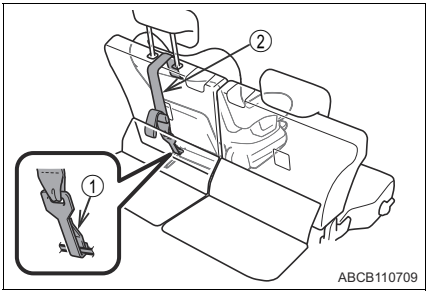


2 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

① フック

② テザーベルト



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- ●テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。
- ●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- ●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

■リヤヘッドレストについて

- ●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ヘッドレストの取り外しが必要な場合は、安全な場所にしっかり固定しておいてください。

エンジンイモビライザーシステム

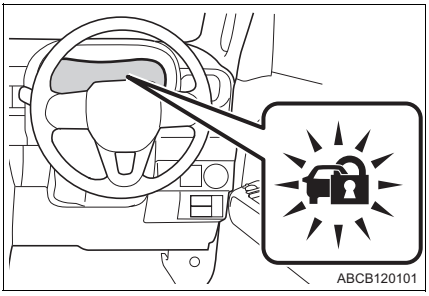
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを“OFF”にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他車のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取り外しをしないでください。

システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラーム

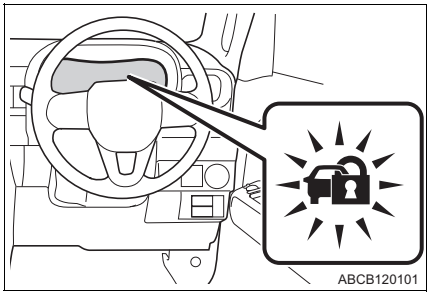
セキュリティアラームとは

セキュリティアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。セキュリティアラームを設定すると、施錠されたドアが、キーフリーシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠して、開けられたときにセキュリティアラームが作動します。

セキュリティアラームを設定する

すべてのドアを閉め､キーフリーシステム･ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

セキュリティアラームが設定されると表示灯は点灯から点滅に変わります。



セキュリティアラームの設定を解除する

次のいずれかを行ってください。

●キーフリーシステム・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する

●エンジンスイッチを“ON”にする

セキュリティアラームの作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

●ワイヤレスリモコンのロック・アンロックボタンを押す

●キーフリーシステムで施錠・解錠する

●電子カードキーを携帯して乗車する

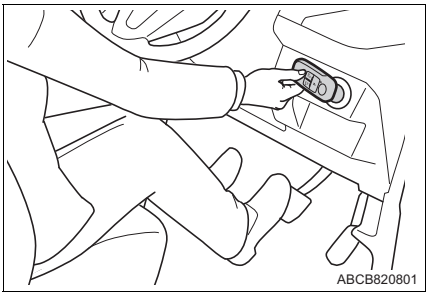
●エンジンスイッチを“ON”にする

■ 電子カードキーが正常に働かないとき

電池の消耗などで電子カードキーが正常に働かないときは、次の手順でセキュリティアラームの作動を停止してください。

1 ブレーキペダルをしっかり踏む

2 電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる



知識

■メンテナンスについて

セキュリティアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

セキュリティアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- ●車内に人が乗っていないか
- ●ドアガラスが閉じているか
- ●車内に貴重品などを放置していないか

■セキュリティアラームの設定が中断される場合

セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に次の操作をしたときは、セキュリティアラームの設定が中断されます。

- ●運転席ドアを解錠したとき
- ●ドアを開けたとき
- ●エンジンスイッチを“ON”にしたとき

■セキュリティ表示灯について

エンジンイモビライザーシステムの表示灯を兼ねているため、セキュリティアラームの設定を解除しても、エンジンスイッチを“ACC”にするまで消灯しません。

また、エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

知識

■セキュリティアラームの作動について

●セキュリティアラームは 2 段階で作動します。1 次作動の間に作動が停止されなかった場合、2 次作動に入ります。

▶1 次作動

・セキュリティ表示灯が点滅
・室内ブザーが 10 秒間断続的に鳴る

▶2 次作動

・セキュリティ表示灯が点滅
・非常点滅灯が 30 秒間点滅
・ホーンが 30 秒間断続的に鳴る

●セキュリティアラーム作動後にドアを閉めると、セキュリティアラームが再度設定状態になりますが、施錠はされません。お車から離れる際は確実に施錠してください。

■セキュリティアラームの作動履歴について

エンジンスイッチの操作で、セキュリティアラームが作動したことをブザーで確認することができます。(2 次作動までした場合のみ)

●エンジンスイッチを“ON”にしたときに、「ピーッピッ」とブザーが鳴ります。

●作動履歴の確認は、2 次作動後、1 回のみ確認することができます。

⚠ 注意

■セキュリティアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

計器の見方 2

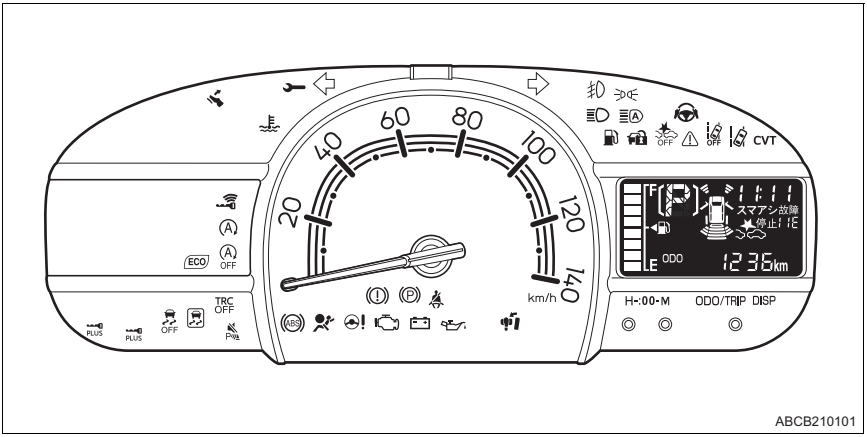
2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 …… 66
計器類 …… 73
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 75
TFT カラーマルチ
インフォメーション
ディスプレイ …… 88

警告灯／表示灯

メーター・インナーミラー上部の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

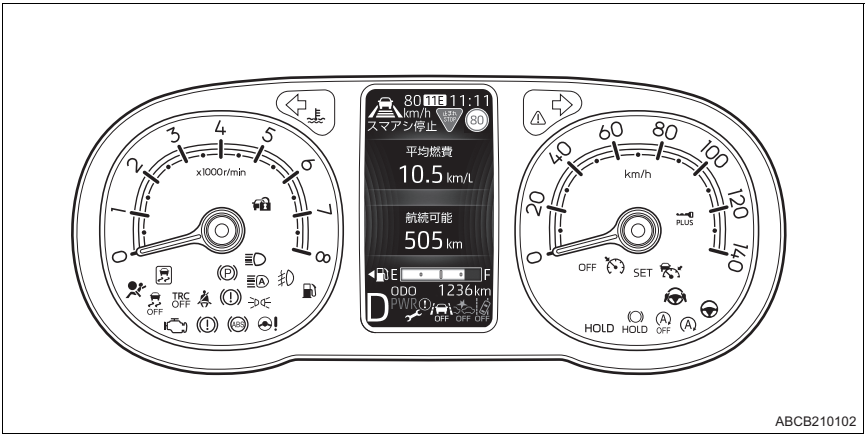
◆ メーター

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車



ABCB210101

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車



ABCB210102

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

警告灯			参照先
※1		ブレーキ警告灯（赤色／黄色★）	505
※1		充電警告灯★	505
※1		油圧警告灯★	505
※1		高水温警告灯（赤色）	505
※1		エンジン警告灯	505
※1	CVT	CVT 警告灯★	506
※1		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	506
※1		ABS 警告灯	506
※1	HOLD	オートブレーキホールド作動表示灯（点滅）★	506
※1		パワーステアリング警告灯（赤色／黄色）	506
※1、2		キーフリー警告灯★	511
※1		AHB ／ ADB 警告灯（黄色）	506
※1、3		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯または点滅）	507
※1、4		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯または点滅）	507
※1、5		マスターウォーニング	507

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
	スマアシ故障	スマートアシスト故障警告灯★	507
	スマアシ停止	スマートアシスト停止警告灯★	534
※1		ACC 警告灯（黄色）★	507
※1		LKC 警告灯（黄色）★	507
※6		コーナーセンサー表示灯★	507
※1、7		スリップ表示灯（点灯）	508
※8		eco IDLE OFF 表示灯（点滅）	508
※1		eco IDLE 表示灯（高速点滅）	512
※1		ブレーキオーバーライドシステム警告灯★／ ドライブスタートコントロール警告灯★	508
※1		手放し運転警告灯	508
		半ドア警告灯★	508
		燃料残量警告灯	509
		運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯	509
※9		後席シートベルト締め忘れ警告灯	509
※1		エンジンオイル劣化警告灯★	509
※10		パーキングブレーキ表示灯（点滅）	509

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
		プラスサポート警告灯（黄色）★	509
※1		急アクセル時加速抑制警告灯★	509

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※2 点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。点滅した場合は電子カードキーが作動範囲外にある、または電子カードキーの電池切れが近い状態であることを示します。（→ P. 511）

※3 スマートアシストの機能を停止にしたときも点灯します。

※4 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC★を停止にしたときも点灯します。

※5 スマートアシストが作動したときも点灯します。

※6 コーナーセンサーが作動したときも点灯します。

※7 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※8 eco IDLE を非作動にしたときは点灯します。

※9 インナーミラー上部に点灯します。

※10電動パーキングブレーキ装着車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	表示灯		参照先
		方向指示表示灯	207
		ハイビーム表示灯	220
		フロントフォグランプ表示灯★	233
※1		低水温表示灯（青色）	—
		セキュリティ表示灯	60, 61
		尾灯表示灯	219
※2		スリップ表示灯（点滅）	382
※2		VSC OFF 表示灯	383
※2		TRC OFF 表示灯	382
※2		エコドライブインジケーターランプ★	191
※2		eco IDLE 表示灯（点灯）	322
※3		eco IDLE OFF 表示灯（点灯）	323
※2		スマートアシスト作動灯	248
※2、4		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯）	246
※2		車線逸脱警報作動灯（点滅）	250

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯			参照先
		車線認識表示灯★	281, 314
※2		ハンドル操作支援作動灯★	314
※2、4		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯）	246
		ACC 表示灯（緑色）★	304
※2		クルーズコントロール表示灯★	308
※2		ACC SET 表示灯★	297
		先行車表示灯★	297
		ACC OFF 表示灯★	297
		LKC 表示灯（緑色）★	314, 318
		LKC OFF 表示灯★	314
		AHB ／ ADB 作動灯（緑色）	224, 229
※5		コーナーセンサー表示灯★	332
		パワーモードインジケーター★	205
※6		パーキングブレーキ表示灯（点灯）	209, 210
※2、7		オートブレーキホールドスタンバイ表示灯★	215
※2		オートブレーキホールド作動表示灯（点灯）★	215

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯			参照先
		コーナーセンサーブザー OFF 表示灯★	332
		プラスサポート表示灯（緑色）★	375

※1 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。エンジンの暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※2 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※3 eco IDLE システムに異常があるときは点滅します。

※4 スマートアシストに異常があるときは点滅します。

※5 コーナーセンサーに異常があるときも点灯します。

※6 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※7 オートブレーキホールド機能が ON のときは、エンジンをかけると点灯します。

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後またはエンジンを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

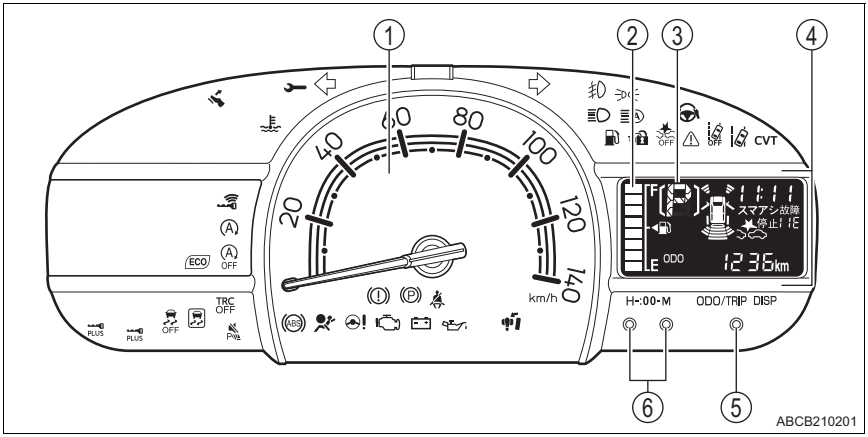
水温計の代わりに高水温警告灯（→ P. 505）が装備されています。高水温警告灯が赤色点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 559）

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、警告メッセージ（→ P. 514）も同時に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車



① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② 燃料計

燃料残量を示します。

③ シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 204)

④ マルチインフォメーションディスプレイ

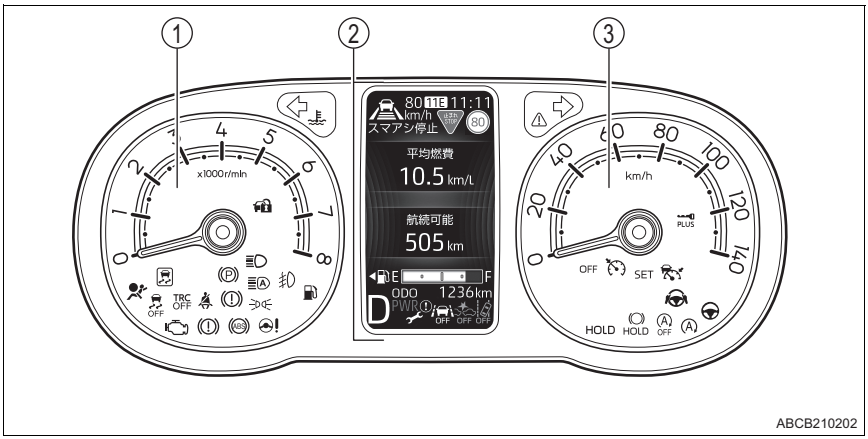
車両に関する様々な情報を表示・設定します。(→ P. 75)

⑤ 表示切り替えスイッチ

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切り替えます。(→ P. 77)

⑥ 時計調整スイッチ(→ P. 76)

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車



① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

② TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ

車両に関する様々な情報を表示・設定します。(→ P. 88)

③ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

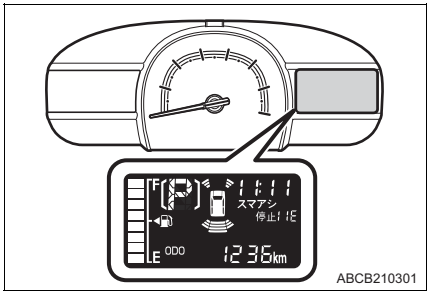
■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

マルチインフォメーションディスプレイ★

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。



●トリップインフォメーション（→ P. 77）

表示される項目は次の通りです。

- オドメーター
- トリップメーター A ／ B
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 外気温
- アイドリングストップ時間
- アイドリングストップ積算時間
- メーター照度調整

●燃料計

燃料残量を示します。

●シフトポジション表示（→ P. 204）

●時計表示（→ P. 76）

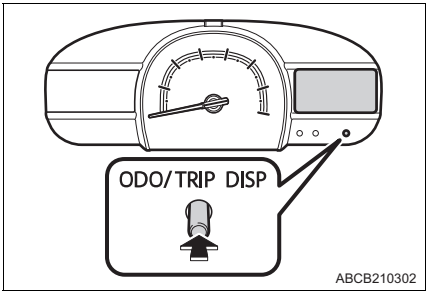
●スマートアシスト機能停止コード表示（→ P. 534）

●コーナーセンサー表示灯（→ P. 332）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示切り替え

トリップインフォメーションの表示を切り替えるには、表示切り替えスイッチを押します。



時計表示

時計調整スイッチを押して時刻を調整することができます。

ユーザーカスタマイズ画面で時刻の自動補正を ON にした場合は、時刻の調整はできません。(→ P. 80)

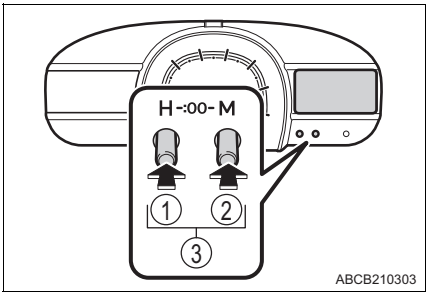
① “時” を調整する（H）

② “分” を調整する（M）

③ “分” を 00 にする※

時計調整スイッチ（①）、（②）を同時に長押しします。

※（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00



トリップインフォメーション

表示切り替えスイッチを押すごとに次のように切り替わります。

■ オドメーター



走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A※ ／トリップメーター B※





リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター A またはトリップメーター B の表示中に表示切り替えスイッチを長押しします。

※区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に表示切り替えスイッチを長押しします。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離



現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 航続可能距離表示中に表示切り替えスイッチを約 5 秒以上長押しすると、過去の平均燃費のデータが消去され、表示が更新されることがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 外気温



●外気温を表示します。

外気温：-30 ℃～ 60 ℃の間で表示します。

●外気温が 3 ℃以下になると路面凍結警告を表示します。

温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることを表示します。

■ アイドリングストップ時間



エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジン停止時間）を通算で表示します。

■ アイドリングストップ積算時間



リセットしてからのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジンの停止時間）を通算で表示します。

リセットするには、アイドリングストップ積算時間表示中に表示切り替えスイッチを長押しします。

■ メーター照度調整



昼照度または夜照度（→ P. 86）のメーター照度を表示します。

- メーター照度調整表示中に表示切り替えスイッチを長押しすることで、メーター照度を 5 段階で調整できます。
- 昼照度は周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているときに調整します。
- 夜照度は周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。

ユーザーカスタマイズ画面

ユーザーカスタマイズ画面に切り替えることで、メーターの表示、機能の設定を変更することができます。

車両走行中は操作できません。必ず安全な場所に停車して操作してください。

■ 設定変更のしかた

1 オドメーター表示中に表示切り替えスイッチを長押しし、ユーザーカスタマイズ画面に切り替える

2 表示切り替えスイッチを押し、設定を変更する項目を表示する

スイッチを押すごとに項目が切り替わります。

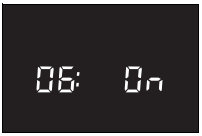
3 表示切り替えスイッチを長押しし、設定を変更する

スイッチを長押しするごとに表示が切り替わります。

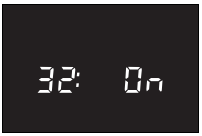
ユーザーカスタマイズ画面を終了するには、画面に End が表示されるまで表示切り替えスイッチを押したあと、スイッチを長押ししてください。

■ 設定変更できる項目

項目	設定内容	表示（初期設定）
平均燃費の給油時リセット	ON	
	OFF	
給油時のトリップメーター A リセット	ON	
	OFF	
アイドリングストップ時間の表示自動切り替え	ON	
	OFF	
ブザー音量※1	大きい Hi	
	小さい Lo	

項目	設定内容	表示（初期設定）
エコドライブインジケーターランプの表示／非表示	ON	
	OFF	
時刻の自動補正（スマホ連携ディスプレイオーディオ装着車、純正ナビゲーションシステム装着車）	ON	
	OFF	
先行車発進お知らせ機能（→ P. 291）	ON	
	OFF	
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング（→ P. 291）	標準 01	
	やや早い 02	
	早い 03	
衝突警報機能の警報タイミング（→ P. 259）	遅い 01	
	標準 02	
	早い 03	
車線逸脱警報機能の警報タイミング（→ P. 280）	標準 01	
	早い 02	
ふらつき警報（→ P. 288）	ON	
	OFF	

項目	設定内容	表示（初期設定）
車線逸脱抑制制御機能（→ P. 280）	ON OFF	
コーナーセンサーブザー音量（→ P. 332）	小  中  大 	
車速感応オートドアロック（→ P. 135）	ON※2 OFF	
シフト操作連動オートドアロック（→ P. 135）	ON※3 OFF	
シフト操作連動オートドアアンロック（→ P. 135）	ON※4 OFF	
エンジンスイッチ“OFF”連動オートドアアンロック（→ P. 135）	ON※5 OFF	
アンサーバックブザー音量（キーフリーシステム作動の合図）（→ P. 123）	 （消音）  （小さい） から  （大きい）	

項目	設定内容	表示（初期設定）
ワイヤレスリモコン作動合図（非常点滅灯）（→ P. 124）	ON	
	OFF	
車速感応式間欠ワイパー作動（→ P. 234）	ON	
	OFF	
リヤワイパーリバース連動機能（→ P. 237）	ON	
	OFF	
方向指示レバーを途中まで操作したときに方向指示表示灯が 3 回点滅する機能（→ P. 207）	ON	
	OFF	
オートエアコン設定	標準 01	
	空調※6 02	
右スライドドアブザー音量	小さい 01	
	標準 02	
	大きい 03	
左スライドドアブザー音量	小さい 01	
	標準 02	
	大きい 03	

項目	設定内容	表示（初期設定）
ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）（電子カードキーを携帯して車両に近付くと、室内灯が点灯）（→ P. 141）	ON	
	OFF	
ウェルカムランプ設定（テールランプ連動）（ドアロック解除時に車幅灯、番号灯、尾灯が点灯）（→ P. 141）	ON	
	OFF	

※1 一部機能のブザー音量は変更されません。

※2 ONに設定すると、シフト操作連動オートドアロックの設定はOFFになります。

※3 ON に設定すると、車速感応オートドアロックの設定は OFF になります。

※4 ON に設定すると、エンジンスイッチ “OFF” 連動オートドアアンロックの設定は OFF になります。

※5 ON に設定すると、シフト操作連動オートドアアンロックの設定は OFF になります。

※6 エアコンの作動が優先され、eco IDLE によるエンジン停止が可能な状態になるまでの時間が長くなったり、エンジン停止の時間が短くなったりする場合があります。（→ P. 322）

■ 設定初期化のしかた

1 オドメーター表示中に表示切り替えスイッチを長押しし、ユーザーカスタマイズ画面に切り替える

2 dEFAUL が表示されるまで表示切り替えスイッチを押す

3 dEFAUL の表示中に表示切り替えスイッチを長押しし、cLEAr を表示後、再度長押しする

cLEAr の表示が点滅後、オドメーター表示に戻り、次の項目が初期化されます。

項目	初期設定
平均燃費の給油時リセット	OFF
給油時のトリップメーター A リセット	OFF
アイドリングストップ時間の表示自動切り替え	ON
ブザー音量※	小さい
エコドライブインジケーターランプの表示／非表示	ON
時刻の自動補正（スマホ連携ディスプレイオーディオ装着車、純正ナビゲーションシステム装着車）	ON

※ 一部機能のブザー音量は変更されません。

エンジンオイル劣化警告初期化

エンジンオイルを交換したあとに操作してください。

エンジンオイルの交換距離が近づいたとき、またはエンジンオイルの交換距離になったとき、エンジンオイル劣化警告灯が点滅、または点灯します。(→ P. 509)

1 表示切り替えスイッチを押してトリップメーター A を表示する

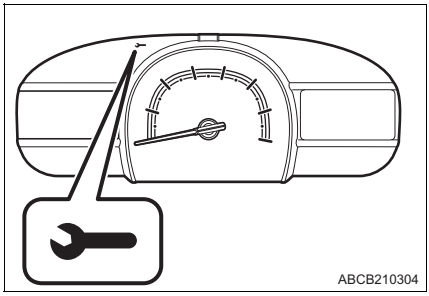
2 エンジンスイッチを“OFF”にする

3 表示切り替えスイッチを押しながらエンジンスイッチを“ON”にする

エンジンは始動しないでください。

エンジンオイル劣化警告灯が消灯するまで表示切り替えスイッチを押したままにしてください。

4 エンジンオイル劣化警告灯が速く点滅していることを確認する



知識

■平均燃費について

- エンジンスイッチを“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

■航続可能距離について

- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。

知識

■外気温について

●外気温の測定が正しく行われないときは「－－℃」と表示されます。

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

・外気温が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

●実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

■路面凍結警告表示について

●路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。

●エンジンスイッチを“ON”にしたとき、外気温がすでに 3 ℃以下の場合、警告表示されません。

●路面凍結警告が一旦表示されると、外気温が 4 ℃以上に上がってから、3 ℃以下に下がらないと再度警告表示されません。

■メーター照度について（昼照度と夜照度）

●メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切り替わります。

・昼照度：周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき

・夜照度：周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき

●夜照度になるとメーター照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では、照明が減光しません。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

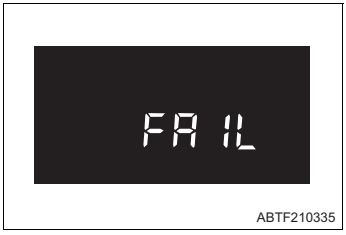
バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

■時刻の自動補正について

スマホ連携ディスプレイオーディオ、または純正ナビゲーションシステム以外を装着した場合は、時刻の自動補正の設定はできません。

■ユーザーカスタマイズ画面について

ユーザーカスタマイズ画面で操作を行っても、設定を変更できない場合は、「FAIL」が表示されます。



知識

■音声認識機能について

スマホ連携ディスプレイオーディオ装着車は、音声認識機能を使用して外気温と航続可能距離を音声で確認することができます。詳しくは、スマホ連携ディスプレイオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

■走行中の警告

表示切り替えスイッチ、または時計調整スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてから使用してください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

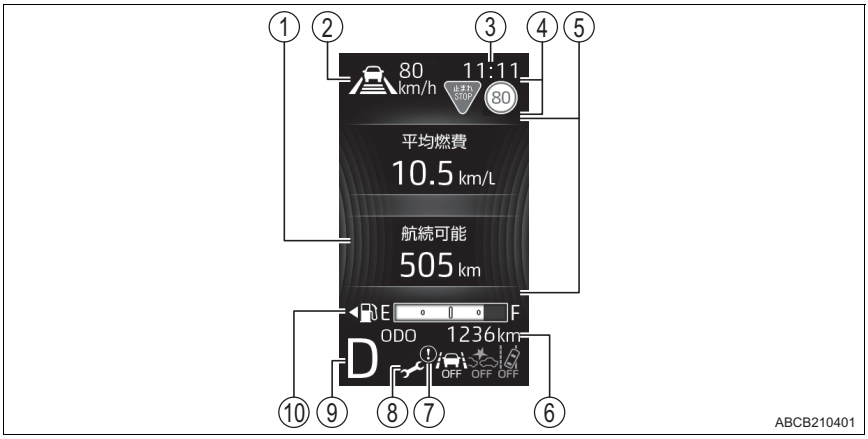
■航続可能距離について

航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を補給してください。

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★

表示内容

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイは、車両や走行に関する様々な情報を表示したり、設定を変更することができます。



① エコドライブアシスト照明

環境に配慮した運転の度合を判定して、照明の色が3段階で緑色に変化します。（→ P. 191）

- パワーモード選択時は、表示の色が黄色に変化します。（→ P. 205）
- 全車速追従機能付ACC★を使用しているときは、照明の色は変化しません。（→ P. 297）

② ミニ運転支援表示（→ P. 281, 297, 314）

運転支援表示画面（→ P. 93）を表示中は表示されません。

③ 時計表示

アナログ時計（→ P. 92）表示中は、日付が表示されます。

④ 標識表示

標識認識機能（最高速度／一時停止）で認識した標識を表示します。（→ P. 293）

⑤ コンテンツ表示、標識表示

基本画面を切り替えることにより、様々な情報を表示することができます。
また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。
標識認識機能（進入禁止）で認識した標識を表示します。（→ P. 293）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑥ トリップインフォメーション（→ P. 90）

⑦ メッセージアイコン

点灯しているときはメッセージの内容を確認し（→ P. 94）、ただちに適切な処置を行ってください。（→ P. 513）

⑧ メンテナンスアイコン

お知らせがあるときに点灯します。

点灯しているときは、内容を確認し、メンテナンスを行ったあとは再度設定をしてください。（→ P. 97）

⑨ シフトポジション表示

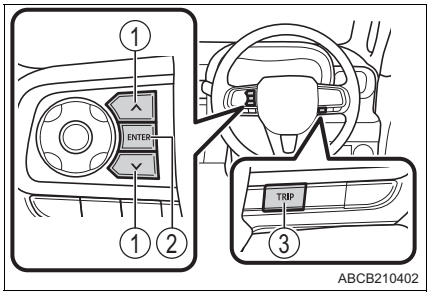
選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 204）

⑩ 燃料計

燃料残量を示します。

表示切り替え

操作スイッチを押して、画面の表示切り替え、設定の変更をします。



① ∧／∨ スイッチ

- 基本画面の表示を切り替えます。（→ P. 91）
- 「設定画面」の項目の上送り、下送りをします。（→ P. 99）

② ENTER スイッチ

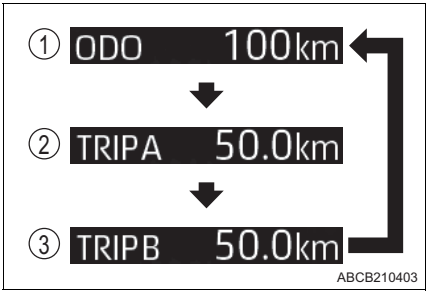
- 「設定画面」に表示を切り替えます。（→ P. 99）
- 「設定画面」の項目の決定・選択をします。（→ P. 99）

③ TRIP スイッチ

トリップインフォメーションの表示を切り替えます。（→ P. 90）

トリップインフォメーション

TRIP スイッチを押すごとに次のように切り替わります。



① オドメーター

走行した総距離を表示します。

② トリップメーター A※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター A の表示中に TRIP スイッチを 1 秒以上長押します。

③ トリップメーター B※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター B の表示中に TRIP スイッチを 1 秒以上長押します。

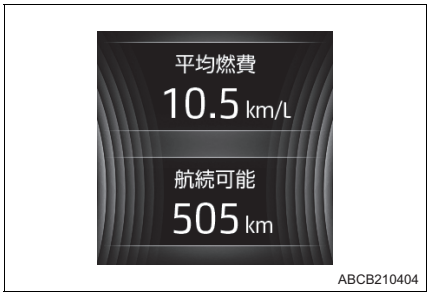
※区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

基本画面

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイは、8 種類の基本画面があります。

∧／∨ スイッチを押して、表示する基本画面を選択してください。

■ 平均燃費／航続可能距離



ABCB210404

●平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

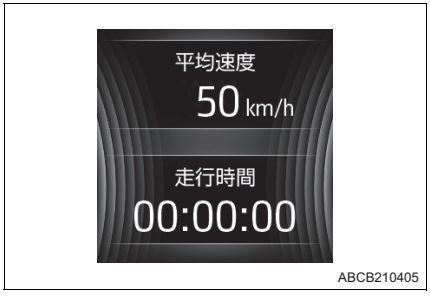
- リセットするには、平均燃費／航続可能距離表示中に ENTER スイッチを長押しします。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

●航続可能距離

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 平均燃費／航続可能距離表示中に ENTER スイッチを約 5 秒以上長押しすると、過去の平均燃費のデータが消去され、表示が更新されることがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 平均速度／走行時間



ABCB210405

●平均速度

エンジンを始動してから停止するまでの平均速度を表示します。

●走行時間

エンジンを始動してから停止するまでの走行時間を表示します。

■ アイドリングストップ時間／アイドリングストップ積算時間

●アイドリングストップ時間

エンジンを始動してから停止するまでのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジン停止時間）を通算で表示します。

●アイドリングストップ積算時間

リセットしてからのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジンの停止時間）を通算で表示します。

- リセットするには、アイドリングストップ時間／アイドリングストップ積算時間表示中に ENTER スイッチを長押しします。

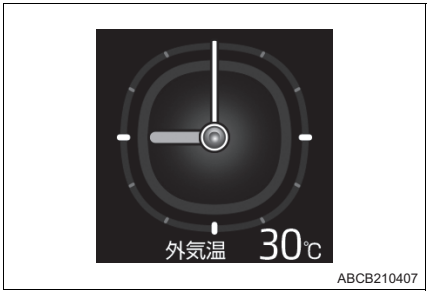


ABCB210406

■ 時計表示／外気温

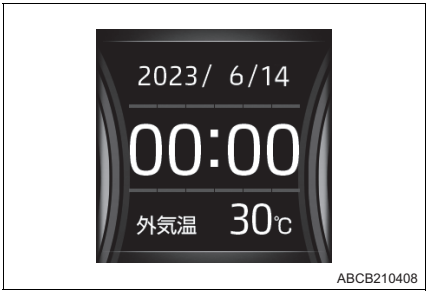
2 種類の時計表示／外気温があります。（→ P. 104）

▶時計 1



ABCB210407

▶時計 2



ABCB210408

●時計表示

アナログ時計とデジタル時計の 2 種類の表示があります。（→ P. 104）

●外気温表示

- 外気温を表示します。
  外気温：-30 ℃～ 60 ℃の間で表示します。
- 外気温が 3 ℃以下になると路面凍結警告を表示します。
  温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることを表示します。

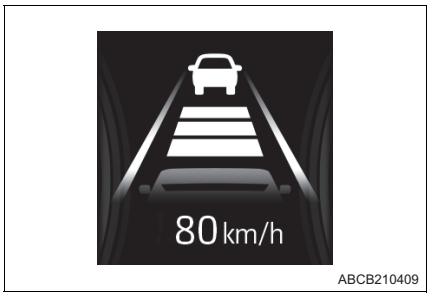
■ 運転支援表示

次のシステムの作動状態を確認することができます。

●全車速追従機能付 ACC★
（→ P. 297）

●LKC★（→ P. 314）

●車線逸脱警報機能･路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能
（→ P. 280）



ABCB210409

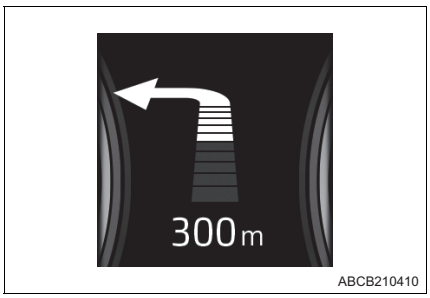
■ ターンバイターン表示／コンパス表示★

純正ナビゲーションシステム装着車※ は、コンパスとターンバイターンを表示します。

※ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイとの連携機能に対応した機種のみ

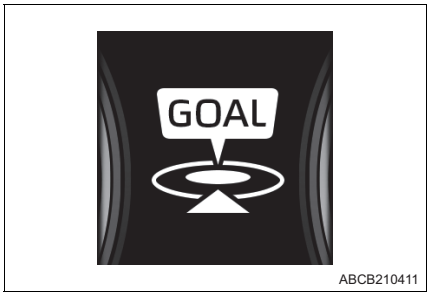
●ターンバイターン表示

目的地案内を実行しているときに、交差点に接近すると、進行方向の矢印と交差点までの距離を表示します。



ABCB210410

設定した目的地に到着したときに表示します。



ABCB210411

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●コンパス表示

目的地案内を実行しているときは矢印が赤で表示されます。



ABCB210412

■ シンプルモード

次の項目を表示します。

●走行速度

●シフトポジション

●燃料残量



ABCB210452

■ メッセージ確認表示

確認可能な警告メッセージがあるとき、「メッセージあり ENTER で確認」と表示されます。
ENTER スイッチを押してメッセージを確認してください。

メッセージを複数記憶している場合は、∧／∨ スイッチを押すと表示が切り替わります。



ABCB210413

メッセージを記憶していないときは「メッセージなし」と表示されます。



ABCB210414

スポット表示

次の場合、スポット表示に切り替わります。非作動時はもとの画面に戻ります。

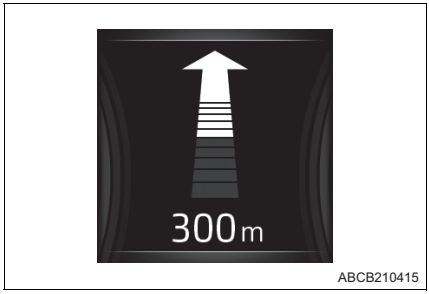
●目的地案内を実行しているとき（純正ナビゲーションシステム装着車※）

●運転支援機能が作動したとき（→ P. 297）

※ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイとの連携機能に対応した機種のみ

■ 目的地案内を実行しているとき（純正ナビゲーションシステム装着車）

目的地案内を実行しているときに、交差点に接近すると、進行方向の矢印と交差点までの距離を表示します。



ABCB210415

設定した目的地に到着したときに表示します。



ABCB210416

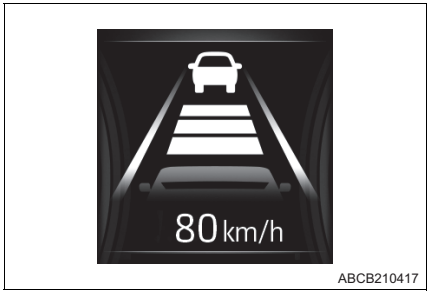
■ 運転支援機能が作動したとき（CRUISE スイッチを押したときを含む）

次のシステムの作動状態を表示します。

●全車速追従機能付 ACC★（→ P. 297）

●LKC★（→ P. 314）

●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能（→ P. 280）



ABCB210417

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンドルポジションモニター

シフトレバーを R にすると、前輪のタイヤの向きが表示されます。

コーナーセンサー（→ P. 332）の作動状態も同時に表示します。



ABCB210418

オープニング画面

エンジンスイッチを“ON”にしたとき、演出画面を表示したあとに日付とお知らせ画面を数秒間表示します。

次のお知らせ画面を表示することができます。

- ●新年のごあいさつ
- ●誕生日
- ●記念日
- ●車検日
- ●点検日
- ●エンジンオイル交換
- ●オイルフィルター交換
- ●タイヤローテーション
- ●走行距離

■ 新年のごあいさつ

1 月 1 日に表示します。

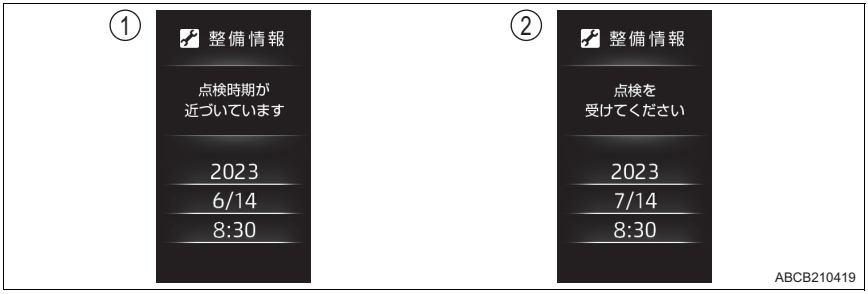
■ 誕生日、記念日

設定した日付に表示します。

■ 車検日、点検日

設定日まで残り 1 か月を切ったとき、設定日以降に 1 日 1 回表示します。

▶例：点検日



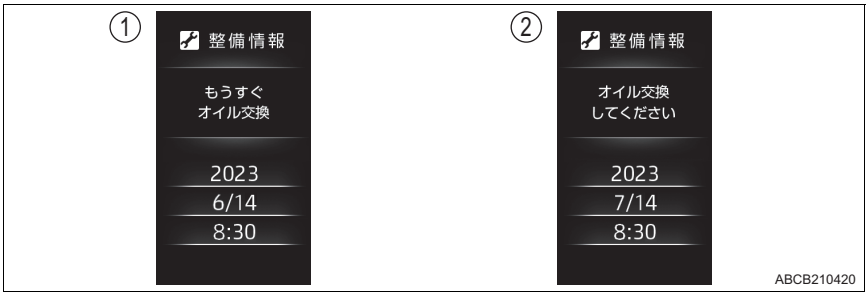
① 設定日まで残り 1 か月を切ったとき

② 設定日以降

■ エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーション

設定距離まで残り 500km を切ったとき、設定距離に到達したときに 1 日 1 回表示します。

▶例：エンジンオイル交換



① 設定距離まで残り 500km を切ったとき

② 設定距離に到達したとき

エンディング画面

エンジンスイッチを “OFF” にしたとき、エンジンを始動してから停止するまでの走行の記録を表示します。



■ スコア（燃費）

エンディング切替を「エコ」に設定した場合（→ P. 102）、エンジンを始動してから停止するまでの走行の記録と環境に配慮した運転の度合いを点数で表示します。



設定

エンジンスイッチが“ON”で停車時に、ENTERスイッチを押して「設定画面」を表示し、表示の設定や調整、機能の設定をすることができます。



車両走行中は操作できません。必ず安全な場所に停車して操作してください。



次の内容を設定、調整ができます。

- ●メーター照度調整（→ P. 100）
- ●日時（→ P. 101）
- ●表示オプション（→ P. 102）
- ●時計表示（→ P. 104）
- ●ブザー（→ P. 104）
- ●お知らせ日（→ P. 105）
- ●スマートアシスト（→ P. 107）
- ●ドアロック（→ P. 108）
- ●ワイパー（→ P. 109）
- ●方向指示灯（→ P. 110）
- ●オートエアコン（→ P. 111）
- ●パワースライドドア設定（→ P. 111）
- ●ウェルカムランプ（→ P. 112）
- ●メンテナンス（→ P. 113）
- ●オイル劣化警告初期化（→ P. 114）
- ●表示設定初期化（→ P. 115）

■ メーター照度調整

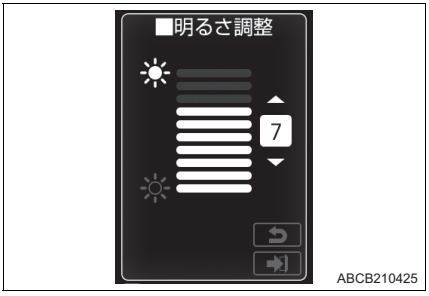
メーターの昼照度または夜照度（→ P. 116）を調整できます。

（初期設定：→ P. 115）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを押して「明るさ調整」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 数値を選択し、ENTER スイッチを押す



-  が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して照度を調整し、再度 ENTER スイッチを押します。
- 昼照度は周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているときに調整します。
- 夜照度は周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。
- 10 段階で調整できます。

■ 日時

日時を設定できます。

スマホ連携ディスプレイオーディオ装着車、純正ナビゲーションシステム装着車：日時の自動補正の ON ／ OFF を設定できます。

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを押して「日時設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して「自動補正」·「時」·「分」·「12H ／ 24H」を選択し、ENTER スイッチを押す



- 自動補正はENTERスイッチを押すたびに ON と OFF が切り替わります。
- 自動補正を ON に設定した場合は、日時の調整はできません。
- 時・分は  が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。
  設定時刻の 0 秒にリセットされた状態から時計が作動を始めます。
- 12H ／ 24H は ENTER スイッチを押すたびに「12H」（12 時間表示）と「24H」（24 時間表示）が切り替わります。
- 12H ／ 24H の設定にかかわらず時刻調整時は 24 時間表示になります。

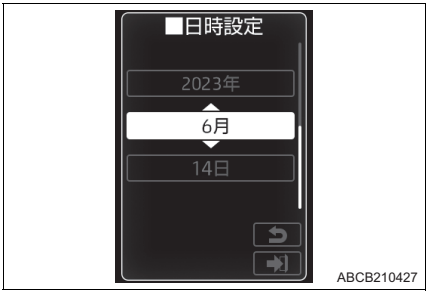
4 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「年」·「月」·「日」の画面に切り替える

5 ∧／∨ スイッチを押して「年」・「月」・「日」を選択し、ENTER スイッチを押す



が表示されたあと、

∧／∨ スイッチを押して数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。



■ 表示オプション設定

次の設定を変更することができます。

●エコドライブアシスト照明の ON ／ OFF

●平均燃費の給油時リセットの ON ／ OFF

●給油時のトリップメーター A リセットの ON ／ OFF

●アイドリングストップ時間の表示自動切り替えの ON ／ OFF

●オープニング画面表示の ON ／ OFF

●エンディング画面表示の設定（エコ、標準、OFF）

●ハンドルポジションモニター（ハンドル位置の表示）の ON ／ OFF

●運転支援表示自動切り替えの ON ／ OFF★

●ターンバイターン表示の ON ／ OFF★

●パワースライドドア予約アドバイス表示の ON ／ OFF

（初期設定：→ P. 115）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

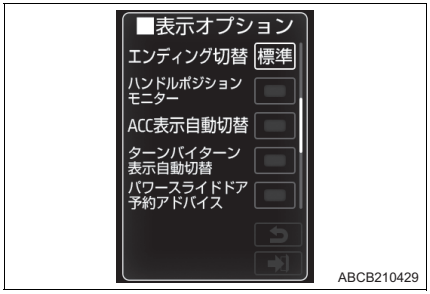
2 ∧／∨ スイッチを押して「表示オプション」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「表示オプション」の画面を切り替える

▶1 画面目



▶2 画面目



▶3 画面目



4 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

- ENTER スイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。
- ENTER スイッチを押したあと、  が表示されたときは ∧／∨ スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。

■ **時計表示**

時計表示の画面を選択できます。

（初期設定：→ P. 115）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを押して「表示オプション」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「表示オプション」の画面を切り替え、「時計表示切替」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ∧／∨ スイッチを押して「時計 1」、または「時計 2」を選択し、ENTER スイッチを押す



■ **ブザー設定**

次の設定を変更することができます。

●ブザー音量※

●ターンシグナル（方向指示灯）ブザーの音色

●オープニング音量

●全車速追従機能付 ACC 先行車認識ブザーの ON ／ OFF★（→ P. 297）

●標識認識ブザーの ON ／ OFF（→ P. 293）

（初期設定：→ P. 115）

※ 一部機能のブザー音量は変更されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「ブザー設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

- ENTERスイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。
- ENTER スイッチを押したあと、  が表示されたときは ∧／∨ スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。



■ お知らせ日設定

オープニング画面で表示される誕生日、記念日、車検日、点検日の通知日を設定できます。

（初期設定：→ P. 115）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「お知らせ日設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して 1 ～ 10 の「設定日」を選択し、ENTER スイッチを押す

6 ～ 10 の設定日は ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押すと表示できます。



4 カテゴリーで ENTER スイッチを押して ▲▼ が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して項目を選択する

誕生日、記念日、車検日、点検日のいずれかを選択し、再度 ENTER スイッチを押します。



5 ∧／∨ スイッチを押して日付の「年」・「月」・「日」を選択し、ENTER スイッチを押す

- ▲▼ が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。
- 誕生日、記念日は、「年」の設定はありません。

6 設定完了後、∧／∨ スイッチを押して ↩ を選択し、ENTER スイッチを押す

選択したカテゴリーと ✓ が表示されます。



■ スマートアシスト設定

次の設定を変更することができます。

●先行車発進お知らせの ON ／ OFF（→ P. 291）

●先行車発進お知らせのタイミング（→ P. 291）

●衝突警報のタイミング（→ P. 259）

●車線逸脱警報のタイミング（→ P. 280）

●標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の ON ／ OFF（→ P. 293）

●ふらつき警報の ON ／ OFF（→ P. 288）

●車線逸脱抑制制御機能の ON ／ OFF（→ P. 280）

●LKC（レーンキープコントロール）の ON ／ OFF★（→ P. 314）

●コーナーセンサーブザーの音量（→ P. 332）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して「スマートアシスト設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「スマートアシスト設定」の画面を切り替える

▶1 画面目



▶2 画面目



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

5 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

・ ENTER スイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。

・ ENTER スイッチを押したあと、  が表示されたときは ∧／∨ スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。

■ ドアロック設定

次の設定を変更することができます。

●車速連動ドアロックの ON ／ OFF（→ P. 135）

ON に設定すると、シフト連動ドアロックの設定が OFF になります。

●シフト連動ドアロックの ON ／ OFF（→ P. 135）

ON に設定すると、車速連動ドアロックの設定が OFF になります。

●シフト連動ドアロック解除の ON ／ OFF（→ P. 135）

ON に設定すると、IG OFF 時（エンジンスイッチ “OFF” 時）ドアロック解除の設定が OFF になります。

●IG OFF時（エンジンスイッチ “OFF” 時）ドアロック解除の ON ／ OFF（→ P. 135）

ON に設定すると、シフト連動ドアロック解除の設定が OFF になります。

●アンサーバックブザー音量（キーフリーシステム作動の合図）（→ P. 124）

●アンサーバック非常点滅灯の ON ／ OFF（キーフリーシステム作動の合図）（→ P. 124）

●ウェルカムドアロック解除の ON ／ OFF（→ P. 138）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して「ドアロック設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「ドアロック設定」の画面を切り替える

▶1 画面目



▶2 画面目



5 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

- ENTER スイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。
- ENTER スイッチを押したあと、  が表示されたときは ∧／∨ スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。

■ ワイパー設定

次の設定を変更することができます。

●車速連動間欠ワイパーの ON ／ OFF（→ P. 234）

●リバース連動リヤワイパーの ON ／ OFF（→ P. 237）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して「ワイパー設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ENTER スイッチを押して設定を切り替える

ENTER スイッチを押すごとに ON、OFF が切り替わります。



■ 方向指示灯設定

ワンタッチターンシグナル（方向指示レバーを途中まで操作したときの方向指示表示灯 3 回点滅）の ON ／ OFF を設定することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して「方向指示灯設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ENTER スイッチを押して設定を切り替える

ENTER スイッチを押すごとに ON、OFF が切り替わります。



■ オートエアコン設定

オートエアコン使用時の eco IDLE によるアイドリングストップの設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して「オートエアコン設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ENTER スイッチを押して設定を切り替える

- ENTER　スイッチを押すごとに「標準」、「空調」が切り替わります。
- 「空調」に設定するとエアコンの作動が優先され、eco IDLE によるエンジン停止が可能な状態になるまでの時間が長くなったり、エンジン停止の時間が短くなったりする場合があります。（→ P. 322）



■ パワースライドドア設定

次の設定を変更することができます。

●予約オープン待ち時間（ウェルカムオープン機能）（→ P. 148）

●予約オープン有効時間（ウェルカムオープン機能）（→ P. 149）

●右スライドドアブザー音量（操作、開閉時のブザー音量）

●左スライドドアブザー音量（操作、開閉時のブザー音量）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

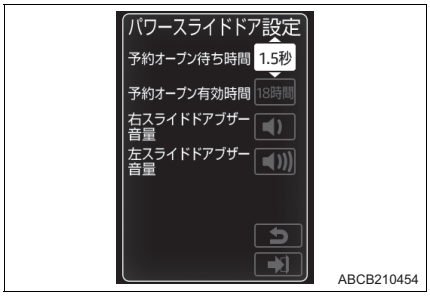
1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「車両設定」の画面を切り替え、「パワースライドドア設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ∧／∨ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

- ENTERスイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。
- ENTER スイッチを押したあと、  が表示されたときは ∧／∨ スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。



■ ウェルカムランプ設定

次の設定を変更することができます。

●ルームランプ連動（電子カードキーを携帯して車両に近付くと、室内灯が点灯）の ON ／ OFF（→ P. 141）

●テールランプ連動（ドアロック解除時に車幅灯、番号灯、尾灯が点灯）の ON ／ OFF（→ P. 141）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「車両設定」の画面を切り替え、「ウェルカムランプ設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ENTER スイッチを押して設定を切り替える

ENTER スイッチを押すごとに ON、OFF が切り替わります。



■ メンテナンス設定

オープニング画面で表示されるエンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの時期を距離で設定できます。

（初期設定：→ P. 115）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「メンテナンス設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ON／OFFを設定する場合は、ENTERスイッチを押して設定を切り替える

オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押すと表示できます。

▶表示が OFF で距離が設定されていない場合は

手順 5 の「次回お知らせまで」の画面が表示されます。（→ P. 114）



▶すでに距離が設定されている場合は

ENTER スイッチを押すごとに ON、OFF が切り替わります。



4 距離を設定、リセットする場合は、∧／∨ スイッチを押して各メンテナンス項目の「お知らせ距離設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押すと表示できます。



5 ∧／∨ スイッチを押して距離を選択し、ENTER スイッチを押す

- ▲ ▼ が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して距離を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。
- すでに距離が設定されている場合は、次回お知らせまでの距離が表示されています。
- リセットする場合は、∧／∨ スイッチを押してリセットを選択し、ENTER スイッチを押します。



■ オイル劣化警告初期化

エンジンオイルを交換したあとに操作してください。

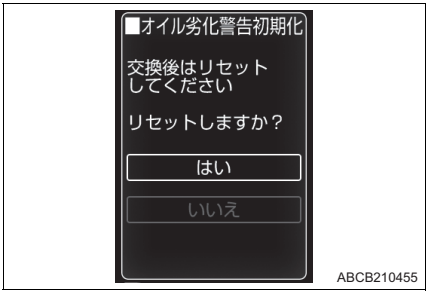
エンジンオイルの交換距離が近づいたとき、またはエンジンオイルの交換距離になったとき、交換を促すメッセージが表示されます。（→ P. 527）

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「オイル劣化警告初期化」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して、「はい」を選択し、ENTER スイッチを押す

「リセット完了しました」が表示されたことを確認してください。



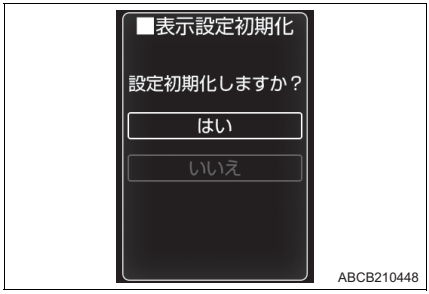
■ 表示設定初期化

表示の設定を初期化（出荷時の状態）することができます。

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「表示設定初期化」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨ スイッチを押して、「はい」を選択し、ENTER スイッチを押す
次の表の項目が初期化されます。



項目		初期設定
明るさ調整	昼間用	レベル 10
	夜間用	レベル 6
日時設定	自動補正	ON
	12H ／ 24H	24H
表示オプション	エコドライブ照明	ON
	平均燃費給油リセット	OFF
	トリップ A 給油リセット	OFF
	アイドリングストップ自動表示	ON
	オープニング表示	ON
	エンディング切替	標準
	ハンドルポジションモニター	ON
	ACC 表示自動切替★	ON
	ターンバイターン表示自動切替★	ON
	パワースライドドア予約アドバイス	ON
	時計表示切替	時計 1

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目		初期設定
ブザー設定	ブザー音量※	中
	ターンシグナル音色	トーン 2
	オープニング音量	大
	ACC 先行車認識ブザー	ON
	標識認識ブザー	OFF
お知らせ日設定	設定日 1 ～ 10	未設定
メンテナンス設定	オイル交換お知らせ	OFF
	オイルフィルター交換お知らせ	OFF
	タイヤローテーションお知らせ	OFF

※ 一部機能のブザー音量は変更されません。

知識

■メーター照度について（昼照度と夜照度）

●メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切り替わります。

- 昼照度：周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき
- 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき

●夜照度になるとメーター照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では、照明が減光しません。

■日時の自動補正について

スマホ連携ディスプレイオーディオ、または純正ナビゲーションシステム以外を装着した場合は、日時の自動補正の設定はできません。

■コンパス表示、ターンバイターン表示について

純正ナビゲーションシステム以外を装着した場合は、コンパス、およびターンバイターンの表示はされません。

知識

■「設定画面」の操作について

●メッセージ確認表示（→ P. 94）の基本画面を選択し、「メッセージあり ENTER で確認」を表示しているときは、「設定画面」を表示できません。（→ P. 99）

●「設定画面」操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

・警告メッセージが表示されたとき

・走行し始めたとき

●一つ前の「設定画面」に戻るときは、∧／∨ スイッチを押して を選択し、ENTER スイッチを押します。

●「設定画面」を終了するときは、∧／∨ スイッチを押して を選択し、ENTER スイッチを押します。



●操作を行っても、設定を変更できない場合は、「設定変更できません」のメッセージが表示されます。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

■液晶ディスプレイについて

→ P. 74

■お知らせ画面について

●お知らせ画面は、1 日に 1 回表示されます。

●誕生日、記念日は、設定日 2 月 29 日にしている場合、うるう年以外の年は 3 月 1 日に表示します。

■音声認識機能について

→ P. 87

⚠ 警告

■走行中の警告

操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■設定を変更するとき

→ P. 87

⚠ 注意

■低温時の画面表示について

→ P. 87

■ディスプレイの設定を変更するとき

→ P. 87

■航続可能距離について

→ P. 87

各部の操作 3

3-1. キー
キー …… 120
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
キーフリーシステム …… 123
フロントドア …… 133
スライドドア …… 143
バックドア …… 163
3-3. シートの調整
フロントシート …… 168
リヤシート …… 169
ヘッドレスト …… 172
シートアレンジ …… 174
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル …… 176
インナーミラー …… 178
ドアミラー …… 179
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ …… 182

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

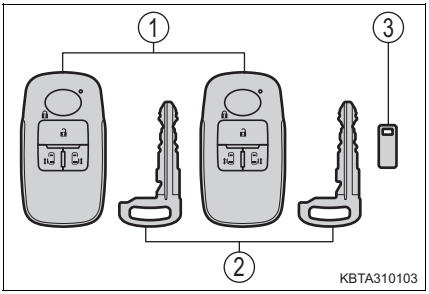
① 電子カードキー

キーフリーシステムの作動（→ P. 123）

ワイヤレス機能の作動（→ P. 134）

② エマージェンシーキー

③ キーナンバープレート

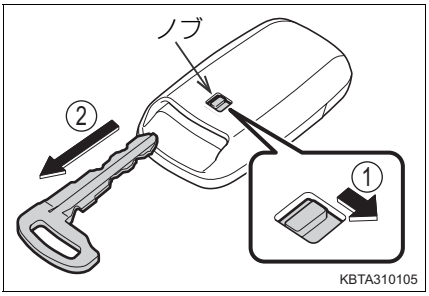


エマージェンシーキーを使うには

① ノブをスライドする

② エマージェンシーキーを取り出す

使用後はもとに戻し、電子カードキーと一緒に携帯してください。電子カードキーの電池が切れたときやキーフリーシステムが正常に作動しないとき、エマージェンシーキーが必要になります。（→ P. 553）



知識

■エマージェンシーキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、ダイハツサービス工場でダイハツ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートはお車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

→ P. 131

知識

■電子カードキーの状態や、エンジンスイッチモードに関する警告メッセージ★が表示されたときは

車内への電子カードキーの閉じ込みや、同乗者による電子カードキーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子カードキーやエンジンスイッチなどの状態の確認を促すメッセージが TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示内容に従ってただちに対処してください。(→ P. 528)

■TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★に「キーの電池残量が残りわずかです」が表示されたときは

電子カードキーの電池残量が残りわずかです。新しい電池と交換してください。(→ P. 469)

■電池の交換方法

→ P. 469

■キーのご購入について

電子カードキーは最大 4 個まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- 直射日光や高温下に放置しない
- 電子カードキーをズボンなどの後ろポケットに入れない
- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キー取り扱いの注意

電子カードキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内で使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ キーフリーシステムの故障などでダイハツサービス工場に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子カードキーをお持ちください。

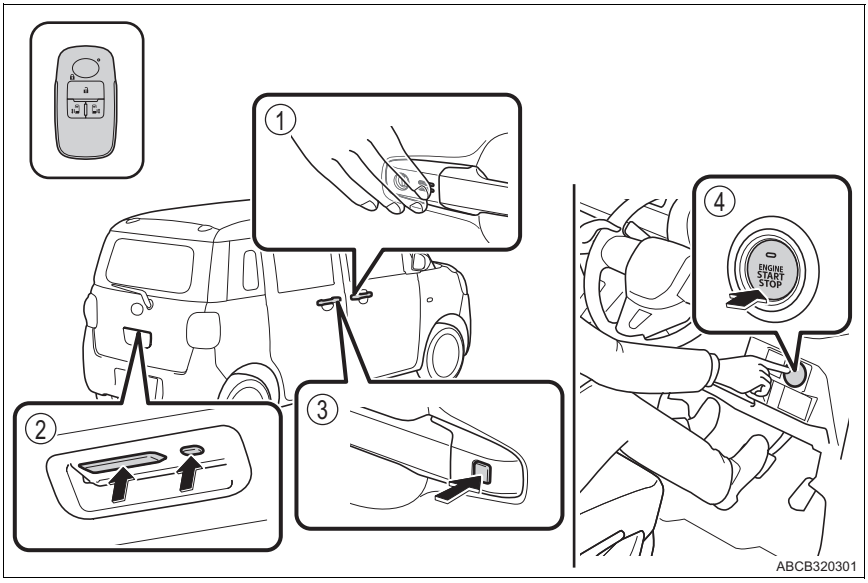
■ 電子カードキーを紛失したとき

電子カードキーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子カードキーをすべてお持ちの上、ただちにダイハツサービス工場にご相談ください。

キーフリーシステム

機能概要

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）



① 全ドアを施錠・解錠する（→ P. 133）

② 全ドアを施錠・解錠する（→ P. 163）

③ 全ドアを解錠してスライドドアを開ける（→ P. 143）

④ エンジンを始動する（→ P. 199）

知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■カスタマイズ機能

作動の合図を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

■解錠操作のセキュリティ機能

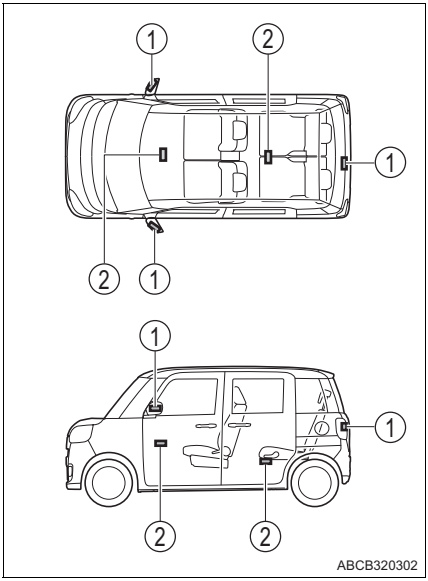
→ P. 139

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

① 車外アンテナ

② 車室内アンテナ



■ 作動範囲（電子カードキーの検知範囲）

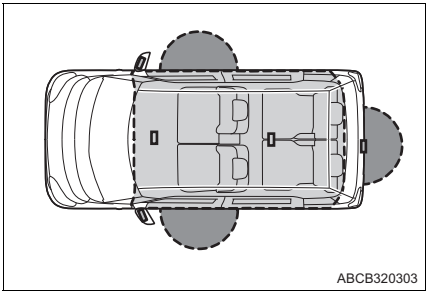
● ：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 80cm 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。

（電子カードキーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

● ：エンジン始動時またはモード切り替え時

車内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。



知識

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴って、警告灯が点灯したり、警告メッセージが表示されることがあります。警告灯が点灯したり、メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→ P. 505, 513)

警告音が鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピピピピピ”、車外から“ピッピッピッ”と鳴る	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めた	電子カードキーを携帯して乗車してください
車内から“ポーン ポーン ポーン･･･”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを“ACC”にした（“ACC”のときに運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください
車外から“ピーッ”と鳴る	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	エンジンスイッチを“OFF”にして施錠してください
	車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	電子カードキーを携帯して施錠してください
	いずれかのドアが開いているときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチやワイヤレスリモコンで施錠しようとした	すべてのドアを閉めて施錠してください

知識

警告音	状況	対処方法
車外から“ピーッ”と鳴って、すべてのドアが解錠した	エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にして運転席のドアハンドルを引いたままドアを閉めた	電子カードキーを携帯して施錠してください
	タッチ & ゴーロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、電子カードキーを車内に戻した	
	エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた	
車内から“ピッピッピッ”と鳴る	電子カードキーの電池切れが近いときに、エンジンスイッチを“OFF”にした※	新しい電池に交換してください（→ P. 469）
車内から“ポーン ポーン ポーン･･･”と鳴り続ける	運転席ドアが開いているときに、エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にした	運転席ドアを閉めてください

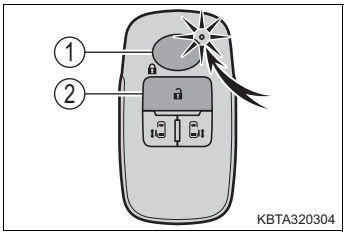
※ 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも警告ブザーが鳴ります。

知識

■電子カードキーの節電モードについて

●節電モードに設定すると、電子カードキーによる電波の受信待機を停止し、電子カードキーの電池の消耗を抑えることができます。

電子カードキーの施錠スイッチ（①）を押しながら、解錠スイッチ（②）を 2 回押し、電子カードキーのインジケーターが４回点滅することを確認してください。
節電モード中は、キーフリーシステム・ウェルカムオープン機能★を使用できません。節電モードを解除するには、電子カードキーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子カードキーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

●電子カードキーの電池交換直後に節電モードにするときは、約 10 秒経過してから行ってください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子カードキーと車両間の通信を妨げ、キーフリーシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 553）

●電子カードキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・コインパーキング・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子カードキーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
- アルミ箔などの金属の貼られたカード
- アルミ箔を使用したタバコの箱
- 金属製の財布やかばん
- 小銭
- カイロ
- CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●電子カードキーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
- 他車の電子カードキーや電波式ワイヤレスリモコン
- パソコンや携帯情報端末（電子手帳）
- デジタルオーディオプレーヤー
- ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子カードキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子カードキーが作動範囲内（検知範囲内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
- ドアの施錠･解錠時に電子カードキーがドアガラスやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
- エンジン始動時またはモード切り替え時に電子カードキーがインストルメントパネルやフロア上･ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれていた場合

●電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。（作動範囲：→ P. 125）

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子カードキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子カードキーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子カードキーが作動範囲内にあれば、電子カードキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子カードキーを検知しているドア以外では、解錠できません。
場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近に電子カードキーがある場合でも、電子カードキーを検知し、解錠されることがあります。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子カードキーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

●電子カードキーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルにあるスイッチに水がかかると、ドアが施錠・解錠を繰り返すことがあります。その場合は、次のような処置をしてください。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠されます）
- キーを車両から約 3m 以上離れた場所に置く（盗難に注意してください）
- キーを節電モードに設定してキーフリーシステムの作動を停止する（→ P. 128）

知識

●電子カードキーが作動範囲内にあるとき、フロントドアのリクエストスイッチに衣服が触れるだけでドアが施錠・解錠することがあります。
●車室内または車両に近い位置に電子カードキーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、キーフリーシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）
●ドアハンドルにあるスイッチは確実に操作して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチをすばやく操作した場合、施錠・解錠されないことがあります。
●ドアハンドルにあるスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、スイッチが操作できない場合があります。操作できない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
●ドアハンドルにあるスイッチを操作するときに、爪がドアに当たる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。
●手袋を着用してフロントドアのリクエストスイッチを操作したときは、施錠・解錠が遅れたり、施錠・解錠しないことがあります。
●周囲の状況により、フロントドアのリクエストスイッチを操作しても施錠・解錠できないときがあります。ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使用して施錠・解錠してください。（→ P. 134, 553）
●次のような状況では、電子カードキーの電池の消耗と車両のバッテリーあがりを防止するために節電機能が働き、キーフリーシステムによる施錠・解錠に時間がかかることがあります。
・車両の周辺約 3m 以内に電子カードキーを約 2 分以上放置した
・約 5 日間以上キーフリーシステムを使用しなかった

■施錠時の留意事項

車内に電子カードキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、車内のブザーが鳴ることがあります。

■解錠時の留意事項

●ドアハンドルにあるスイッチを操作しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置に戻してから再度（バックドアを除く）スイッチを操作し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
●作動範囲内に他の電子カードキーがあるときは、ドアハンドルにあるスイッチを操作してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

知識

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子カードキーを車両から約3m以上離しておいてください。

●あらかじめキーフリーシステムを非作動にすることができます。
詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子カードキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子カードキーを車両に近付け過ぎないようにしてください。

作動時の電子カードキーの位置や持ち方によっては、電子カードキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 139)

■キーフリーシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠：→ P. 553

●エンジンの始動：→ P. 553

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。また、電子カードキーは常に電波を受信しているため、使用していない間でも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
- キーフリーシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- 作動範囲が狭くなった
- 電子カードキーの LED が点灯しない

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。(→ P. 530)

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子カードキーを保管しないでください。
- TV
- オーディオ
- パソコン
- AC アダプター
- 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- 電気スタンド
- 低周波治療器などの医療用電気機器
- 液晶表示器
- モーター類
- 電磁調理器

知識

●車内、または車両の近くに電子カードキーを置かないでください。電子カードキーと車両が常時通信状態になるため、電池が著しく消耗します。
常時通信状態になると、電子カードキーのインジケーターが点滅しますので、消灯するまで電子カードキーを車両から離してください。
●長期間使用しない電子カードキーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→ P. 128）

■電池が切れたとき

→ P. 469

■ダイハツサービス工場で設定可能な機能

キーフリーシステムを非作動にすることができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

■ダイハツサービス工場でキーフリーシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 134, 553）
●エンジンの始動・エンジンスイッチモードの切り替え：→ P. 553
●エンジンの停止：→ P. 200

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 125）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

⚠ 注意

ドアハンドルにあるスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

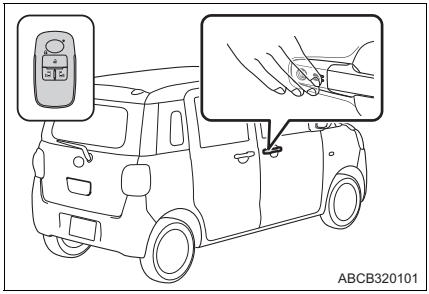
フロントドア

ドアの施錠／解錠

キーフリーシステムやワイヤレス機能、キー、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

■ キーフリーシステム

電子カードキーを携帯し、リクエストスイッチ（ハンドルのくぼみ部）に触れ全ドアを解錠・施錠する



スイッチに確実に触れてください。

施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。

施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。（タッチ & ゴーロック機能使用時を除く：→ P. 147）

▶ウェルカムドアロック解除★

電子カードキーを携帯してキーの解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠する（→ P. 138）

ウェルカムドアロック解除では施錠できません。

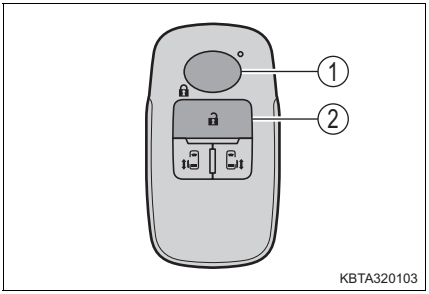
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレス機能

① 全ドアを施錠する

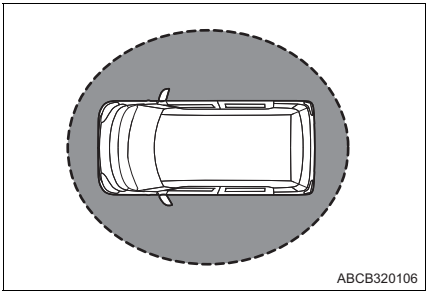
必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する



▶作動範囲

● :車両中心から周囲約 3m 以内



■ キー

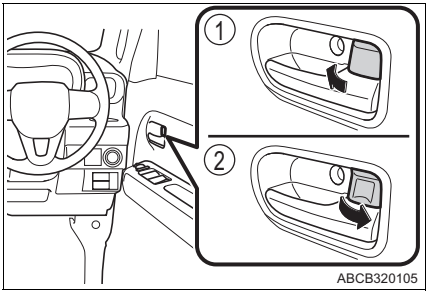
エマージェンシーキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→ P. 553)

■ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

- 運転席のドアを解錠（または施錠）すると、すべてのドアが解錠（または施錠）されます。
- 運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くとすべてのドアが解錠され、ドアが開きます。



キーを使わずに外側から運転席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める
エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときや車内に電子カードキーが放置されているときは施錠されません。
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能

車両の状況に応じて、すべてのドアを自動的に施錠・解錠する機能です。

次の機能を設定・解除することができます。

▶オートドアロック機能

機能	作動内容
車速感応オートドアロック（初期設定）	車速が約 20km/h 以上になると、全ドアが施錠されます。
シフト操作連動オートドアロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。

▶オートドアアンロック機能

機能	作動内容
シフト操作連動オートドアアンロック（初期設定）	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
エンジンスイッチ“OFF”連動オートドアアンロック	車速約 20km/h 以上で走行後、エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にすると全ドアが解錠されます。

■ **オートドアロック機能の切り替え方法**

次の手順を完了するごとに、オートドアロック機能が ①、②、③ の順で切り替わります。

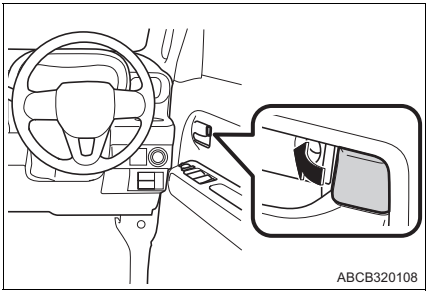
① 車速感応オートドアロック機能

② シフト操作連動オートドアロック機能

③ 機能停止

1 車両を次の状態にする

- ランプスイッチを **AUTO** の位置にする
- エンジンスイッチを “OFF” にする
- 全ドアを閉める
- 運転席ドアのロックレバーを施錠側にする



2 エンジンスイッチを “ACC” にする（その後 5 秒以内に 3 を行う）

3 ランプスイッチを ○ の位置に操作して手を離す（その後５秒以内に 4 を行う）

4 運転席ドアのロックレバーを解錠側にする

切り替え操作が完了すると、運転席ドアのロックレバーを解錠側にしたあと、約 3 秒以内に全ドアが施錠されます。

操作を途中で中断したときは、再度はじめからやり直してください。

■ オートドアアンロック機能の切り替え方法

次の手順を完了するごとに、オートドアアンロック機能が ①、②、③ の順で切り替わります。

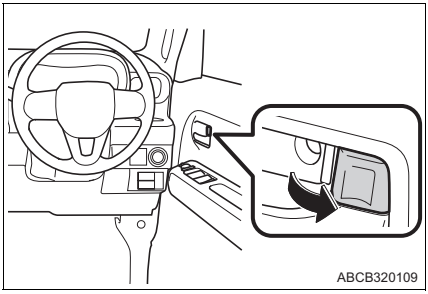
① シフト連動オートドアアンロック

② エンジンスイッチ “OFF” 連動オートドアアンロック

③ 機能停止

1 車両を次の状態にする

- ランプスイッチを **AUTO** の位置にする
- エンジンスイッチを “OFF” にする
- 全ドアを閉める
- 運転席ドアのロックレバーを解錠側にする



2 エンジンスイッチを “ACC” にする（その後 5 秒以内に 3 を行う）

3 ランプスイッチを ○ の位置に操作して手を離す（その後５秒以内に 4 を行う）

4 運転席ドアのロックレバーを施錠側にする

切り替え操作が完了すると、運転席ドアのロックレバーを施錠側にしたあと、約 3 秒以内に全ドアが解錠されます。

操作を途中で中断したときは、再度はじめからやり直してください。

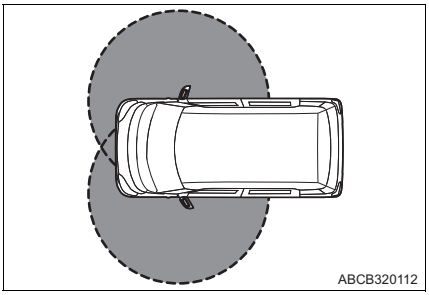
ウェルカムドアロック解除★

電子カードキーを携帯して解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠します。

■ ウェルカムドアロック解除の解錠範囲

● :解錠範囲

ドアミラーから周囲約 1.5m 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します



■ 予約のしかた

1 お車から降り、キーフリーシステムまたはワイヤレス機能で施錠する（予約待機）

2 解錠範囲から出て、約 5 秒経過すると予約が完了する

予約の有効期間は約 5 日間です。有効期間を過ぎると、予約がキャンセルされます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■セキュリティアラームがセットされている場合

キーフリーシステムやワイヤレスリモコンを使わずに解錠しドアを開けるとセキュリティアラームが作動します。作動した場合は、ただちにセキュリティアラームを停止してください。(→ P. 61)

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。

衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

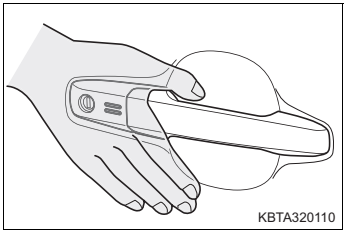
■解錠操作のセキュリティ機能

キーフリーシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

●施錠後、30 秒以上経過すると、セキュリティアラームが設定されます。(→ P. 61)

■フロントドアのリクエストスイッチで施錠・解錠できないとき

フロントドアのリクエストスイッチに指で触れても施錠・解錠できないときは、手のひらでフロントドアのリクエストスイッチに触れてください。
手袋を着用しているときは、手袋を外してください。



■キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

●エンジンスイッチが “ACC” または “ON” のときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。
- 運転席ドアが開いている状態で、運転席ドアのロックレバーを施錠側にしたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（エンジンスイッチが “ON” のときは作動しません）

●エンジンスイッチが “OFF” で車内に電子カードキーがあるときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。
- 車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にし、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

知識

■半ドア走行時警告ブザー

→ P. 508, 521

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 128

■カスタマイズ機能

キーフリーシステムの機能の一部、オートドアロック・アンロック機能の一部、ウェルカムドアロック解除★を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

■オートドアロック・アンロック機能について

オートドアロック機能で施錠されたあとに解錠すると、再度施錠はされません。ただし、次のいずれかの状態になると再作動します。

- ●停車中にいずれかのドアを開けた
- ●エンジンスイッチを “ACC” または “OFF” にした
- ●オートドアアンロック機能で解錠された

■ウェルカムドアロック解除★の作動について

- ●ウェルカムドアロック解除でドアを解錠したときは、ブザーと非常点滅灯の点滅（2 回）で知らせます。
- ●次のいずれかの場合は、ウェルカムドアロック解除の予約はできません。
  - ・カスタマイズ機能でキーフリーシステムまたは電子カードキーの室外自動検知機能を非作動にしたとき（→ P. 570）
  - ・ウェルカムドアロック解除を OFF にしたとき（→ P. 108）
- ●ドアロック後、解錠範囲を出てから約 5 秒以内に解錠範囲に入ったときは予約が完了せず、ウェルカムドアロック解除は作動しません。
- ●電子カードキーが解錠範囲内にあっても、電子カードキーがドアガラスなどやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合は正しく作動しないことがあります。
- ●電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。
- ●予約が完了するまでの間に次の状況になると予約がキャンセルされます。
  - ・ドアを施錠したあと、解錠範囲内に電子カードキーがある状態が約 2 分以上続いたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●解錠範囲に入りドアが解錠されてから、ドアを開けずに約 15 秒経過すると、ドアが自動的に施錠され予約がキャンセルされます。

●予約完了後、車両の近くに電子カードキーがあると意図せずウェルカムドアロック解除が作動する場合があります。

■ウェルカムドアロック解除★が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況にある（→ P. 128）

■ウェルカムドアロック解除★使用時の電子カードキーについて

第三者に電子カードキーを受け渡すときは、予約していることを伝えてください。

■ウェルカムランプ設定（テールランプ連動）について

次の方法でドアロックを解除したときに車幅灯・番号灯・尾灯を約 15 秒間点灯させ、ドアロック解除をお知らせすることができます。（→ P. 83, 112）

●キーフリーシステムによるドアロック解除（ウェルカムドアロック解除★によるドアロック解除を含む）

●ワイヤレス機能によるドアロック解除

■ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）について

●次の条件をすべて満たしている場合、電子カードキーを携帯して車両に近付いた（ウェルカムドアロック解除★の解錠範囲に入った）ときに、室内灯を点灯させることができます。

- 電子カードキーの室外自動検知機能の作動（→ P. 570）が有効になっている
- ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）が有効になっている（→ P. 83, 112）
- 室内灯のスイッチがドアポジションになっている

●室内灯の点灯時間は、イルミネーテッドエントリーシステム（→ P. 405）の点灯時間に連動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

●傾斜地・ドアと壁などの間が狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

●ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

■お子さまを乗せているときは

お子さまにドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スライドドア

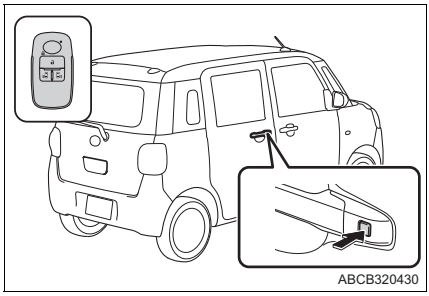
車外からの解錠／施錠

■ キーフリーシステム

電子カードキーを携帯し、ワンタッチスイッチを押して全ドアを解錠する

同時にスライドドアが自動で開きます。

スイッチを確実に押してください。



■ ワイヤレスリモコン

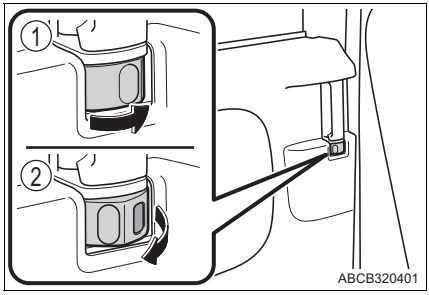
→ P. 133

車内からの解錠・施錠

■ ロックレバー

① 施錠

② 解錠

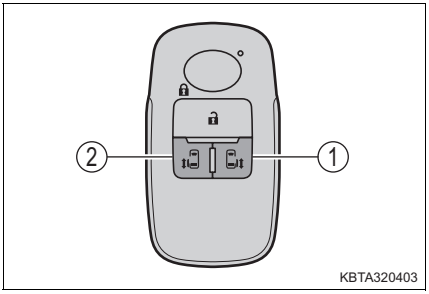


スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

■ ワイヤレスリモコン

スイッチを長押しして開閉します。

① 運転席側パワースライドドアを開閉する
② 助手席側パワースライドドアを開閉する



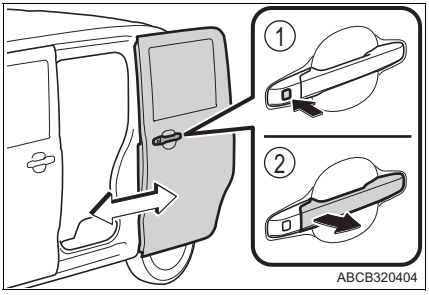
スライドドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中に押すと停止し、再度長押しすると全開します。

途中まで開いた状態から全閉するときは、一度全開したあとにスイッチを長押ししてください。

■ スライドドアハンドル

① ワンタッチスイッチを押して開閉する
- ドア施錠時：電子カードキーを携帯し、スイッチを押すとすべてのドアが解錠されスライドドアが自動で開きます。
  電子カードキーの検知範囲内（→ P. 125）でスイッチを押さないと、スライドドアは開きません。
- ドア解錠時：スイッチを押すとスライドドアが自動で開きます。



② ドアハンドルを引いて開閉する

スライドドアを解錠してから操作してください。
ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。
ドアハンドルを引くと自動で全開または、全閉になります。

自動開閉作動中にスイッチを押す、またはドアハンドルを引くと自動開閉作動が停止し、再度スイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、スライドドアが反対方向に作動します。

スライドドアが全閉した状態でワンタッチスイッチを押してもドアは施錠しません。

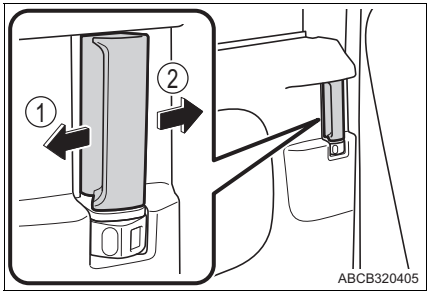
■ インサイドドアハンドル

インサイドドアハンドルを操作して開閉します。

① 開く

スライドドアを解錠してから操作してください。

② 閉じる



ロックが解除するまで確実にドアハンドルを操作します。

ドアハンドルを操作すると自動で全開または、全閉になります。

また、自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。

■ パワースライドドアスイッチ

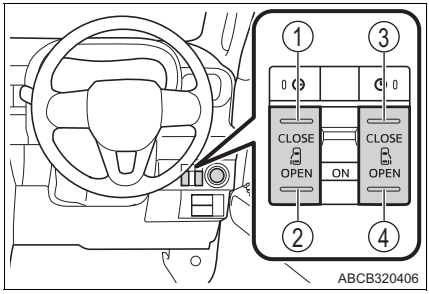
スイッチを押して開閉します。

① 閉める（助手席側）

② 開ける（助手席側）

③ 閉める（運転席側）

④ 開ける（運転席側）



スライドドアを解錠してから操作してください。

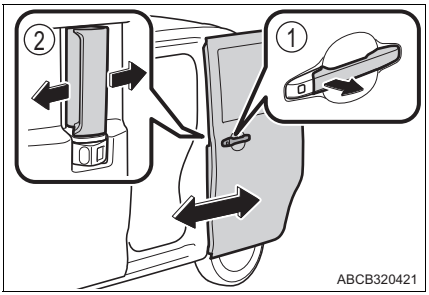
開閉作動中に再度スイッチを押すと、停止します。

スライドドアの手動開閉

パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 146）が OFF のとき、スライドドアハンドル、またはインサイドドアハンドルを操作して開閉します。

① スライドドアハンドル

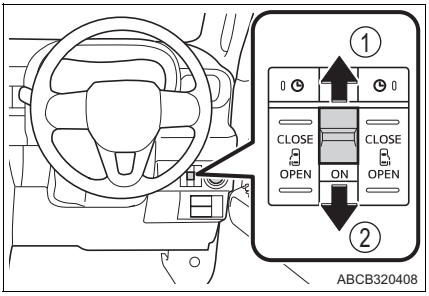
② インサイドドアハンドル



ロックが解除されるまで確実にドアハンドルを操作します。

パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする



① ON

次の操作によりパワースライドドアを自動で開閉できます。

- ワイヤレスリモコン
- スライドドアハンドル
- インサイドドアハンドル
- パワースライドドアスイッチ
- ワンタッチスイッチ
- ウェルカムオープン機能★（自動開作動のみ）

ON にするとスイッチ下部に ON の文字が表れます。

② OFF

スライドドアを手動でのみ開閉できます。

OFF にするとスイッチ上部に OFF の文字が表れます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

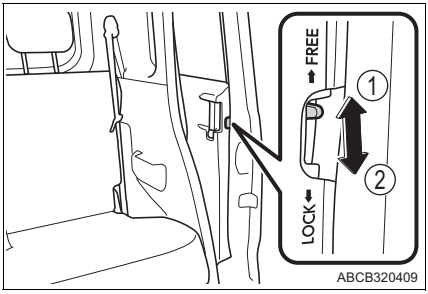
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。



タッチ & ゴーロック機能★

スライドドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、スライドドア以外のすべてのドアが施錠され、スライドドアが閉まると同時にスライドドアも施錠されます。

1 スライドドア以外のすべてのドアを閉じる

2 スライドドアの自動閉作動中にリクエストスイッチによる施錠操作（→ P. 133）、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作（→ P. 133）を行う

非常点滅灯が 1 回点滅します。

3 スライドドアが閉まると、同時に施錠される

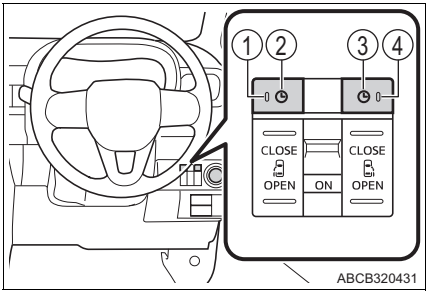
非常点滅灯が 1 回点滅して、タッチ & ゴーロックが完了します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ウェルカムオープン機能★

予約（→ P. 149）が完了した電子カードキーを携帯して、予約した側の解錠範囲（検知範囲 A）に入ると、すべてのドアが解錠します。その後パワースライドドアが開く範囲（検知範囲 B）に入り約 1.5 秒間経過すると予約した側のパワースライドドアが自動的に開作動します。

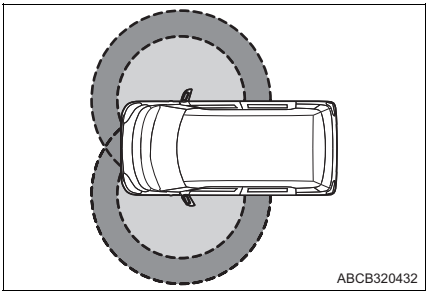
① 助手席側ウェルカムオープン予約表示灯
② 助手席側ウェルカムオープン予約スイッチ
③ 運転席側ウェルカムオープン予約スイッチ
④ 運転席側ウェルカムオープン予約表示灯



■ ウェルカムオープン機能の作動範囲

● ：解錠範囲（検知範囲 A）
ドアミラーから周囲約 1.5m 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します
（電子カードキーを検知している側のみ作動します）

● ：パワースライドドアが開く範囲（検知範囲 B）
ドアミラーから周囲約 1m 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します
（電子カードキーを検知している側のみ作動します）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 予約のしかた

1 予約したい側のウェルカムオープン予約スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、押された側のウェルカムオープン予約表示灯が点灯します。
TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
ウェルカムオープン予約表示灯は施錠されるまで点灯し続けます。

▶予約のキャンセルをする
予約されている側（ウェルカムオープン予約表示灯が点灯している側）のウェルカムオープン予約スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、ウェルカムオープン予約表示灯が消灯します。
TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

▶予約の変更をする
予約されていない側（ウェルカムオープン予約表示灯が点灯していない側）のウェルカムオープン予約スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、予約表示灯が点灯します。
TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

2 お車から降り、ドアハンドルのリクエストスイッチを操作して施錠する（予約待機）

ウェルカムオープン予約表示灯が消灯します。
リクエストスイッチを操作せずに施錠したときは、予約がキャンセルされます。

3 検知範囲 A から出て、約 5 秒経過すると予約が完了する

予約の有効時間は約 3 時間です。有効時間を過ぎると、予約がキャンセルされます。

知識

■作動の合図（パワースライドドア使用時）
ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方
ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■中間ストッパー
給油扉が開いているときは、助手席側パワースライドドアは作動しません。助手席側スライドドアは手動で開閉できますが、途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、一旦スライドドアを全閉にしてから、給油扉を閉じ再度スライドドアを開けてください。

知識

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

●次の場合でもスライドドアイージークローザーは作動します。

・エンジンスイッチが“OFF”

・パワースライドドアメインスイッチが OFF

●車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、スライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。

●スライドドアイージークローザーが作動中でも、車内や車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■パワースライドドアの作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワースライドドアメインスイッチが ON

●給油扉が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

●エンジンスイッチが“ON”のとき、車速が約 3km/h 以下で次のいずれかの条件を満たしている

・シフトレバーが P のとき

・パーキングブレーキがかかっているとき

・ブレーキペダルを踏んでいるとき

スライドドアが施錠された状態で、スライドドアハンドルのワンタッチスイッチ（→ P. 144）以外の操作をしたときは、自動開作動しません。自動開作動の前に解錠してください。

■パワースライドドアの作動について

●パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ドアハンドルをブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、作動可能条件を満たしていない状態でドアハンドルを引いて手動で開けると、ブザーが鳴ります。この場合、スライドドアがスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。

●パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、手動でのみ開閉できます。

●パワースライドドアメインスイッチが OFF のときにパワースライドドアスイッチを押すとブザーが鳴り、パワースライドドアが作動しないことをお知らせします。

知識

●給油扉が開いているときに、助手席側パワースライドドアを開けることはできません。

●パワースライドドアの自動開閉中に、次の操作を行うとブザーが鳴り、作動が停止します。ドアハンドルを操作して、手動で全閉にしてください。
- パワースライドドアメインスイッチを OFF にした
- 給油扉を開けた（助手席側パワースライドドア）

手動で全閉するとき、スライドドアがスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。

●パワースライドドアの自動開閉中に車速が約 3km/h 以上になったときは、ブザーが鳴り作動が停止して、そのまま停止状態を維持します。スイッチやドアハンドルの操作で全閉にしてください。

●次の場合は、パワースライドドアが作動しないことがあります。
- バッテリーの電圧が低下したとき
- 傾斜地で駐車しているとき

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、次のように作動します。

逆方向に動く：
- アウトサイドハンドルを引くまたはワンタッチスイッチを押す

開方向に動く：
- インサイドハンドルを開方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（OPEN 側）を押す

閉方向に動く：
- インサイドハンドルを閉方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（CLOSE 側）を押す

挟み込み防止機能作動後、ワイヤレスリモコンのパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。また、センサーに手などが強く触れたままの場合も作動しません。（→ P. 152）

●挟み込みを感知したスライドドアが反転作動している間に再度挟み込みを感知すると、ただちに作動が停止します。

●挟み込みを感知したあと、自動開閉できないときは、手動操作で全閉にしてください。その際、スライドドアがスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。

●車外または車内のドアハンドルで自動で全開する際、ドアハンドル操作が不十分な場合にスライドドア後端付近で「ガコッ」と音がしてブザーが約 10 秒間鳴ることがありますが、異常ではありません。再度ドアハンドルを引くと、パワースライドドアが正常に作動します。

知識

■バッテリーを再接続したときは

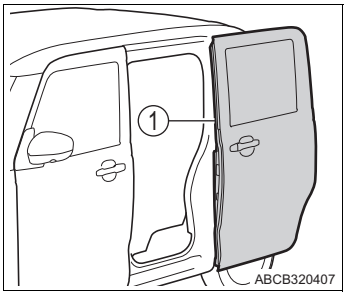
●パワースライドドアを適切に作動させるために、次の操作で初期設定を行ってください。
・スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にする

●手動で全閉するとき、スライドドアがスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。

●初期設定を行っていないと、パワースライドドア、および挟み込み防止機能が作動しません。

■挟み込み防止機能

パワースライドドアの前端部には、センサー（①）が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押された、またはドアに一定以上の負荷がかかると挟み込み防止機能が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。



■タッチ & ゴーロック機能★について

●タッチ & ゴーロックをしてスライドドアが自動閉作動中に、次の操作が行われるとタッチ & ゴーロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。
・キーフリーシステムで解錠する
・運転席側ロックレバーを解錠方向に操作する
・エンジンスイッチを“ACC”にする
・挟み込み防止機能が作動するなどの停止操作

キーフリーシステムで解錠、挟み込み防止機能が作動するなどの操作で解錠した場合は、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●タッチ & ゴーロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、電子カードキーを車内に戻すと、車内に電子カードキーが閉じ込められることがあります。タッチ & ゴーロック機能を使用するときは、必ず電子カードキーを携帯した状態で行ってください。

●お車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

●スライドドアのワンタッチスイッチでは、タッチ & ゴーロックはできません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ウェルカムオープン機能★の作動条件

次のいずれかを満たしたときにウェルカムオープン予約スイッチで予約可能となります。

- エンジンスイッチが “OFF” または “ACC” のとき
- エンジンスイッチが “ON”、かつ車速が約 3km/h 以下の状態で、次のいずれかを満たしたとき
  - シフトレバーが P のとき
  - パーキングブレーキがかかっているとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき

  条件をすべて満たすと、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「パワースライドドアオープン予約できます」のメッセージが表示されます。

ただし、次のいずれかの場合は、作動条件を満たしていてもウェルカムオープン機能は作動しません。

- カスタマイズ機能でキーフリーシステムを非作動にしたとき（→ P. 570）
- 電子カードキーが節電モードに設定されているとき（→ P. 128）

■ウェルカムオープン機能★の作動について

- パワースライドドアの作動可能条件（→ P. 150）を満たしていないときは、ウェルカムオープン機能によるスライドドアの自動開作動は行われません。
- 左右のスライドドアを同時に予約することはできません。
- 予約した車両の検知範囲内に、別のキーがある状態が続いた場合、予約がキャンセルされ、スライドドアが自動で開かないことがあります。
- 電子カードキーが作動範囲内（検知範囲内）にあっても、電子カードキーがドアガラスやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合は正しく作動しないことがあります。
- 電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。
- スライドドアのタッチ & ゴーロック機能を使用しているときに、電子カードキーを車内に戻した場合は、すべてのドアが解錠され予約が完了できません。
- ウェルカムオープン予約スイッチを押してから、予約が完了するまでの間に次のいずれかの状況になると予約がキャンセルされます。
  - お車を発進させ、車速が 3km/h 以上になったとき
  - リクエストスイッチ操作以外の方法でドアを施錠したとき
  - ドアを施錠せずに約 10 分経過したとき
  - ドアを施錠したあと、検知範囲内に電子カードキーがある状態で約 2 分以上経過したとき（“ピーッ” とブザーが鳴ります）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●予約が完了してから、検知範囲 A に入る前に次のいずれかの状況になると予約がキャンセルされます。
- 予約の有効時間を過ぎたとき
- ドアを解錠したとき
- エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたとき

●検知範囲 A に入りドアが解錠されてから、次のいずれかの状況になると予約がキャンセルされます。
- ドアを施錠したとき
- 電子カードキーを操作したとき
- 予約している側のフロントドア、またはスライドドアを開けたとき
- 検知範囲Bに入らずに約30秒経過したとき(すべてのドアが施錠されます)
- 検知範囲 A の外へ出たとき(“ピーッ”とブザーが鳴ります)
- 検知範囲 B に入りスライドドアが開く前に、検知範囲 A の外へ出たとき(“ピーッ”とブザーが鳴ります)
- エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたとき

●ウェルカムオープン機能によるスライドドアの自動開作動中に次のいずれかの状況になると、スライドドアの開作動は停止します。
- 電子カードキーでパワースライドドアを操作したとき
- パワースライドドアの停止操作を行ったとき
- 挟み込み防止機能が作動したとき
- 給油扉を開けたとき(助手席側パワースライドドア)

●検知範囲 A に入りドアが解錠されてから、次のことを行っても予約はキャンセルされません。
- 予約していない側のフロントドア、またはスライドドアを開けたとき
- バックドアオープンスイッチを操作してバックドアを開けたとき

■ウェルカムオープン機能★が正常に働かないおそれのある状況

●複数の電子カードキーがウェルカムオープン機能の作動範囲内にある

●キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況にある(→ P. 128)

■ウェルカムオープン機能★使用時の電子カードキーについて

●予約するときは、複数の電子カードキーが検知範囲内にないようにしてください。

●第三者に電子カードキーを受け渡すときは、予約していることを伝えてください。

■半ドア走行時警告ブザー

→ P. 508, 521

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■自動洗車機を使うとき

→ P. 435

■カスタマイズ機能

パワースライドドアの設定を変更できます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

⚠ 警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●すべてのドアを施錠する
- ●お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- ●シートベルトを必ず着用する
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●お子さまを車内に残さないでください。

  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ●お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。

  不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。（パワースライドドアメインスイッチを OFF にする。または、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません）
- ●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→ P. 147）を使用して車内からドアが開かないようにする

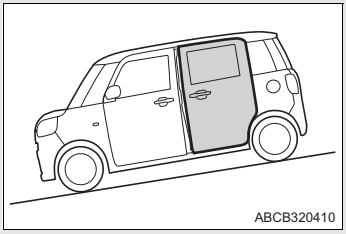
⚠ 警告

■スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- ●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- ●人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●ドアハンドルをしっかりと持ち、スライドドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- ●スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- ●車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●スライドドアが中間ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。
- ●傾斜が急な場所ではスライドドアを開けたままにしないでください。スライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアに当たったり挟んだりしないように注意してください。
- ●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。

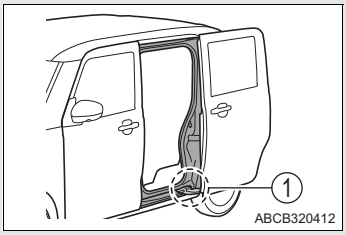

ABCB320410

⚠ 警告

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

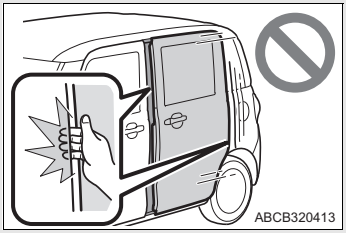


●スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。特に（①）の部分には十分注意してください。



■スライドドアイージークローザーについて

●スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。（→ P. 150）



●スライドドアイージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチがOFFであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、スライドドアイージークローザー作動中にドアハンドルを引くとスライドドアイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

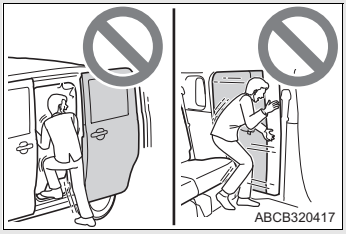
■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ブレーキを確実にかけて、お車が完全に停止している状態で行ってください。

●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。

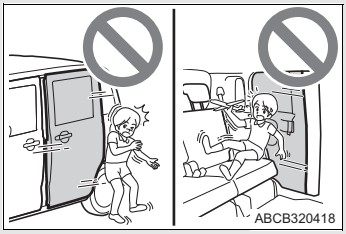


●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



●傾斜した場所ではパワースライドドアを開閉しないでください。自動開閉を完了できずに途中で反転作動するおそれがあります。

●自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にしたり、給油扉を開いたりしたときやセンサーなどが故障したときは、ブザーが鳴り作動が停止して、約 3 秒後に停止保持状態が解除されます。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分に注意してください。

●自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

⚠ 警告

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、停止保持状態が解除されることがあります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開作動中に車速が約 3km/h 以上になったときは、ブザーが鳴り作動が停止して、そのまま停止状態を維持します。この場合、同乗者や荷物が車外に放り出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車するか、スイッチやドアハンドルの操作でスライドドアを全閉にしてください。

●パワースライドドアが完全に閉まらない状態で走行しないでください。車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車するか、ドアハンドルやスイッチの操作により、スライドドアを完全に閉めてください。

●エンジン停止中に、パワースライドドアを途中で停止させたまま放置しないでください。スイッチやドアハンドルの操作で停止した場合は、約 3 分後（挟み込みで停止した場合は約 30 分後）にブザーが鳴り、停止保持状態が解除されます。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、停止保持状態が解除されることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動作動中、障害物に干渉したとき
- エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを “ON” にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

●タイヤ交換時や洗車機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

⚠ 警告

●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ウェルカムオープン機能★について

ウェルカムオープン機能によるスライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

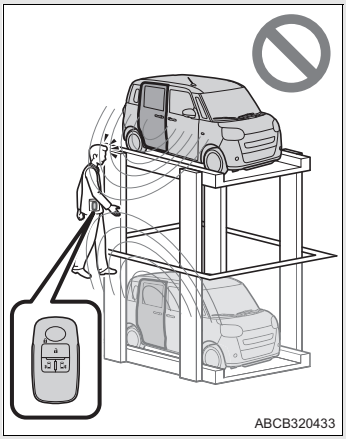
●ドアミラーから約 3m 以上離れた位置で、十分に周囲の安全を確認してから車両に近付いてください。

周囲に人がいるときは、車両に近付く前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、ウェルカムオープン機能を作動させないでください。

●機械式駐車場などでは、車両が安全な場所にあることを確認してから車両に近付いてください。

車両が電子カードキーよりも上、または下にある状態でも電子カードキーが検知されればウェルカムオープン機能が作動し、スライドドアが自動的に開作動します。


ABCB320433

●電子カードキーが検知されてからスライドドアの開作動が開始するまでの間は、いつでもスライドドアの作動が停止できるようにスライドドアハンドルに手が届く位置、または電子カードキーのボタンを押せる状態でお待ちください。

●スライドドアの開作動までの待ち時間の変更（→ P. 111）で待ち時間を短く設定したときは、電子カードキーが検知されてからスライドドアが開作動するまでの時間が短くなるため、よりいっそう注意して操作してください。

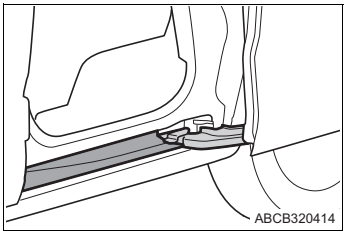
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

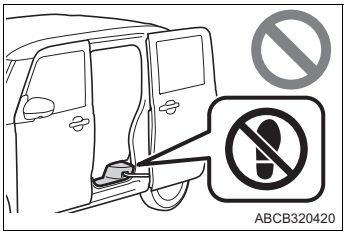
■スライドドアについて

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

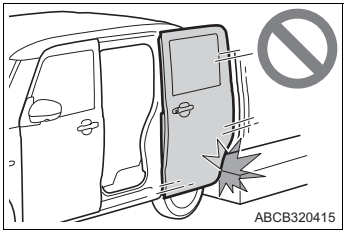
●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



●乗降時に、リヤシート下のプレートを踏まないようにしてください。プレート下の配線類が損傷するおそれがあります。



●スライドドアを開けるときは縁石や壁などに当たらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。



■スライドドアイージークローザーについて

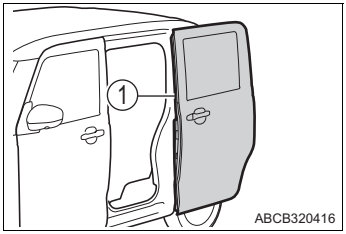
●スライドドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間に繰り返すとスライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

⚠ 注意

■パワースライドドアについて

●パワースライドドア前端部のセンサー（①）を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。



●eco IDLE によるエンジン停止中に自動開閉すると、エンジンが始動することがあります。しっかりとブレーキペダルを踏み続けてください。

●ドアが凍結しているときは、スライドドアが開閉可能か手動で確認してから自動開閉してください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠／解錠

■ キーフリーシステム

電子カードキーを携帯して操作します。

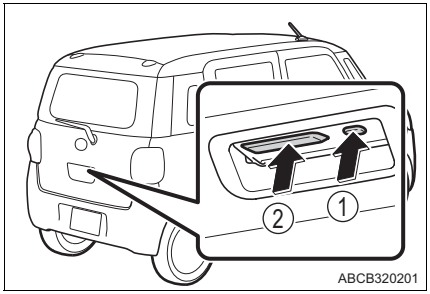
① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

バックドアが半ドア状態になります。

施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。



■ ワイヤレスリモコン

→ P. 134

■ キー

→ P. 134

車内からの施錠／解錠

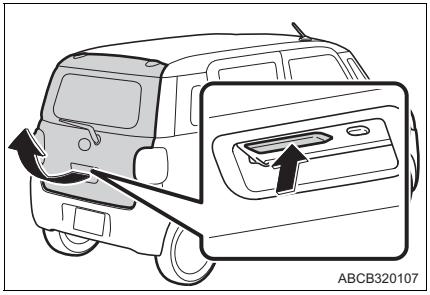
■ ロックレバー

→ P. 134

バックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

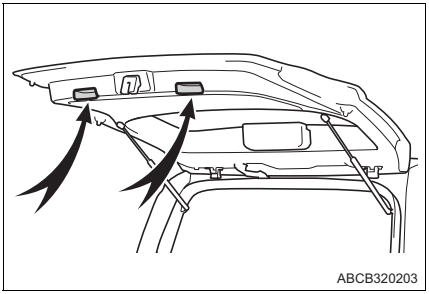
バックドアオープンスイッチを押したあと、約 1 秒間はバックドアを閉めることができません。



バックドアを閉めるとき

バックドアインナーハンドルを持ってバックドアを引き下げる

必ず外から押して閉めてください。



知識

■バックドアを解錠するときは

バックドアオープンスイッチで解錠してバックドアを開けない場合は、バックドアが半ドア状態でないことを確認してください。

■半ドア走行時警告ブザー

→ P. 508, 521

■カスタマイズ機能

バックドアのスイッチ操作による作動を変更することができます。

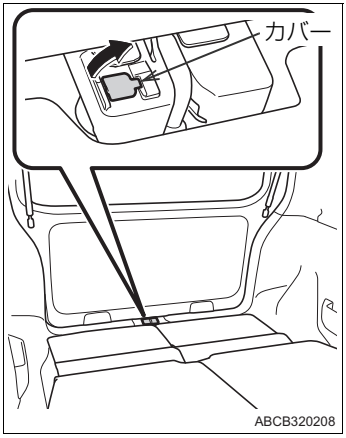
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

1 リヤシートの背もたれを前に倒す（→ P. 169）

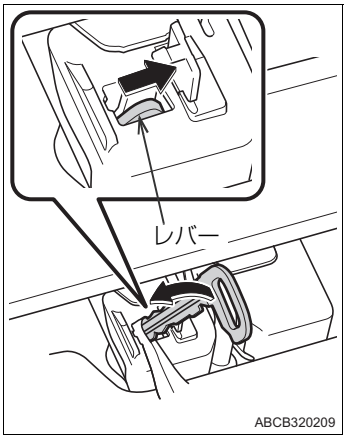
2 カバーを開ける



知識

3 エマージェンシーキーなどを使ってレバーを矢印の方向に動かす（→ P. 120）

傷が付くのを防ぐため、キーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

■バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。

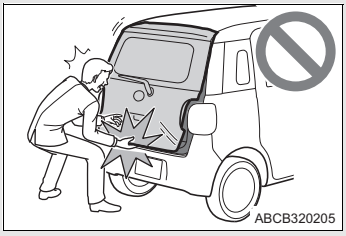
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


ABCB320204

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアインナーハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


ABCB320205

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。

手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、ダイハツ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

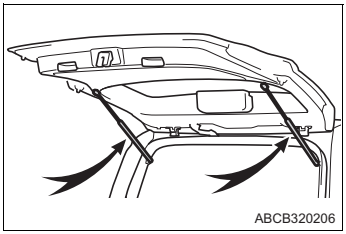
■バックドアハンドルのスイッチについて

バックドアハンドルのスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

■ダンパーステーについて

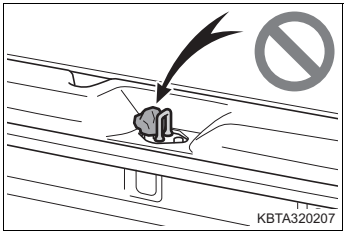
バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などで触れない
- バックドアにダイハツ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■ストライカーバーについて

バックドアを閉めるときはストライカーバーに異物がかみ込まないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。



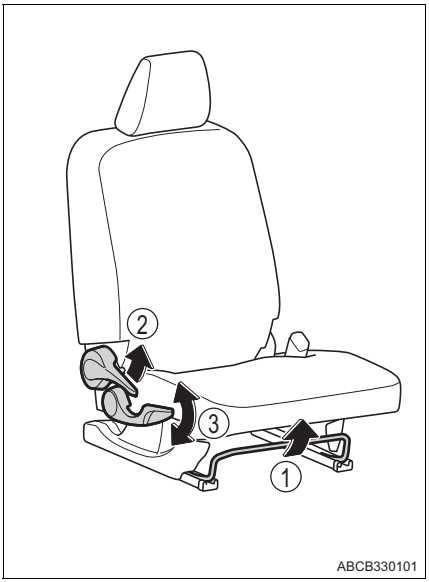
フロントシート

調整のしかた

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整（運転席のみ）



⚠ 警告

■シートを調整するとき

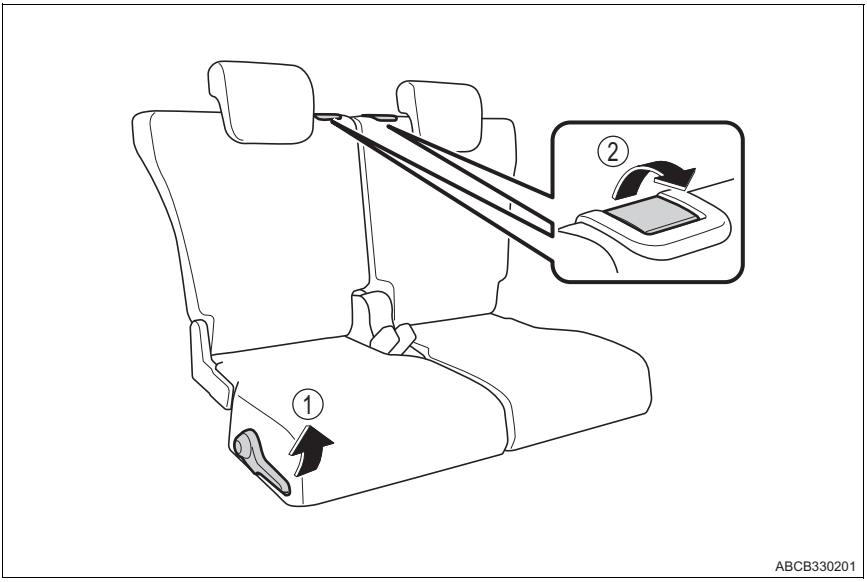
- ●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- ●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

- ●必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- ●背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- ●背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒し過ぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

調整のしかた

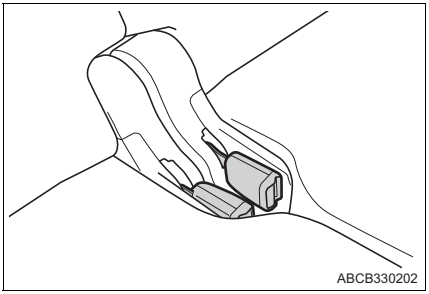


① 前後位置調整

② リクライニング調整

前倒しのしかた

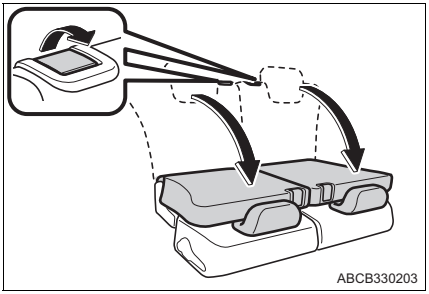
1 シートベルトのバックルを格納する


ABCB330202

2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 172）

3 リクライニングレバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。


ABCB330203

4 背もたれをもとに戻すときは逆の手順で行う

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート調整について

- ●シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- ●必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- ●背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- ●背もたれは必要以上に倒さないでください。

  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■背もたれを前に倒すときは

- ●走行中にリヤシートを操作しない
- ●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- ●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- ●倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- ●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとに戻したあとは

- ●シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する
- ●シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

⚠ 注意

■背もたれを前に倒すときは

背もたれを倒す前に、必ずシートベルトとバックルを格納してください。

シート、またはバックルが破損するおそれがあります。

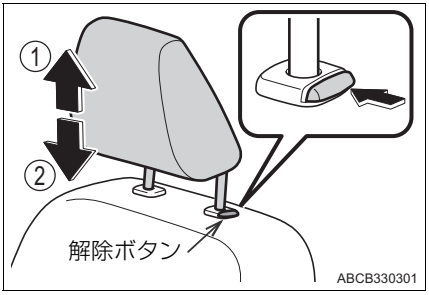
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

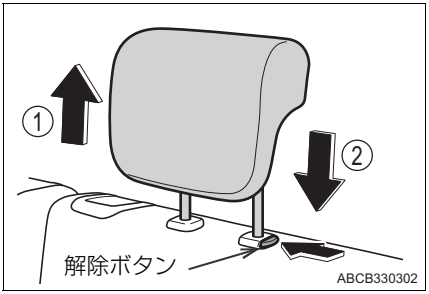


リヤシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

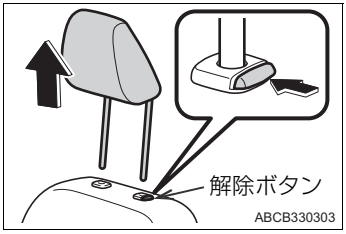


知識

■ヘッドレストを取り外すとき

解除ボタンを押しながら取り外します。

フロントシートのヘッドレストが天井に当たって外すことができないときは、背もたれを倒してください。(→ P. 168)



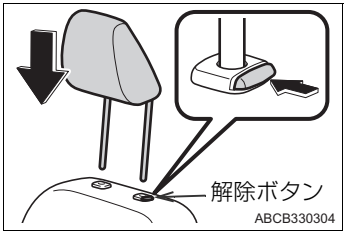
知識

■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。※

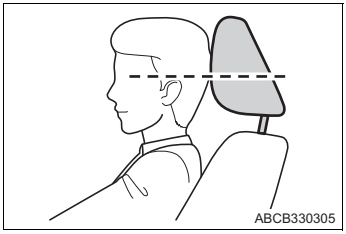
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

※ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■フロントシートヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤシートヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

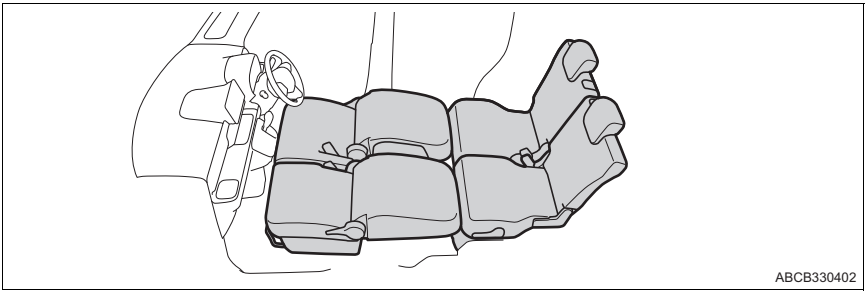
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを前後逆に取り付けない
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストを外したまま走行しない

シートアレンジ

◆ ロングソファモード



ロングソファモードにするには

1 お車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
2 リヤシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 172）
3 置きラクボックス装着車は、左右の置きラクボックスを格納する（→ P. 414）
4 リヤシートをいちばん後ろまでスライドする
5 リヤシートの背もたれをいちばん後ろに倒す
6 フロントシートのヘッドレストを取り外す（→ P. 172）
7 フロントシートをいちばん前までスライドする
8 フロントシートの背もたれをいちばん後ろに倒す
9 フロントシートをいちばん後ろまでスライドする

⚠ 警告

■シートアレンジについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●必ず平坦な場所でシフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- ●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- ●必ず背もたれを手で押さえながらシートアレンジ操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- ●背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- ●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆすり確実に固定されていることを確認してください。
- ●シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認してください。
- ●シートを調整するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物を壊したりするおそれがあります。
- ●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- ●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。
- ●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

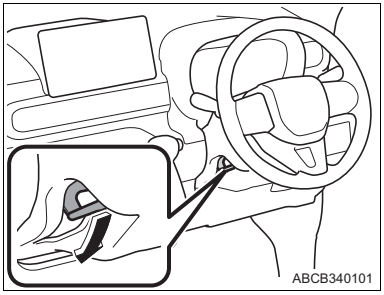
■ロングソファモードについて

- ●人を乗せて走行しないでください。体が固定されていないため、急ブレーキや事故の際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●シートの上を動き回ったりしないでください。
- ●シートの上を移動するときは、足を踏み外すおそれがあり危険です。シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

ハンドル

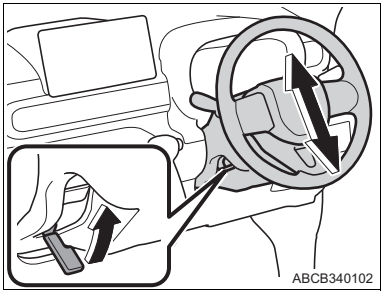
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



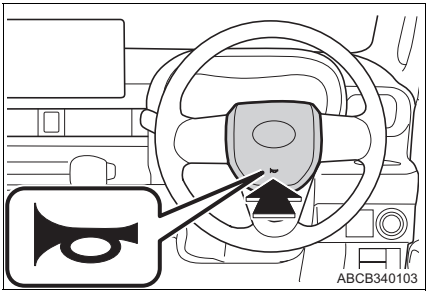
2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 176）

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

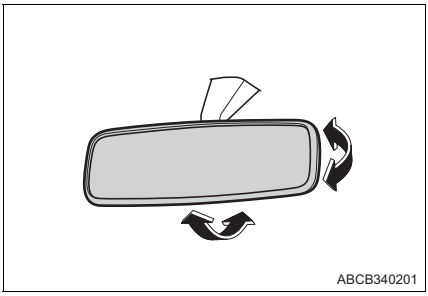
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの角度を調整することができます。

調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの角度を調整することができます。

インナーミラー本体を持って調整する



⚠ 警告

■走行中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

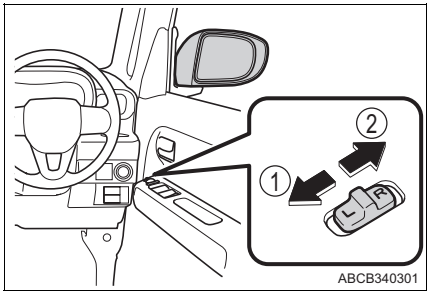
調整のしかた

スイッチで鏡面の角度調整をします。

1 調整するミラーを選ぶ

① 左

② 右



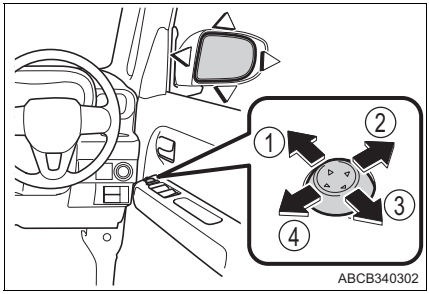
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左



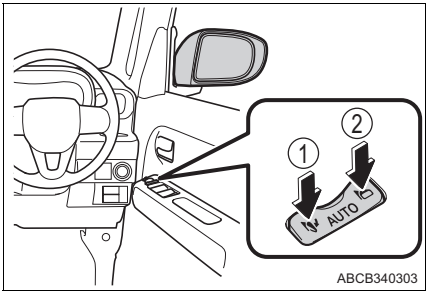
ドアミラーを格納する

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

スイッチを押す

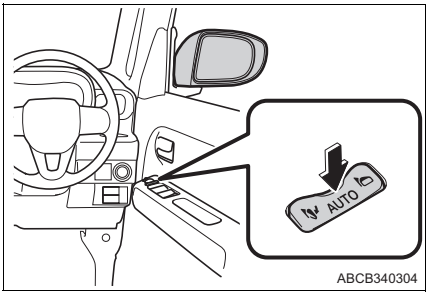
① 格納する

② 復帰する



■ オート作動

スイッチを中立の位置（AUTO）にするとワイヤレス機能、またはキーフリーシステムによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納・復帰します。



知識

■作動条件
エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）
リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 396）

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき
寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■オート作動での格納（または復帰）をさせたくないとき
スイッチを復帰（または格納）の位置にしてください。

■カスタマイズ機能
オート作動の作動内容などを変更できます。
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

警告

■走行中の留意事項
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず運転席側および助手席側のミラーをもとの位置に戻して、正しく調整する

■ミラーが動いているとき
手を触れないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）
鏡面が熱くなるので触れないでください。

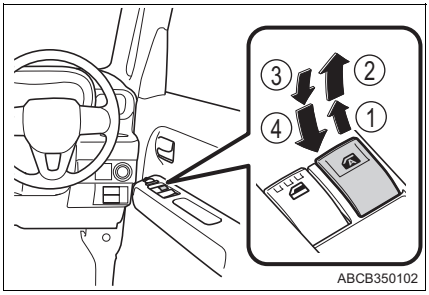
パワーウインドウ

開閉のしかた

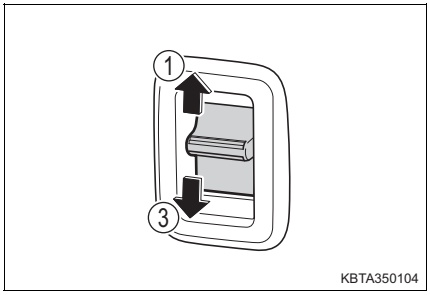
スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

▶運転席／助手席



▶後席



① 閉める

② 自動全閉（運転席のみ）※

③ 開ける

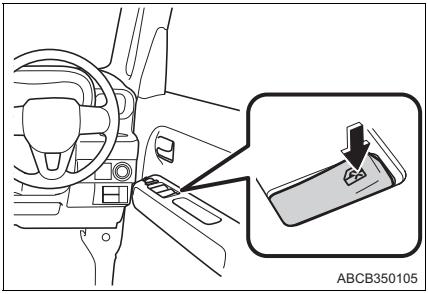
④ 自動全開（運転席のみ）※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ軽く操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■エンジン停止後の作動（運転席のみ）

エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしたあとでも、約 40 秒間はドアガラスを開閉できます。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、少し開き、作動が停止します。

■パワーウインドウモーターの過熱保護機能について

パワーウインドウモーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワーウインドウモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワーウインドウが停止することがあります。数十秒経過すると、通常通り使用できるようになります。

■運転席ドアガラスを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ドアウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

1 お車を停止し、エンジンスイッチを“ON”にする

2 運転席ドアウインドウスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉にしたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ バッテリーを再接続したときは

パワーウインドウを適切に作動させるために、初期設定を次の手順で行ってください。

1 エンジンスイッチを“ON”にする

2 運転席ドアウインドウスイッチを下に長押しし、全開にする

3 運転席ドアウインドウスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉したあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、2 からやり直しとなります。

⚠ 警告

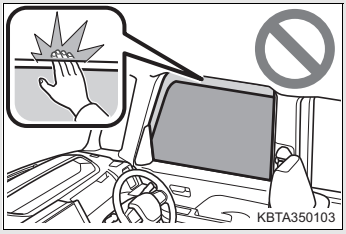
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 183)

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●お車から離れるときはエンジンスイッチを“OFF”にし、キーを携帯してお子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

●特に小さなものを挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

⚠ 注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。

■パワーウインドウの故障を防ぐために

●運転席ドアウインドウスイッチと他のスイッチを同時に逆方向へ操作しない

●ドアガラスを完全に開閉した状態でウインドウスイッチを操作し続けない

●ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドウスイッチを操作し続けない

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中は、必要以上にパワーウインドウの開閉を行わないでください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって …… 188
荷物を積むときの注意 …… 198

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ …… 199
CVT 車の運転 …… 204
方向指示レバー …… 207
パーキングブレーキ …… 209
電動パーキングブレーキ … 210
オートブレーキホールド機能 …… 215

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ …… 219
AHB（オートハイビーム） …… 224
ADB（アダプティブドライビングビーム）…… 228
フォグランプスイッチ …… 233
ワイパー & ウォッシャー（フロント） …… 234
ワイパー & ウォッシャー（リヤ） …… 236

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 …… 238

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト …… 242
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）…… 259
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）… 270
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能 … 280
ふらつき警報 …… 288
先行車発進お知らせ機能 … 291
標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）…… 293
全車速追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）…… 297
LKC（レーンキープコントロール）…… 314
アイドリングストップシステム（eco IDLE）… 322
コーナーセンサー …… 332
バックカメラ …… 339
パノラマモニター …… 343
スマートパノラマパーキングアシスト …… 350
プラスサポート（販売店オプション） …… 375
運転を補助する装置 …… 381

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 …… 388

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 199

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする（→ P. 204）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 209, 210）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーをPまたはNにします。（→ P. 204）

駐車する

1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏み、お車を完全に停止させる

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけて（→ P. 209, 210）、シフトレバーをPにする（→ P. 204）

電動パーキングブレーキ装着車：パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPにしたときに、自動でパーキングブレーキがかかります。（→ P. 211）
パーキングブレーキ表示灯（→ P. 210）が点灯していることを確認してください。

3 エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止する

4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

上り坂の発進のしかた

▶電動パーキングブレーキ非装着車

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 お車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

▶電動パーキングブレーキ装着車

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

オートリリース機能（→ P. 212）により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキが解除されます。

3 お車が動き出す感触を確認したら発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルホールドシステムが作動します。（→ P. 381）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がより滑りやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■エンジン出力の抑制制御について（ブレーキオーバーライドシステム）

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告灯が点灯します。（→ P. 508）

知識

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告メッセージが表示されます。（→ P. 520）

■急発進の抑制および後退速度の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような場合、ドライブスタートコントロールが作動します。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき（D は S・B ポジションを含む）のような通常と異なる操作が行われると、エンジンの出力を抑制することがあります。
この場合、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車は警告灯が点灯し、（→ P. 508）TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は警告メッセージが表示されます。（→ P. 521）

・後退時の速度が所定以下になるようにエンジンの出力を抑制※ します。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 382）させることにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

●ドライブスタートコントロール警告灯（→ P. 508）が点滅（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）、「DSC 故障」の警告メッセージ（→ P. 520）が表示（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車）しているときは、ドライブスタートコントロールが作動しません。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂部品（バンパー、バックドアなど）に取り付けることはできません。

■エンジン停止前のアイドリング運転について（ターボ車）※

ターボ装置の損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、停車後、1 分程度アイドリング運転を行ってからエンジンを停止してください。

※ eco IDLE によってエンジン停止したときは、アイドリング運転は不要です。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

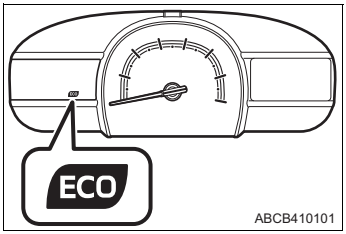
●高速走行直後に急減速や急停止をする

知識

■環境に配慮した運転

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。
必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。
次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。



- ●シフトレバーが D 以外のとき
- ●車速が約 110km/h 以上のとき

エコドライブインジケーターランプの表示／非表示を設定できます。
(→ P. 80)

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車
→ P. 88

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。(ブレーキ保持による停車時を除く) クリープ現象でお車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- ●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
  - ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
  - ・お車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
  - ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近にお車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 494を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用して速度を下げてください。フットブレーキを連続して使い過ぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 204）

●路面状態や速度に応じて、次のようにシフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
・シフトレバーをSにする
・より強いエンジンブレーキが必要な場合はシフトレバーをBにする

●急激なエンジンブレーキ（シフトレバー操作）は避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部をお車から出さないようにしてください。

●オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また、フルタイム 4WD 車はオンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。

●河を渡るなどの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員に当たったり、荷物を破損したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

■滑りやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、お車が横滑りするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いている間は、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進している間は、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退している間は、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限度を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。

シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●お車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ライターやスプレー缶からガスが漏れたり、出火する
- プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●お車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっている間は、お車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

⚠ 警告

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、速度を下げてください。急ブレーキをかけるとハンドルを取られ、事故につながるおそれがあり危険です。

●ハンドルが取られる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 539 を参照してください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

脱出できないときは、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

⚠ 注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、お車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

⚠ 注意

■ ターボ装置の故障を防ぐために（ターボ車）

- ●高速走行・登坂走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ず 1 分程度アイドリング運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。（eco IDLE によってエンジン停止したときは、アイドリング運転は不要です）（→ P. 322）
- ●排気管などには指定以外の部品を使わないでください。
- ●排気管の改造は絶対にしないでください。
- ●エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- ●定期的なオイル交換を必ず行ってください。（→ P. 564）

■ 冠水路を運転するとき

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- ●エンストする
- ●電装品がショートする
- ●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずダイハツサービス工場で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- ●プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

- 運転席足元
- 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
- インストルメントパネル
- ダッシュボード
- ふたのない小物入れ／トレイ

●室内に積んだ荷物はすべてしっかり安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真後ろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。

乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子カードキーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチモードを切り替えることができます。

エンジンのかけ方

1 正しい運転姿勢（→ P. 24）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

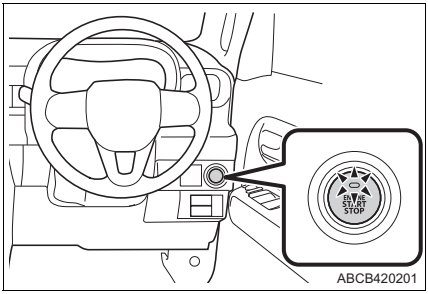
2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む

エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



ABCB420201

5 エンジンスイッチを短く確実に押す

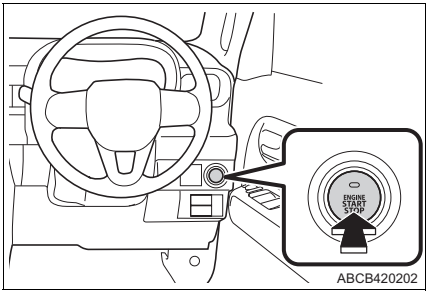
短く確実に押せば、長押しする必要はありません。

エンジンが始動するまで最大30秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモード（→ P. 200）からでもエンジンを始動できます。

プラスサポートをご使用の方は、P. 375 も併せて参照してください。



ABCB420202

エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

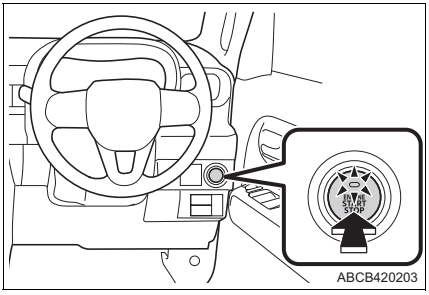
2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 209, 210）、シフトレバーを P にする

3 エンジンスイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離して、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります）



“OFF”※

非常点滅灯が使用できます。

“ACC”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

“ON”

すべての電装品が使用できます。

エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーが P 以外のときは “ACC” になり、“OFF” になりません。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチモードは “OFF” になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P にする

3 エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを 2 回押す

4 エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上 “ON”（エンジンがかかっていない状態）か 1 時間以上 “ACC” にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で “OFF” になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを “ACC”、または “ON” にしたまま長時間放置しないでください。

■電子カードキーの電池の消耗について

→ P. 131

■キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 128

■ご留意いただきたいこと

→ P. 129

■エンジンが始動しないとき

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 60）

ダイハツサービス工場へご連絡ください。

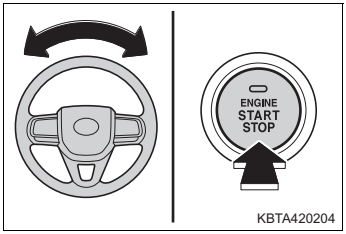
■ハンドルロックについて

- エンジンスイッチを “OFF” にしたあとにいずれかのドアを開閉（バックドアを開いたときを除く）すると、ハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。
- 車両のバッテリーがあがっている場合はハンドルロックが作動しません。

知識

■ハンドルロックが解除できないときは

エンジンスイッチの表示灯がしばらく緑色に速く点滅します。



シフトレバーが P にあることを確認して、ハンドルを左右に回しながら再操作してください。

■ハンドルロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10秒程度でもとの状態に戻ります。

■エンジンスイッチの表示灯が黄色に点灯または点滅したとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■電子カードキーの電池が切れたときは

→ P. 469

■エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合や速く連続して押した場合は、モードの切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ“OFF”後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ“OFF”後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でキーフリーシステムを非作動にしたときは

→ P. 553

⚠ 警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ハンドルロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 3 秒以上長押しするか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 494)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチに触れないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを “ACC” または “ON” にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンスイッチの表示灯が消灯していない場合エンジンスイッチが “OFF” になっていません。エンジンスイッチを “OFF” にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチが “ACC” となるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■エンジンを始動するとき

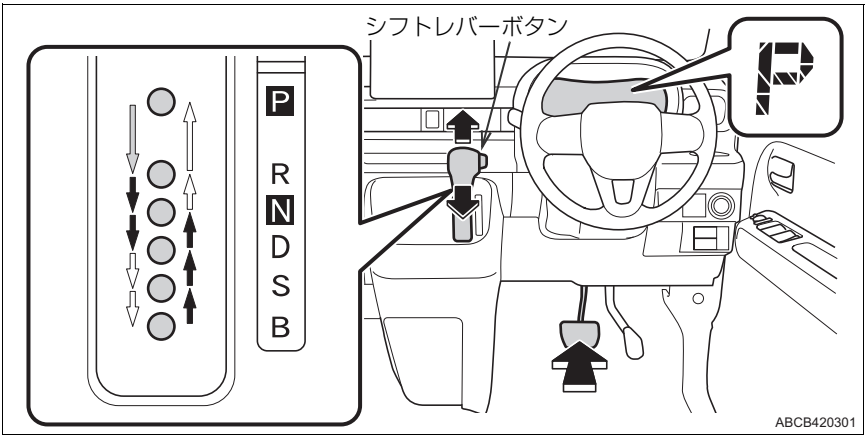
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場にご連絡ください。

CVT 車の運転

シフトレバーの動かし方



⇐：エンジンスイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。

⇦：シフトレバーボタンを押して操作します。

⬅：シフトレバーボタンを押さずに操作します。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

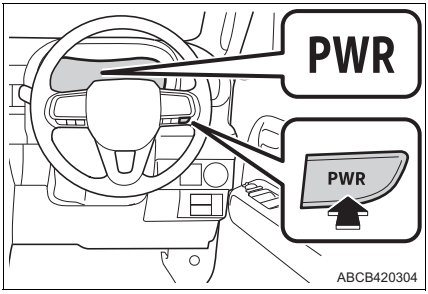
走行モードの選択★

D assist 切替ステアリングスイッチを押す

パワーモードに切り替わり、パワーモードインジケーターが点灯します。

シフトレバーが D・S のときに軽快な走行をすることができます。

再度スイッチを押すと通常走行モードへ戻ります。



知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが“ON”でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

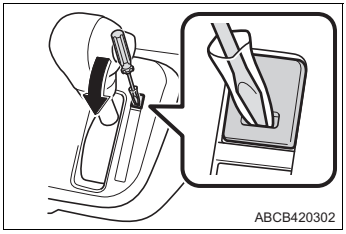
1 パーキングブレーキをかける

2 エンジンスイッチを“OFF”にする

3 ブレーキペダルを踏む

4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取り外す

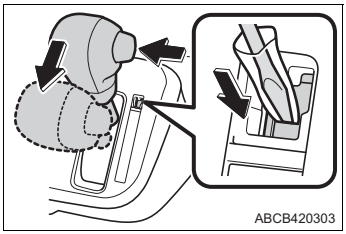
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

5 シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押している間は、レバーをシフトできます。



■パワーモード★について

●次のいずれかの場合、パワーモードの制御は行われません。
- シフトレバーが R・B のとき
- 全車速追従機能付 ACC★（→ P. 297）が作動しているとき

●D assist 切替ステアリングスイッチを “ON” にしても、一度エンジンスイッチを “OFF” にしてから “ON” にすることによって、D assist 切替ステアリングスイッチは自動的に “OFF” に戻ります。

●エンジン警告灯、CVT 警告灯★が点灯・点滅しているときは、パワーモードに切り替わりません。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

⚠ 警告

■滑りやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横滑りやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、お車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバーを操作したあと、すぐにもとの位置に戻ります。

① 左折

② 左側へ車線変更（レバーを途中で保持※）

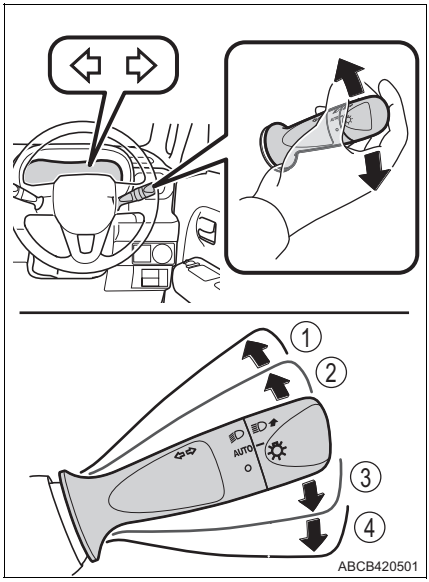
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更（レバーを途中で保持※）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折

※ ② または ③ の位置にレバー操作し、すぐに離したときは方向指示灯が 3 回点滅します。



■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の ② または ③ の位置に操作してください。レバーを ① または ④ の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■**作動条件**

エンジンスイッチが“ON”のとき

■**表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

■**カスタマイズ機能**

方向指示灯の設定を変更できます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

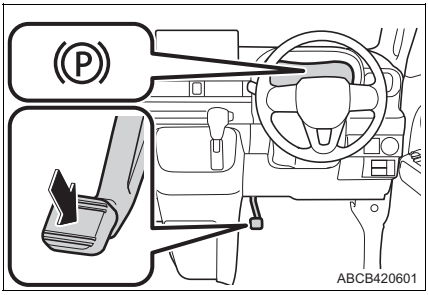
（一部機能はマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）

（一部機能は TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

パーキングブレーキ★

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む(再度踏み込むと解除される)



知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 389

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 72

⚠ 注意

■走行前の注意
パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電動パーキングブレーキ★

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモード作動中は、パーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモード作動中でも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

パーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける（スイッチを引く）

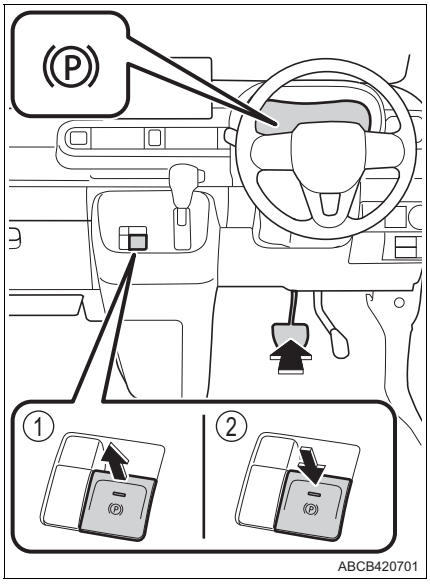
パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けることで車両を停止させることができます。

② パーキングブレーキを解除する（スイッチを押す）

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながら操作してください。
- オートリリース機能（→ P. 212）により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときは、ゆっくり踏んでください。

パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **オートモード**

シフトレバーをP以外からPにしたとき、自動でパーキングブレーキをかけることができます。

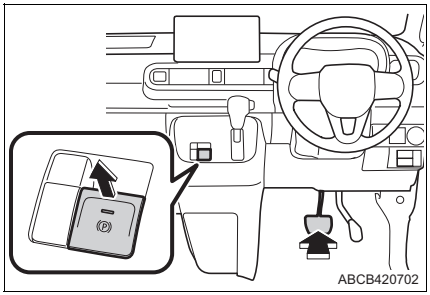
パーキングブレーキがかかると、パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が点灯します。

パーキングブレーキの解除方法は、マニュアルモード（→ P. 210）を参照してください。

▶オートモードをONにする

停車中にパーキングブレーキがかかった状態でブレーキペダルを踏みながら、ブザーが“ピッ”と鳴るまでパーキングブレーキスイッチを引き続ける

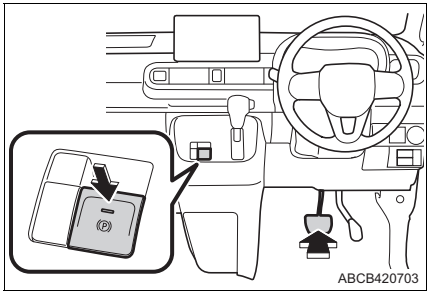
ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



▶オートモードをOFFにする

停車中にパーキングブレーキが解除された状態でブレーキペダルを踏みながら、ブザーが“ピピッ”と鳴るまでパーキングブレーキスイッチを押し続ける

ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■パーキングブレーキの作動について

●エンジンスイッチモードによらず、パーキングブレーキをかけることができます。

●パーキングブレーキが作動（かける・解除する）するとき、ブレーキペダルが動くことがあります。これはパーキングブレーキの作動によるもので異常ではありません。

■パーキングブレーキの解除について

●エンジンスイッチが“ON”以外では、パーキングブレーキを解除できません。

●ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押すと、ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキを踏みながらスイッチを操作してください」と表示されます。

■オートモードの作動について

●エンジンスイッチが“ON”以外では、オートモードによる作動はできません。

●シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

●シフトレバーを素早く、またはゆっくり操作すると、オートモードが作動しない場合があります。その場合、手動でパーキングブレーキを操作してください。（→ P. 210）

■オートリリース機能について

次の条件をすべて満たしてアクセルペダルを踏むと、パーキングブレーキが解除されます。

●運転席のドアが閉まっている

●運転席シートベルトを着用している

●シフトレバーが P・N 以外の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除されない場合は、手動で解除してください。

■パーキングブレーキ表示灯が点滅したとき

●パーキングブレーキ表示灯が点滅したときは、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても点滅が続く場合は、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

●短時間にパーキングブレーキの作動を繰り返すと、システム過熱防止のためにパーキングブレーキの作動を制限することがあります。一時的に操作を控えてください。1 分程度でもとの状態に戻ります。

知識

■パーキングブレーキの作動音について

●パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●緊急時にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、エンジンルーム付近から音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●急勾配の坂に停車している状態でパーキングブレーキを作動させた場合、パーキングブレーキ作動灯が点灯してから数分後に作動音（パーキングブレーキ作動）がすることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
“ON”：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
“ON”以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを“OFF”にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

パーキングブレーキスイッチが故障し、パーキングブレーキが解除できない場合はオートリリース機能（→ P. 212）により解除してください。

■駐車するとき

→ P. 188

■パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーについて

パーキングブレーキが解除されないまま走行すると、警告ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 522）

■ブレーキ警告灯（黄色）が点灯したとき

→ P. 505

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 389

■バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキを作動（かける・解除する）させることはできません。（→ P. 555）

⚠ 警告

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。お車が動きだしたり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。(→ P. 188)

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、パーキングブレーキの思わぬ作動につながるおそれがあります。

■走行時のパーキングブレーキ使用について

緊急時以外は走行中にパーキングブレーキを使用しないでください。

■走行前の留意事項

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■故障などでパーキングブレーキが作動しないとき

システム異常により電動パーキングブレーキが作動しない場合は、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

オートブレーキホールド機能★

ブレーキペダルを踏んで停車した際、ブレーキペダルから足を離しても、ブレーキを保持するシステムです。

保持中にアクセルペダルを踏むと、ブレーキは解除されます。

システムを作動させるには

1 スイッチを押して、オートブレーキホールド機能を ON にする

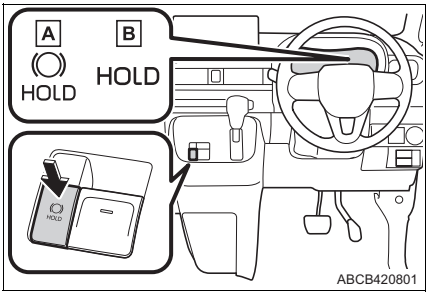
オートブレーキホールドスタンバイ表示灯 A が点灯します。

2 シフトレバーがP·R以外でブレーキペダルを踏んで車両を停止させる

ブレーキがしっかり踏み込まれているとブレーキ保持を開始します。ブレーキ保持中はオートブレーキホールド作動表示灯 B が点灯します。

次の場合にブレーキ保持は解除されます。

- シフトレバーを P にする
- シフトレバーが R でブレーキペダルを踏む



知識

■システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと、オートブレーキホールド機能を ON にできます。

●運転席ドアが閉まっている

●運転席シートベルトを着用している

エンジンスイッチが “ON” でオートブレーキホールド機能が ON のときに上記条件を満たさなくなると、一時的に機能が OFF になり、オートブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は自動的にパーキングブレーキがかかります。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

再度条件をすべて満たすと、機能が ON に復帰し、オートブレーキホールドスタンバイ表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

オートブレーキホールド機能が ON の状態でエンジンスイッチを “OFF” にしても、機能が ON の状態を記憶しています。再度エンジンを始動して条件をすべて満たすと、オートブレーキホールド機能は ON になり、オートブレーキホールドスタンバイ表示灯が点灯します。

■ブレーキ保持について

- ブレーキ保持が終了する前には、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブレーキ操作を促します。運転者がブレーキペダルを踏んでブレーキをかけてください。
- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかり、制動灯が消灯します。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- ブレーキ保持中にパーキングブレーキスイッチを引くとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ保持は解除されます。
- ブレーキ保持中にブレーキペダルを素早く踏むと、ブレーキ保持は解除されます。
- 急勾配の坂でブレーキ保持できない場合、TFT　カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブレーキ操作を促します。運転者がブレーキペダルを踏んでブレーキをかけてください。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、再度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの方法でパーキングブレーキを解除してください。

- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作する

  操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→ P. 511）
- 運転席ドアを閉め、運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

知識

■ダイハツサービス工場で点検が必要なとき

オートブレーキホールド機能の作動条件を満たしているときに、オートブレーキホールドスイッチを押してもオートブレーキホールドスタンバイ表示灯が点灯しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■オートブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■警告メッセージについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意を促します。警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキペダルを踏まずにスイッチを操作したときは

オートブレーキホールド作動表示灯が点灯しているときに、ブレーキペダルを踏まずにスイッチを操作すると、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作してください。

■オートブレーキホールド機能の作動音

オートブレーキホールド作動中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を高めるために作動音が発生する場合があります。

■オートブレーキホールド機能について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルを踏むと重く感じることがありますが、異常ではありません。
- アイドリングストップの作動条件を満たしているときは、アイドリングストップも作動します。
- 停車時にブレーキペダルをしっかり踏み込まないと、システムが作動しないことがあります。
- カメラ／パーキングアシストスイッチ★を約 2 秒以上長押しして、スマートパノラマパーキングアシスト★を起動すると、オートブレーキホールド機能が OFF になります。（→ P. 354）

■システムを OFF にするには

オートブレーキホールドスイッチを押すとオートブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯し、オートブレーキホールド機能が OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■急坂路では

急な坂道ではオートブレーキホールド機能を使用しないでください。オートブレーキホールド機能が作動しない、または作動しても停車を維持できずに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■滑りやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。滑りやすい路面での使用は控えてください。

■安全にお使いいただくために

●オートブレーキホールド機能を過信しないでください。オートブレーキホールド機能は停車時のブレーキ操作を補助する機能です。ブレーキ操作を怠ると不意にお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の交通状況に応じて適切にブレーキ操作を行ってください。

●オートブレーキホールド作動表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。お車が停止状態を保持できず、動き出すおそれがあります。

■駐車するとき

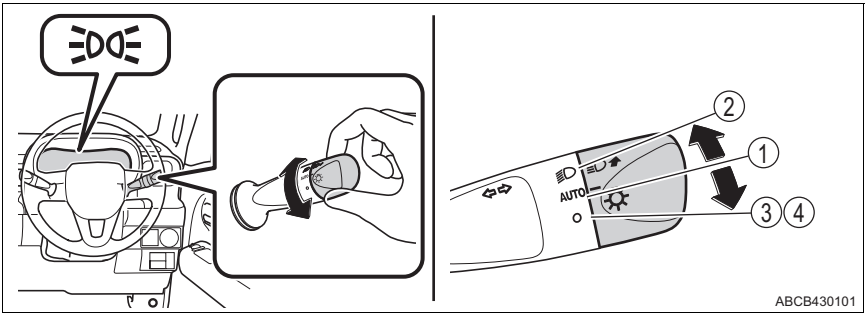
オートブレーキホールド機能は長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されてお車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

エンジンスイッチが“ON”のとき、次のように ☼ スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



スイッチ位置		点灯・消灯するランプ	
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯
①	**AUTO**	自動点灯・消灯	
②	≡D	点灯※1	
③※2、3	○	消灯	点灯
④※2、4		消灯	

※1 エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときも点灯します。

※2 ☼ スイッチを ○ の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。

※3 車速が約 3km/h 以下で自動点灯しているとき

※4 車速が約 3km/h 以下で ☼ スイッチを約 1 秒以上操作したとき

■ ランプ類の再点灯について

☼ スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

●車速が約 3km/h を超えたとき

●再度 ☼ スイッチを ○ の位置に操作したとき

●エンジンスイッチを再度“ON”にしたとき

●車速が約 3km/h 以下(停車時を除く)の状態のまま約 30 秒経過したとき

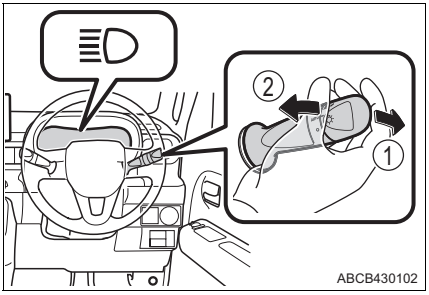
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へ戻すとロービームに戻ります。

② レバーを引いている間、ハイビームを点灯

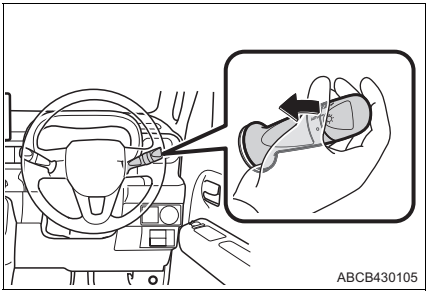
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームに戻る、または消灯します。



ヘッドランプ点灯延長機能

エンジンスイッチが“OFF”の状態で、ヘッドランプを約 30 秒間点灯させることができます。

エンジンスイッチを“OFF”にしたあと、ランプスイッチが **AUTO** の位置で、レバーを手前に引いて離します。



約 30 秒間経過する前に次の操作をすると、ヘッドランプが消灯します。

●エンジンスイッチを“ON”にしたとき※1

●ランプスイッチを操作したとき※2

●ランプスイッチを再度手前に引いて離したとき

※1 周囲が暗いときは、点灯したままになる場合があります。

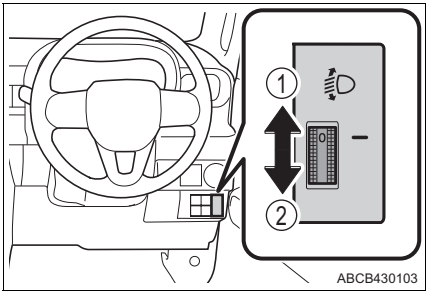
※2 ランプスイッチを 𝌆 に操作したときは、点灯したままになります。

手動光軸調整ダイヤル★

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

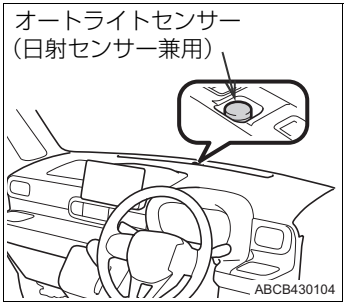
乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	3

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ライトセンサー

●次のことをお守りください。
お守りいただかないと自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。
- センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らない
- ガラスクリーナーなどを吹きかけない



■オートレベリングシステム★

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによるお車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ランプ消し忘れ防止機能

●ランプ類が点灯している状態で、エンジンスイッチを“ON”から“ACC”または“OFF”にすると、点灯していたランプ類が自動で消灯します。

●再度ランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、再度 ≡D の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”の状態で、ヘッドランプ・尾灯を点灯して運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。(ヘッドランプ点灯延長機能による点灯時は除く)

●TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、ブザーとともに警告メッセージが表示されます。(→ P. 526)

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”の状態で、ヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後にすべてのランプが自動消灯します。

自動消灯したあと、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

●エンジンスイッチを“ON”にしたとき

●ランプスイッチを操作したとき(ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します)

●いずれかのドアを開閉したとき(ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します)

■カスタマイズ機能

ヘッドランプ点灯延長機能の設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧:→ P. 570)

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。また、お車から離れるときは、必ずランプ類を消灯してください。

AHB（オートハイビーム）★

AHB は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

AHBを過信しないでください。AHBは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

■AHB を正しく作動させるために

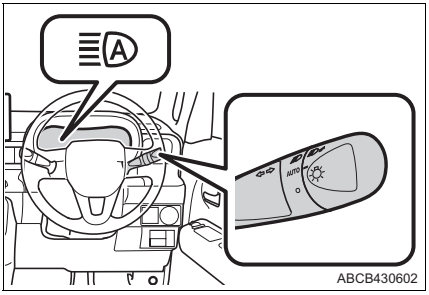
- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

AHB の使い方

次の条件をすべて満たしているとき、AHB が作動し、AHB作動灯が点灯します。

- エンジンスイッチが “ON” のとき
- ランプスイッチが **AUTO** で、ロービームが点灯しているとき

  周囲が明るいときは、ヘッドランプが点灯しないことがあります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイビームとロービームの自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

●車速が約 30km/h 以上

●車両前方が暗い

●対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない

●前方の街灯が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

●車速が約 20km/h 以下

●車両前方が明るい

●対向車または先行車がランプを点灯している

●前方の街灯が明るい

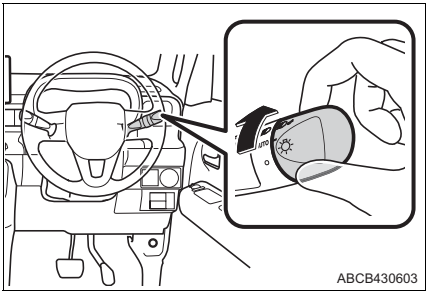
手動切り替えのしかた

■ ロービームへの切り替え

ランプスイッチを ≣D にする

AHB 作動灯が消灯します。

AHBに戻すには、ランプスイッチを **AUTO** に戻します。

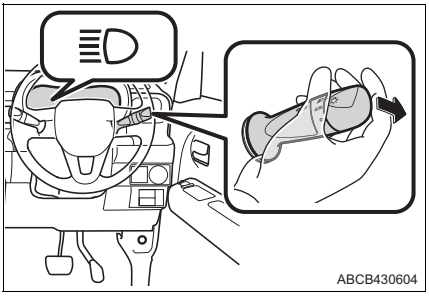


■ ハイビームへの切り替え

レバーを前方へ押す

AHB 作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

AHB に戻すには、レバーをもとの位置に戻します。



知識

■AHB について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切り替わる場合があります

●街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えのタイミングが変化する場合があります。
- 対向車または先行車のランプの明るさ
- 対向車または先行車の動きや向き
- 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
- 対向車または先行車が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

●AHB は車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や対向車または先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
- フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ステレオカメラの温度が高いとき
- ステレオカメラが変形しているときや汚れているとき
- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき

知識

- 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ヘッドランプの破損や汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ハイビームとロービームを頻繁に切り替えているとき
- ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- 著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

■AHB 警告灯が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ADB（アダプティブドライビングビーム）★

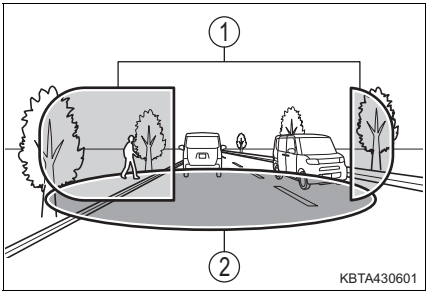
ADB は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

●対向車または先行車の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

対向車または先行車へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

① ハイビームで照らす範囲

② ロービームで照らす範囲



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

ADBを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

■ADB を正しく作動させるために

●荷物を積み過ぎないでください。

●車両を改造しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

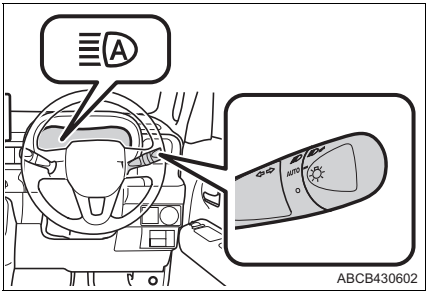
ADB の使い方

次の条件をすべて満たしているとき、ADB が作動し、ADB 作動灯が点灯します。

●エンジンスイッチが“ON”のとき

●ランプスイッチが **AUTO** で、ロービームが点灯しているとき

周囲が明るいときは、ヘッドランプが点灯しないことがあります。



ヘッドランプ照射範囲の自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

●車速が約 30km/h 以上

●車両前方が暗い

●対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない

●前方の街灯が暗い

次の条件をすべて満たすと、対向車または先行車の位置に応じて遮光ハイビームに切り替わります。

●車速が約 30km/h 以上

●前方にランプを点灯した車両がある

●車両前方が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームに切り替わります。

●車速が約 20km/h 以下

●車両前方が明るい

●対向車または先行車の台数が多い

●前方の街灯が明るい

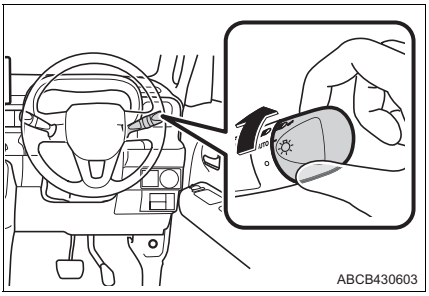
手動切り替えのしかた

■ ロービームへの切り替え

ランプスイッチを 🅓 にする

ADB 作動灯が消灯します。

ADB　に戻すには、ランプスイッチを **AUTO** に戻します。

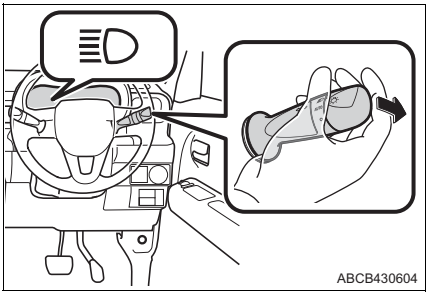


■ ハイビームへの切り替え

レバーを前方へ押す

ADB 作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

ADB に戻すには、レバーをもとの位置に戻します。



サイドビューランプ

ADB 作動灯点灯時は夜間走行や夜間駐車時に優れた視認性を確保するため、ロービームが追加点灯し車両進行方向を照射します。

ただし、車速約 90km/h 以上になるとサイドビューランプが消灯します。消灯後、車速約 80km/h 以下になるとサイドビューランプが再点灯します。

次のいずれかのとき消灯します。

- ロービームを消灯したとき
- ランプスイッチを **AUTO** 以外にしたとき

知識

■ADB について

●次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切り替わらない場合があります。
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合があります。

●街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合や、切り替わらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度や、ロービームへの切り替えのタイミングが変化する場合があります。
- 対向車または先行車のランプの明るさ
- 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 対向車または先行車の動きや向き
- 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
- 対向車または先行車が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●遮光ハイビームに切り替わってもハイビーム表示灯は点灯したままです。

知識

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や対向車または先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
- フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
- フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ステレオカメラの温度が高いとき
- ステレオカメラが変形しているときや汚れているとき
- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ヘッドランプの破損や汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ハイビームとロービームを頻繁に切り替えているとき
- ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- 著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

■**ADB 警告灯が点灯、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプ光軸異常」、または「ヘッドランプシステム故障」の警告メッセージが表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

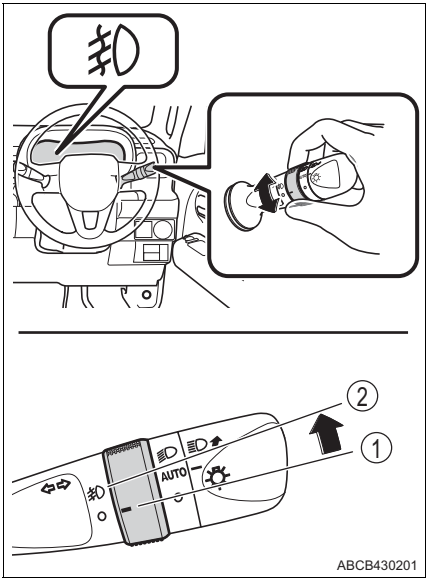
フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

次のようにフォグランプスイッチを操作すると、フォグランプが点灯・消灯します。

① ○ ：消灯する

② ：点灯する



知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間が変わります。

① O ：停止

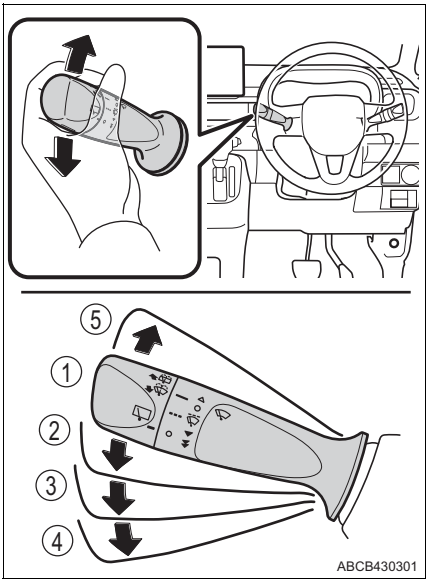
② ：間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ ：低速作動

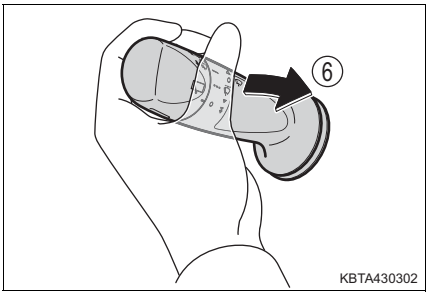
④ ▼▼ ：高速作動

⑤ △ ：一時作動



⑥ ：ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件
エンジンスイッチが“ON”のとき

■ウォッシャー液が出ないとき
ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■カスタマイズ機能
車速感応機能の設定を変更することができます。
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）
（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）
（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

⚠ 警告

■ウォッシャー使用時の警告
寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき
ノズルがつまったときはダイハツサービス工場へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために
エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動させないでください。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

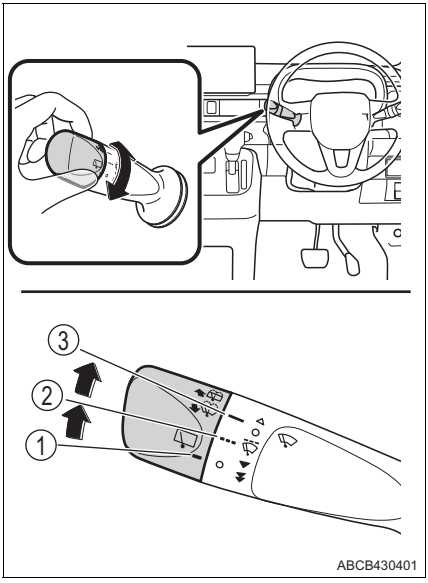
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

① O ：停止

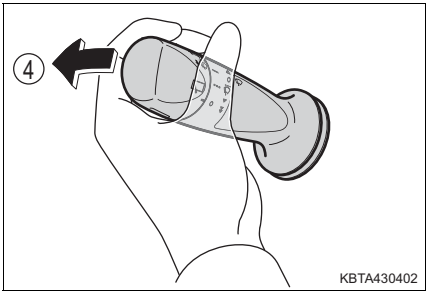
② ---：約4秒間低速作動したあと、間欠作動

③ ——：通常作動



④ ：ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件
エンジンスイッチが“ON”のとき

■ウォッシャー液が出ないとき
ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■リバース連動機能
フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R にするとリヤワイパーが数回作動します。フロントワイパーが停止後、約 10 秒以内にシフトレバーを R にしたときも、数回作動します。

■カスタマイズ機能
作動の間隔などの設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

（一部機能はマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）

（一部機能は TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

⚠ 注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき
ノズルがつまったときはダイハツサービス工場へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために
エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動させないでください。

給油口の開け方

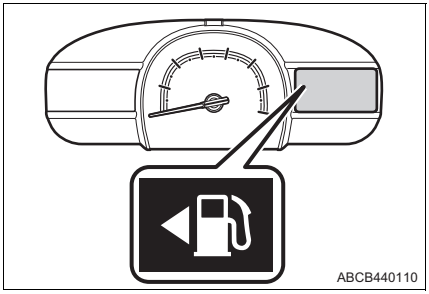
給油する前に

●ドアとドアガラスを閉めて、エンジンスイッチを“OFF”にしてください。

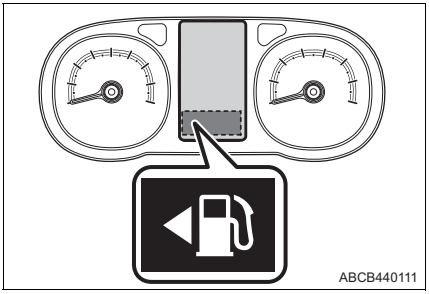
●燃料の種類を確認してください。

●メーター内に給油口の車両取り付け方向を示しています。

▶TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車



▶TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車



知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリンまたは無鉛プレミアムガソリン

■助手席側スライドドアが全開にならない状況

給油扉が開いていると、助手席側スライドドアは途中までしか開きません。(→ P. 149)

⚠ 警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分に触れて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内に戻ったり、他の人やものに触れないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

⚠ 警告

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が吹き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●携帯電話などを使用しないでください。

●吹きこぼれを防ぐため次の点に注意してください。
・ 給油口にノズルを確実に挿入する
・ 継ぎ足し給油をしない

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■**給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジンの出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

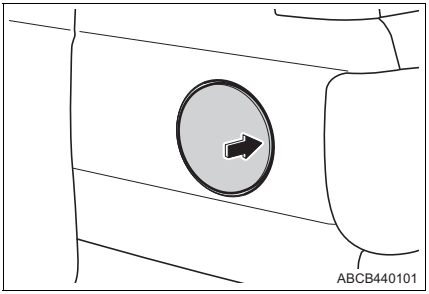
●塗装が損傷する

給油口の開け方

1 運転席ドアが解錠された状態で、給油扉の右端を押す

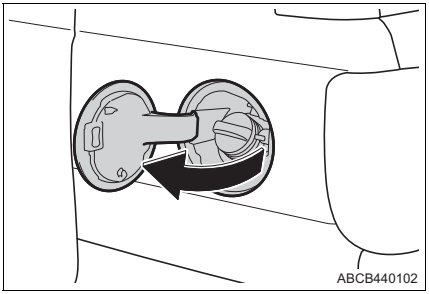
給油扉が開きます。

給油扉の施錠・解錠は、運転席ドアの施錠・解錠と連動しています。

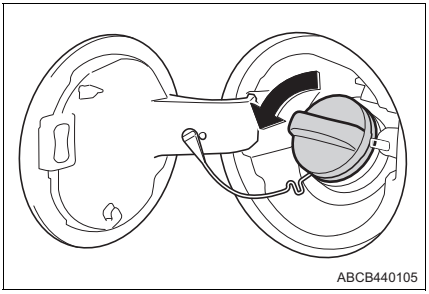


2 給油扉を止まる位置まで開ける

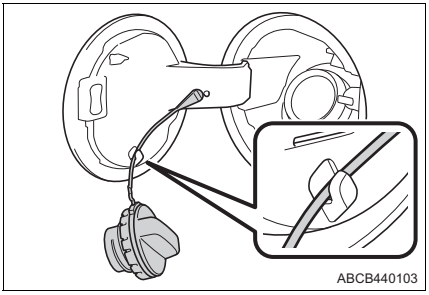
給油扉が戻らないことを確認する。



3 キャップをゆっくり回して開ける



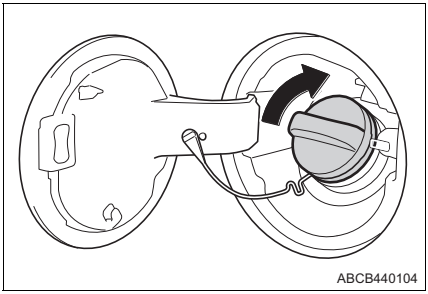
4 キャップをハンガーにかける



給油口の閉め方

1 キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し戻ります。



2 給油扉を確実に閉める

知識

■給油扉の施錠について

運転席ドアを施錠したあとに給油扉を閉めたときは、給油扉は施錠されません。

■給油扉が開かなくなったら

ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずダイハツサービス工場へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

助手席側スライドドアが全開、または給油扉付近まで開いているときに、給油扉を開けないでください。助手席側スライドドア、または給油扉が損傷するおそれがあります。

スマートアシスト

スマートアシストは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→ P. 259

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→ P. 259

◆ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

→ P. 270

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 280

◆ 車線逸脱抑制制御機能

→ P. 280

◆ 路側逸脱警報機能

→ P. 280

◆ ふらつき警報

→ P. 288

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 291

◆ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★

→ P. 293

◆ 全車速追従機能付 ACC★

→ P. 297

◆ LKC★

→ P. 314

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ AHB★

→ P. 224

◆ ADB★

→ P. 228

⚠ 警告

■スマートアシストについて

●スマートアシストは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

●次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストの機能を停止してください。(→ P. 246)

- タイヤの空気圧が適正でないとき
- スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
- 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
- サスペンションを改造したとき
- ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
- ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 車両を改造・架装したとき
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンを始動してタイヤを空転させたいとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両データの記録について

スマートアシストには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

●アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

●ハンドルおよびシフトレバーの操作状況

●車速などの車両情報

●スマートアシストの各機能の作動状況

●先行車や障害物との距離、相対速度などの情報

●ステレオカメラの画像情報（2 次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

■ データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

●お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

●警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

●ダイハツが訴訟で使用する場合

●統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

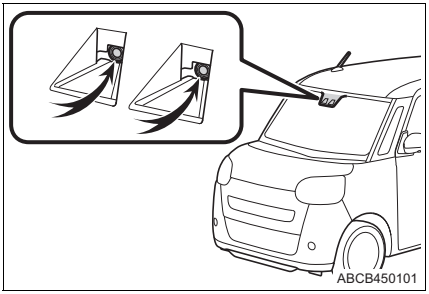
【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で必要な情報を認識します。

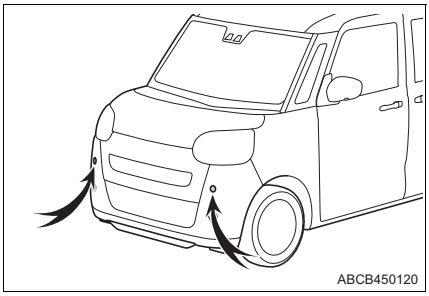


- ●衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- ●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）
- ●車線逸脱警報機能
- ●車線逸脱抑制制御機能
- ●路側逸脱警報機能
- ●ふらつき警報
- ●先行車発進お知らせ機能
- ●標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★
- ●全車速追従機能付 ACC★
- ●LKC★
- ●AHB★
- ●ADB★

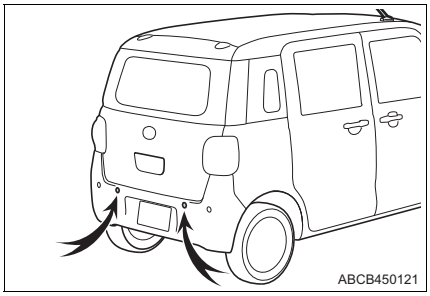
ソナー

ソナーは、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）で必要な情報を認識します。

▶フロントソナー



▶リヤソナー



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートアシストの機能を停止するには

スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストの機能を停止することができます。

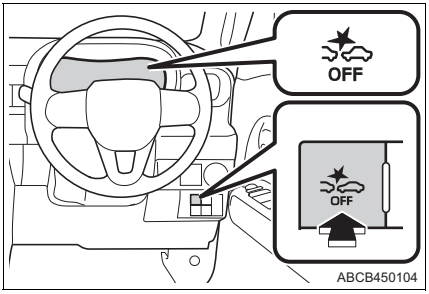
また、マルチインフォメーションディスプレイの設定★または TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定★を変更することにより、スマートアシストの一部の機能を停止することができます。
(→ P. 79, 107)

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能・標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止)★・全車速追従機能付 ACC★を停止するとき

停車時にスマートアシスト OFF スイッチを 2 秒以上長押しする

“ピピッ”とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

再度 2 秒以上長押しすると、“ピピッ”とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。

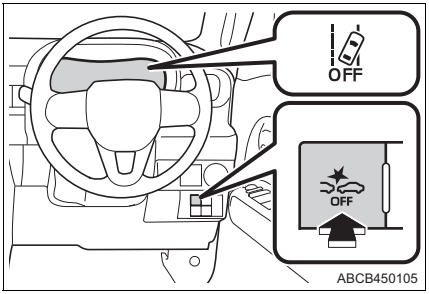


■ 車線逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報・LKC★を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

再度押すと、“ピピッ”とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ステレオカメラについて

●ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。

●ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

■スマートアシストが作動しない場合

次のいずれかの場合、スマートアシストの機能は作動しません。

●エンジン始動直後

●スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき

●スマートアシスト OFF 表示灯が点灯または点滅しているとき

●「スマアシ故障」が表示されているとき（システム異常）

●「スマアシ停止」が表示されているとき※（機能停止）

※「スマアシ停止」が表示されていても、一部の機能は作動します。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■スマートアシストの機能停止について

次のようなときは、状況によってはスマートアシストの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。（→ P. 534）

状況が改善されれば再度機能は作動します。

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）

●お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合

●エンジン始動直後

●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき

●街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合

●ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき

●重い荷物を積んでいるとき

●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき

●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

知識

■スマートアシストの自動復帰について

スマートアシスト OFF スイッチを押して次の機能を停止した場合でも、一度エンジンスイッチを “OFF” にしてから “ON” にすることによって、自動的に作動可能状態に戻ります。

- ●衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- ●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）
- ●先行車発進お知らせ機能
- ●標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★
- ●全車速追従機能付 ACC★

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC★について

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC の作動可能状態または停止状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

■スマートアシストの作動状態について

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストの作動状態をお知らせします。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピピピピピッ”	 （点滅）		衝突警報機能が作動
“ピピピピピ” と鳴り続ける	 （点滅） 		衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ、または 2 次ブレーキが作動

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピピッ”と鳴り続ける	（点滅）		衝突回避支援ブレーキ機能の２次ブレーキが作動したあと、車両が停止 運転者の操作でブザーとディスプレイの表示が終了します。
“ピピピピピピッ”	（点滅）		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動
“ピピピピピ”と鳴り続ける	（点滅） ⚠		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動するとともにエンジンの出力を抑制
“ピピピピピ”と鳴り続ける	（点滅） ⚠		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピピッ”	（点滅）		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動

知識

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 （点滅） 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動するとともにエンジンの出力を抑制
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 （点滅） 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピッピピピピッ”	 （点滅）		車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動
－	 （点灯）	※2  （点滅）	車線逸脱抑制制御機能が作動

知識

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピピピピッ”	 （点灯）	 ※2  （点滅）	手放し運転をしているとシステムが判断しているとき、車線逸脱抑制制御機能が約 3 分の間に 2 回以上作動し、手放し注意が行われた
“ピピピピピ” と鳴り続ける	 （点灯）	 ※2  （点滅）	手放し注意が行われている状態から、さらに車線逸脱抑制制御機能が作動し、手放し運転警告が行われた
“ピピッピピッ”	 （点灯）		ふらつき警報が作動

知識

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピピッ”	（点滅）		先行車発進お知らせ機能が作動
－		－	AHB★が作動
－		－	ADB★が作動
－※3	－		標識認識機能★が作動
－	SET		全車速追従機能付ACC★が車間制御モードで作動
－	SET		全車速追従機能付ACC★が定速制御モードで作動
“ピッ”	－	※4 	全車速追従機能付ACC★作動時、先行車を認識した、または認識しなくなった

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピピピピ”と鳴り続ける	−	 （点滅）	全車速追従機能付ACC★の接近警報が作動
−	−		全車速追従機能付ACC★の停車保持が作動
“ピッ”	OFF （点滅）	 （点滅）	全車速追従機能付ACC★の設定条件を満たさずに−SETスイッチ、または＋RESスイッチを押したとき
“ピッピッ”と鳴り続ける	OFF （点滅）	 （点滅）	全車速追従機能付ACC★の停車保持が自動的に解除

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピッ”	OFF（点滅）	  （点滅）	作動条件を満たさなくなり、全車速追従機能付 ACC★が解除された
“ピピッ”	OFF（点滅）	  （点滅）	先行車を認識しなくなり、全車速追従機能付 ACC★が解除された
－		－	LKC★が作動
－			LKC★作動時、手放し運転をしているとシステムが判断し、手放し注意が行われた

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピッ”と鳴り続ける			LKC★作動時、手放し注意が行われている状態から、さらにハンドルを操作しない状態が続き、手放し運転警告が行われた
“ピピピピピ”と鳴り続ける	−	−	LKC★作動時、手放し運転警告が行われている状態から、さらにハンドルを操作しない状態が続き、LKC★が解除された

※1 TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車

※2 全車速追従機能付 ACC 装着車

※3 標識認識機能（進入禁止）が作動したとき、ブザーが鳴るようにすることができます。（→ P. 107）

※4 先行車を認識したときは先行車表示灯が点灯し、認識しなくなったときは消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ステレオカメラ前面のフロントウインドウガラスは常にきれいにしてください。

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにダイハツが指定したガラスコーティング剤以外は使用しないでください。フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

●フロントウインドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。

●フロントウインドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 396）

●フロントウインドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。（→ P. 464）

・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らないでください。

●事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はダイハツサービス工場にご相談ください。

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。

フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

●ダイハツ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しないでください。

●ステレオカメラに液体をかけないでください。

⚠ 警告

- ●ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ●ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ●ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ●ステレオカメラを分解しないでください。
- ●ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けないでください。
- ●インナーミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- ●インストルメントパネル上部にものを置かないでください。フロントウインドウガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- ●インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドウガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けないでください。
- ●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ●ダイハツ純正品以外のインナーミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

⚠ 警告

■ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ソナーは常にきれいにしてください。

・雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。
・お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、ただちにふき取ってください。

●ソナーにワックスや撥水剤などをぬらないでください。

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。

●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

●ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。

●ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。

●ソナー、およびその周辺部分にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。

●バンパー部分に腰かけたり、寄りかかったりしないでください。

●バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■汚れ検知機能について

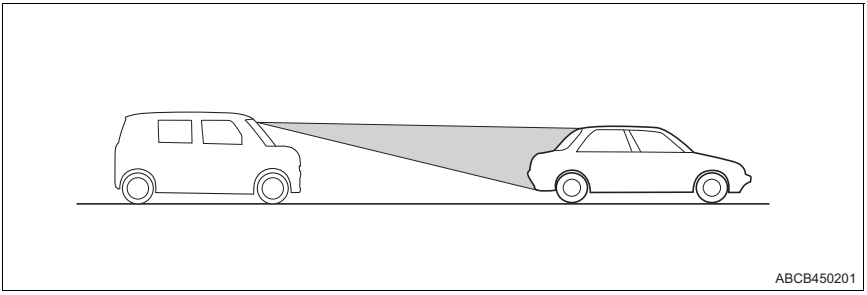
●ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
汚れを検知した場合は、スマートアシストの機能が自動的に停止します。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両※1、歩行者※2 を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

※1 二輪車、自転車を含む

※2 昼間、夜間対応



◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 248）で注意を促します。

状況によっては、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 248）で注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、ブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作の代わりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果は様々な条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 268
- 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 261, 268

●安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について

●衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両※ や歩行者に作動します。電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。

●緊急ブレーキが作動したとき、アクセル操作をしても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルを全開に踏み込むと衝突回避支援ブレーキを解除します。

●運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない場合があります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、前方車両※ との速度差が約 120km/h（対歩行者の場合は速度差が約 60km/h）を超える場合は作動しません。

●シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 26）

※ 二輪車、自転車を含む

⚠ 警告

■衝突回避支援ブレーキについて

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- ●前方車両※ や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- ●車両の状態（積載量・乗員など）
- ●路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- ●前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- ●運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- ●エンジン始動直後
- ●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- ●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
  - ・ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
  - ・フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
  - ・フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
  - ・フロントウインドウウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
  - ・フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
  - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - ・ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
  - ・雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
  - ・ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
  - ・ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき

⚠ 警告

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両※、歩行者に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているとき
- 強い光が車両※ や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路など、凹凸やわだちのある道路のとき
- 前方車両※ や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両※ や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方車両※、歩行者に接近したとき
- 前方車両※ の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状･大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 自車が車線変更を行い、前方車両※ のすぐ後ろに接近したとき
- 前方車両※ が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車、タンデム自転車など）
- 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに走行や停止しているとき
- 二輪車や自転車が斜め、または横向きに走行しているとき
- 歩行者、二輪車や自転車の運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコートなどを着用しているとき）
- 対向車※ やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両※ の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車両※ が傾いているとき

⚠ 警告

- 二輪車、自転車の運転者や歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- 二輪車、自転車の運転者や歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
- 二輪車、自転車の運転者や歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢を取っているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- 身長の低い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者、夜間の黒服歩行者など）

●タイヤ径が小さい二輪車※ や全長が長い二輪車※ のとき

●歩行者や二輪車、自転車の移動速度が速いとき

●二輪車、自転車に運転者が乗車していないとき

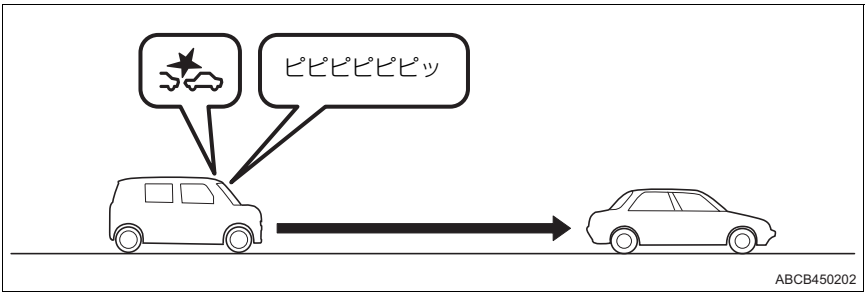
※ 二輪車、自転車を含む

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

1 ～ 4 の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

- システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意を促します。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

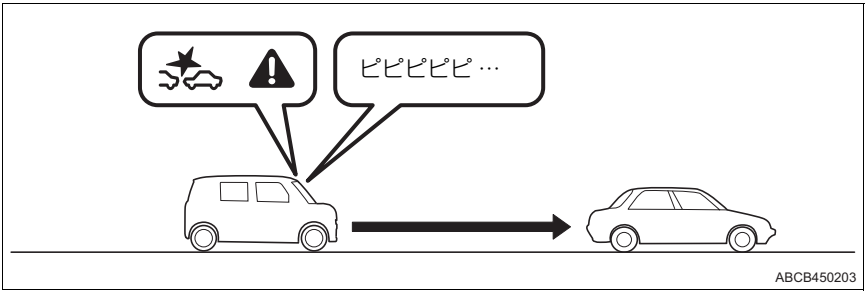
1 衝突警報



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 248）で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

※ 二輪車、自転車を含む

2 1 次ブレーキ

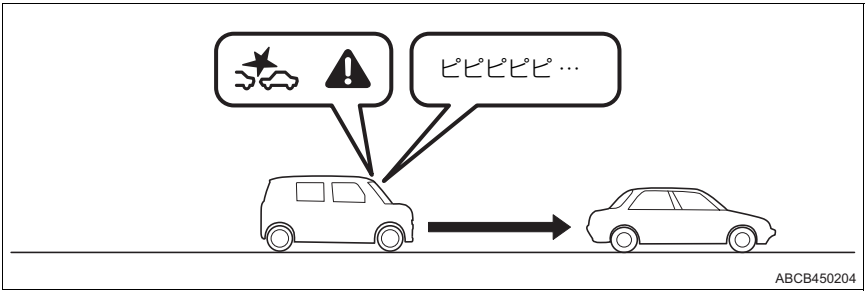


前方車両※・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- 前方車両※・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を取った場合は、ブレーキ制御を行いません。
- 運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル・ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

※ 二輪車、自転車を含む

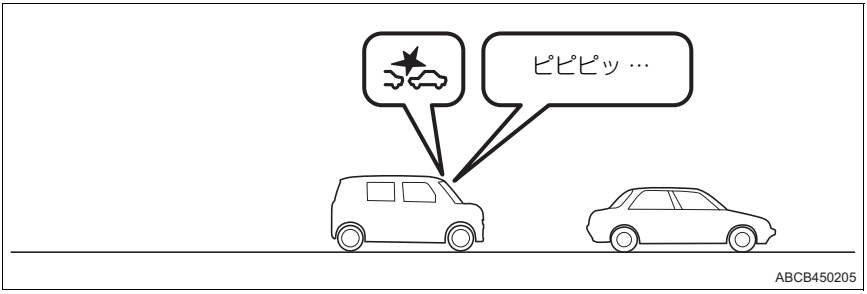
3 2 次ブレーキ



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1 次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

※ 二輪車、自転車を含む

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。

停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

知識

■ステレオカメラについて

ステレオカメラは歩行者や二輪車・自転車の運転者を認識します。認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストの作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジンスイッチが“ON”のとき
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ停止」が表示されていないとき
- ●「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ●シフトレバーが P・R 以外のとき
- ●次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

機能	対象	作動車速、速度差※1
衝突警報機能	対車両※2	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※3	約 4 ～ 60km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両※2	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※3	約 4 ～ 60km/h
被害軽減ブレーキアシスト※4	対車両※2	約 30 ～ 120km/h
	対歩行者※3	約 30 ～ 60km/h

※1 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

※2 二輪車、自転車を含む

※3 昼間、夜間対応

※4 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

知識

■衝突回避支援ブレーキについて

●状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。

●衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。

●衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

■衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

●狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき

●前方車両※ に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両※ の寸前まで接近して停止するとき

●停止車両※ などの横を至近距離で通過するときや対向車両※ が自車に向かって接近するとき

●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

●水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき

●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき

●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき

●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

●ステレオカメラの光軸がずれているとき

●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき

●路面上に大きなペイントなどがある場合

●カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき

●カーブですれ違う対向車両※ があるとき

●駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき

●下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき

●バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合

●複数台の前方車両※ などが重なって見えるような場合

●上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき

●縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき

知識

- ●先行車両の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- ●水たまり、ぬれた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- ●外部から光の差し込みがあるとき
- ●車両※と車両※、車両※と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- ●進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさのものが並んでいるとき
- ●すれ違う歩行者、先行車両※ の二車線変更など、二つのものが交差して入れ替わるとき
- ●ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- ●複雑な形状の車両※のとき
- ●横断歩行者が自車正面に差しかかる前に立ち止まったとき
- ●風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

※ 二輪車、自転車を含む

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を停止するには

→ P. 246

■カスタマイズ機能

衝突警報機能の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

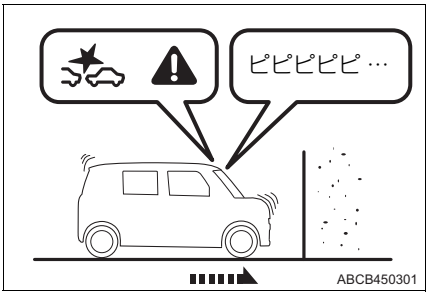
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

ブレーキ制御付誤発進抑制機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、ブザーとメーター、ディスプレイの表示（→ P. 248）による運転者への警報とエンジンの出力の抑制制御に加え、ブレーキ制御を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

◆ 前方

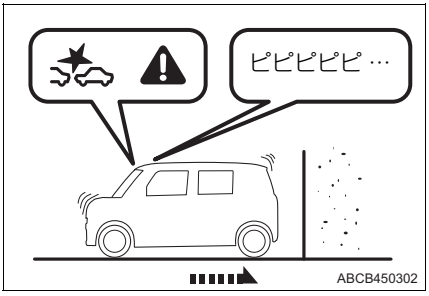
次の場合に作動します。

- ステレオカメラが前方約 4m 以内に障害物を認識している場合
- フロントソナーが前方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合



◆ 後方

リヤソナーが後方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



⚠ 警告

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能について

- ブレーキ制御付誤発進抑制機能を過信しないでください。ブレーキ制御付誤発進抑制機能はあらゆる状況で衝突を回避、または衝突被害を軽減するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で作動するものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節をブレーキ制御付誤発進抑制機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていなくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、あわてずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストを停止してください。(→ P. 246)
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
- TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏み直すと、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- ブレーキ制御が作動すると、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は一定時間作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、ブレーキ制御が作動したときに危険な場合があります。(→ P. 26)

⚠ 警告

■ **ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が適切に作動しないおそれのある状況**

次の条件の違いにより、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- ●前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- ●車両の状態（積載量・乗員など）
- ●路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- ●運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- ●車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スペアタイヤ装着など）
- ●車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- ●エンジン始動直後
- ●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- ●前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- ●勾配が急な坂道を走行しているとき
- ●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- ●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - ・前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - ・フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
  - ・ステレオカメラの温度が極端に高いとき
  - ・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
  - ・屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
  - ・ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
  - ・雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、障害物の認識が不完全になったとき
  - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき

⚠ 警告

- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 前方車両などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
- 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
- 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- ステレオカメラの認識範囲外に障害物が存在するとき
- 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
- しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
- 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
- 障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近し過ぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
- 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
- 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に前方に現れたもの
- 車両前方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
- 動いているもの
- スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
- 障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき

⚠ 警告

- 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
- 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しない場合

次のような障害物に対しては、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）は作動しません。

●背の低い障害物

●小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物

●針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物

●急に後方に現れたもの

●車両後方を横切るもの

●人や綿、雪など音波を反射しにくいもの

●地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁

●凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁

●ソナーの認識範囲外に存在する障害物

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が適切に作動しないおそれのある状況

次のような場合は、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

●運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）

●路面の状態（勾配・凹凸など）

●車両の状態（積載・乗員など）

●悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）

●エンジン始動直後

●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合

⚠ 警告

●後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）

●勾配が急な坂道を走行しているとき

●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき

●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき

●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
- 動いているもの
- スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
- 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
- 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
- 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ブレーキ制御について

ブレーキ制御作動時は、強いブレーキがかかります。ブレーキ制御は車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動

■ 警報

車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 248）で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

●後方で作動したとき、ブザーはリバース警告ブザーよりも早い間隔で鳴ります。（→ P. 248）

■ エンジン出力の抑制制御

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルがすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 248）で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

●エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約8秒間継続します。

●エンジン出力の抑制制御中は、メーター内のマスターウォーニングが点灯します。

■ ブレーキ制御

エンジン出力の抑制制御が行われてもそのままアクセルペダルを踏み続け、障害物との衝突が避けられないとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 248）で運転者に警報するとともに、ブレーキ制御を行います。

●ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。

●停止後、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

知識

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジン回転中
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ●ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ●車速が 0 ～約 10km/h のとき
- ●方向指示表示灯が消灯しているとき
- ●メーター内の VSC OFF 表示灯・TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●前方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
  - ・シフトレバーが D・S・B のとき
  - ・機能停止コード「5E」※1、「6E」、「11E」※2、「12E」、「14E」が表示されていないとき
- ●後方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
  - ・シフトレバーが R のとき
  - ・機能停止コード「12E」、「14E」、「15E」、「16E」が表示されていないとき
- ●フロントワイパーを“高速”で作動させていないとき※3

※1 機能停止コード「5E」のみが表示されているときは、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

※2 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

※3 フロントワイパーを“高速”で作動させていても、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

■ブレーキ制御について

- ●ブレーキ制御中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- ●ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

■衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動することがあります。

- ●前方車両に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき

知識

- ●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ●水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- ●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ●停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車両が自車に向かって接近するとき
- ●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- ●路面上に大きなペイントや段差、縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- ●カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- ●カーブですれ違う対向車両があるとき
- ●カーブや交差点に障害物があるとき
- ●縦列駐車から本線に合流するとき
- ●駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- ●キャリアカーに積載するとき
- ●河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- ●縦列駐車をするとき
- ●前方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- ●車両側面の近くに障害物があるとき
- ●狭いスペースに進入するとき
- ●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ●悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- ●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ●ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ●車両姿勢が大きく傾いたとき
- ●積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- ●衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- ●雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- ●排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

知識

■衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動することがあります。

- ●障害物の寸前まで接近して停止するとき
- ●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ●ビニールカーテン・旗などをもぐって通過するとき
- ●水しぶき・雪などの巻上げがあったとき
- ●障害物の横を至近距離で通過するとき
- ●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- ●縦列駐車をするとき
- ●後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- ●車両側面の近くに障害物があるとき
- ●路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- ●狭いスペースに進入するとき
- ●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ●悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- ●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ●ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ●車両姿勢が大きく傾いたとき
- ●積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- ●衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- ●雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- ●排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）を停止するには

→ P. 246

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず車線または道路※ から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに作動します。

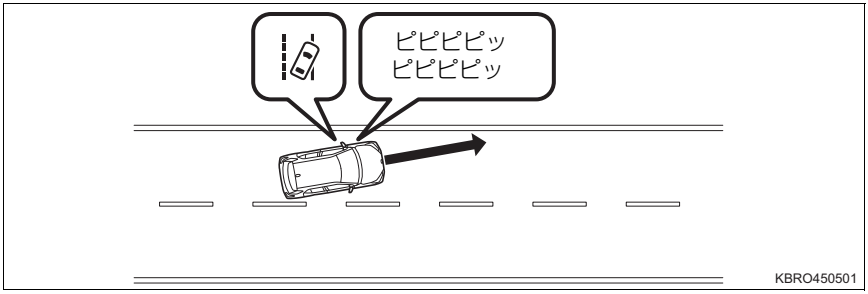
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は車線または道路※ を認識し、ブザーとメーター内の表示灯、またはディスプレイの表示（→ P. 248）で運転者に注意を促します。

車線逸脱抑制制御機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに作動します。

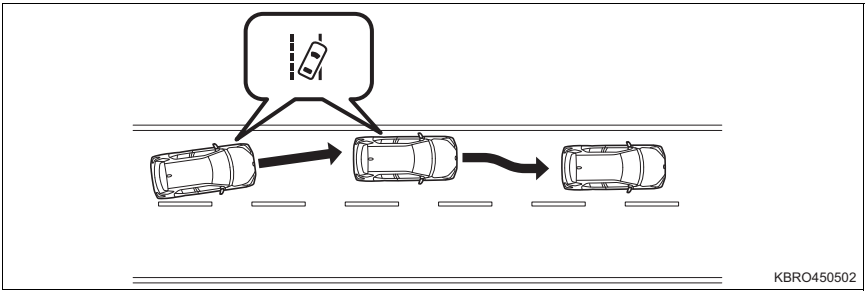
車線逸脱抑制制御機能は車線を認識し、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援し、メーター内の表示灯、またはディスプレイの表示（→ P. 248）で運転者に注意を促します。

※ アスファルトと草・土などの境界

▶車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能



▶車線逸脱抑制制御機能

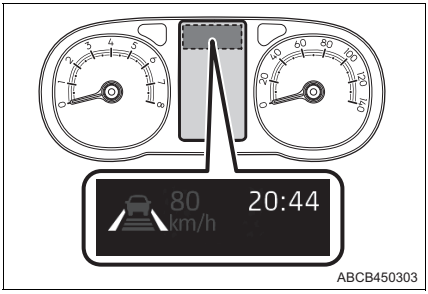


車線認識表示灯★

●車速約 50km/h 以上で左右の白（黄）線を認識しているとき点灯します。

●車線の逸脱を認識すると、認識している側の表示が点滅します。

●ミニ運転支援表示（→ P. 88）または基本画面（→ P. 93）で表示することができます。



⚠ 警告

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能について

●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能は、車線・道路※ の逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能に頼っていると、車線・道路※ の逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。

●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して作動する機能ではありません。

※ アスファルトと草・土などの境界

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

●車線または道路※ がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合があります。

●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土などの境界

■車線逸脱抑制制御機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制制御機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制制御機能が作動しなかったり、制御タイミングが運転者の意思と異なるように感じる可能性があります。

●車線逸脱抑制制御機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動しない場合

次のような条件では、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動しない場合があります。

●車線内を走行していないとき

●カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき

●車線／道路の幅が狭いときや広いとき

●方向指示レバーを使用しているとき

●急なハンドル操作などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき

●ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき

●ハンドルをダイハツ純正品以外に交換、またはハンドルにアクセサリーを取り付けているとき

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線または道路※ を正確に認識できず、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

●白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき

●路面に雪が残っていたり湿っているとき

●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき

⚠ 警告

●トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき

●雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき

●木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき

●夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき

●道路の状態（特に次のような場合）

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線／道路の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
- 坂道や丘の頂上に近付いているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石･ガードレール･パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
- 道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線や区画線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- カーブの形状が変化するとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、車線以外の線が路面に描かれているとき

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
- フロントウインドウウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
- ステレオカメラが高温になったとき

⚠ 警告

- ●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- ●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- ●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- ●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- ●アスファルトと草・土などの境界が不明瞭または直線的でないとき
- ●照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- ●横風を受けているとき
- ●周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- ●車線変更をした直後
- ●冬用タイヤなどを装着しているとき
- ●過度な高速走行をしているとき
- ●隣車線から車が割り込んできたとき
- ●路肩に縁石や側壁があるとき
- ●先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- ●白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- ●夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- ●区画線に急に接近する場合
- ●雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき

※ アスファルトと草・土などの境界

知識

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジンスイッチが“ON”のとき
- ●車速が約 60km/h 以上のとき
- ●車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ停止」が表示されていないとき
- ●「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ●方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- ●急なハンドル操作をしていないとき
- ●直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ●システムが左右いずれかの白（黄）線または道路※ を認識しているとき
- ●走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき

※ アスファルトと草・土などの境界

■車線逸脱抑制制御機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジンスイッチが“ON”のとき
- ●車速が約 60km/h 以上のとき
- ●ABS、VSC、TRC が作動していないとき
- ●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動していないとき
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動していないとき
- ●車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ停止」が表示されていないとき
- ●「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ●逸脱側の方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 1 秒間は作動しません）
- ●マルチインフォメーションディスプレイの設定★（→ P. 79）、または TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定★（→ P. 107）で「車線逸脱抑制」を ON にしているとき
- ●ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ●一定以上の加減速がないとき
- ●シフトレバーが D のとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●急なハンドル操作をしていないとき

●直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき

●システムが左右の白（黄）線を認識しているとき

●走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 285）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザーが聞き取りにくい場合があります。

■車線逸脱抑制制御機能について

●車線逸脱抑制制御機能は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能にくらべて早いタイミングで作動します。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時にくらべて早いタイミングで作動します。

●車線逸脱抑制制御機能によるハンドル操作支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制制御機能が約 7 秒以上続けて作動したときは、ブザーが鳴ります。

■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断しているときに、車線逸脱抑制制御機能が約 3 分の間に 2 回以上作動したときは、手放し運転警告灯が点灯し、ハンドル保持を促す注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、メッセージが表示されます。

●さらに操作しない状態が続きハンドル操作支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操作支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

●運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能を停止するには

→ P. 246

知識

■カスタマイズ機能

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能の設定を変更することができます。

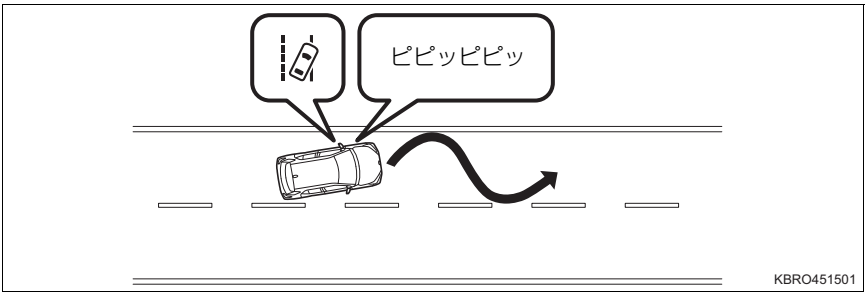
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

ふらつき警報

ふらつき警報は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって白（黄）線を認識し、長時間走行中、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の表示灯、またはディスプレイ表示（→ P. 248）で運転者に注意を促します。



⚠ 警告

■ふらつき警報について

- ふらつき警報を過信しないでください。ふらつき警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものでありません。また、運転者に注意を促す機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。走行中は常に安全運転に努めてください。
- ふらつき警報の作動テストを行わないでください。

知識

■ふらつき警報の作動条件

次のような条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- カスタマイズ機能の設定で「ふらつき警報」を ON にしているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- 方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 5 秒間は作動しません）
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき

知識

●走行している車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動していないとき

●LKC★が作動していないとき

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 288）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、再度作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ふらつき警報について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザーが聞き取りにくい場合があります。

●車線がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、ふらつき警報が作動しない場合があります。

●ふらつき警報は、運転者の操作と車両の動きから総合的にふらつきを判断しています。

■ふらつき警報が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、ふらつき警報が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

●白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき

●路面に雪が残っていたり湿っているとき

●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき

●トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき

●雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき

●木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき

●夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき

●道路の状態（特に次のような場合）

- 車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
- フロントウインドウウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき

●車線変更をした直後

●過度な高速走行をしているとき

●先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき

●白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき

●夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

■ふらつき警報を停止するには

→ P. 246

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

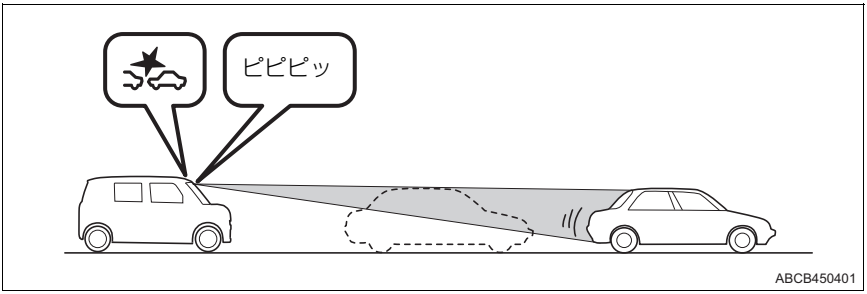
（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 248）で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。



⚠ 警告

■先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

■先行車発進お知らせ機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジンスイッチが“ON”のとき
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ停止」が表示されていないとき
- ●「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ●シフトレバーが D・S・B でブレーキペダルを踏んでいる、またはシフトレバーが N のとき
- ●シフトレバーが D・S・B・N でブレーキ保持により車両が停止しているとき
- ●停止してから数秒経過したとき

知識

■先行車発進お知らせ機能が正常に作動しない場合

次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。

- ●停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- ●停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- ●天候や道路形状などにより先行車を認識できないとき
- ●ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- ●横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- ●自車が停止したときに先行車が動いている場合
- ●先行車との距離が極端に短いとき
- ●先行車が急発進や急旋回した場合
- ●先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- ●先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- ●車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- ●荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- ●後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- ●車高の低い先行車のとき
- ●車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ●ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- ●凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

■先行車発進お知らせ機能を停止するには

→ P. 246

■カスタマイズ機能

ブザーの音量、ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

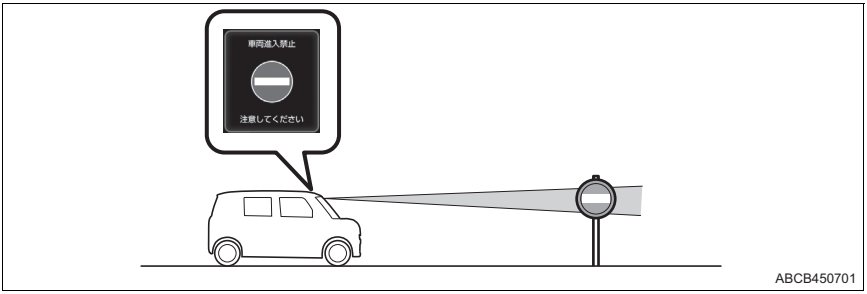
（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって特定の道路標識を認識し、ディスプレイ※ に表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。状況によっては、道路標識の表示が正常に作動しない場合があります。

※TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車は、スマホ連携ディスプレイオーディオまたは純正ナビゲーションの画面に表示されます。



⚠ 警告

■標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）をお使いになる前に

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者ご自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）に頼らず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

50：最高速度

：車両進入禁止

止まれ：一時停止

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■**標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動条件**

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

●エンジンスイッチが“ON”のとき

●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき

●次のいずれかの状態のとき

・TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイの設定(→ P. 107)で、「標識認識機能」を ON にしているとき

・スマホ連携ディスプレイオーディオ※ のシステム設定で「標識表示」を ON にしているとき（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

※ 詳しくはディスプレイオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

●「スマアシ停止」が表示されていないとき

●「スマアシ故障」が表示されていないとき

●車速が次のとき

・車両進入禁止、一時停止：約 60km/h 以下
・最高速度：0km/h 以上

●シフトレバーが D・S・B のとき

■**標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動終了**

次の状況になってから一定の時間が経過したときは、標識の表示が消えます。

▶最高速度

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折などにより走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●補助標識（終わり）を認識したとき

●シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき

▶車両進入禁止

●車両進入禁止標識を通過したとき

●シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき

●方向指示レバーを操作したとき

▶一時停止

●一時停止標識を通過したとき

●シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき

知識

■標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では標識を正確に認識できず、標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- ●最高速度標識の速度と車速が大きく離れているとき
- ●標識の手前で減速したときや、右左折前、右左折後
- ●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- ●認識対象の標識の色、形、数字に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）
- ●補助標識が設置されている場合
- ●電光標識に数字が表示されていない場合
- ●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- ●ステレオカメラが認識しにくい状況（特に次のような場合）
  - ・ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
  - ・ステレオカメラが標識を認識する時間が短いとき
  - ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面またはステレオカメラ付近が覆われているとき
  - ・フロントウインドウウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
  - ・ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
  - ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
  - ・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に標識に接近するとき
  - ・屋内の駐車場など暗い場所で標識に接近するとき
  - ・トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
  - ・前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - ・強い光が路面に反射しているとき
  - ・水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
  - ・排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
  - ・前方車両の後ろ部分にステッカーが貼ってあるとき
  - ・荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - ・周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）

知識

●標識の状態（特に次のような場合）
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 標識の向きが変わっているとき
- 標識が破損しているとき
- 標識のまわりが込み入って見つけにくいとき
- 標識が泥、雪、または霜などで覆われたとき
- 標識の上や下に、規制や条件などを示す補助標識が設置されているとき
- 標識が街灯などの光や建物の影などで見えにくくなっているとき
- 標識が高い位置にあるとき
- 標識が低い位置にあるとき
- 標識が急な上り坂、急な下り坂にあるとき
- 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
- 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
- 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
- 小さいサイズの標識のとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 電光標識が極端に明るい、または暗いとき
- 側道の標識がステレオカメラの認識範囲内に入ったとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●運転の状況（曲がる・車線変更など）が誤って判断されたとき

●ヘッドランプの汚れなどで照射が弱いときや光軸がずれているとき

■カスタマイズ機能

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

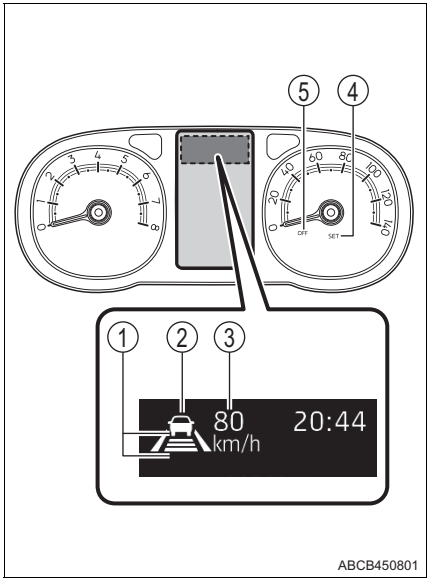
（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

全車速追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）★

全車速追従機能付 ACC は、アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。
定速制御モードでは、一定の車速で走行を行います。
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

システム構成部品

■ 運転支援表示



① 設定車間

設定された車間距離を表示します。

② 先行車表示灯

車間制御モード作動中に、先行車を認識しているとき表示されます。

次のいずれかのとき点滅します。

- 接近警報（→ P. 306）が作動したとき
- 先行車を認識しなくなり、制御が自動的に解除されたとき

③ 設定車速

設定された車速を表示します。

次のいずれかのとき点滅します。

- 制御が自動的に解除されたとき
- 車間制御モードでシステムをONにしているときに、設定条件（→ P. 310）を満たさずに− SET スイッチ、または＋ RES スイッチを押したとき

④ ACC SET 表示灯

車間制御モード、または定速制御モードが作動しているとき表示されます。

⑤ ACC OFF 表示灯

機能停止により、作動できないとき点灯します。

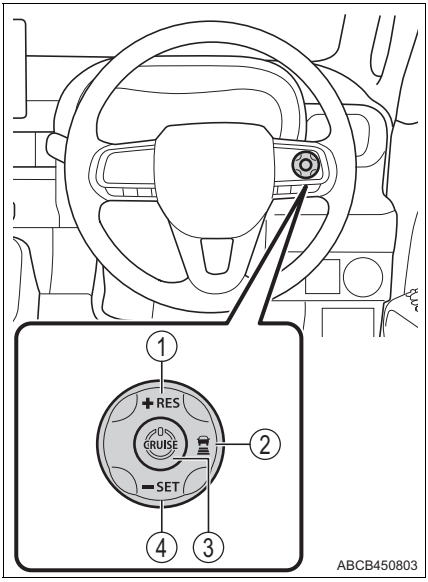
次のいずれかのとき点滅します。

- 制御が自動的に解除されたとき
- 車間制御モードでシステムをONにしているときに、設定条件（→ P. 310）を満たさずに− SET スイッチ、または＋ RES スイッチを押したとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 操作スイッチ

① ＋ RES スイッチ
② 設定車間切り替えスイッチ
③ CRUISE スイッチ
④ － SET スイッチ



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- ●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- ●全車速追従機能付 ACC は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
- ●設定車速は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定車速の確認は運転者が行う必要があります。
- ●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●全車速追従機能付 ACC を使わないときは CRUISE スイッチを押してシステムを OFF にしてください。
- ●全車速追従機能付 ACC を使用するときは、車間制御モード、定速制御モードのどちらのモードが選択されているかをメーター内の表示灯で必ず確認してください。

⚠ 警告

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●全車速追従機能付 ACC は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見運転やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- ●全車速追従機能付 ACC は、先行車への追突を防止する機能ではありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。
- ●全車速追従機能付 ACC は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- ●全車速追従機能付 ACC の状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
  - ・先行車を認識していても速度差が大きいときや、急減速したとき
  - ・先行車に追従しゆるやかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき
- ●料金所や渋滞などの最後尾で停止中の車両に対しては減速しないことがあります。十分注意してください。
- ●手放し運転を行うことはできません。運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。
- ●定速制御モードでは、接近警報は作動しません。

■全車速追従機能付 ACC について

- ●路面または壁面の模様･ペイントや前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ･位置などと似ている場合、ブレーキ制御や接近警報が作動する場合があります。
- ●次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
  - ・車両の状態（積載量、乗員など）
  - ・路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
  - ・車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
  - ・外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき

⚠ 警告

・エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
・下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
・水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

●定速制御モードを使用するときは、十分な車間距離を取ってください。

●定速制御モードでは、先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御を行いません。必要に応じてアクセル、ブレーキ操作をしてください。

■全車速追従機能付 ACC を使用してはいけない状況

次の状況では、全車速追従機能付 ACC を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●接近警報が頻繁に鳴るとき

●歩行者や自転車などが混在している道

●交通量の多い道

●一般道（自動車専用道路以外）

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などの滑りやすい路面

●頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき

●上り／下り坂で勾配変化が激しい坂
・下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
・急な上り／下り坂では、停車保持できない場合があります。

●高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき

●トンネルの出入り口など明るさが変化するとき

●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき

●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

●道路構造物（壁、ガードレール、ポール、縁石など）と、車線が極端に近い道

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）

●先行車との位置が横にずれているとき

●極端に車間距離が短いとき

●自車が車線内で蛇行しているとき

●路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき

⚠ 警告

●夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき

●夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき

●前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、ステレオカメラが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルで加速）してください。

●他車が急に割り込んできたとき

●先行車が急ブレーキをかけた場合

●先行車が低速で走行中のとき

●先行車が背景と似た色合いで区別ができないとき

●先行車が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいるとき

●先行車が路面の水たまりの付近にいるとき（まわりの風景が水たまりに映り込むなど）

●先行車が建物や街路樹などの影と重なっているとき

●先行車と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

●先行車が次のような車両のとき

- 後ろ部分が小さ過ぎる車両（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 荷台にあおりがない空荷のトラックなど
- 後端から積荷が飛び出している車両など
- 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
- バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
- リヤタイヤから車両後端までが長い車両
- 車高が極端に高い車両
- 車高の低い車両
- 背面が縦縞、檻、タイル柄など、連続する模様になっている車両

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
- ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
- フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき

⚠ 警告

- フロントウインドウウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
- 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行または停車しているとき

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき

●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

●夕方、朝方の薄暗いとき

●自車バンパーの近い位置に物体があるとき

●カーブやカーブの出入り口付近、車線幅が狭い道路などを走行する場合

●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度に戻るとき

●白（黄）線がない道路や、白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくい道路を走行するとき

●上り坂から平坦な道または下り坂に変わるとき

●下り坂から平坦な道または上り坂に変わるとき

●分岐・合流路などを走行するとき

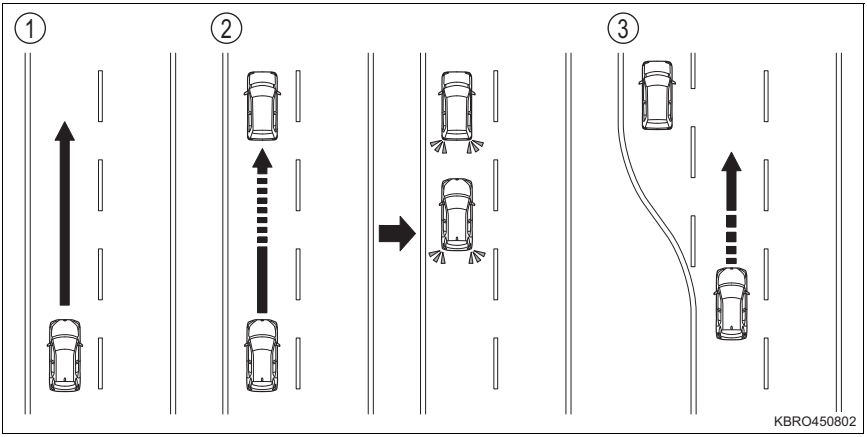
車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、ステレオカメラにより車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

また、設定車間切り替えスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。

上り坂を走行しているときや、積載量の多い状況では、設定車速までの加速に時間がかかる、または、設定車速まで加速しないことがあります。



① 定速走行：先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

約 30km/h 未満では前方に車両がいない場合使用できません。

② 減速走行 ― 追従走行：設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。

十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

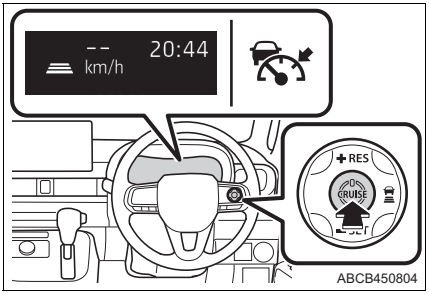
先行車が停止したときは、続いて停止します（停車保持）（→ P. 307）。

③ 加速走行：設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行に戻ります。

車速を設定する（車間制御モード）

1 CRUISE スイッチを押して、車間制御モードでシステムを ON にする



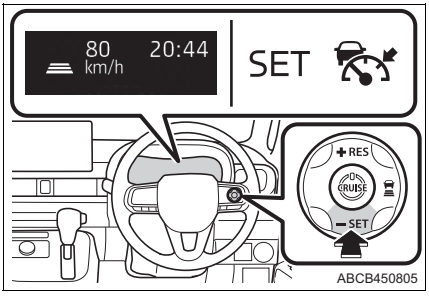
- ACC 表示灯が点灯します。
- 車間設定が表示されます。
- 設定車速が“－－ km/h”と表示されます。

システムをOFFにするには再度CRUISEスイッチを押します。

CRUISE スイッチを約 2 秒以上長押しすると定速制御モードでシステムがONになります。（→ P. 308）

車間制御モードでシステムをONにすると、LKCもONになります。（→ P. 318）

2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、－ SET スイッチを押す



設定車速が表示され、制御を開始します。

スイッチを離したときの車速で設定されます。

- ACC SET 表示灯が点灯します。
- 設定車速は 30km/h から設定できます。

設定車速を変える（車間制御モード）

設定車速を変えるには、希望の速度が表示されるまで+ RES スイッチまたは− SET スイッチを押す

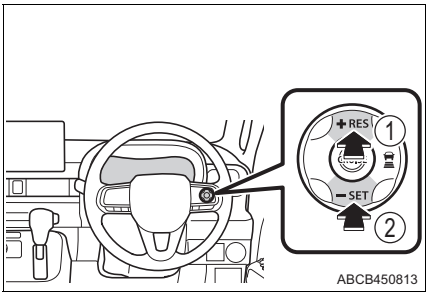
スイッチを操作するごとに設定車速の表示が変わります。

① 速度を上げる（停車保持時を除く）

② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを長押しして速度を変え、希望の速度で手を離す



設定車速は次の通りに増減されます。

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを長押ししている間、5km/h きざみで変化

エンジンスイッチを“ON”にするたび、または定速制御モードに切り替えるたびに設定車速はリセットされます。

設定車間を切り替える（車間制御モード）

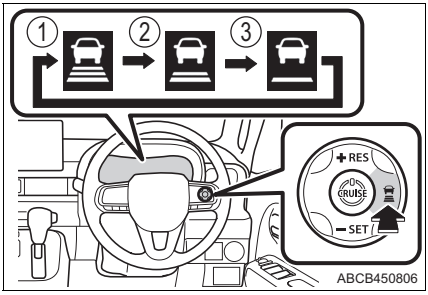
設定車間切り替えスイッチを押すごとに次のように設定車間が切り替わります。

① 長い

② 中間

③ 短い

エンジンスイッチを“ON”にするたび、または定速制御モードに切り替えるたびに設定車間は ① に戻ります。



設定車間切り替えの目安（車間制御モード）

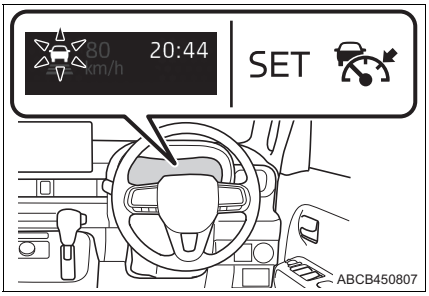
次の目安を参考に車間距離を選択してください。（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、停車保持作動中は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

設定車間選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 25m

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、先行車表示灯の点滅とブザー、TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージで運転者に注意を促します。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 接近警報が作動しないとき

次のような場合は接近警報が作動しないことがあります。

●先行車と自車の車速が同じか先行車のほうが速いとき

●他車が至近距離に割り込んできたとき

●先行車が急減速したとき

●先行車が極端な低速走行をしているとき

●車間制御開始直後

●アクセルペダルを踏んだとき

●上り坂、下り坂が繰り返されるとき

●料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両に近付いたとき

停車保持について（車間制御モード）

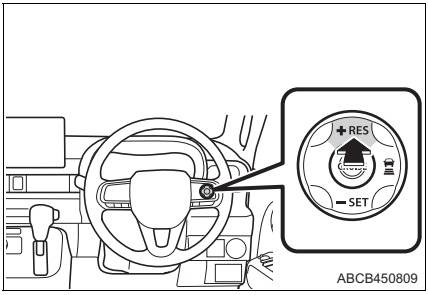
先行車が停止したときは、続いて停止します。

停車保持を最長約 3 分間継続したあと、自動的に全車速追従機能付 ACC が解除されます。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。停車保持中にシステムが自動解除されたときに停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。（→ P. 311）

■ 停車保持から追従走行に復帰させるには

先行車の発進後、+ RES スイッチを押すと追従走行に戻ります。

アクセルペダルを踏んでも追従走行に戻ります。



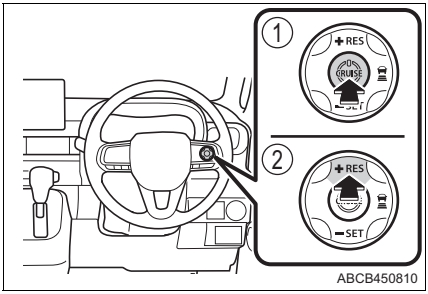
制御を解除する・復帰させる（車間制御モード）

① 制御を解除するには、CRUISE スイッチを押す

- ブレーキペダルを踏んだときも解除されます（車間制御モードの停車保持中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）。
- エンジンスイッチを “OFF” にしてエンジンを停止したときも自動的に解除されます。
- オートブレーキホールドスタンバイ表示灯（→ P. 70）が点灯しているときは、停車保持中に ACC を解除すると、オートブレーキホールド機能が作動します。

② 制御を復帰するには、CRUISE スイッチを押してシステムを ON にした状態で+RESスイッチを押す

- ブレーキペダルを踏んで制御を解除した場合は、CRUISE スイッチの操作は不要になります。



■ **復帰できないとき**

次の場合は、制御を復帰させることができません。

●先行車を認識していない状態で車速が約 30km/h 未満のとき

●CRUISE スイッチを押してシステムを OFF にしたとき

●システムの自動解除条件（→ P. 311）のいずれかを満たしているとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂を走行しているときは、設定車速を超えて走行することがあります。

上り坂を走行しているときや、積載量の多い状況では、設定車速までの加速に時間がかかる、または、設定車速まで加速しないことがあります。

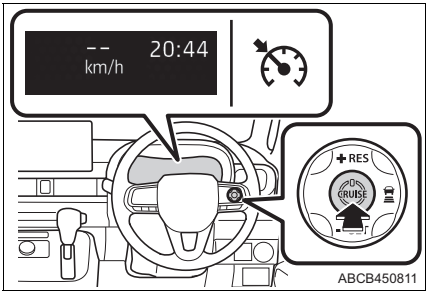
車速を設定する（定速制御モード）

1 CRUISEスイッチを約2秒以上長押しして、定速制御モードでシステムを ON にする

クルーズコントロール表示灯が点灯し、設定車速が“－－ km/h”と表示されます。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。

システムを　OFF　にするには再度 CRUISE スイッチを押します。



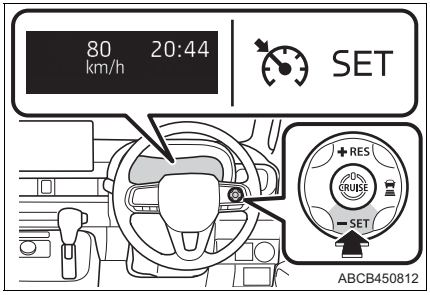
2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、－ SET スイッチを押す

設定車速が表示され、制御を開始します。

スイッチを離したときの車速で設定されます。

ACC SET 表示灯が点灯します。

設定車速は30km/hから設定できます。



設定車速を変える（定速制御モード）

設定車速を変えるには、次の方法があります。

●アクセルペダル、またはブレーキペダルを操作する

●操作スイッチを押す

■ アクセルペダル・ブレーキペダル操作で変える

設定車速を上げるには、アクセルペダルを踏み速度を上げ、希望の速度になったら－ SET スイッチを押します。

設定車速を下げるには、ブレーキペダルを踏み速度を下げ、希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、－ SET スイッチを押します。

ブレーキペダルを踏むと、全車速追従機能付 ACC が解除され、ACC SET 表示灯が消灯します。

スイッチを押したときの車速に設定され、新しく設定車速が表示されます。

■ 操作スイッチで変える

設定車速を変えるには、希望の速度が表示されるまで＋ RES スイッチまたは－ SET スイッチを押す

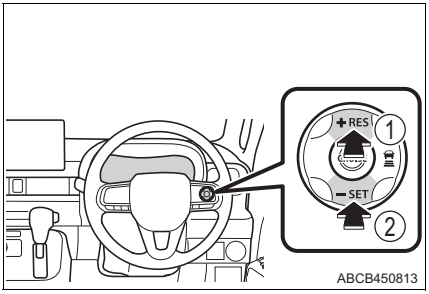
スイッチを操作するごとに設定車速の表示が変わります。

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを長押しして速度を変え、希望の速度で手を離す



設定車速は次の通りに増減されます。

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを長押ししている間連続して変化

エンジンスイッチを“ON”にするたび、または車間制御モードに切り替えるたびに設定車速はリセットされます。

制御を解除する・復帰させる（定速制御モード）

車間制御モードと同じ方法で解除・復帰ができます。（→ P. 307）

知識

■設定条件について

次の条件をすべて満たしているとき、全車速追従機能付 ACC の制御を開始できます。

- 車速が 0km/h 以上（先行車がいないときは約 30km/h 以上）のとき（車間制御モード）
- 車速が約 30km/h 以上のとき（定速制御モード）
- エンジン冷却水温が高過ぎないとき
- 停車中の場合は、次のすべての条件を満たしているとき
  - 運転席ドアが閉まっている
  - ブレーキペダルを踏んでいる、または、オートブレーキホールド機能で停車している
  - 運転席シートベルトを着用している
- VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ACC 表示灯が点灯しているとき（車間制御モード）
- クルーズコントロール表示灯が点灯しているとき（定速制御モード）
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ACC OFF 表示灯が消灯しているとき
- 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき
- ACC 警告灯が消灯しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき（停車中を除く）
- シフトレバーが D のとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- 勾配が急な坂道でないとき
- パーキングブレーキ表示灯が消灯しているとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が消灯しているとき

知識

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。

加速後、車速が設定速度に戻ります。

ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■車速設定後の減速について

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。

- このとき、全車速追従機能付 ACC は解除されます。
- 設定車速が“－－ km/h”と表示され、ACC SET 表示灯が消灯します。
- 設定車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、－ SET スイッチまたは＋ RES スイッチを押します。

■システムの自動解除

次のいずれかのとき、自動的に全車速追従機能付 ACC が解除されます。

全車速追従機能付 ACC が自動的に解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、－ SET スイッチ、または＋ RES スイッチを押して復帰させてください。条件が解消されても設定できないときは、全車速追従機能付 ACC の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 車速が約 25km/h 未満で追従走行中に、先行車を見失ったとき
- 先行車を認識していない状態で、車速が約 25km/h 未満になったとき
- エンジン冷却水温が高過ぎるとき
- 停車保持が作動しているときに、次のいずれかの状態になったとき
  - 運転席ドアが開いたとき
  - 運転席シートベルトを外したとき
  - 全車速追従機能付 ACC により車両が停止したあと、約 3 分経過したとき
  - 先行車を見失ったとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- VSC または TRC が OFF になったとき
- スマートアシストOFFスイッチを押してスマートアシストをOFFにしたとき
- ACC OFF 表示灯が点灯したとき
- スマートパノラマパーキングアシスト★を作動させたとき
- VSC または TRC が作動したとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●パーキングブレーキ表示灯が点滅しているとき

●ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しているとき

●LKC 警告灯が点灯しているとき

●手放し運転に対する注意喚起（→ P. 321）が行われてもハンドル操作せず、LKC が自動的に解除されたとき（全車速追従機能付 ACC を復帰させるには、CRUISE スイッチを押してシステムを ON にしてください）

●次のいずれかのとき（このとき、+ RES スイッチを押しても復帰できません）

- 先行車を認識していない状態で、車速が設定車速を大きく下回ったとき
- 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき
- ACC 警告灯が点灯したとき
- 勾配が急な坂道のとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動したとき
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動したとき

●プラスサポート（販売店オプション）の急アクセル時加速抑制（→ P. 375）が作動したとき

■全車速追従機能付 ACC について

●車間制御モードでは、先行車に合わせた車速で制御されるため、+ RES スイッチを押して、先行車の速度以上に設定車速を上げても加速しません。ただし、設定車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速は運転支援表示画面の表示を確認しながら変更してください。

●車間制御モードを設定中にアクセルペダルを踏んでいるときは、車間制御モードによる接近警報を行わず、ブレーキもかけません。
ただし、このときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能による警報や緊急ブレーキが作動することがあります。

●通常、追従走行中は先行車の速度に合わせて自動的に加減速を行います。ただし、車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

●定速走行中であっても、周囲の状況や車両の状態によっては、設定車速通りに走行できないことがあります。

知識

■ブレーキ作動について

●ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えが変わったりすることがありますが、異常ではありません。

●先行車を認識していないときでも下り坂などでは設定車速を保つため、全車速追従機能付 ACC の制御によりブレーキが作動することがあります。

■カーブ走行中は

設定車速が車速より高いときであっても、加速しない、または減速することがあります。

■定速制御モードでシステムを ON にするとき

CRUISE スイッチを約 2 秒以上長押しして、定速制御モードでシステムを ON にするとき、スイッチを押した直後は、次の状態になり、その後クルーズコントロール表示灯が点灯し、ACC 表示灯および設定車間が消灯します。

●ACC 表示灯が点灯

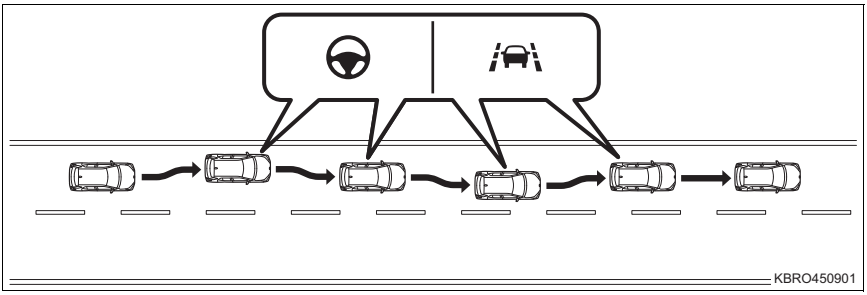
●設定車速が“－－ km/h”と表示される

●設定車間が表示される

LKC（レーンキープコントロール）★

LKC は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、全車速追従機能付 ACC（→ P. 297）と連携して現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部をシステムが支援します。

- LKC 作動中は、メーター内の表示灯、ディスプレイの表示（→ P. 248）で運転者にお知らせします。
- 全車速追従機能付ACCが作動していないときは、LKCは作動しません。
- 一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、メーターの表示により注意喚起が行われ、機能が解除されます。
- 高速道路や自動車専用道路で使用してください。



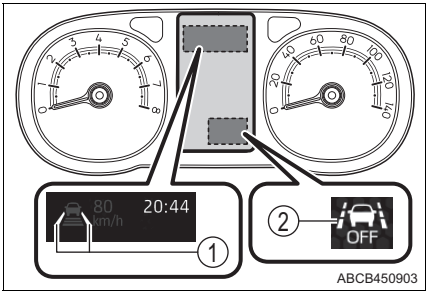
LKC OFF 表示灯／車線認識表示灯

① 車線認識表示灯

車速約 50km/h 以上で左右の白（黄）線を認識しているとき点灯します。

② LKC OFF 表示灯

機能停止により、作動できないとき点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●LKC を過信しないでください。LKC は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を LKC に頼っていると、事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩を取ってください。適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●手放し運転を行うことはできません。運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

■LKC を使用してはいけない状況

次の状況では、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定で LKC を OFF にしてください。（→ P. 107）思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき

●白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき

●車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき

●工事区間を走行しているとき

●高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき

●ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき

●ハンドルをダイハツ純正品以外に交換、またはハンドルにアクセサリーを取り付けているとき

■LKC が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、LKC が適切に作動しないことがあります。

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき

●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき

●トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき

●雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき

●木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき

⚠ 警告

●夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき

●道路の状態（特に次のような場合）

- 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
- 坂道や丘の頂上に近付いているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石･ガードレール･パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
- 道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
- ガードレールの影などがあるとき
- 区画線が二重に描かれているとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
- フロントウインドウウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
- ステレオカメラが高温になったとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイや置き石などがあるとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

⚠ 警告

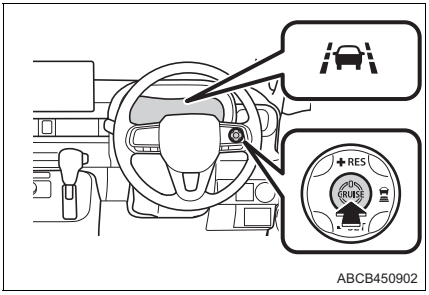
●照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
●横風を受けているとき
●周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
●車線変更をした直後
●冬用タイヤなどを装着しているとき
●過度な高速走行をしているとき
●隣車線から車が割り込んできたとき
●路肩に縁石や側壁があるとき
●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
●車線以外の線が路面に描かれているとき

設定のしかた・解除のしかた

■ 設定のしかた

CRUISE スイッチを押して車間制御モードでシステムを ON にしているとき、LKC も ON になります。

LKC 表示灯が点灯します。



車線中央付近を走行中に作動条件（→ P. 318）をすべて満たすと LKC が作動します。

ハンドル操作が支援されているときは、LKC 表示灯、ハンドル操作支援作動灯（→ P. 314）が点灯します。

■ 解除のしかた

LKC を OFF にするには再度 CRUISE スイッチを押します。

LKC 表示灯が消灯します。

知識

■LKC の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ●車速が約 60km/h 以上のとき
- ●全車速追従機能付 ACC が車間制御モードで作動していて、設定車速が 60km/h 以上のとき
- ●LKC 表示灯が点灯しているとき
- ●ABS、VSC、TRC が作動していないとき
- ●衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動していないとき
- ●車線逸脱抑制制御機能が作動していないとき
- ●車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●LKC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき

知識

●LKC 警告灯が消灯しているとき
●方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 1 秒間は作動しません）
●TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 107）で「LKC」を ON にしているとき
●ブレーキペダルを踏んでいないとき
●一定以上の加減速がないとき
●シフトレバーが D のとき
●急なハンドル操作をしていないとき
●車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
●直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
●システムが左右の白（黄）線を認識しているとき
●走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき
●手放し運転に対する注意喚起（→ P. 321）が行われていないとき
●車線中央付近を走行しているとき

■システムの一時中断

次のいずれかのとき、自動的に LKC が一時的に中断されます。LKC が一時的に中断されたときは、中断されたときの条件が解消されると自動的に復帰します。条件が解消されても復帰できないときは、スマートアシストの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

●車速が約 60km/h 未満になったとき
●全車速追従機能付 ACC の車間制御モードの設定車速が 60km/h 未満になったとき
●LKC OFF 表示灯が点灯したとき
●機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき
●方向指示レバーを操作したとき
●ブレーキペダルを踏み、全車速追従機能付 ACC が解除されたとき
●シフトレバーを D 以外にし、全車速追従機能付 ACC が解除されたとき
●急なハンドル操作をしたとき
●左右いずれかの白（黄）線を認識できなくなったとき
●走行している車線の幅が約 3m 未満、または約 4m 以上になったとき
●自車が車線をまたいだとき
●急なカーブのある道路を走行したとき

知識

■システムの自動解除

次のいずれかのとき、自動的に LKC が解除されます。LKC が自動的に解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再度設定操作を行ってください。条件が解消されても設定できないときは、LKC の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- CRUISE スイッチを押してシステムを OFF にしたとき
- スマートアシスト OFF スイッチを押して車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能、車線逸脱抑制制御機能、LKC を OFF にしたとき
- VSC または TRC が OFF になったとき
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 107）で「LKC」を OFF にしたとき
- LKC 警告灯が点灯したとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→ P. 321）が行われてもハンドルを握って操作しなかったとき
- ABS、VSC、TRC が作動したとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動したとき
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動したとき

■LKC について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、LKC の作動を感じなかったり、LKC が作動しなかったりすることがあります。
- LKC によるハンドル操作支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- LKC が作動しているときに、手放し運転をしていて走行車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき、ブザーが鳴り、車線認識表示灯の両側が点滅、および車線逸脱警報作動灯が点灯します。
- LKC が作動しているときに、左右の車線に偏る場合は、システムを停止しダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、手放し運転警告灯（→ P. 508）が点灯し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにハンドル保持を促すメッセージが表示され注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●LKC 表示灯が点灯しているときに、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

- さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。
- そこからさらに操作しない状態が続くと LKC が解除されます。
- 運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制制御機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操作支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき（→ P. 286）

■カスタマイズ機能

LKC を非作動にすることができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

アイドリングストップシステム（eco IDLE）

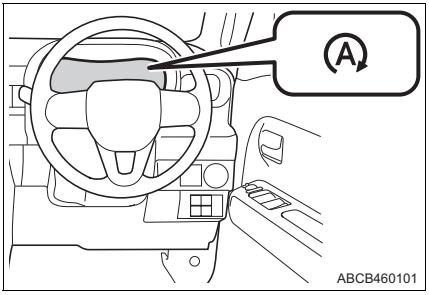
赤信号や交差点などで減速した際、停車前（約 11km/h※）または停車後に燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

オートブレーキホールド機能★（→ P. 215）作動時も、eco IDLE は作動します。

※ ターボ以外の 4WD 車は約 9km/h

エンジンが停止する

1 シフトレバーを D で走行中、エンジン停止が可能な状態になると、eco IDLE 表示灯が点灯する（→ P. 325）



2 ブレーキペダルを踏み減速すると、停車前または停車後にエンジンが自動的に停止する

eco IDLE 表示灯は点灯したままです。オートブレーキホールド機能★が ON のときは、停車後ブレーキが保持され、オートブレーキホールド作動表示灯が点灯します。

エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

オートブレーキホールド機能★が ON で停止した場合は、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動します。（ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません）

eco IDLE 表示灯とオートブレーキホールド作動表示灯が消灯します。

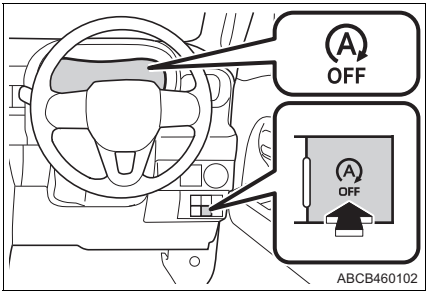
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

eco IDLE を非作動にするには

eco IDLE を非作動にするには eco IDLE OFF スイッチを押す

eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すと、作動可能状態に戻り、eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。



■ eco IDLE OFF スイッチを押したとき

- eco IDLE によるエンジン停止中、eco IDLE OFF スイッチを押すとエンジンが再始動します。
- eco IDLE が非作動のとき、再度 eco IDLE OFF スイッチを押すと、eco IDLE が作動可能状態に戻りますが、エンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに（eco IDLE が作動可能状態に戻る）、eco IDLE によって、エンジンが停止します。

ヒルスタートシステム

eco IDLE によって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでの間、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を最長約 2 秒間保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

知識

■eco IDLE の作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、eco IDLE 表示灯が点灯し、エンジン停止が可能な状態になります。

- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE の作動を停止していないとき（eco IDLE 作動停止中は、eco IDLE OFF 表示灯が点灯します）
- エンジンが十分温まっているとき
- トランスミッションオイルが十分に温まっているとき
- エンジン冷却水温が高過ぎないとき
- エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと（走行せずにアイドリング状態を続けていても、エンジンは停止しません）
- バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 外気温が約 0 ℃以上のとき（メーター内に表示されている外気温と異なる場合があります）
- シフトレバーが D のとき
- スマートパノラマパーキングアシストが作動していないとき（スマートパノラマパーキングアシスト装着車）
-  が OFF のとき
- 車内温度が快適なとき（冷房時）
- システム（eco IDLE・エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・エアコン・パワーステアリング・車両通信）が正常なとき

●次の状況では、エンジン停止が可能な状態になるまで時間がかかる場合があります。

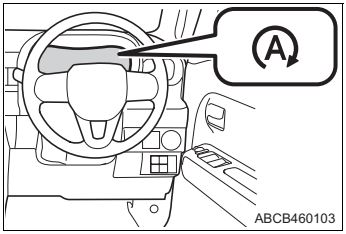
- バッテリーが放電しているとき
- バッテリー交換などにより、バッテリー端子を外したあと
- 冷房初期
- マルチインフォメーションディスプレイの設定★（→ P. 79）で「オートエアコン設定：51」を「空調：02」にしているとき
- TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ★でアイドリングストップの設定を「空調」にしているとき（→ P. 111）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■eco IDLE 表示灯について

走行中に eco IDLE の作動条件がすべて満たされると、eco IDLE 表示灯が点灯し、停車時に eco IDLE が作動可能状態であることをお知らせします。



■停車前のエンジン停止条件

●eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車前にエンジン停止します。
- 車速が約 11km/h 以下（2WD 車、ターボ 4WD 車）または約 9km/h 以下（ターボ以外の 4WD 車）になったとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- 車幅灯が消灯しているとき
- フロントワイパーが作動していないとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- 全車速追従機能付 ACC が作動していないとき（全車速追従機能付 ACC 装着車）
- ブレーキオーバーライドシステムが作動していないとき

●次の状況では、停車前にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。
- ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- ゆるやかに減速しているとき

知識

■停車後のエンジン停止条件

●eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車後にエンジン停止します。
- 停車しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき（全車速追従機能付 ACC により停止したときを除く（全車速追従機能付 ACC 装着車））
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき

●次の状況では、停車後にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。
- ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配が急な坂道で停車したとき
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき

■エンジン停止中の操作について

●右左折や合流時など、エンジン停止中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
- ブレーキペダルをさらに強く踏み込む
- ハンドル操作をする
- eco IDLE OFF スイッチを押す（→ P. 323）

●エンジン停止中にシフトレバーを D から R 以外にしてもエンジン停止は継続します。
ただし、シフトレバーを N または P にしたあと他のシフトポジションにすると、エンジンが再始動します。
- エンジン停止中にシフトレバーを D から P に操作したときは、ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません。

●給油時はシフトレバーを P にし、エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止します。

■エンジンの再始動について

●エンジン停止中に次のいずれかの操作を行うと、エンジンが自動的に再始動します。
- ブレーキペダルから足を離したとき（シフトレバーが P のとき、またはオートブレーキホールド機能★による停車中は除く）
- ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
- アクセルペダルを踏んだとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

- ハンドル操作をしたとき
- シフトレバーを R にしたとき
- シフトレバーを N・P にしたあと、他のシフトポジションにしたとき
- eco IDLE OFF スイッチを押したとき
- スマートパノラマパーキングアシストを起動したとき（スマートパノラマパーキングアシスト装着車）
- パーキングブレーキを解除したとき（電動パーキングブレーキ装着車）
- 全車速追従機能付ACC作動中のeco IDLEによるエンジン停止時に＋RESスイッチを押す、または先行車が発進したとき（全車速追従機能付 ACC 装着車）
-  を押したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- 運転席シートベルトを外したとき

●エンジン停止中、次のいずれかのときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（eco IDLE 表示灯は点滅後、消灯します）

- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- 傾斜などで車両が動き出したとき
- 停車前にエンジンを停止したあと、下り坂で加速したとき
- 警告灯が点灯（→ P. 505）、警告メッセージ★（→ P. 513）が表示されるなど、各システム（エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・TRC・エアコン・パワーステアリング・スマートパノラマパーキングアシスト★）に異常が発生したとき
- 冷房時、エアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき
- エンジン停止してから約 3 分経過したとき

●エンジン停止中に eco IDLE システムに異常が発生したり、スターターやバッテリーが交換時期になったときは、eco IDLE OFF 表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 520）が表示され、エンジンが自動的に再始動します。

●次の状況では、エンジン停止の時間が短くなる場合があります。

- 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にエンジン停止をしたとき
- 電装品などの消費電力が大きいとき
- マルチインフォメーションディスプレイの設定★（→ P. 79）で「オートエアコン設定：51」を「空調：02」にしているとき
- TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ★でアイドリングストップの設定を「空調」にしているとき（→ P. 111）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●オーディオの音量が大きいなど、エンジン停止中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時にオーディオの電源が一時的に OFF になることがあります。

●エンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に OFF になることがあります。

■eco IDLE の自動再開

eco IDLE を eco IDLE OFF スイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを “OFF” にしてから “ON” にすることによって、eco IDLE は自動的に作動可能状態に戻ります。

■ボンネットを開けたときは

エンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。

エンジンスイッチでエンジンを始動させてください。

■ヒルスタートシステムについて

●坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

●ヒルスタートシステムの作動により、次の状態になることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルの踏み応えが変わる
- ブレーキペダルが振動する
- ブレーキから音が発生する

■オートブレーキホールド機能★作動時の eco IDLE の作動について

eco IDLE によりエンジンが自動的に再始動してもオートブレーキホールド機能によるブレーキ保持は継続します。

■eco IDLE について

eco IDLE は赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

■警告ブザーについて

eco IDLE によるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時に eco IDLE 表示灯が高速で点滅、および警告メッセージ★（→ P. 533）が表示されます。

●運転席ドアが開いたとき（シフトレバーが P 以外）

●運転席シートベルトを外したとき（シフトレバーが P 以外）

●ボンネットが開いたとき※

※ ボンネットが開いたときは、警告メッセージ★が表示されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■eco IDLE OFF 表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 520）が表示されたままのときは

スターターの交換時期、またはシステムに異常がある場合があります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■エンジン始動中に eco IDLE OFF 表示灯が数秒間点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 520）が数秒間表示されたときは

バッテリーの交換時期です。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■エンジン停止中のエアコンについて

●エンジン停止中はエアコン（冷房、除湿機能）がオフになり、送風になります。エアコンを作動させるときは、ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。

●AUTO を押してエアコンをオート設定にしているときは、エンジン停止中に風量が少なくなったり送風を停止することがあります。エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。

■エンジン停止中にフロントウインドウガラスが曇ったとき

ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。

FRONT を押して曇りを取ってください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、eco IDLE OFF スイッチを押し、eco IDLE を非作動にしてください。

■アイドリングストップ時間表示とアイドリングストップ積算時間表示

→ P. 78

■バッテリーを交換するとき

→ P. 558

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■eco IDLE を正常に作動させるために

●次のようなときは eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

・運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅する、および TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ★（→ P. 521）が表示されたとき

・運転席シートベルトを外しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しない、および TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ★（→ P. 521）が表示されないとき

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車

・運転席ドアまたはボンネットを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき

・運転席ドアまたはボンネットを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車

・運転席ドアまたはボンネットを閉めているときに、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「開いています」の警告メッセージ★（→ P. 521）が表示される、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき

・運転席ドアまたはボンネットを開けているときに、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「開いています」の警告メッセージ★（→ P. 521）が表示されない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき

●バッテリーの端子から電化製品の電源を取らないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■eco IDLE が作動しているとき

●eco IDLE によるエンジン停止中（eco IDLE 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（オートブレーキホールド機能★による停車中と全車速追従機能付き ACC★の停車保持中は除く）
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン停止中はお車から離れないでください。（eco IDLE 表示灯が点灯している間）
次の操作を行うと、エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ブレーキペダルから足を離す（オートブレーキホールド機能★による停車中と全車速追従機能付き ACC★の停車保持中は除く）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シートベルトを外す

●エンジン停止中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

■ヒルスタートシステムについて

●ヒルスタートシステムは坂道で停車させる装置ではありません。装置が正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめるとお車が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

●ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進するときにお車が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー・ブレーキペダル・アクセルペダル・パーキングブレーキを操作して発進してください。

●ブレーキペダルから足を離したら、ただちに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

●ゆるやかな上り坂で停車前にエンジン停止したあと、お車が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、お車が後退することがあります。
お車が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。

●重い荷物を車内に積んでいるとき、または勾配が急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していてもお車が後退することがあります。パーキングブレーキをかけたりするなどして発進してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約 10km/h 以下のときに、車両と障害物とのおおよその距離をソナーによって認識してブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせする装置です。

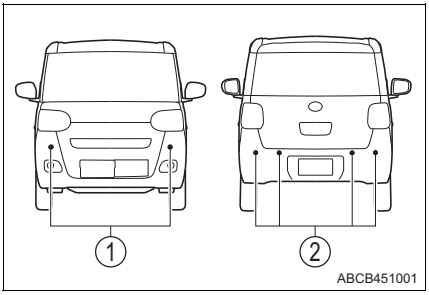
ソナーの位置・種類

① フロントソナー

フロントコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

② リヤソナー

リヤコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

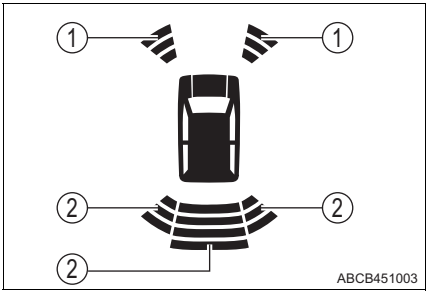


コーナーセンサーの表示のしかた

障害物を認識すると自動的に表示されます。

① フロントコーナーセンサー作動表示

② リヤコーナーセンサー作動表示



距離表示の見方

作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせします。

●障害物との距離が短くなると、ブザーおよびディスプレイの表示が次の表の通り変化します。

ブザー	ディスプレイの表示		ソナーと障害物との距離
	マルチインフォメーションディスプレイ※1	TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ※2	
ピッ … ピッ … ピッ …（断続音）			約 150 ～ 60cm
ピッピッピッ …（断続音）			約 60 ～ 45cm
ピピピ …（断続音）			約 45 ～ 30cm
ピー（連続音）			約 30cm 以内

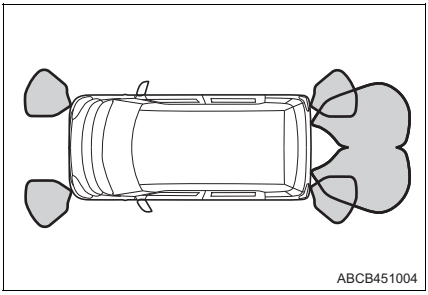
※1 TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車

●ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、もっとも近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

ソナーが障害物を認識できる範囲

認識できる範囲は右図の通りです。
ただし、障害物がソナーに近付き過ぎると認識できません。
障害物の形状・条件によっては認識できる距離が短くなることや、認識できないことがあります。

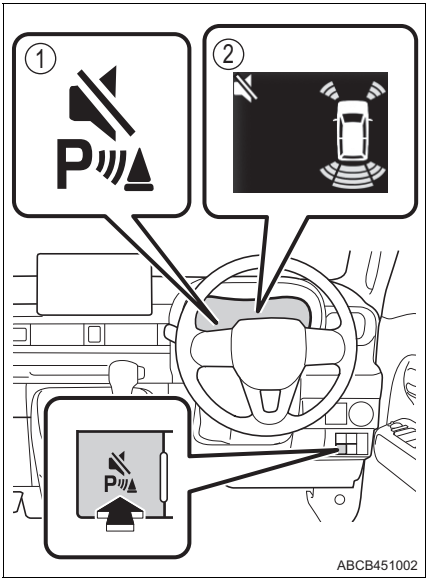


ブザーについて

コーナーセンサー作動中にコーナーセンサーブザー OFF スイッチを押すと、ブザーが止まります。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車はコーナーセンサーブザー OFF 表示灯が点灯し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車はブザー OFF を示すアイコンが表示されます。

① TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車

② TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車



知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：
- エンジンスイッチが “ON” のとき
- シフトレバーが P 以外で、車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー：
- エンジンスイッチが “ON” のとき
- シフトレバーが R のとき

●作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

■ブザーについて

コーナーセンサーブザー OFF スイッチでブザーを止めたあと、次の操作をすると再度ブザーが鳴るようになります。

●コーナーセンサーブザー OFF スイッチを押す

●シフトポジションを切り替える

●一定以上の車速で走行する

●一度エンジンスイッチを “OFF” にしてから “ON” にする

知識

■ソナーの認識について

●ソナーの認識範囲は車両前部、および後部のバンパーのソナー周辺に限られます。

●障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴る前に、障害物に近付き過ぎると、ブザーが鳴らない場合があります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

■ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が後方 1 か所表示されるか、前方 2 か所または後方 2 か所同時に表示されたときは※

●コーナーセンサーの機能が低下しています。

コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。

●マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

●TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、状態により「ソナーセンサー機能低下」、「ソナーセンサー故障」の警告メッセージが表示されます。

※ 前方 2 か所および後方 1 か所、前方 2 か所および後方 2 か所、後方 3 か所、または 5 か所同時に表示されたときも含みます。

■コーナーセンサーについて

次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき

●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき

●障害物の横を至近距離で通過するとき

●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき

●付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき

●車両側面の近くに障害物があるとき

●路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき

●狭いスペースに進入するとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）

知識

●他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
●ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
●車両姿勢が大きく傾いたとき
●積載状況などにより車高が著しく変化したとき
●衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
●雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

■カスタマイズ機能

ブザーの音量を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）
（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）
（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

⚠ 警告

■コーナーセンサーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車両の速度が約 10km/h を超えないようにしてください。
●ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。お車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
●ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けないでください。
●TFT　カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、「ソナーセンサー機能低下」の警告メッセージが表示された場合、ソナーの状態を確認してください。雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないのに警告メッセージが表示されている場合は、コーナーセンサーの異常が考えられますのでダイハツサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

■コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●路面の状態（勾配、凹凸など）

●車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤ装着など）

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）

●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき

●障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）

●勾配が急な坂道を走行しているとき

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近し過ぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
- 地面から高い位置に存在する障害物のとき
- 背の低い障害物のとき
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
- 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
- スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
- 障害物の面が車両に対して斜めのとき
- 地面に対して垂直でない壁のとき
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
- 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
- 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物があるとき
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物のとき
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

⚠ 警告

■コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動について

コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。

⚠ 注意

■コーナーセンサーの異常について

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 障害物を認識していない状態で、コーナーセンサーが作動したとき
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
- 事故などでソナー周辺が変形したとき
- スマートアシストに異常があるとき、または「スマアシ停止」、「スマアシ故障」が表示されているとき（→ P. 507, 534）

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

バックカメラ★

バックカメラは車両を後退させるとき、ディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。

装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

バックカメラの画面表示について

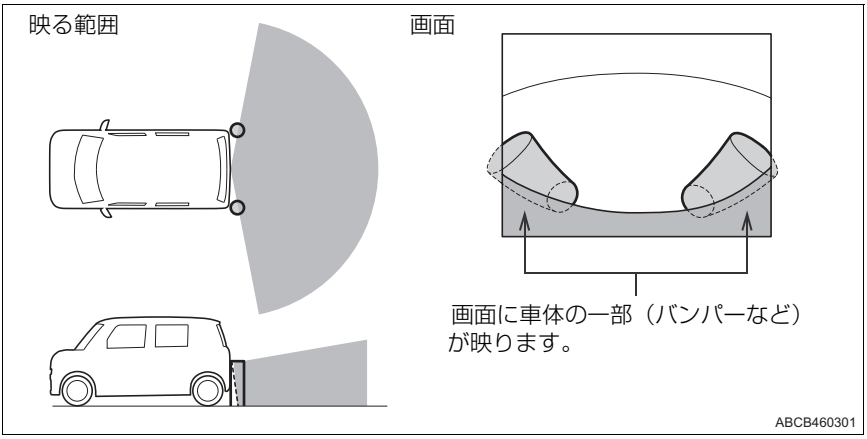
エンジンスイッチが“ON”のときに、シフトレバーを R にすると、ディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面に車両後方の映像を表示します。

シフトレバーを R 以外にすると、もとの画面に戻ります。

バックカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

バックカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



●車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。

●バックカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

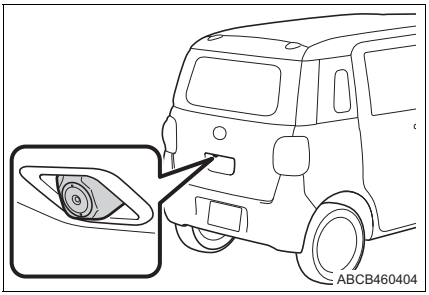
●バックカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

●後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。

●バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。

■ **カメラについて**

バックカメラは次の位置にあります。



●カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

知識

●次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。
- 暗いところ（夜間など）
- レンズ付近の温度が高い、または低いとき
- バックカメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
- バックカメラ付近に異物（泥など）がついたとき
- 太陽やヘッドランプの光が直接バックカメラのレンズに当たったとき

⚠ 警告

■バックカメラについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。

●後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。

●画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

●次のような状況では、使用しないでください。
- 凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
- タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
- バックドアが完全に閉まっていないとき
- 坂道など平坦でない路面

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

⚠ 注意

■ カメラの取り扱いについて

●バックカメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

- カメラ周辺にはカメラの視野に影響をおよぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
- カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は防水構造となっていますので、取り外し・分解・改造をしないでください。
- カメラレンズを洗うときは、水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でふき取ってください。
  カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
- カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

パノラマモニター★

パノラマモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成してディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面上に表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。
画面を左右 2 分割して表示し、左側にトップビュー、右側にはフロント、リヤビューが表示されます。
また、レフト & ライトサイドビューやレフトサイド & リヤビュー、フロントワイドビュー、リヤワイドビューでも、車両周辺の障害物を確認できます。
画面の映像、映る範囲はビューによって異なります。(→ P. 344)
詳しくはディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

パノラマモニターの画面表示について

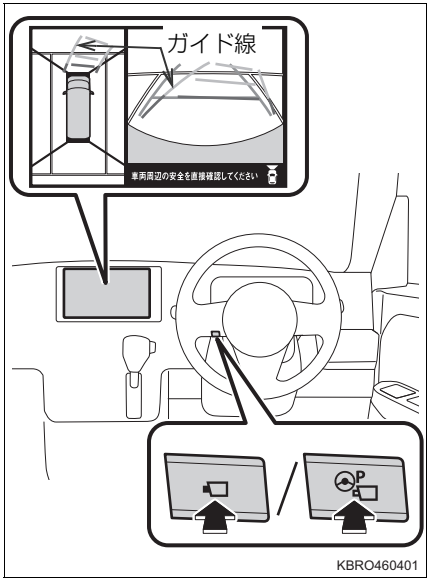
エンジンスイッチが“ON”の状態で、シフトポジションの位置や車速、ディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの操作に応じたパノラマモニター画面が表示されます。

バックカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

■ ガイド線について※

予想進路線や距離目安線など、進路や距離の目安を示すガイド線が表示されます。
表示されるガイド線はビューによって異なります。

※詳しくは、装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ガイド線表示の ON ／ OFF を設定する

1 シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかける

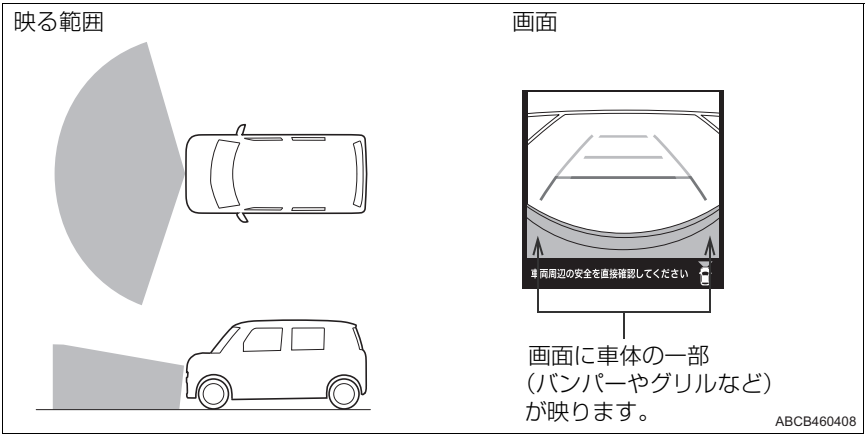
2 カメラ／パーキングアシストスイッチを押してフロントワイドビューを表示する

3 カメラ／パーキングアシストスイッチを長押しするごとに、各ガイド線表示を ON ／ OFF する

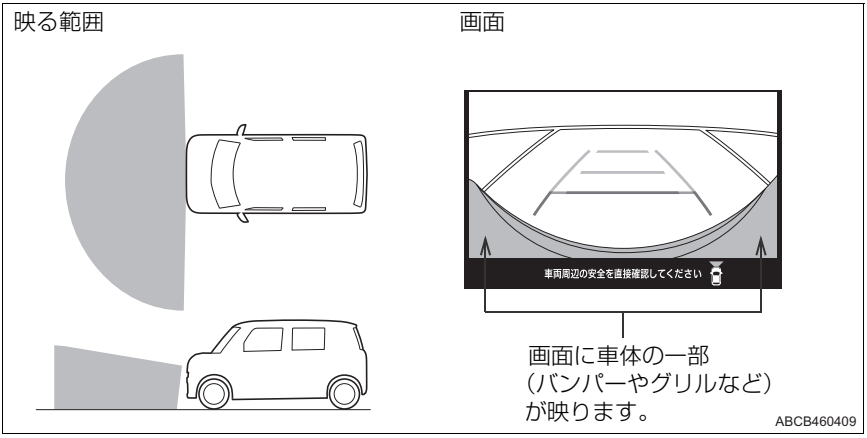
パノラマモニターの注意点について

■ 画面の映る範囲について

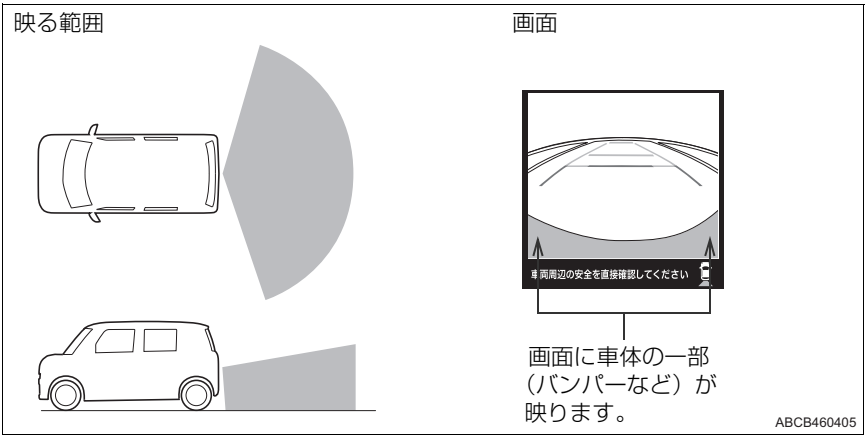
▶フロントビュー



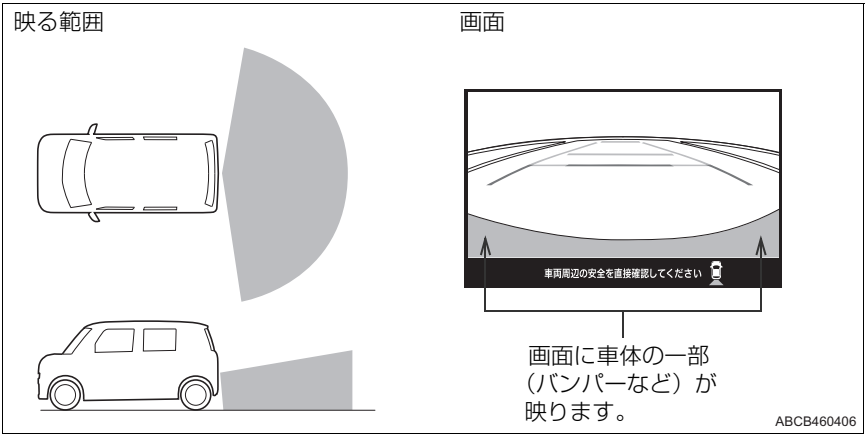
▶フロントワイドビュー



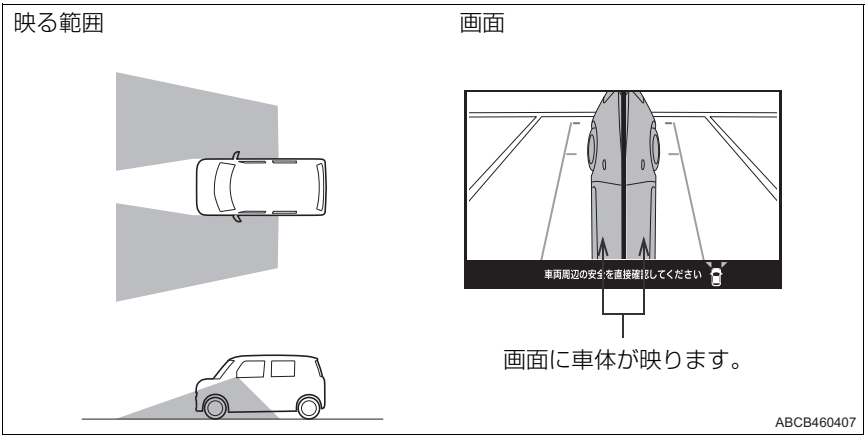
▶リヤビュー



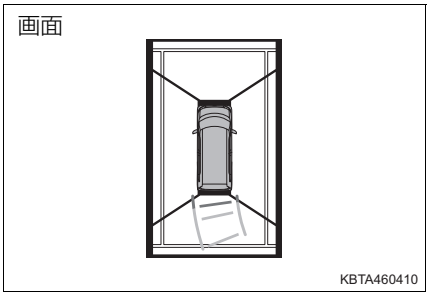
▶リヤワイドビュー



▶サイドビュー



▶トップビュー

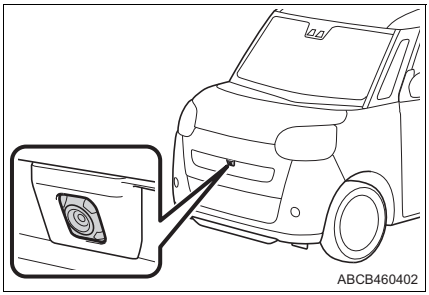


- トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。
- パノラマモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。
- カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- パノラマモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。

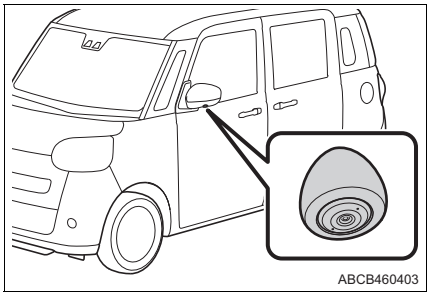
■ カメラについて

パノラマモニターの各カメラは次の位置にあります。

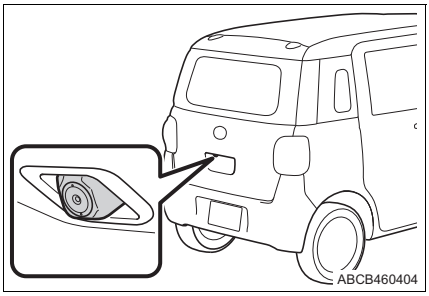
▶フロントカメラ



▶サイドカメラ（左右）



▶バックカメラ



●カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください

知識

●パノラマモニター対応純正ナビゲーション、ディスプレイオーディオ以外を装着した場合は、パノラマモニターが正常に作動しないことがあります。

●次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。

- 暗いところ（夜間など）
- レンズ付近の温度が高い、または低いとき
- カメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
- カメラ付近に異物（泥など）がついたとき
- 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズに当たったとき

⚠ 警告

■パノラマモニターについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パノラマモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。

●運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。

●画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

●次のような状況では、使用しないでください。

- 凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
- タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
- フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
- 坂道など平坦でない路面
- ドアミラーを格納しているとき

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

⚠ 注意

■ **カメラの取り扱いについて**

●パノラマモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

- カメラ周辺にはカメラの視野に影響をおよぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
- カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は防水構造となっていますので、取り外し・分解・改造をしないでください。
- カメラレンズを洗うときは、水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でふき取ってください。
  カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
- カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●次の場合はカメラの故障などのおそれがあります。早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- カメラ部をぶつけたとき
- トップビューの映像が大きくずれているとき

スマートパノラマパーキングアシスト★

パノラマモニターを用いて駐車を補助するシステムです。パノラマモニターの項目の内容も併せてお読みください。(→ P. 343)

ハンドルを自動で操作することにより、設定した目標駐車枠への駐車を補助します。(シフトレバー操作および、前進・後退時の速度調整は自動で行いません)

●スマートパノラマパーキングアシストは駐車時のハンドル操作をアシストするものであり、自動駐車システムではありません。周囲の安全確認と、車両のシフトレバー操作、アクセルペダル、ブレーキペダル操作は運転者が行ってください。

●設定した目標駐車枠に向けハンドル操作をアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車枠までの距離などにより、設定した目標駐車枠に到達できない場合があります。

⚠ 警告

■スマートパノラマパーキングアシストについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●スマートパノラマパーキングアシストを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながらゆっくり前進、または後退してください。

●スマートパノラマパーキングアシストはシステムで停車を行いません。目標駐車枠、前進開始枠、後退開始枠では、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

●スマートパノラマパーキングアシストはシステムで障害物検知を行いません。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認してください。

●スマートパノラマパーキングアシストはシステムでシフトレバー操作を行いません。アシストを終了したあとは、必ず運転者自らお車を停止しシフトレバーをＰにしてください。

●スマートパノラマパーキングアシストによるアシストが必要なくなったときは、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止してください。システムが作動状態のままだと自動でハンドルが操作され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

●画面だけを見ながら前進、または後退することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあり、お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で前進、または後退してください。

●駐車枠のある平坦な駐車場で使用してください。

●使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。

・ ネクタイ、スカーフ、腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近付けないでください。また、お子さまがハンドルに近付かないよう注意してください。

・ 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。

・ 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止してください。

・ 緊急時以外は自動で回転しているハンドルを握らないでください。

●前進、または後退するときは、車速が出過ぎないよう注意しながらブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、ゆっくり前進、または後退してください。

●システムが目標駐車枠まで移動ができないと判断した場合、アシストを中止することがあります。運転者自らハンドルを操作して駐車するか、適切な位置に車両を移動させてください。

●周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止してください。

●駐車するときは、必ず目標駐車枠にお車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

●障害物などがあり後退開始枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで障害物の手前で車両を停止させ、シフトレバーで進行方向を切り替えてください。システムが経路の再計算を行います。

・ 周囲の状況によって、経路の再計算が行われず、「前進してください」、または「バックしてください」とガイダンスが行われるときは、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止してください。

●障害物などがあり目標駐車枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んでお車を停止させ、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止し、運転者自らハンドルを操作して駐車するか、適切な位置に車両を移動させてください。

⚠ 警告

●次のような状況では使用しないでください。

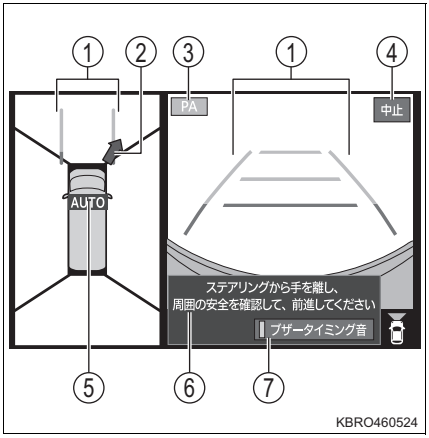
- 人や車両などの通行量が多い場所
- 停車および駐車が禁止されている場所
- 車両が入らないほど狭い場所
- 駐車場以外の場所
- 駐車枠が斜めになっている場所
- 通路幅が狭い（約 4.0m 以下）場所
- 穴や溝などがあるような場所
- 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
- 急な勾配のある場所
- 砂地や砂利道などの整備されていない路面
- 雪や凍結などでスリップしやすい路面
- 機械式駐車場や駐車場所に障害物などがある場所
- ダイハツ純正品以外のタイヤを装着しているとき
- スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- けん引フックなどの車両の全長や幅が変化するものを取り付けているとき
- カメラが正常に取り付けられていないとき
- カメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
- 画面に映し出されている映像が汚れや太陽光、影などで見にくいとき
- いずれかのドアが確実に閉まっていないとき
- ドアミラーを格納しているとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 周囲の車両が駐車枠からはみ出しているとき
- 駐車動作を行う範囲、駐車枠内、枠線上に障害物があるとき
- 車両を改造・架装したとき

●アシスト中にガイダンスが行われなくなったときは、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■パノラマモニターについて

→ P. 348

アシスト画面について



① 予想進路線

(→ P. 343)

② 進行方向アイコン

停止位置が画面上に表示されていないとき、その方向を示します。

③ PA アイコン

スマートパノラマパーキングアシストが作動しているとき表示されます。

④ 中止アイコン

選択すると、アシストを中止します。

⑤ AUTO アイコン

アシスト中であることを示します

⑥ ガイダンス

システムの作動状態、運転者への操作案内を表示します。表示内容に従って操作を行ってください。

⑦ 停止位置接近ブザー切り替え

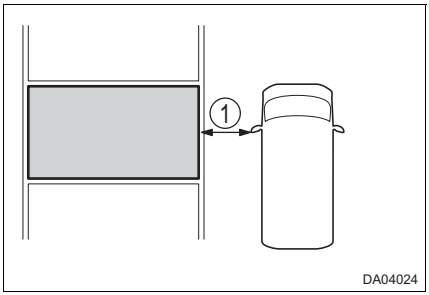
選択するごとに、停止位置接近ブザー(→ P. 373)を ON ／ OFF できます。

アシストを開始する

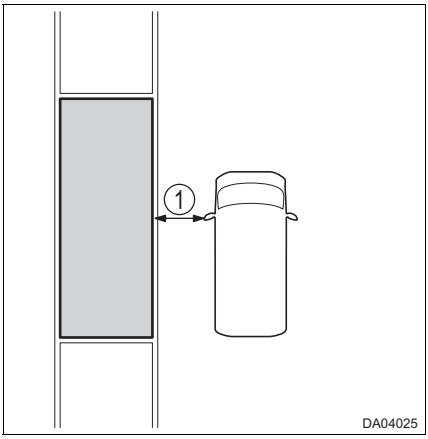
1 駐車枠から約 1m の間隔（①）をあけて、駐車枠の中央が真横に見える位置で並行に停車する

- 手順 4 が終わるまでは、ブレーキペダルを踏み続けてください。
- 画面は並列駐車を例として説明します。

▶並列駐車の場合



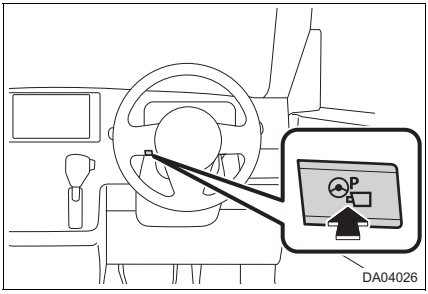
▶縦列駐車の場合



2 カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しする

駐車枠が検知されると“駐車枠提案画面”が表示されます。

駐車枠を検知できない場合はアシストを中止します。手順 1 からやり直してください。



3 “駐車枠提案画面”に表示された駐車枠から、お好みの駐車枠で［はい］を選択する

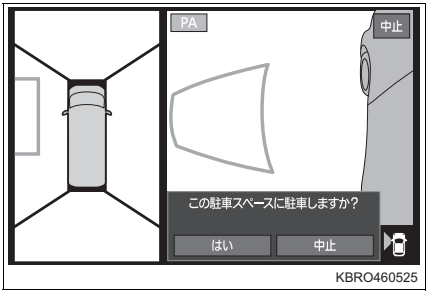
表示された駐車枠が車両を駐車できる十分な広さであり、駐車可能な場所であることを確認してください。

［別スペース］を選択すると、反対側の駐車枠が表示されます。

経路の計算が完了すると、“周囲状況確認画面”が表示されます。

選択した駐車枠により、駐車位置までの経路と前進・後退を繰り返す回数が変わります。

［中止］を選択すると、アシストを中止します。



KBRO460525

▶縦列駐車のときは

［狭く］または［広く］を選択することで、駐車枠の大きさを調整することができます。

4 “周囲状況確認画面”に表示された青いエリア内に壁や障害物などがないことを確認して、［はい］を選択する

必ず直接確認してください。

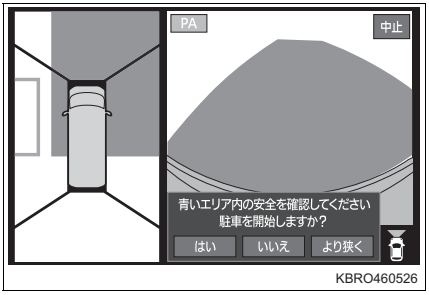
アシストが開始されると、ハンドルが自動的に回転します。［はい］、［いいえ］を選択する前に正しい運転姿勢を取り、ハンドルから手を離してください。

• ハンドルは常に握れるようにしておいてください。

［いいえ］を選択すると、アシストを中止します。

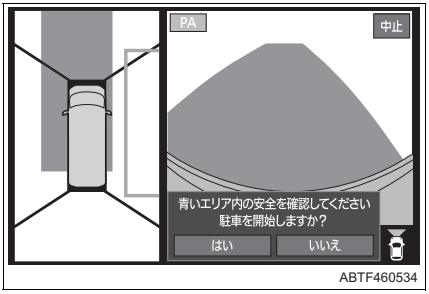
▶並列駐車のときは

［より狭く］または［より広く］を選択することで、エリアの大きさを調整することができます。



KBRO460526

▶縦列駐車のときは



ABTF460534

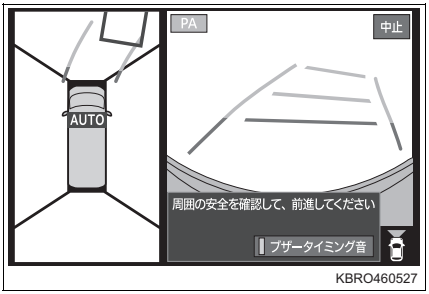
5 ガイダンスに従ってゆっくり前進する

正しい運転姿勢を取り、ハンドルから手を離し、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、前進してください。

- 車速が約 5km/h を超えないようにしてください。

ハンドルは自動で動きます。

- ハンドルは常に握れるようにしておいてください。



KBRO460527

6 ガイダンスに従って、停止位置（後退開始枠内）で停止する

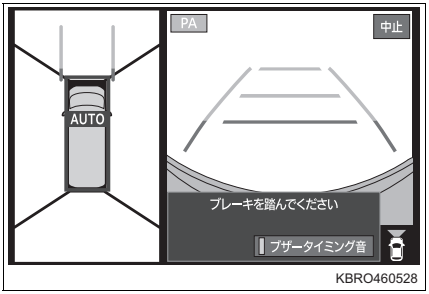
「ブレーキを踏んでください」とガイダンスが行われたら、ブレーキを踏んでください。

停止したとき、停止位置に近付く必要がある場合は、「前進してください」とガイダンスが行われます。

停止位置を通り過ぎたときは、アシストを中止します。

停止位置から離れたところで停止したまま、シフトレバーを D・S・B 以外にすると、経路の再計算が行われます。

- 経路の再計算が完了すると、アシストを継続します。
- 経路の再計算ができなかったときは、アシストを中止します。



KBRO460528

7 「シフトを R に切替えてください」とガイダンスが行われたら、シフトレバーを R にする

シフトレバーを R にしないまま約 60 秒経過すると、アシストを中止します。

8 ガイダンスに従って、ゆっくり後退する

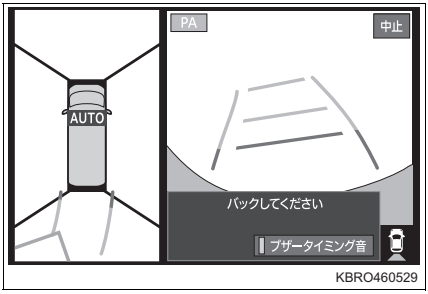
正しい運転姿勢を取り、ハンドルから手を離し、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、後退してください。

- 車速が約5km/hを超えないようにしてください。

ハンドルは自動で動きます。

- ハンドルは常に握れるようにしておいてください。

目標駐車枠に一度で入りきらない場合は、手順 5 から 9 を繰り返す場合があります。



KBRO460529

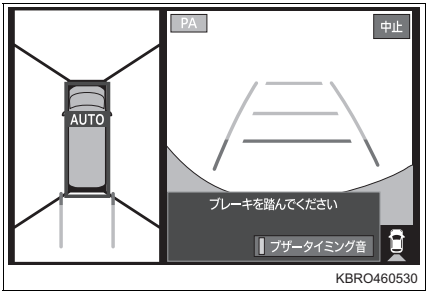
9 ガイダンスに従って、停止位置（目標駐車枠内）で停止する

「ブレーキを踏んでください」とガイダンスが行われたら、ブレーキを踏んでください。

停止したとき、停止位置に近付く必要がある場合は、「バックしてください」とガイダンスが行われます。

お車が目標駐車枠内に入ると、アシストを終了します。

お車から降りるときは、シフトレバーがPであることを確認してください。



KBRO460530

スマートパノラマパーキングアシストが起動しない

次の状態のときは、スマートパノラマパーキングアシストが起動しません。

- ●車両が完全に停止していないとき
- ●装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムが起動中のとき
- ●「駐車支援機能が使えません」のメッセージが表示されているとき
- ●シフトレバーがD・S・B以外のとき
- ●パーキングブレーキがかかっているとき
- ●ハンドルがまっすぐになっていないとき
- ●いずれかのドアが確実に閉まっていないとき
- ●ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ●バッテリー脱着直後

アシストを中止する

●駐車枠を検知しているとき（“駐車枠提案画面”表示中）、次のいずれかの状態になると、アシストを中止します。
- 車両が動いたとき
- シフトレバーをD・S・B以外にしたとき
- ハンドルを操作したとき
- 画面の［中止］を選択したとき
- カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししたとき

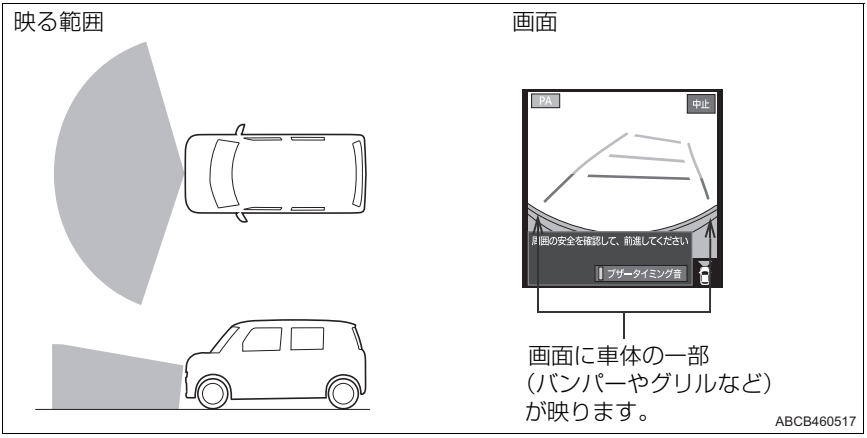
●アシスト開始前（“周囲状況確認画面”表示中）、次のいずれかの状態になると、アシストを開始できず、アシストを中止します。
- 車両が動いたとき
- シフトレバーをD・S・B以外にしたとき
- ハンドルを操作したとき
- 画面の［中止］を選択したとき
- カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししたとき

●アシスト中、次のいずれかの状態になると、アシストを中止します。
- 車速が約5km/hを超えたとき
- 停止位置が大きくずれたとき
- 停止位置の手前での停車、または停止位置を通り過ぎての停車を繰り返したとき
- 前進しているときに、シフトレバーをD·S·B以外にして車両が動いたとき
- 後退しているときに、シフトレバーをR以外にして車両が動いたとき
- ハンドルを操作したとき
- 後退を9回以上繰り返したとき
- 画面の［中止］を選択したとき
- カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししたとき
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）、または衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）によってブレーキが作動したとき
- EPS（エレクトリックパワーステアリング）が使用できなくなったとき
- 急発進、急停止などにより駐車経路を大きく逸脱したとき
- ハンドルを大きく切った状態で急発進・急停車したとき
- 経路の再計算中に車両が動いたとき
- 「シフトをDに切替えてください」とメッセージが表示されてから、約60秒間シフトレバーをD・S・Bにしなかったとき
- 「シフトをRに切替えてください」とメッセージが表示されてから、約60秒間シフトレバーをRにしなかったとき
- 「前進してください」、または「バックしてください」とメッセージが表示されてから、約30秒間車両を動かさなかったとき
- アシスト開始時にブレーキ保持が解除されないとき

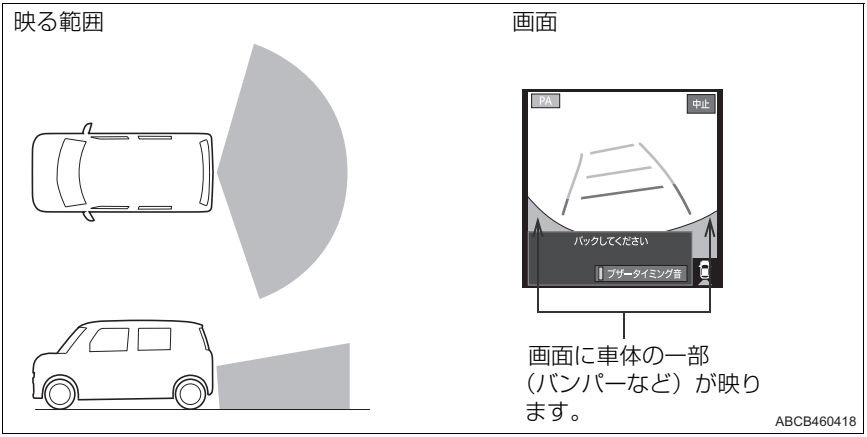
使用上の注意点について

■ 画面に映る範囲について

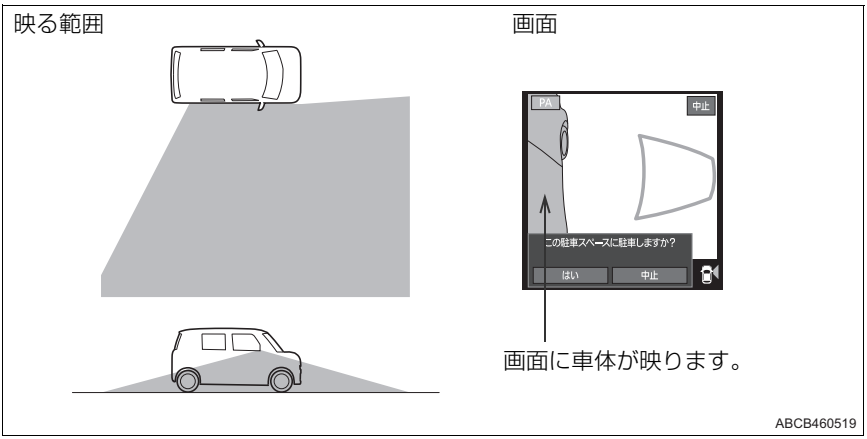
▶フロントビュー



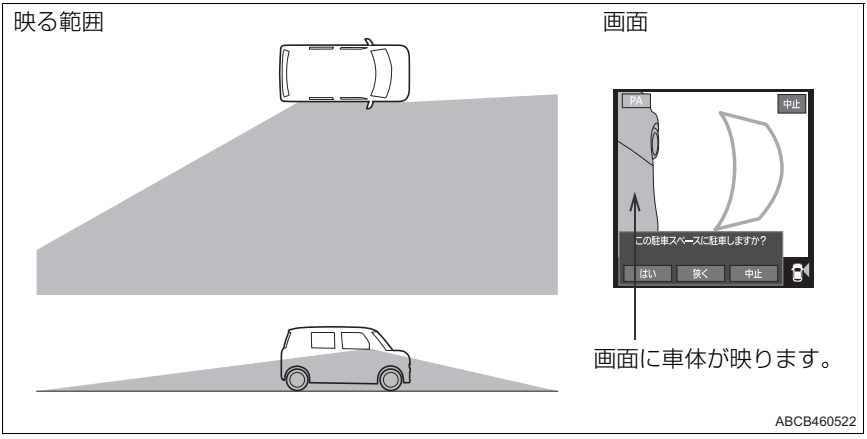
▶リヤビュー



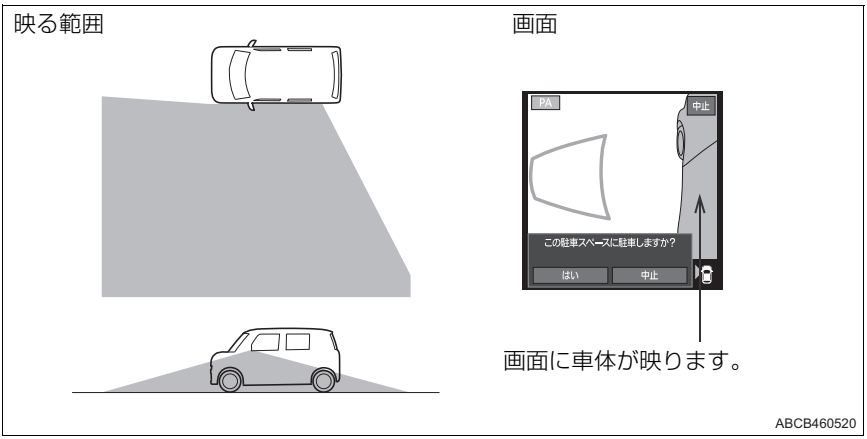
▶ライトサイドビュー（並列駐車時）



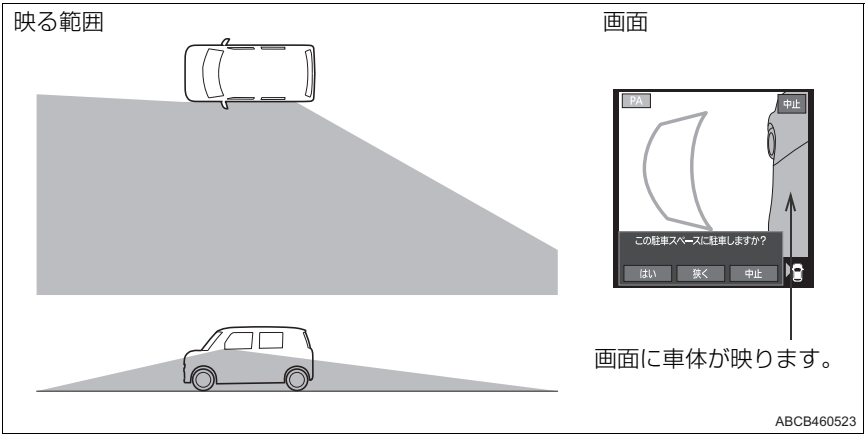
▶ライトサイドビュー（縦列駐車時）



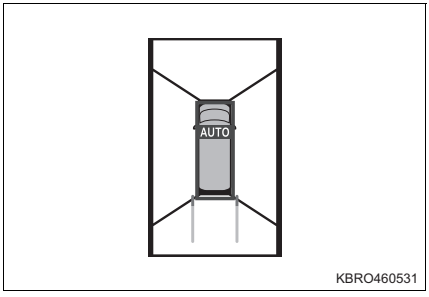
▶レフトサイドビュー（並列駐車時）



▶レフトサイドビュー（縦列駐車時）



▶トップビュー



●トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。

●乗車人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。

●パノラマモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。

●カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

●パノラマモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。

■ カメラについて

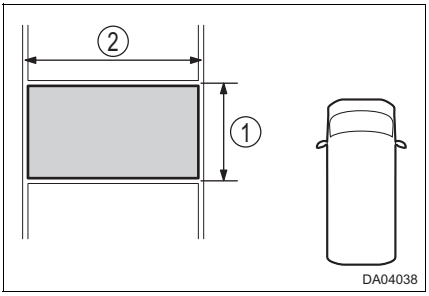
→ P. 347

■ 並列駐車時の駐車枠について

次のような駐車枠が標準的な対象駐車枠です。

●間口約2.0m～3.5m(①)の駐車枠

●奥行き約 3.6m ～ 6.0m（②）の駐車枠



●長方形の駐車枠

●区画線の太さが約 15cm の駐車枠

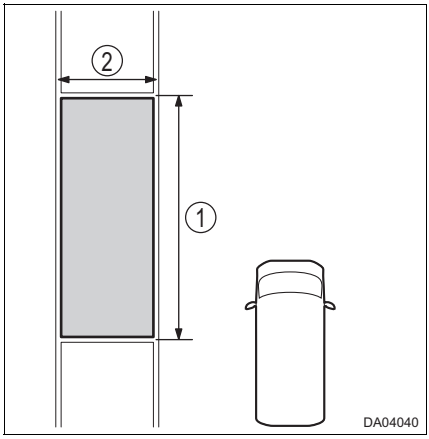
●区画線が白色の駐車枠

■ **縦列駐車時の駐車枠について**

次のような駐車枠が標準的な対象駐車枠です。

●間口約5.0m～5.7m(①)の駐車枠

●奥行き約 2.0m（②）の駐車枠



●長方形の駐車枠

●区画線の太さが約 15cm の駐車枠

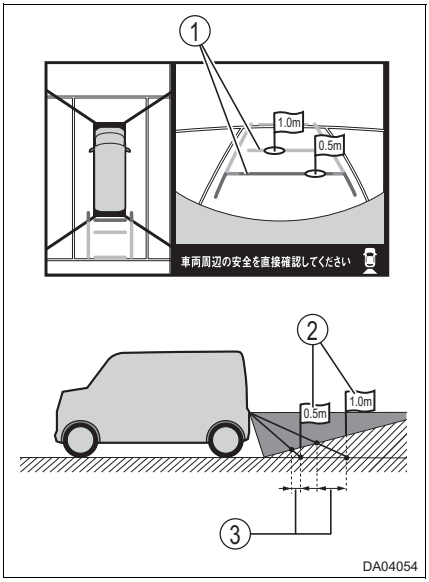
●区画線が白色の駐車枠

■ 画面と実際の路面との誤差について（リヤビュー、リヤワイドビュー）

距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

●急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



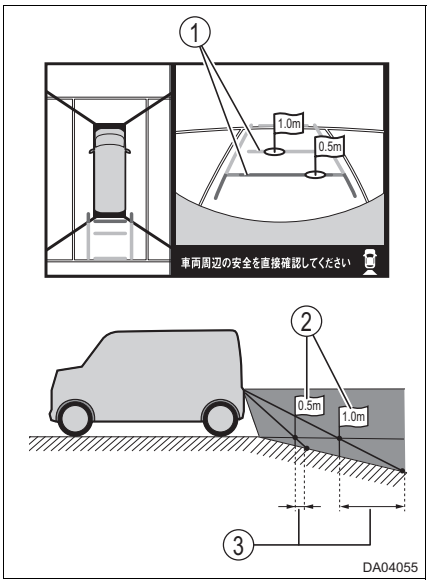
① 距離目安線

② 実際の距離

③ 誤差

●急な下り坂が後方にあるとき

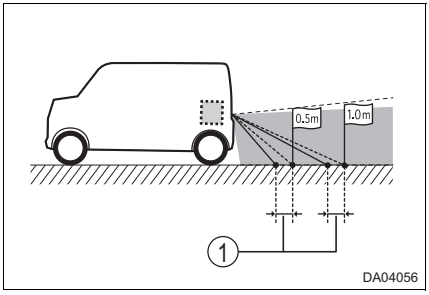
実際の距離より後ろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は実際より近くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



① 距離目安線
② 実際の距離
③ 誤差

●お車が傾いているとき

乗車人数、積載量などによりお車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。



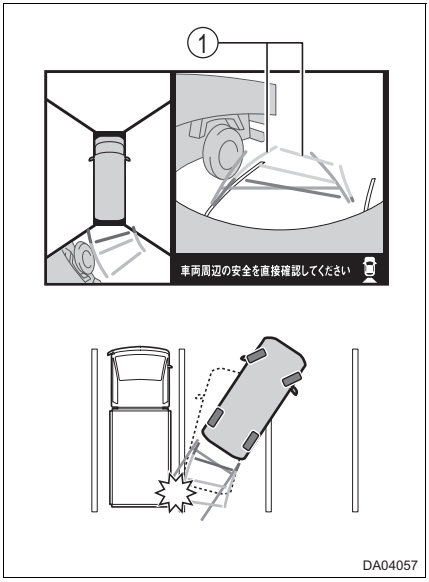
① 誤差

■ 立体物が近くにあるとき（フロントビュー、ワイドフロントビュー、リヤビュー、リヤワイドビュー）

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することができません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことに注意してください。

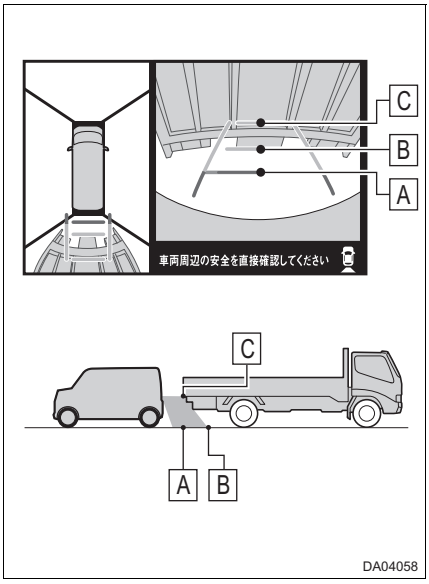
●予想進路線について

周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。



① 予想進路線

●距離目安線について



周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線よりBの位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際にはAの位置まで前進、または後退すると、ぶつかります。画面ではA、B、Cの順に近く見えますが、実際の距離はAとCは同じ距離で、BはAとCより遠い距離にあります。

メッセージについて

スマートパノラマパーキングアシストが起動できないときや、アシストを中止したときは、次のメッセージが表示されます。表示をもとに適切に対処してください。

ただし、同じメッセージが繰り返し表示される場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ システム起動時

メッセージ	状況・対処方法
駐車支援機能が使えません	システムが故障している **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
シフトをDに切替えてください	シフトレバーがD・S・B以外にある **→ シフトレバーをD（またはS・B）にして、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししてください。**
パーキングブレーキを解除してください	パーキングブレーキをかけたままにしている **→ パーキングブレーキを解除して、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒長押ししてください。**
停止してください	カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししているときに車両が動いている **→ 車両を完全に停車し、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししてください。**
ステアリングを真っ直ぐにしてください	ハンドルが大きく傾いている **→ ハンドルをまっすぐにし、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししてください。**
ドアを閉じてください	いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉め、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししてください。**
ブレーキを強く踏んでください アシストを中止します	ブレーキペダルを踏んでいない **→ ブレーキペダルをしっかりと踏み、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししてください。**

■ 駐車枠検知時

メッセージ	状況・対処方法
車速を検知しました アシストを中止します	駐車枠検知中に車両が動いた **→ はじめからやり直してください。**
駐車スペースが見つかりませんでした 別の場所を探してください	駐車枠検知ができなかった **→ はじめからやり直してください。または、場所を変えてはじめからやり直してください。**
ステアリング操作を検知しました アシストを中止します	ハンドルを操作した **→ はじめからやり直してください。**
シフト操作を検知しました アシストを中止します	アシストを開始する前にシフトレバーを操作した **→ はじめからやり直してください。**
中止スイッチが操作されました アシストを中止します	• カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しした • 画面の［中止］を選択した • “周囲状況確認画面”で［いいえ］を選択した **→ はじめからやり直してください。**

■ アシスト開始時

メッセージ	状況・対処方法
自動操舵ができません アシストを中止します	EPS（エレクトリックパワーステアリング）に異常が発生した（パワーステアリング警告灯（赤色）が点灯します） **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	EPS（エレクトリックパワーステアリング）が使えない状態にある（パワーステアリング警告灯（黄色）が点灯することがあります） **→ 約10分ハンドル操作を控えてください。その後、はじめからやり直してください。**
	eco IDLE によるエンジン停止から再始動できなかった **→ はじめからやり直してください。**
	ハンドルを握り続けている **→ ハンドルから手を離して、はじめからやり直してください。**

メッセージ	状況・対処方法
駐車支援機能が使えません	システムが故障している **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
ブレーキを強く踏んでください アシストを中止します	ブレーキ保持が解除されなかった **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
中止スイッチが操作されました アシストを中止します	• カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しした • 画面の［中止］を選択した **→ はじめからやり直してください。**
車速を検知しました アシストを中止します	「前進してください」のガイダンスが行われる前に車両が動いた **→ はじめからやり直してください。**

■ アシスト中

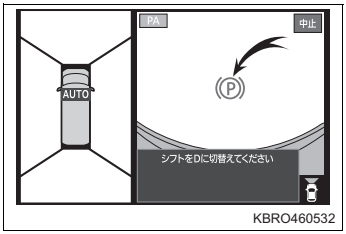
メッセージ	状況・対処方法
ステアリング操作を検知しました アシストを中止します	アシスト中に、ハンドルを操作した **→ はじめからやり直してください。**
駐車支援機能が使えません アシストを中止します	システムが故障している **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
進行方向が誤っています アシストを中止します	• 前進しているときに、シフトレバーを D・S・B 以外にして車両を動かした • 後退しているときに、シフトレバーを R 以外にして車両を動かした **→ はじめからやり直してください。**
速度超過を検知しました アシストを中止します	車速が約 5km/h を超えた **→ はじめからやり直してください。**
経路が引けませんでした アシストを中止します	経路の再計算ができなかったとき **→ はじめからやり直してください。**
停車位置を通り過ぎました アシストを中止します	停車位置を約 1.5m 以上通り過ぎた **→ はじめからやり直してください。**
車速を検知しました アシストを中止します	経路再計算中に車両が動いた **→ はじめからやり直してください。**

メッセージ	状況・対処方法
自動操舵ができません アシストを中止します	（急発進・急加速・急停止などにより）アシストによる経路を逸脱した **→ はじめからやり直してください。**
自動操舵ができません アシストを中止します	EPS（エレクトリックパワーステアリング）に異常が発生した（パワーステアリング警告灯（赤色）が点灯します） **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	EPS（エレクトリックパワーステアリング）が使えない状態にある（パワーステアリング警告灯（黄色）が点灯することがあります） **→ 約 10 分ハンドル操作を控えてください。その後、はじめからやり直してください。**
	• ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）、または衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）によってブレーキが作動した • 後退を 9 回以上繰り返した **→ はじめからやり直してください。**
操作が検出されませんでした アシストを中止します	•「シフトを D に切替えてください」とメッセージが表示されてから、約 60 秒間シフトレバーを D・S・B にしなかった •「シフトを R に切替えてください」とメッセージが表示されてから、約 60 秒間シフトレバーを R にしなかった •「前進してください」、または「バックしてください」とメッセージが表示されてから、約 30 秒間車両を動かさなかった **→ はじめからやり直してください。**
中止スイッチが操作されました アシストを中止します	• カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しした • 画面の［中止］を選択した **→ はじめからやり直してください。**

知識

■パーキングブレーキ未解除表示について

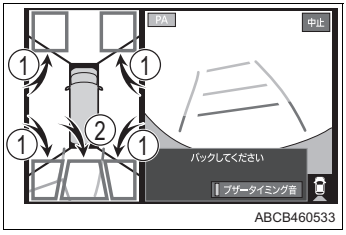
スマートパノラマパーキングアシスト作動中にパーキングブレーキをかけると、画面上にパーキングブレーキ未解除をお知らせする表示が行われます。



KBRO460532

■コーナーセンサー表示について

●スマートパノラマパーキングアシスト作動中、コーナーセンサーの作動条件（→ P. 332）を満たしているときに、ソナーが障害物を認識すると、ブザーが鳴り画面上に認識している箇所が枠で表示され、コーナーセンサーの作動をお知らせします。



ABCB460533

・障害物との距離が短くなると、枠の色が次の表の通り変化します。

枠の色	ソナーと障害物の距離	
	①	②
緑色	—	約 150 ～ 60cm
緑色	約 60 ～ 45cm	
黄色	約 45 ～ 30cm	
赤色	約 30cm 以内	

●スマートパノラマパーキングアシスト作動中は、シフトレバーが P 以外でリヤコーナーセンサーが作動します。

■ガイダンスについて

システムの作動状態、運転者への操作案内を画面の表示、音声でお知らせします。

●音声の音量は、調整することができます。詳しくは、装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。

●状況によっては車両内外の騒音などにより、音声が聞こえない場合があります。

知識

■停止位置接近ブザーについて

前進、または後退中、停止位置に近付くと、ブザーが鳴ります。

●画面の“ブザータイミング音”を選択するごとに、停止位置接近ブザーをON ／ OFF できます。

■駐車枠の検知ができない駐車場

次のような駐車場では、駐車枠を検知しません。

●区画線が斜めの駐車場

●駐車枠がロープ、ブロックなどで作られている区画線がない駐車場

■駐車枠検知が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、路面の駐車枠を正しく検知することができない場合があります。

●自車が駐車枠に近過ぎる、または遠過ぎるとき

●自車が駐車枠に対して傾いて停車しているとき

●区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき

●路面と区画線のコントラストが低いとき

●区画線が白色以外のとき

・黄色やオレンジ色の区画線は、路面と区画線との色合いの違いにより駐車枠を検知することができないことがあります。

●駐車枠が極端に狭い、または広いとき

●区画線が極端に短いとき

●区画線が極端に細い、または太いとき

●駐車枠が傾斜していたり、途中に段差があるとき

●画面に表示したカメラ画像で区画線が 1 本しか見えないとき（並列駐車時）

●区画線が斜め線と接続されているなど、枝分かれして見えるとき

●区画線に車両の影や木陰などがかかっているとき

●片方の区画線の長さが他方の長さと大きく異なるとき

●隣の車両や障害物などが区画線上にあるとき

●駐車区画内に障害物があるとき

●夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）などで区画線がはっきりと映っていないとき

●周囲に草が生い茂っているとき

●太陽や電灯の強い光が路面に当たっているとき

知識

●路面の色や明るさが一様でないとき
●降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
●路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
●画面上で、駐車枠内に模様があるように表示されているとき
●駐車枠内に文字などが描かれているとき
●石畳や緑化駐車場
●路面上に積雪や融雪剤があるとき
●カメラが曇っていたり、雨粒、雪、霜や土ぼこりなどによる汚れが付着しているとき
●カメラが太陽光や対向車のヘッドランプなどの強い光を受けているとき
●カメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
●区画線に見えるような光、建物などの映り込み、段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
●区画線に駐車車両のサイドステップや、影が差しかかっているとき
●路面補修痕や路面表示などがあるとき
●ポールなどの障害物があるとき
●傾斜や勾配がついている駐車場
●重い荷物を積んで車両が傾いているとき

■アシストが正常に作動しないおそれのある状況

●「前進してください」、または「バックしてください」とガイダンスが行われる前にハンドルが自動で動くことがあります。このとき、車両を動かすと、設定した位置にアシストできなかったり、アシストを中止することがあります
●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
・走行中にシフトレバーを切り替えたとき
・急発進、急停止、急なシフトレバー操作をしたとき
・摩耗しているタイヤを装着しているとき
・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
・重い荷物を積んで車両が傾いているとき
・バッテリーの放電量が多いとき
・強風や突風を受けたとき

⚠ 注意

■カメラの取り扱いについて
→ P. 349

プラスサポート（販売店オプション）

プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。

プラスサポートを使用するためには、専用の電子カードキー（プラスサポート用電子カードキー、以下、「サポキー※」といいます）が必要です。

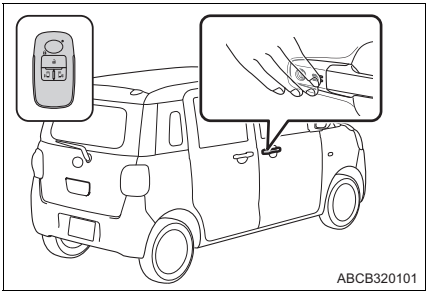
※ “サポキー” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→ P. 133）

エンジンスイッチが “OFF” 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。

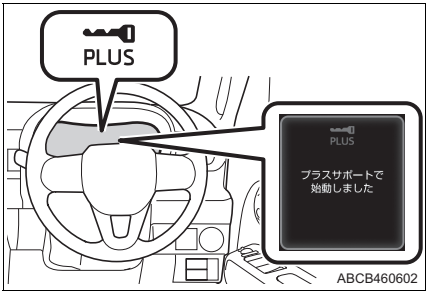


2 通常の手順でエンジンを始動する（→ P. 199）

3 プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

エンジンスイッチを “OFF” にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、「プラスサポートで始動しました」のメッセージも同時に表示されます。



4 ENTER スイッチ（→ P. 89）を押してメッセージを非表示にする（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車）

ENTER スイッチを押すまで、「プラスサポートで始動しました」のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子カードキーを携帯してドアを解錠し、エンジンを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

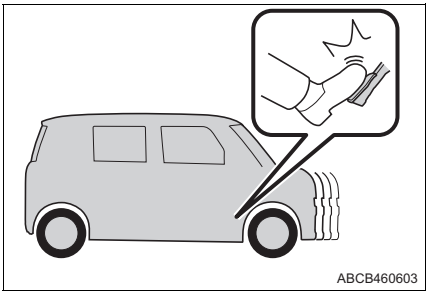
⚠ 警告

■プラスサポートを正しく使用するために

- ●必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子カードキーを携帯しているときは、プラスサポートが作動しません。
- ●サポキーと標準装備の電子カードキーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- ●エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。（→ P. 72）プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- ●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- ●急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制中も車両は動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- ●急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- ●お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

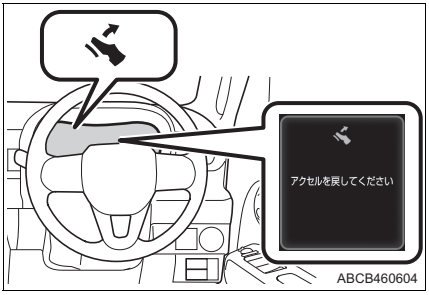
急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。ただちにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車は急アクセル時加速抑制警告灯（→ P. 509）が点灯し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は「アクセルを戻してください」の警告メッセージが表示されます。（→ P. 527）



急アクセル時加速抑制が作動したときは、ただちにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- ●シフトポジションが P・N 以外のとき
- ●車速が約 30km/h 以下のとき
- ●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

- ●加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- ●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。

アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- ●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約２秒間
- ●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 ２秒間
- ●急な上り坂に自車がいるとき
- ●衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシスト、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動中
- ●プラスサポートの故障表示があるとき
  - ・TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車:プラスサポート警告灯が点灯（→ P. 509）
  - ・TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車：警告メッセージが表示（→ P. 527）

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

- ●車両の変化
  - ・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
  - ・ローダウンサスペンション、純正と異なるサイズのタイヤなどを取り付けたとき
- ●周辺環境の影響
  - ・坂道・凹凸道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
  - ・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
  - ・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
  - ・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき
- ●運転操作の影響

  急アクセル時加速抑制作動中にブレーキオーバーライドシステムが作動したとき

知識

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両の変化

- 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ローダウンサスペンション、純正と異なるサイズのタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

- 坂道・凹凸道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- 坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響

- 車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- 惰性走行から急いで加速しようとしたとき
- ETC ゲート通過後に急加速したとき
- オートブレーキホールドシステム★によるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき
- 全車速追従機能付 ACC★による制御中または停車保持中に急加速、急発進しようとしたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC※

急なハンドル操作や滑りやすい路面で旋回するときに横滑りを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC※

滑りやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ CTA（コーナリングトレースアシスト）★

旋回時に、車両が外側にふくらんでいると検知したとき、ブレーキ制御を内輪に行うことで旋回性能を高め、コーナリングをアシストします。

◆ ヒルホールドシステム

上り坂で発進するときにお車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ フルタイム 4WD★

オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。滑りやすい雪道や上り坂などでスムーズな発進、加速に貢献します。

通常の直進走行では FF（前輪駆動）に近い状態で走行します。

前・後輪に回転差が生じるとビスカスカップリングにより、その回転速度の差に応じた最適なトルクを後輪へ配分します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ スマートアシスト

→ P. 242

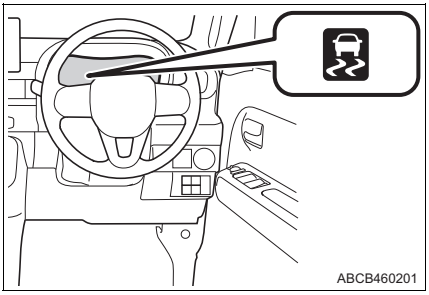
◆ エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させます。

※ “VSC”、“TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

VSC・TRC が作動しているとき

VSC・TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



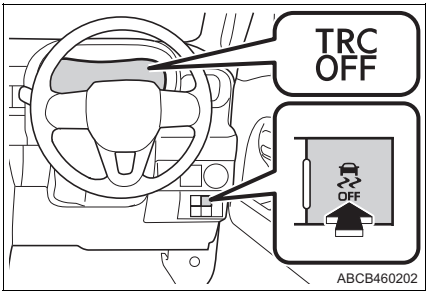
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

再度 OFF を押すと、システム作動可能状態に戻ります。



知識

■VSC と TRC を停止するには

VSC と TRC を停止するには、停車時に  を３秒以上長押ししてください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

再度  を押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■  を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC およびヒルホールドシステムが作動できない状態になっています。ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ABS・VSC の作動について

ABS・VSC は、低速では作動しません。通常のブレーキと同じ作動になります。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルホールドシステムの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 車体やハンドルに振動を感じる
  - 車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■CTA の作動音と振動

CTA が作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■VSC や TRC の自動復帰について

VSC や TRC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態に戻ります。

- エンジンスイッチを“OFF”にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

  ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

知識

■CTA の作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中にアクセルペダルを踏んでいるとき

●車両が外側にふくらんでいるとシステムにより判断された

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態に戻ります。

■ヒルホールドシステムの作動条件

次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

●シフトレバーが P または、N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルホールドシステムの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または、N にした

●アクセルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■スリップ表示灯が点灯、および警告メッセージ★（→ P. 519）が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場に連絡してください。

■エマージェンシーストップシグナルの作動条件

次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 60km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された、または ABS が作動した

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エマージェンシーストップシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

●ABS が作動停止した

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面や滑りやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離を取ってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■VSC や TRC の効果を発揮できないとき

タイヤチェーンを装着したときなどには VSC や TRC が正確に機能しないおそれがあります。

■TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■CTA の効果を発揮できないとき

CTA を過信しないでください。すべての走行状況に応じて効果を発揮するわけではありません。常に安全運転を心がけてください。

⚠ 警告

■ヒルホールドシステムの効果を発揮できないとき

●ヒルホールドシステムを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドシステムが効かないことがあります。

●ヒルホールドシステムはパーキングブレーキのようにお車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗車人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ABS 警告灯、またはスリップ表示灯が点灯しているときは

エマージェンシーストップシグナル（→ P. 382）が作動しないことがあります。

■VSC や TRC を OFF にするとき

VSC や TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■フルタイム 4WD について★

●このお車の 4WD（フルタイム 4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。

●脱輪などにより、いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 568）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC・フルタイム 4WD★が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、ダイハツサービス工場に相談してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

●次のものはそれぞれ外気温に適したものを使用してください。

- エンジンオイル
- 冷却水
- ウォッシャー液

●バッテリーの点検を受けてください。

●冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前輪用）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも同一サイズ、同一銘柄で著しい摩耗差のないものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 450）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

●ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

●フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

●外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

●お車の下まわりをのぞいて、足まわりなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

●乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

●ゆっくりスタートし、車間距離を十分に取って控えめな速度で走行してください。

●積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

●雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

駐車するとき

●パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め※1 をしてください。
輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
パーキングブレーキがオートモード★のときは、シフトレバーを P に入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→ P. 210）

●パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2 を確認してください。

※1 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

※2 ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取り外し・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。ダイハツサービス工場で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を下げてください。

⚠ 警告

■ブレーキが凍結したとき

万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●同一メーカー·同一銘柄·同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する

●摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない

●空気圧を指定値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全にお車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したタイヤチェーンに定められた制限速度、または 30km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、お車のコントロールを失うのを防ぐ

⚠ 警告

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

●ダイハツ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

ダイハツ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体に当たり、走行の妨げとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

●タイヤチェーン装着時は、次のシステムが正確に作動しない場合があります。

- VSC
- TRC

●タイヤチェーンを装着するとホイールキャップに傷が付くおそれがあります。ホイールキャップを取り外した状態で、タイヤチェーンを装着してください。

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

■ドアやワイパー、ガラスが凍結したとき

●ぬるま湯をかけるなどして氷を解かしてください。

熱湯をかけると部品が破損したり、変形するなどのおそれがあります。

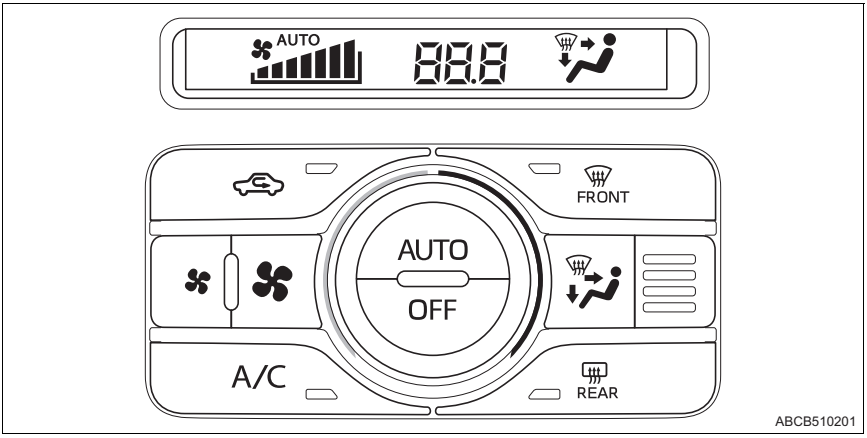
●凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどを無理に作動させると、ワイパーゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンの使い方
オートエアコン …… 394
シートヒーター …… 401
5-2. オーディオの使い方
ステアリングスイッチ …… 402
5-3. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 …… 403
5-4. 収納装備
収納装備一覧 …… 406
ラゲージルーム内装備 …… 417
5-5. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 …… 419

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

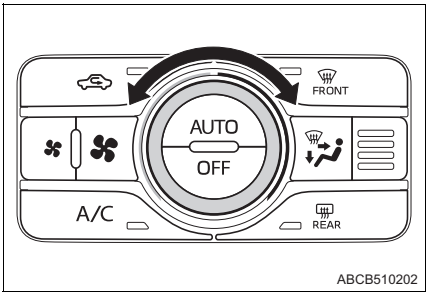


エアコンの操作について

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右に、下げるときは左に回す

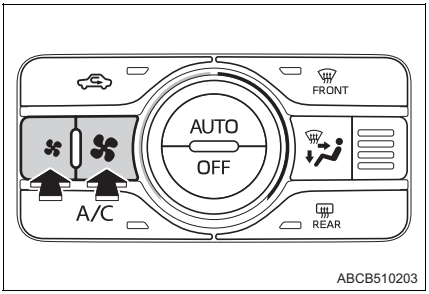
A/C　が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。



■ 風量を切り替える

風量を調節するには　の　（増）か　（減）を押す

OFF　を押すと、送風が止まります。



■ 吹き出し口を切り替える



を押す

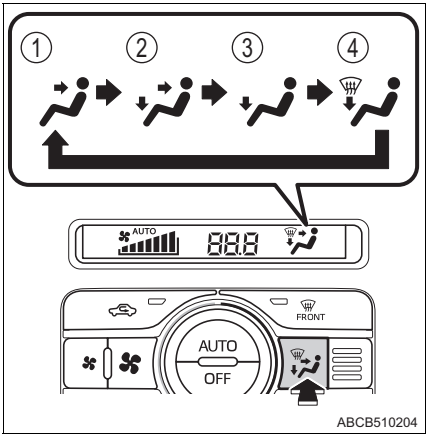
押すたびに吹き出し口が切り替わります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



オート設定を使うとき

1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

2 温度を設定する

3 A/C を押す

押すたびにエアコンの ON ／ OFF が切り替わります。

4 送風を止めたいときは OFF を押す

■ オート設定時の表示について

風量や吹き出し口を切り替えると、AUTO の表示が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

FRONT を押す

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切り替わります。

曇りが取れたら再度 FRONT を押すと、前のモードに戻ります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

REAR を押す

リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 風が出る位置と風量

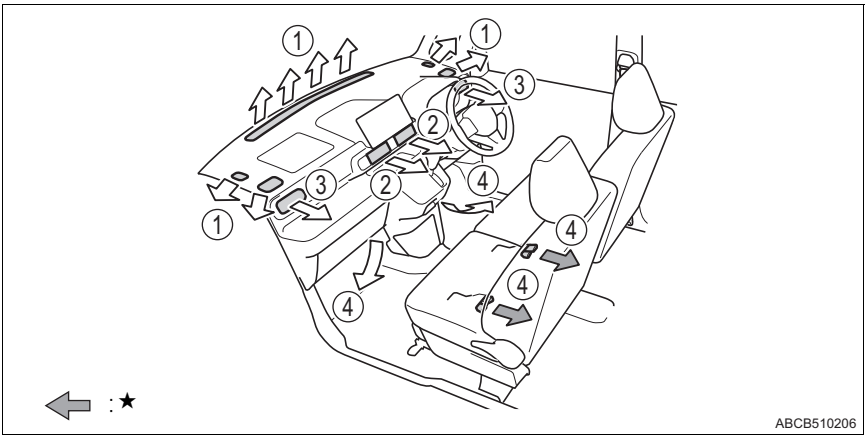
吹き出し口の設定により、風が出る位置や風量が次の表の通り変化します。

風量は吹き出し口によって異なります。

設定					FRONT
吹き出し口	② ③	② ③ ④	③ ④ (①)	① ③ ④	① ③

( ) は特に風量が少ないものを示します。

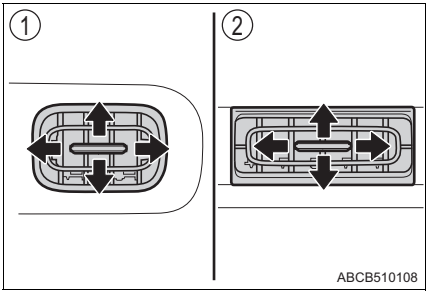
▶吹き出し口の位置



■ 風向きの調整

① 左右吹き出し口

② 中央吹き出し口



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

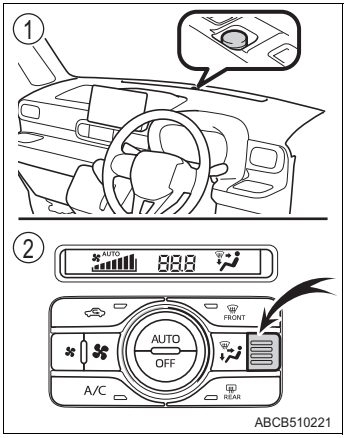
■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■温度調節センサーについて

オートエアコンには自動的に温度調節を行うために、センサーが取り付けられています。

① 日射センサー
日射量を検知します。
② 内気センサー
室内温度を検知します。



日射センサーの上にものを置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。

その場合は A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■冷房で使用しているとき

まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

知識

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より温められて送風されます。

■外気温度が 0℃付近まで下がったとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外の様々な臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。また、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■エアコンフィルターについて

→ P. 462

■音声認識機能について

スマホ連携ディスプレイオーディオ装着車は、音声認識機能を使用してエアコンを操作することができます。詳しくは、スマホ連携ディスプレイオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

■カスタマイズ機能

オートエアコンの設定を変更できます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

（一部機能はマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 79）

（一部機能は TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

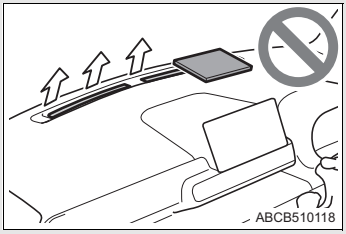
⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 

を押さないでください。また、吹き出し口を  に切り替えないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター★

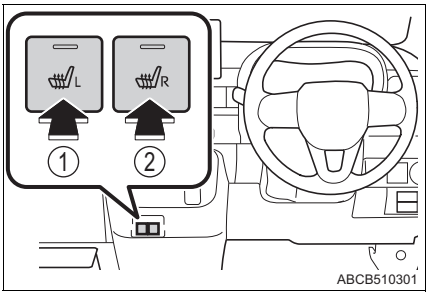
スイッチを押すと、シートヒーターが作動します。

① 助手席を温める

② 運転席を温める

シートヒーター作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。

再度押すと OFF になり、スイッチの作動表示灯が消灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■使用しないときは

スイッチを再度押してください。作動表示灯が消灯します。

⚠ 警告

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

●異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続で使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

⚠ 注意

■シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で使用しないでください。

■使用中に異常が発生したときは

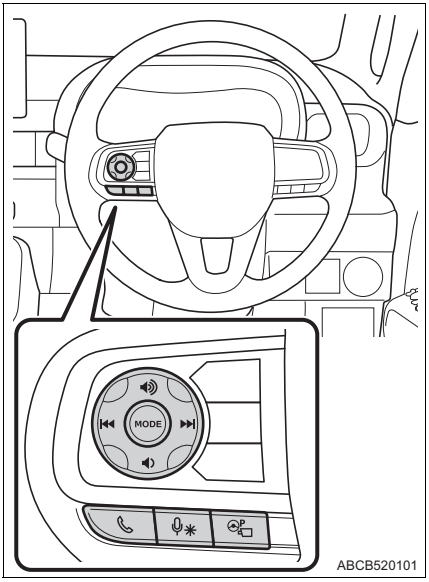
ただちに作動を停止し、ダイハツサービス工場に連絡してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングスイッチ★

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の取扱説明書をご覧ください。



スイッチの配置は、グレードなどで異なります。

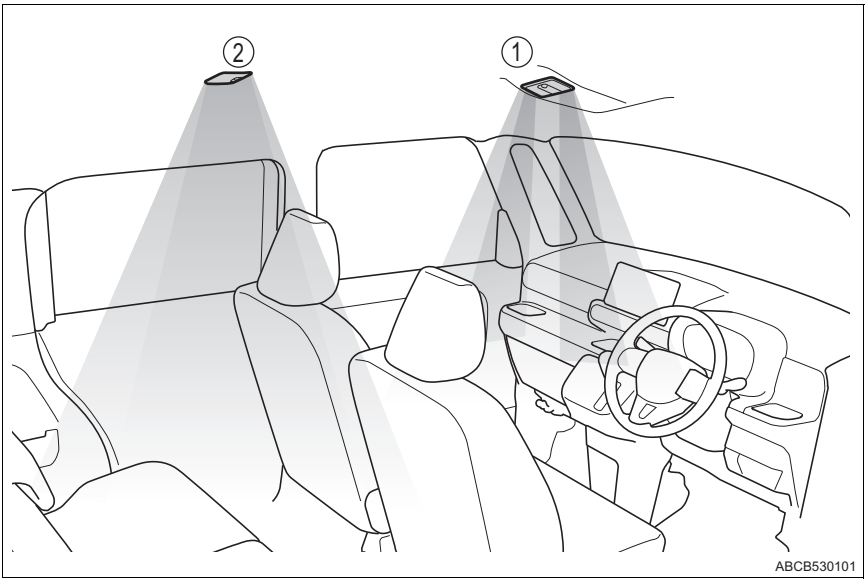
⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内灯一覧



① フロントパーソナルランプ

② ルームランプ

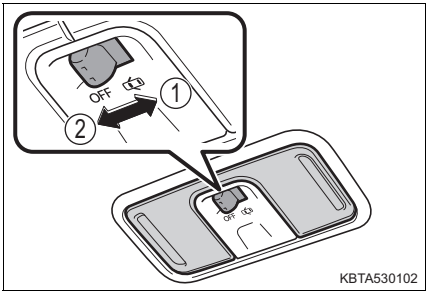
フロントパーソナルランプ

■ ドア連動スイッチでの操作

① ドアポジション（ドア連動）

ドアの開閉動作に連動してランプが点灯・消灯します。

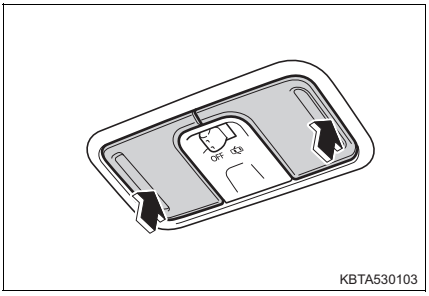
② ランプを消灯する



■ 独立スイッチでの操作

ランプを点灯・消灯する

ドア連動スイッチがドアポジションでドアが開いているときは、レンズを押しても消灯しません。



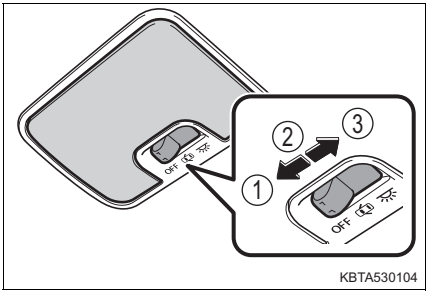
ルームランプ

① ランプを消灯する

② ドアポジション（ドア連動）

ドアの開閉動作に連動してランプが点灯・消灯します。

③ ランプを点灯する



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

ランプのスイッチがドアポジションのとき、次の場合に各部の照明が自動的に点灯、消灯します。

- ドアを施錠したあと、電子カードキーを携帯して車両に近付いたとき（ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）：→ P. 141）
- ドアを施錠・解錠したとき
- ドアを開閉したとき
- エンジンスイッチを操作したとき

■バッテリーあがりを防止するために

- 半ドア状態でランプのスイッチがドアポジションのときは約 10 分後に自動消灯します。
- ランプが点灯したままの場合、約 12 分後に自動消灯します。

■カスタマイズ機能

イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 570）

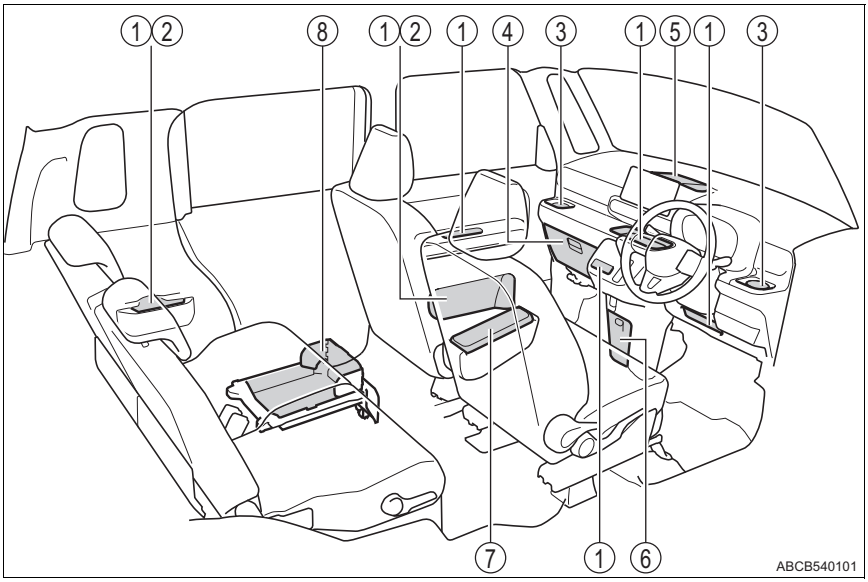
（一部機能は TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 99）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① オープントレイ（→ P. 412）
② ボトルホルダー（→ P. 409）
③ カップホルダー★／ホッとカップホルダー★（→ P. 409）
④ グローブボックス（→ P. 407）
⑤ インパネアッパーボックス★（→ P. 407）
⑥ インパネロアボックス（→ P. 407）
⑦ アームレストボックス（→ P. 408）
⑧ 置きラクボックス★（→ P. 414）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

●メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスが漏れるなどして火災につながる

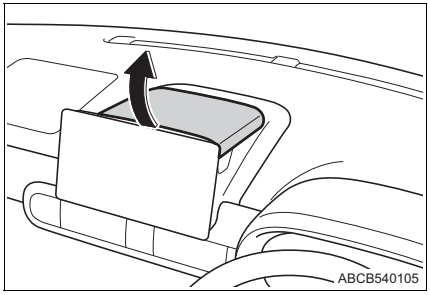
●走行中にものを出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

●収納装備を使わないときは、ふたを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

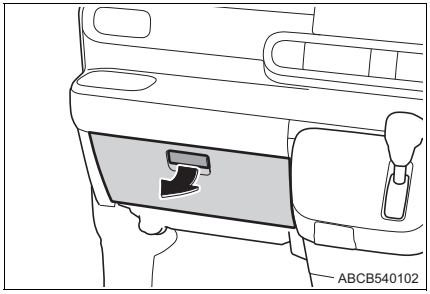
インパネアッパーボックス★／グローブボックス／インパネロアボックス

■ インパネアッパーボックス★



■ グローブボックス

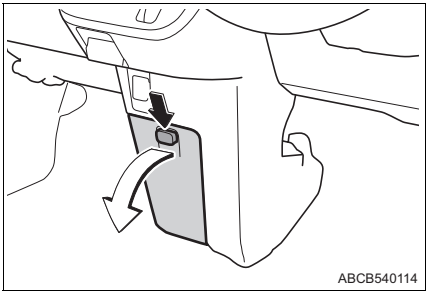
レバーを引いて開ける



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インパネロアボックス

ボタンを押して開ける



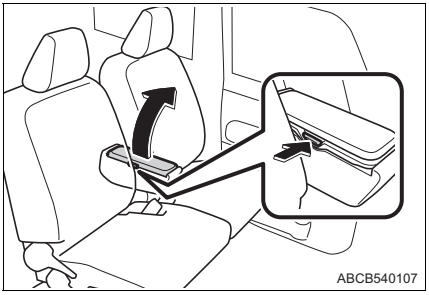
⚠ 警告

■インパネアッパーボックスについて

インパネアッパーボックスのふたを開けたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

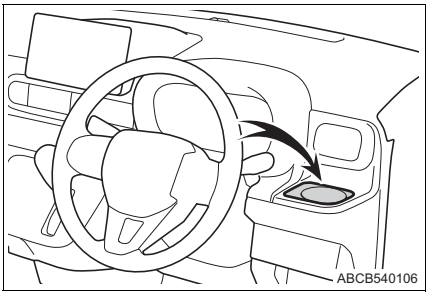
アームレストボックス

アームレストを倒して、レバーを押して開ける



カップホルダー★／ホッとカップホルダー★／ボトルホルダー

■ カップホルダー（運転席／助手席）★

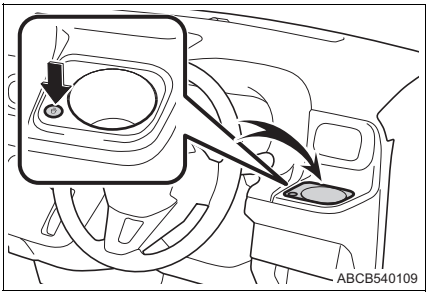


■ ホッとカップホルダー（運転席／助手席）★

スイッチを押すと、保温機能が作動します。

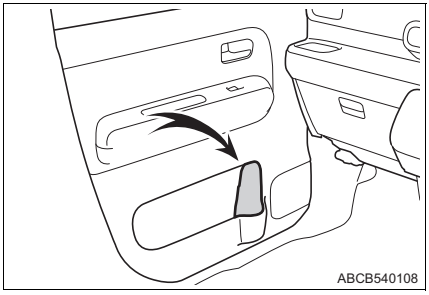
保温作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。

再度押すと OFF になり、スイッチの作動表示灯が消灯します。

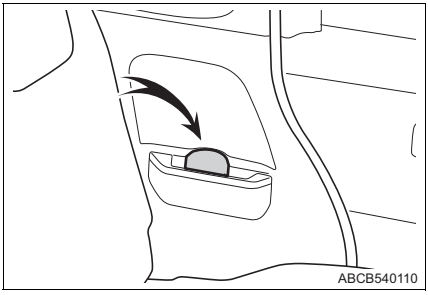


■ ボトルホルダー

▶フロントドア



▶リヤサイド



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのふたを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

■ホッとカップホルダー★の作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ホッとカップホルダー★について

●スイッチを押して電源（保温機能）を ON にしていても、一度エンジンスイッチを“OFF”すると電源（保温機能）は自動的に OFF になります。

●冷たい飲みものを温める機能はありません。

■ホッとカップホルダー★を使用するときは

異物（ハンカチなど）を一緒に入れないでください。正常に保温できない場合があります。

■清掃について

→ P. 439

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●カップホルダーには、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

●ボトルホルダーには、ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

●やけどを防ぐために、カップホルダー・ボトルホルダーに温かい飲みものを置くときはふたを閉めておいてください。

●運転席側のカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ホッとカップホルダー★を使用するときは

次のことをお守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●分解や改造、取り外しをしない

●強い力や衝撃をかけない

●ほこりや汚れなどを取り除いてから使用する

●保温作動中にホッとカップホルダーの内側に触れない

⚠ 注意

●ペットボトルのふたを必ず閉めてから収納してください。

●ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

●故障を防ぐため、飲みものがこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。

■ホッとカップホルダー★を使用するときは

故障を防ぐため、ぬれた手でホッとカップホルダーに触れたり、水（液体など）を付着させたりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

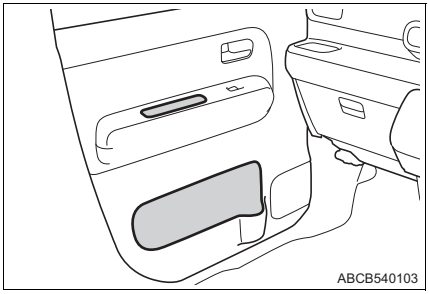
バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、ホッとカップホルダー★を長時間使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

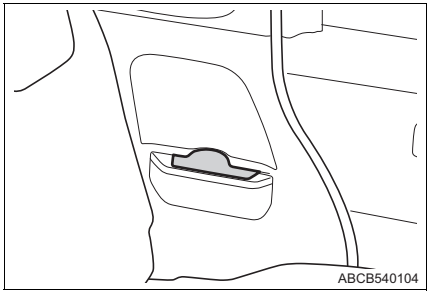
オープントレイ

■ オープントレイ

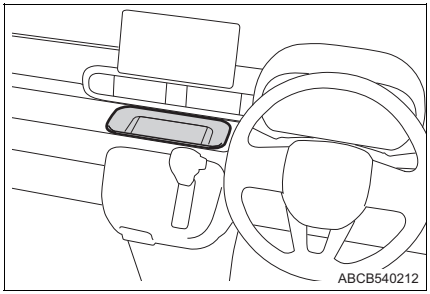
▶フロントドア



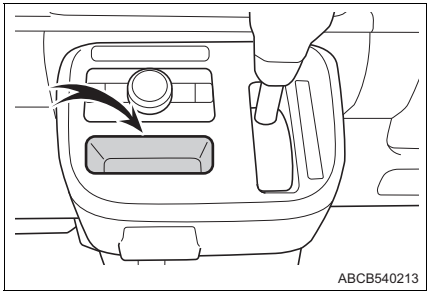
▶リヤサイド



■ インパネセンタートレイ

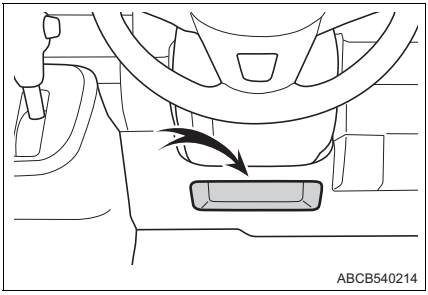


■ インパネセンターポケット★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インパネロアポケット



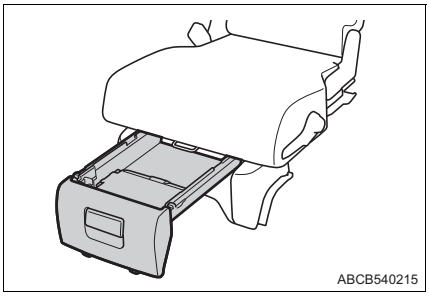
⚠ 警告

走行中はトレイ内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

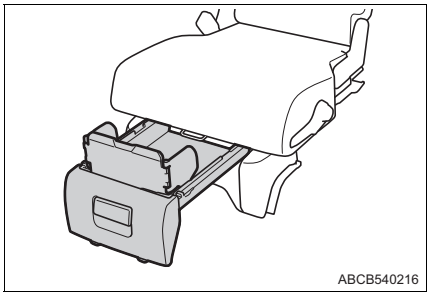
置きラクボックス★

フロアに直接置きたくない荷物を置くときや収納するときに使用します。

▶ケースモード



▶バスケットモード

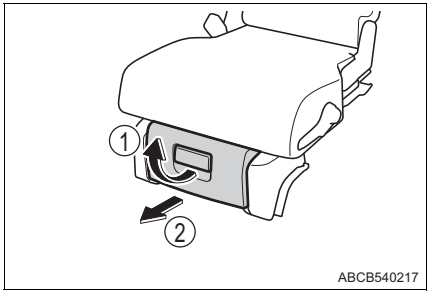


■ 置きラクボックスを引き出すには

ケースモードで使用するときは手順 2 まで行ってください。

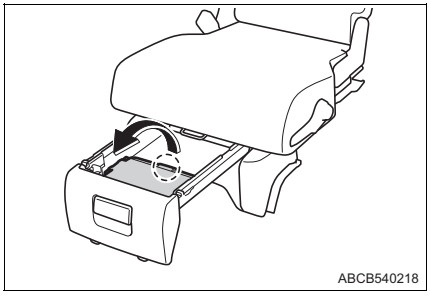
1 リヤシートを一番後ろまでスライドする（→ P. 169）

2 ハンドルを引いたまま（①）ボックスを前方いっぱいまでまっすぐ引き出す（②）



3 ◌ 部を持ってついたてを引き上げる

左右のついたても同時に上がります。



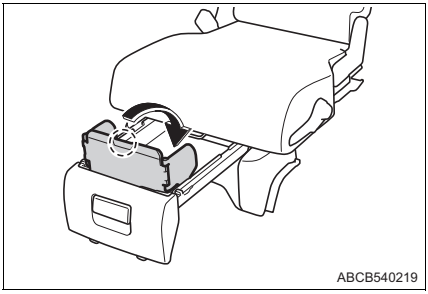
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 置きラクボックスを格納するには

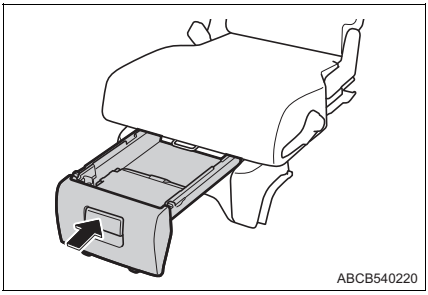
ケースモードで使用したときは手順 2 から行ってください。

1 ◌ 部を持って、ついたてを押し下げて収納する

左右のついたても同時に収納されます。

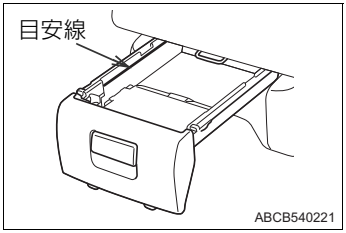


2 置きラクボックスを“カチッ”と音がするまでまっすぐ押して格納する



知識

- 置きラクボックスとフロントシートのすき間が少なく開閉しにくいときは、フロントシートを前側へスライドさせてください。
- 置きラクボックスを使用する場合は、安定させるために前方いっぱいまで引き出してください。
- 目安線を越える高さの荷物を置くときはバスケットモードで使用してください。

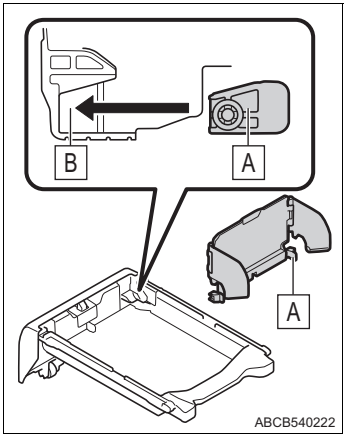


知識

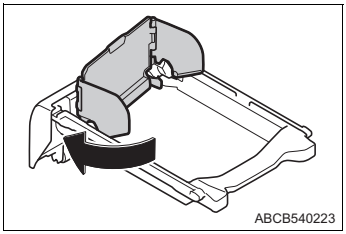
■ついたてが外れたときは

1 図のように、ついたての A を置きラクボックスの B に挿入する

A 部はついたての左右にあります。どちらかを挿入してください。



2 手順 1 で挿入した側と反対側のついたてを矢印方向に押し込む



⚠ 警告

- 置きラクボックスを引き出している側のリヤシートには乗車しないでください。
- 走行中に引き出し、戻し操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

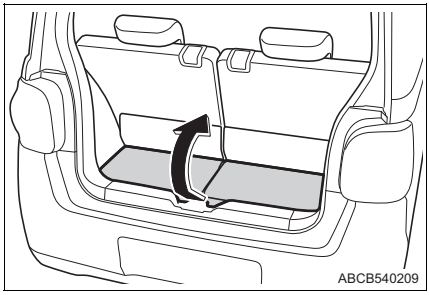
重さが約 5kg 以上ある荷物は積まないでください。ボックスが破損するおそれがあります。

ラゲージルーム内装備

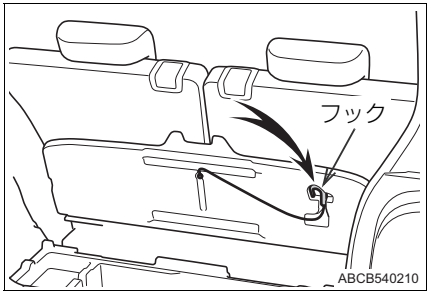
デッキボード

1 リヤシートを一番後ろまでスライドする（→ P. 169）

2 デッキボードを上げる

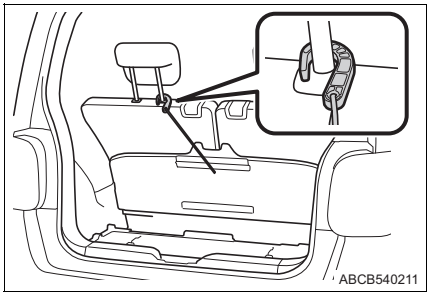


3 フックをデッキボードから外す



4 デッキボードを固定する

ヘッドレストを上げて、フックをステーにかけて固定してください。



⚠ 警告

■デッキボードを操作するときは

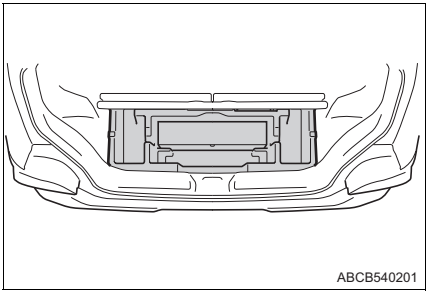
荷物を載せた状態で操作しないでください。
指を挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■デッキボードの破損を防ぐために

- デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。
- フックをかけた状態で、リヤシートのスライドまたはリクライニング調整をしないでください。デッキボードが破損するおそれがあります。
- フックを使用しないときは必ずもとの位置に戻してください。バックドアや荷物に挟むなどして破損するおそれがあります。

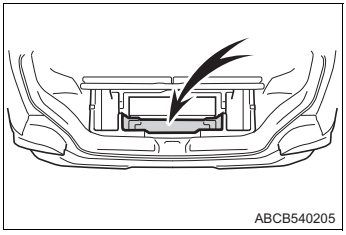
ラゲージアンダーボックス


ABCB540201

知識

■停止表示板収納について

ラゲージアンダーボックスに、停止表示板を収納することができます。
ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

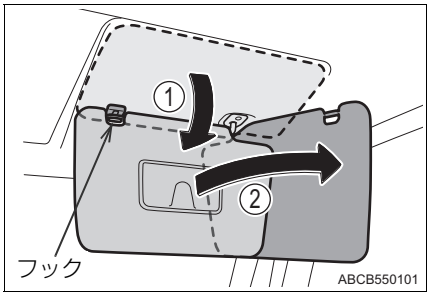

ABCB540205

その他の室内装備

サンバイザー

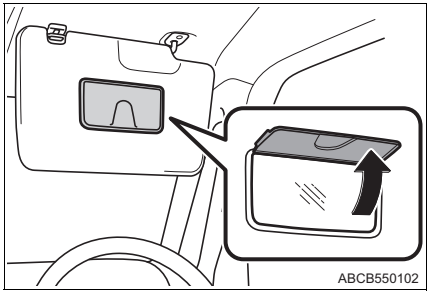
① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックから外し、横へ回す



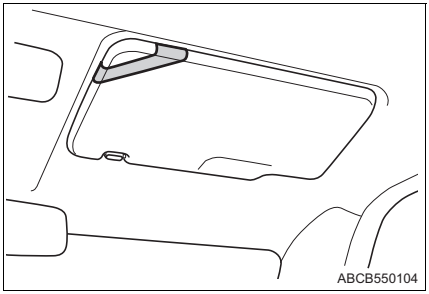
■ バニティミラー

カバーを上に開ける

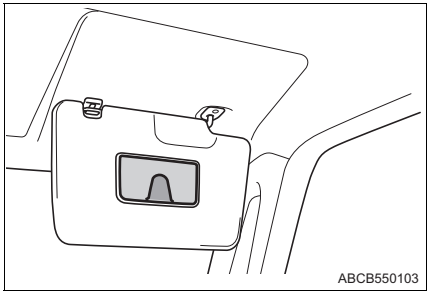


■ チケットホルダー

▶チケットホルダー A



▶チケットホルダー B

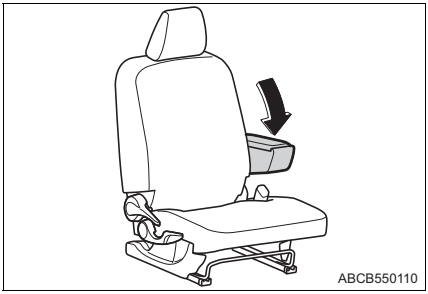


⚠ 警告

- サンバイザーと天井の間にものを挟まないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。
- サンバイザーのチケットホルダーには、使用用途以外のものを入れないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。
- 走行中はバニティミラーを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アームレスト

手前に倒して使用する



知識

アームレストを使用していないときは必ずもとの位置に戻しておいてください。

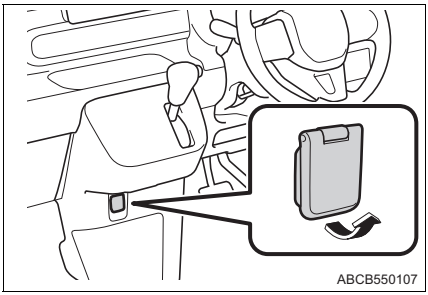
⚠ 警告

- アームレストを操作するときは、シートとアームレストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アームレストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アームレストが破損したりけがをするおそれがあります。

アクセサリーソケット

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源として使用してください。

ふたを開けて使用する



知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■eco IDLE によるエンジン再始動時について

エンジン停止状態から再始動するとき、一時的に使用できないことがありますが、異常ではありません。

■エンジンスイッチを“OFF”にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品を外してください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に“OFF”にすることができなくなる場合があります。

⚠ 注意

■電気容量について

電気容量は、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量を超える電気製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。

■ショートや故障を防止するために

異物が入ったり、液体などがかかったりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを使用しないでください。
- エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用しないでください。

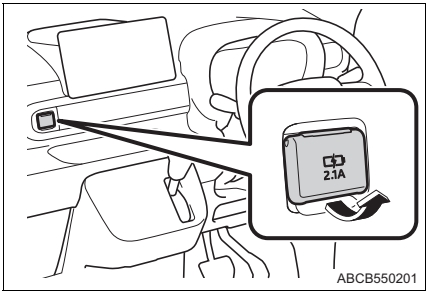
USB ソケット（充電用）★

最大消費電力 10.5W（DC5V/2.1A）以下の電源として使用してください。

充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。お使いになる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

1 ふたを開ける



2 ケーブルをソケットの向きに合わせてしっかり奥まで差し込む

機器やケーブルは、運転の妨げにならない場所に固定してください。

3 使用後は必ずケーブルを抜く

ふたが閉まっていることを確認してください。

知識

●エンジンが再始動したときに、一時的に充電を停止することがある場合は、バッテリーの劣化が考えられますのでダイハツサービス工場にご相談ください。

●一部の機器では、充電中に充電が一旦停止後、再充電を開始する場合がありますが、異常ではありません。

■作動条件

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■正常に働かないおそれのある状況

●最大定格を超える電力を要求する機器を接続したとき

- 保護機能が働くため充電できないことがあります。
- 充電できた場合でも充電完了までの時間がかかることがあります。

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっているとき

- エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから充電を開始してください。
- 高温状態で充電した場合、温度センサーが自動的に充電を停止する場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

●USB ソケットに指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。

●接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

●強い衝撃や力を加えないでください。

■**バッテリーあがりを防ぐために**

●エンジンが停止した状態で、USB ソケットを長時間使用しないでください。

●走行中の使用でも充電が不要になったらケーブルを抜くように心がけてください。

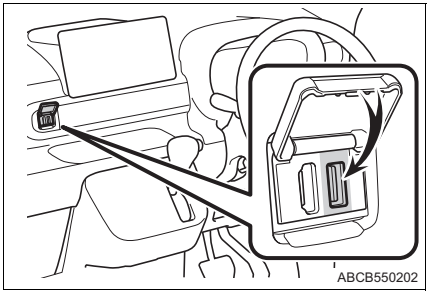
USB ソケット（通信用）★／ HDMI 端子★※

※ “HDMI” は HDMI Licensing Administrator,Inc の登録商標です。

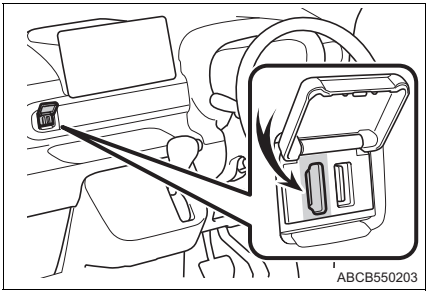
スマホ連携ディスプレイオーディオと機器を接続するために使用してください。

詳しくは、スマホ連携ディスプレイオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

▶USB ソケット（通信用）



▶HDMI 端子



⚠ 警告

- USB ソケット、HDMI 端子に指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 強い衝撃や力を加えないでください。

■ **バッテリーあがりを防ぐために**

- エンジンが停止した状態で、USB ソケット、HDMI 端子を長時間使用しないでください。
- 走行中の使用でも不要になったらケーブルを抜くように心がけてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレス充電機能（Qi）★

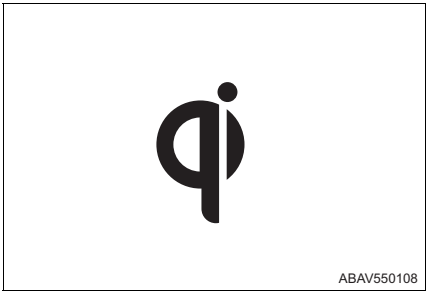
ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電範囲に置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電範囲より大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。

お使いになる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

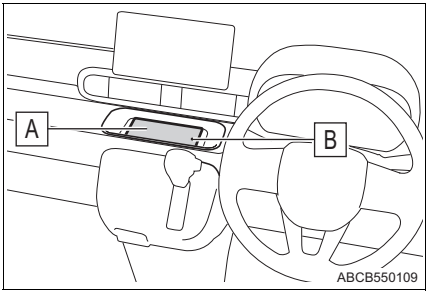
■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の商標です。


ABAV550108

■ 各部の名称

A：充電範囲
B：作動表示灯



ABCB550109

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **充電する**

1 エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にする

ワイヤレス充電器が起動し、作動表示灯が緑色に点灯します。

起動してから約 8 秒後に充電可能な状態になります。

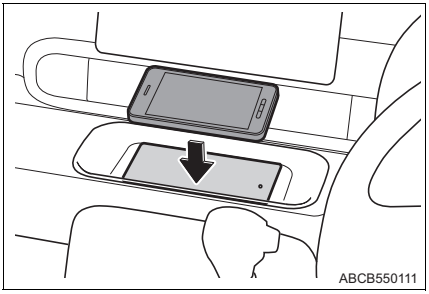
2 充電範囲に携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、充電範囲中央にあるマークが携帯機器の中央にくるように置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 作動表示灯について

作動表示灯	状況
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時※1
橙（点灯）	充電中
消灯	充電停止※2
橙、緑（交互に点滅）	充電停止※3

※1 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

※2 バッテリーの電圧低下など、充電停止の原因がワイヤレス充電器以外にあるとき

※3 充電器が高温になっているなど、充電停止の原因がワイヤレス充電器にあるとき

携帯機器を充電範囲に置いても充電できないときの作動表示灯の状況と、想定される原因の対処方法は次の通りです。

●作動表示灯が緑色点灯しない

想定される原因	対処方法
エンジンスイッチが“OFF”になっている	エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしてください。

●作動表示灯が橙色点灯しない

想定される原因	対処方法
携帯機器がワイヤレス充電規格（Qi）に非対応	お使いの携帯機器がワイヤレス充電規格（Qi）に対応しているか確認してください。
充電範囲から外れた場所に携帯機器を置いている	充電範囲中央付近に携帯機器を置き直してください。

●作動表示灯が橙、緑、橙、… 点滅する

想定される原因	対処方法
携帯機器と充電範囲の間に異物がある	携帯機器と充電範囲の間にある異物を取り除いてください。
ワイヤレス充電器内が高温	ワイヤレス充電器内の温度が下がるまで充電を中止してください。

知識

■使用条件

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 15W 以下の低電力給電を対象としています。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

●充電範囲と携帯機器の間に異物がある

●携帯機器の充電面を上にして置いた

●携帯機器の置き場所が充電範囲からずれている

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- アルミ箔などの金属の貼られたカード
- アルミ箔を使用したタバコの箱
- 金属製の財布やかばん
- 小銭
- カイロ
- CD や DVD などのメディア

●携帯機器の Near Field Communication（NFC）機能が ON に設定されているとき

●Near Field Communication（NFC）機能付きカードなどが近くにあるとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。ダイハツサービス工場へお問い合わせください。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。

充電範囲に携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーを外してください。

知識

■充電中の留意事項

- ●車室内に電子カードキーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。
- ●充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。
- ●携帯機器の使用状況により満充電にならないことがありますが、故障ではありません。
- ●ワイヤレス充電器の近くで携帯電話を使用すると、通話感度や通信速度が低下することがあります。
- ●携帯機器の大きさによっては、作動表示灯の状況が確認できないことがあります。

■清掃について

→ P. 439

⚠ 警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- ●充電中に、充電範囲と携帯機器の間に金属物を挟まない
- ●飲用水などが入った容器をワイヤレス充電器の上に置かない
- ●充電範囲や携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- ●布などをかぶせて充電しない
- ●指定された携帯機器以外は充電しない
- ●分解や改造、取り外しをしない
- ●強い力や衝撃をかけない
- ●小物入れとして使用する場合は、ワイヤレス充電器の電源を ON にしない
- ●充電範囲のほこりや汚れなどを落としてから使用する

⚠ 注意

■故障やデータ破損を防止するために

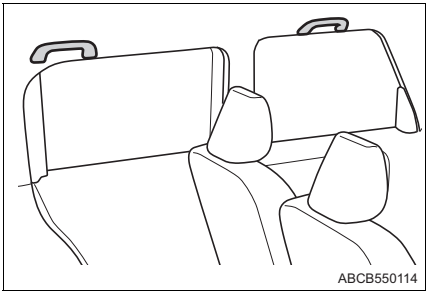
充電中に、充電範囲にクレジットカードなどの磁気カードや非接触型 IC カード、磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、壊れたりするおそれがありますので、近付けないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

格納式アシストグリップ

天井に取り付けられている格納式アシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときに使用してください。



⚠ 警告

格納式アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

格納式アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

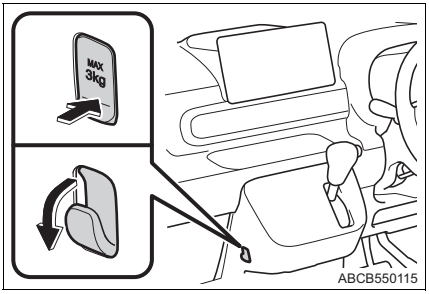
⚠ 注意

破損を防ぐために、格納式アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

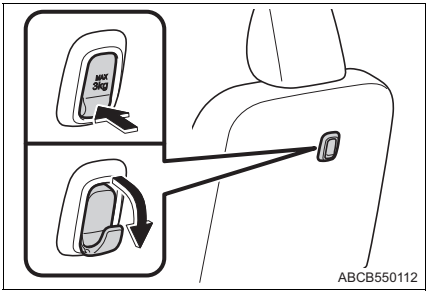
ショッピングフック／シートバックユーティリティフック★

フック下部を押し、反転させて使用する

■ ショッピングフック



■ シートバックユーティリティフック（運転席／助手席）★



知識

フックを使用していないときは必ずもとの位置に戻しておいてください。

⚠ 注意

■ショッピングフック／シートバックユーティリティフック★の破損を防ぐために

3kg を超えるものをフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた
外装のお手入れ …… 434
内装のお手入れ …… 439
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット …… 443
ガレージジャッキ …… 446
エンジンオイルについて … 447
ウォッシャー液の補充 …… 448
タイヤについて …… 450
タイヤの交換 …… 454
タイヤ空気圧について …… 460
エアコンフィルターの交換 …… 462
ワイパーゴムの交換 …… 464
キーの電池交換 …… 469
ヒューズの点検・交換 …… 472
電球（バルブ）の交換 …… 475

外装のお手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

●水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす

●車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う

●汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す

●水をふき取る

●水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、ダイハツケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

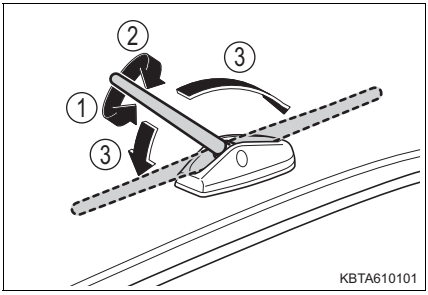
洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

① 取り外す

② 取り付ける

③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



知識

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：

- ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択する
- パワースライドドアを OFF にする（→ P. 146）
- アンテナを取り外す

車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもと通りに取り付けて、ドアミラーを復帰状態に戻してください。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付け過ぎたり、同じ場所に連続して当てたりしないでください。

■洗車などでお車に水をかけたとき

電子カードキーが作動範囲内にあるとき、ドアハンドルにあるスイッチに水がかかると、ドアが施錠・解錠を繰り返すことがあります。その場合は、次のような処置をしてください。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠されます）

●キーを車両から約 3m 以上離れた場所に置く（盗難に注意してください）

●キーを節電モードに設定してキーフリーシステムの作動を停止する（→ P. 128）

■洗剤やワックスを使うとき

●お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

●塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。

■ホイール、ホイールキャップ

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

- 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
- 硬いブラシを使用しない
- 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

●光沢を失うおそれがあるため、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

⚠ 警告

■洗車をするとき

●エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●下まわり足まわりを洗うときは手をけがしないように注意してください。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

- 海岸地帯を走行したあと
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ドアミラーの損傷を防ぐために

自動洗車機を使用するときは、ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。

■アンテナの取り扱いについて

アンテナを取り扱うときは無理な力をかけないでください。ボデーの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ アンテナの損傷を防ぐために

●車庫の天井などにアンテナが当たるときはアンテナを格納してください。

●次のようなときはアンテナを取り外してください。

- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機を使用するとき
- 降雪時に長時間駐車するとき

■ アンテナの取り外しについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機を使用するときなどアンテナを取り外したときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもと通りに取り付けてください。

■ 洗車時の注意

●洗車をするときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。車体がへこむおそれがあります。

●給油扉が閉まっていることを確認し、運転席ドアを施錠してください。高い水圧により給油扉が勢いよく開き、車体や給油扉が損傷するおそれがあります。

●高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤、ワックスは使用しないでください。

■ 自動洗車機を使用するときは

エアコンは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。

⚠ 注意

■高圧洗車機を使用するときは

●洗車時に高圧洗車機でカメラ★やカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、次の部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付け過ぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
- 駆動系部品
- ステアリング部品
- サスペンション部品
- ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水を当てないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水を当てないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装のお手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内のお手入れ

●掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

●汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分のお手入れ

●掃除機などでほこりや砂を取り除く

●薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

●水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分のお手入れ

●掃除機などでほこりを取り除く

●中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くようにぬり込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV&IR カットガラス★について

- フロントウインドウガラス以外のガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラス汚れがひどいときは、ガラスの開閉を繰り返さないでください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 31)

  電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装のお手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界を妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

●メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。

変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

●各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする

特に夏場は日陰でお車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

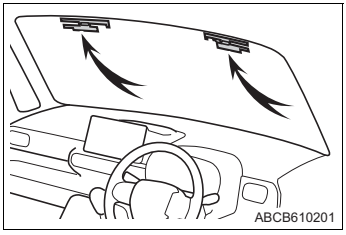
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、お車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フィルムアンテナ★を正常に作動させるために

フロントウインドウガラスのフィルムアンテナ周辺に次のものを貼り付けないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。

●金属を含むフィルム

●その他の金属物（市販のアンテナなど）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ フロントウインドウガラスの内側を清掃するとき

●ステレオカメラに触れないように注意してください。

誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストの誤作動や故障につながるおそれがあります。

●フィルムアンテナ★を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーやベンジン・ガソリン・シンナーなどの有機溶剤を使わず、フィルムアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパー UV&IR カットガラス★を清掃するときは

フロントウインドウガラス以外のガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）や鋭利なもの、硬いものを使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

■ 液体芳香剤を使用するときは

こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。

液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

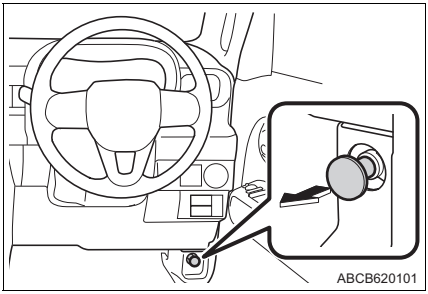
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

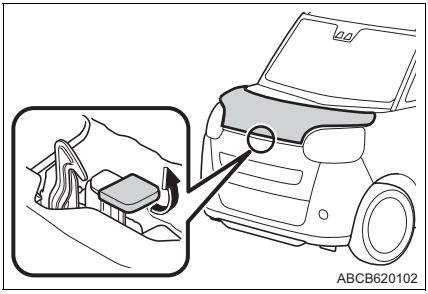
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットを開ける

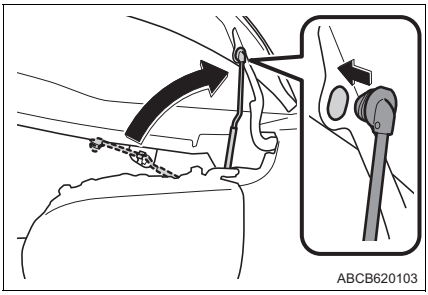
1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーを外し、ステー穴に差し込む



ボンネットを閉める

1 ボンネットを片手で支える

2 ボンネットステーを外してもとの位置へ戻す

3 ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉める

知識

■バッテリー端子を外すときは

バッテリー端子を外すと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子を外すときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 警告

■走行前の確認

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボンネットを開けているとき風にあおられるとボンネットステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。

■けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジン始動前にエンジンルーム内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルーム内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

また、走行中にエンジンルーム内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

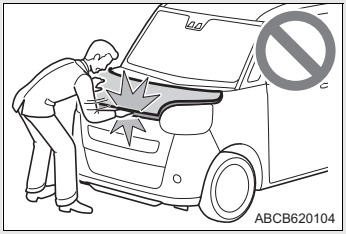
■オイルを点検・交換するとき

オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■ボンネットを開けるとき

フロントワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

■エンジンルームを点検するときは

フロントガラス下部周辺にものを置かないでください。エンジン内部にものが落下し、故障につながるおそれがあります。

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取り外し、クリップに正しく戻してください。

ステーを正しく戻さない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

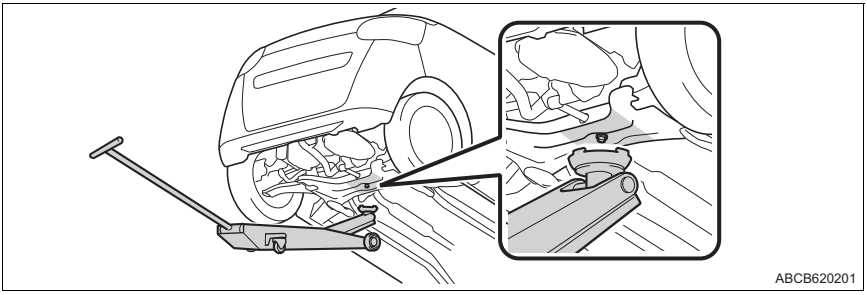
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

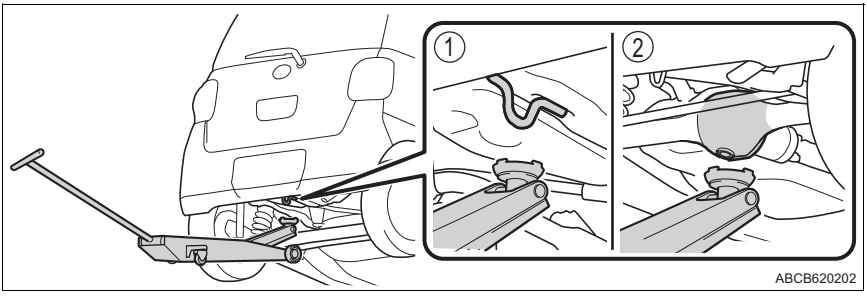
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



◆ リヤ側



① 2WD 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

エンジンオイルについて

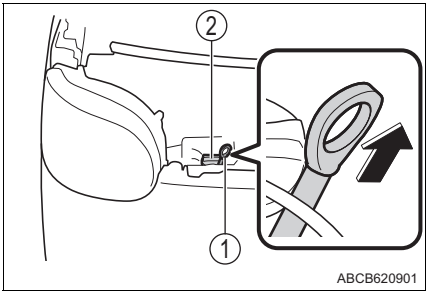
点検

エンジンオイルの量は、定期的に点検してください。また、高速走行を行う前は、必ず点検してください。

点検はオイルレベルゲージを抜き取って行います。

① オイルレベルゲージ

② オイルフィラーキャップ



エンジンルームのイラストは代表例です。

知識

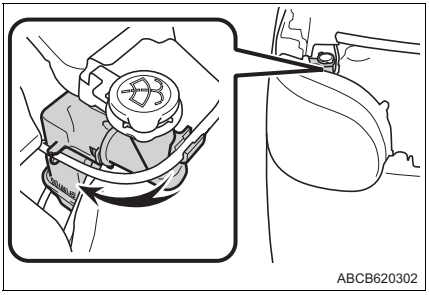
■エンジンオイルについて

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、オイルフィラーキャップの裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。
  これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機などで水分が蒸発すると解消します。
  この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

ウォッシャー液の補充

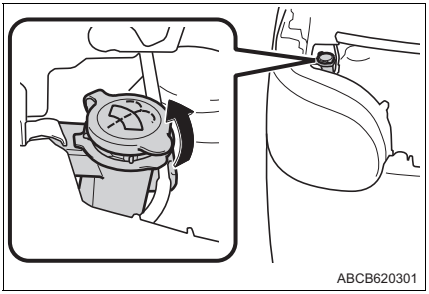
点検のしかた

ウォッシャータンクの側面から、液面を目視により確認します。



補充のしかた

ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



知識

■ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液の代わりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

●タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

●タイヤの亀裂・損傷の有無

●タイヤの溝の深さ

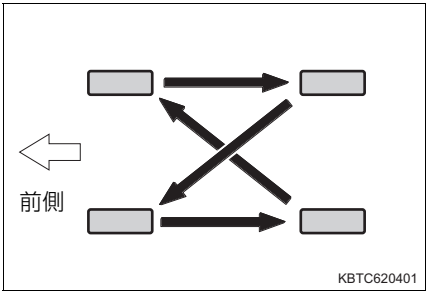
●タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、ダイハツは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。

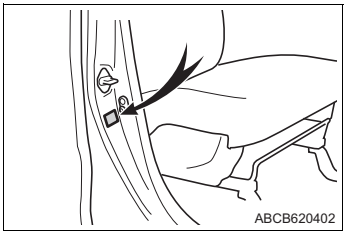


知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
155/65R14 75S	240（2.4）	240（2.4）

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■タイヤ空気圧の点検

- 1 か月に 1 回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■タイヤローテーションについて

この車両には、スペアタイヤが搭載されていないため、スペアタイヤを利用するタイヤローテーションができません。ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する
- ●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤを混在使用しない
- ●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- ●他車で使用していたタイヤを使用しない

  以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横滑りする
- ●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- ●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。（→ P. 458）

  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ネジ部にオイルやグリースをぬらないでください。

  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。

  またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがネジ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **走行中に空気漏れが起こったら**

走行を続けないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ **悪路走行に対する注意**

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの交換

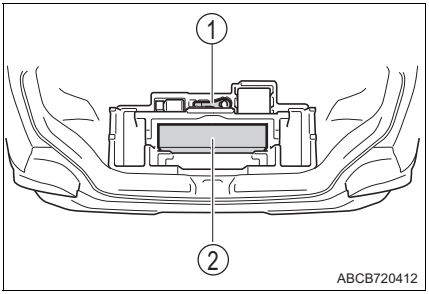
ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。
ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
この車両には、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

●地面が固く平らで安全な場所に移動する
●パーキングブレーキをかける
●シフトレバーを P に入れる
●エンジンを停止する

工具※ とジャッキ※ の位置

① けん引フック
② 工具箱※



※ ダイハツサービス工場で購入することができます。
（ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチ）

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取り外し以外の目的で使用しない
- ●備え付けのジャッキは、お客様のお車にしか使うことができないため、他車に使ったり他車のジャッキをお客様のお車に使用したりしない
- ●ジャッキはジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）に正しくかける
- ●ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
- ●お車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたりお車を走らせない
- ●車内に人を乗せたままお車を持ち上げない
- ●お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- ●お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- ●お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

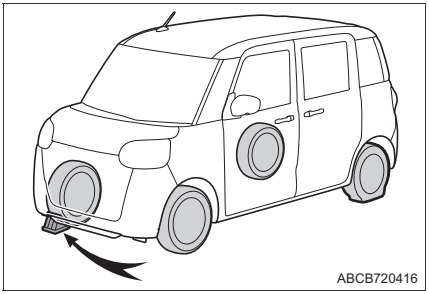
ジャッキと工具の取り出し方

1 リヤシートをいちばん前までスライドする（→ P. 169）

2 カバーとデッキボードを上げ、ジャッキと工具を取り出す（→ P. 454）

タイヤの交換

1 輪止め※ をする

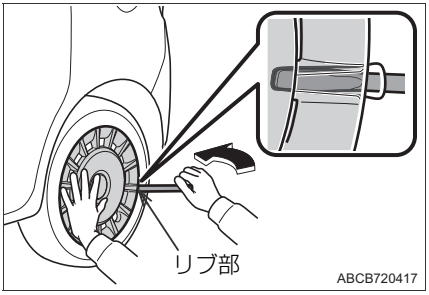


※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

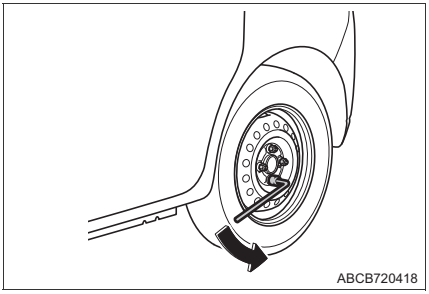
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ホイールキャップを外す

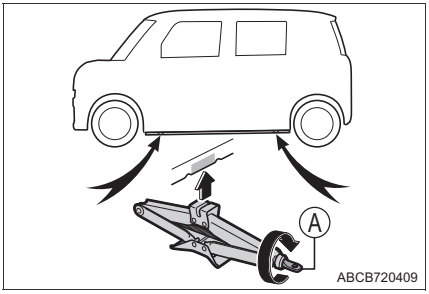
- 傷が付くのを防ぐため、ジャッキハンドルの先端に布などを巻いて保護してください。
- ジャッキハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んで外します。
- 勢いよく外れることを防ぐため、片手でホイールキャップを支えてください。



3 ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

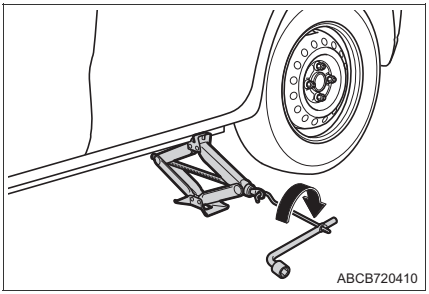


4 ジャッキのA部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にしっかりかける



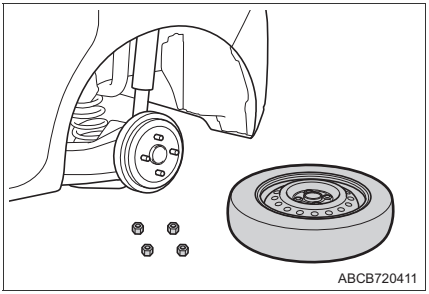
5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。



6 ナットすべてを取り外し、タイヤを取り外す

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

■タイヤ交換について

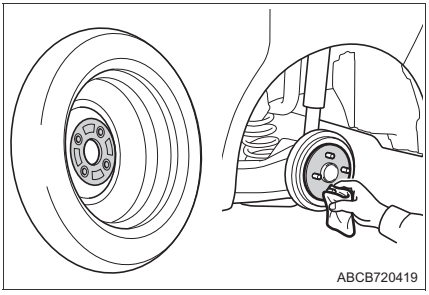
●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールが外れ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ネジ部やナットのテーパー部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがネジ部に付いている場合はふき取ってください。
- タイヤを交換したあとは、ただちに締め付けトルクを確認する
お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのネジ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、ダイハツサービス工場で点検を受ける
- ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

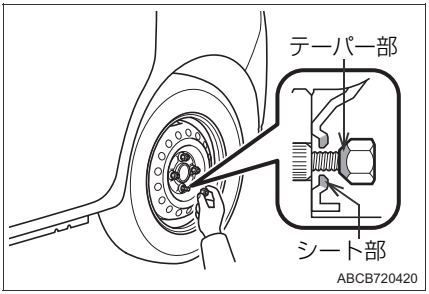
1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。


ABCB720419

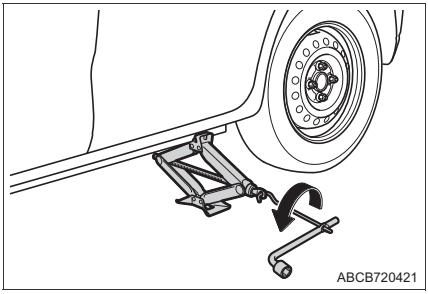
2 タイヤを取り付け、がたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す



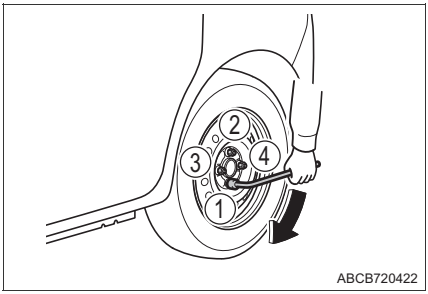
ABCB720420

3 車体を下げる



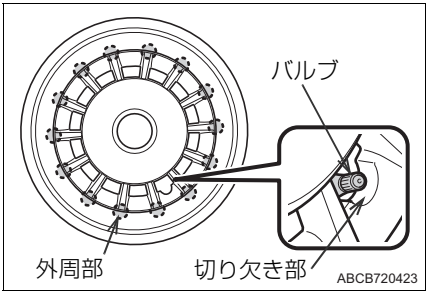
4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2､3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 車両に装着されていたホイールに戻したときは、ホイールキャップを取り付ける

タイヤのバルブ（空気口）とフルホイールキャップの切り欠き部を合わせ、フルホイールキャップの外周部を押して取り付けます。



6 すべての工具・ジャッキを収納する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 568)

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- ●燃費の悪化
- ●乗り心地や操縦安定性の低下
- ●摩耗によるタイヤ寿命の低下
- ●安全性の低下

頻繁にタイヤ空気圧が低下する場合は、ダイハツサービス工場でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- ●タイヤが冷えているときに点検する
- ●タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- ●走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- ●荷物を積むとき、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●過度の摩耗
- ●偏摩耗
- ●操縦安定性の低下
- ●タイヤの過熱による破裂
- ●タイヤとホイールの間からの空気漏れ
- ●ホイールの変形、タイヤの損傷
- ●走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップを外していると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

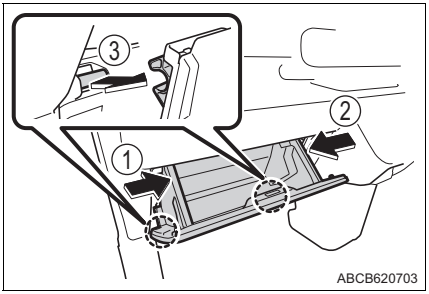
1 エンジンスイッチを“OFF”にする

2 グローブボックスを取り外す

① 左側面を内側に押して上部のツメを外す

② 右側面を内側に押して上部のツメを外す

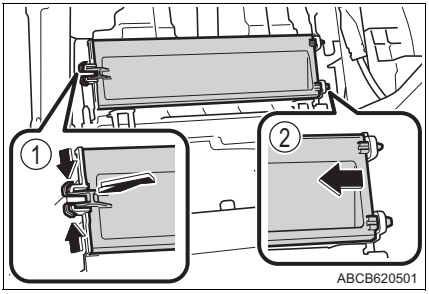
③ 下部のツメを外す



3 フィルターカバーを取り外す

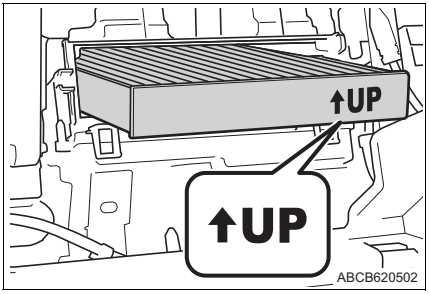
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、フィルターカバーを抜く



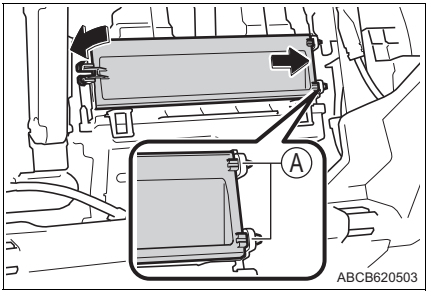
4 フィルターを取り外し、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



5 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で取り付ける

フィルターカバーは A 部に入れてから、取り付けてください。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km［10,000km※］ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

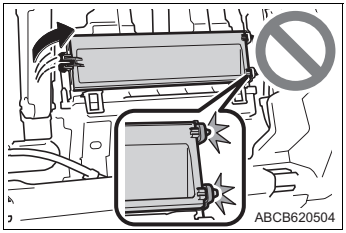
■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。

  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



ワイパーゴムの交換

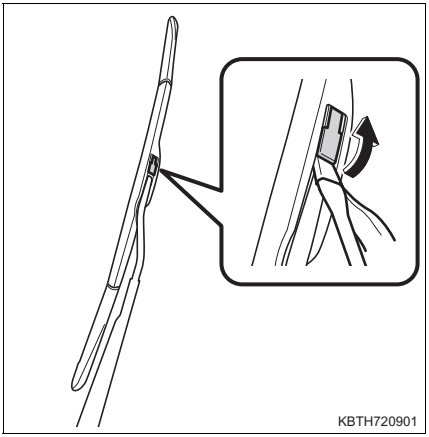
ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

フロントワイパー

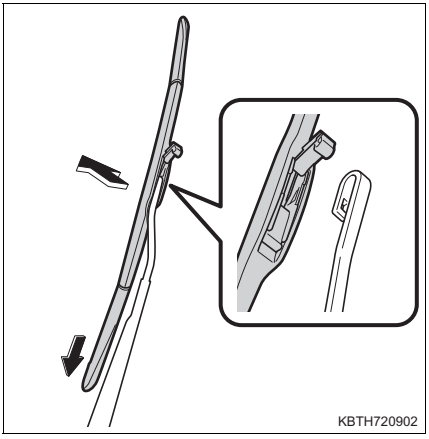
■ フロントワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こし、マイナスドライバーなどを差し込んで、カバーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



2 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取り外す

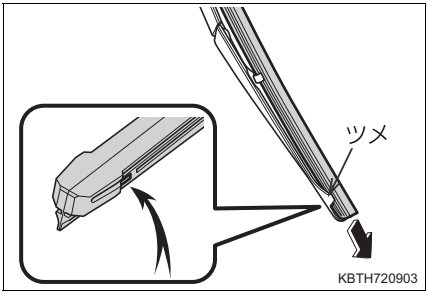


3 取り付けるときは、逆の手順で取り付ける

起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。

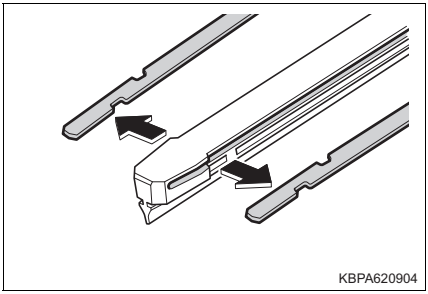
■ フロントワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ストッパーをワイパーブレードのツメから外し、そのまま引き抜く



2 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取り外し、新しいワイパーゴムに付け替える

金属ブレードの切り欠きと反りの向きに注意して取り付けてください。



3 取り付けるときは、ワイパーゴムのストッパーがないほうからワイパーブレードに挿入する

4 ワイパーゴムのストッパーをワイパーブレードのツメで確実に固定する

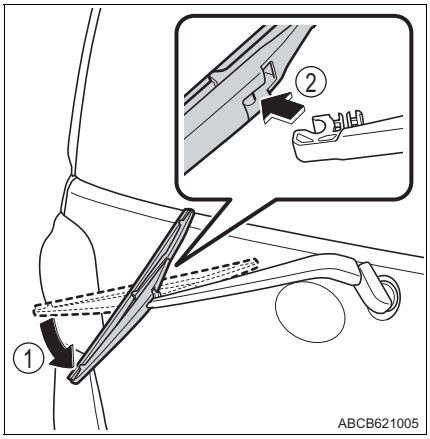
リヤワイパー

■ リヤワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを取り外す

① ツメのかん合が外れる位置までワイパーブレードを回す

② ワイパーアームからワイパーブレードを取り外す



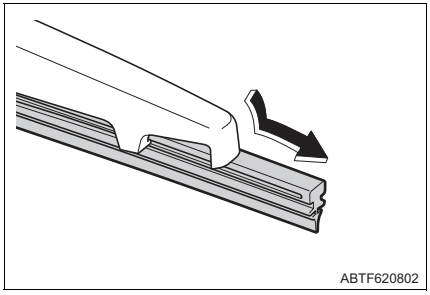
2 ワイパーブレードを取り付けるときは 1 と逆の手順で取り付ける

起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

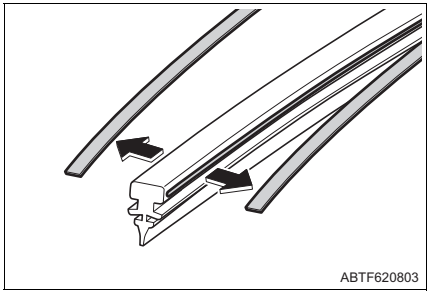
■ リヤワイパーゴムの交換

1 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く



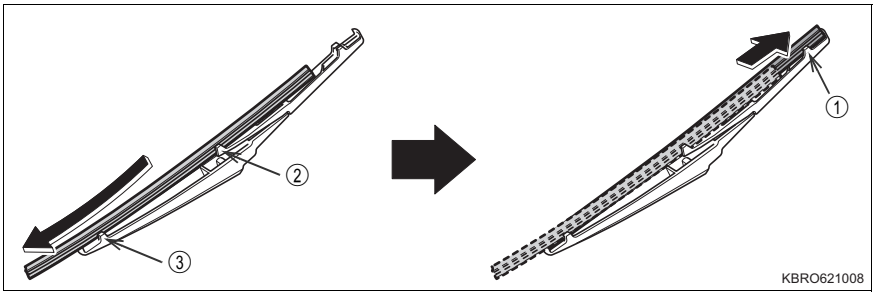
2 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取り外し、新しいワイパーゴムに付け替える

金属プレートの反りの向きに注意して取り付けてください。



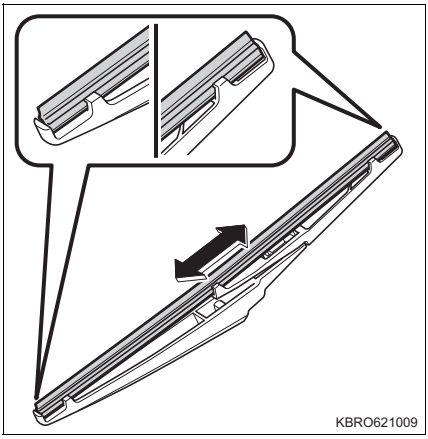
3 ワイパーブレードの②のツメを通してワイパーゴムを挿入し、③のツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った ① のツメに通す

ワイパーゴムにウォッシャー液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



4 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

- ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。
- ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意

- ワイパーブレードの部分だけを持って起こすと、ブレードが変形するおそれがあります。必ずワイパーアームの部分を持って起こしてください。
- ワイパーを交換するときはツメの破損に注意してください。
- ワイパーアームからワイパーブレードを取り外したあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームの間に布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

●薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）

●エマージェンシーキー

●リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

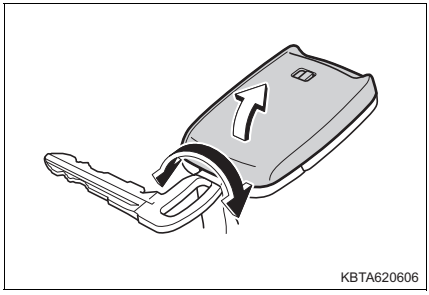
1 エマージェンシーキーを取り出す（→ P. 120）

2 カバーを外す

ダイハツマーク側を下にして外してください。

エマージェンシーキーをしっかり奥まで差し込んでください。

傷が付くのを防ぐため、エマージェンシーキーに布などを巻いて保護してください。

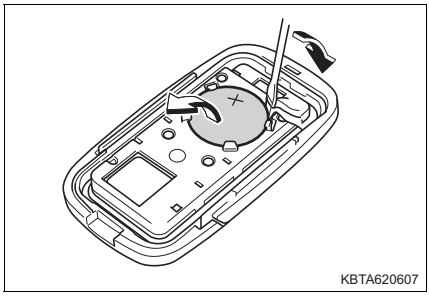

KBTA620606

3 消耗した電池を取り出す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

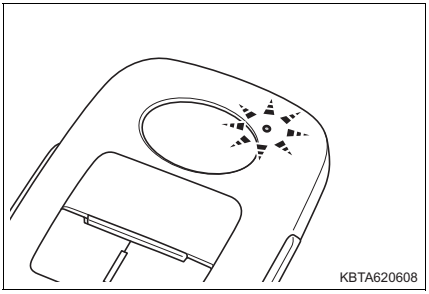
カバーを外したときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は ＋ 極を上にして取り付けます。


KBTA620607

4 カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



知識

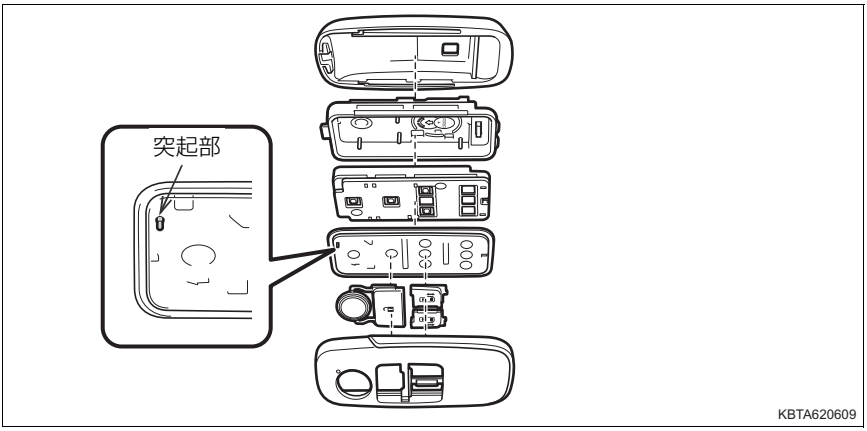
■電池の交換について

誤った取り扱いをすると、キーが損傷するおそれがあります。ご自身での電池の交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■電子カードキーの部品がばらばらになったときは

図を参考に組み付けてください。

組み付けるときは、突起部を下に向けてください。



■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はダイハツサービス工場・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子カードキーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ●キーフリーシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる
- ●インジケーターが点滅しない

⚠ 警告

■電子カードキーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- ●電子カードキーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●新しい電池および取り外した電池は、お子さまに触れさせないでください。
- ●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- ●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- ●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- ●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■電池交換の留意事項

電池交換をする場合は、必ず体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気により、キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できるものをあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ●ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- ●電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- ●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

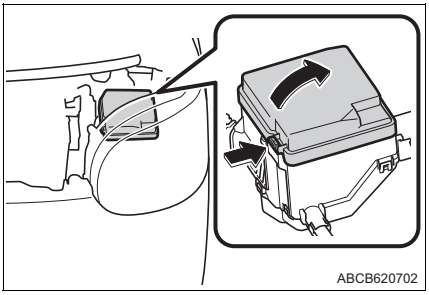
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを“OFF”にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



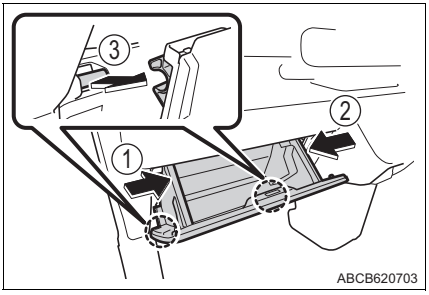
▶助手席足元

グローブボックスを外す

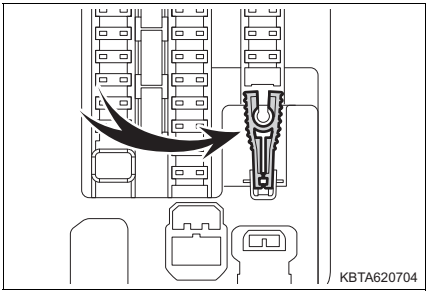
① 左側面を内側に押して上部のツメを外す

② 右側面を内側に押して上部のツメを外す

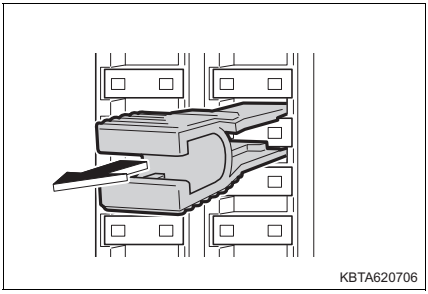
③ 下部のツメを外す



3 ヒューズ外しを助手席足元のヒューズボックスから取り出す



4 ヒューズをヒューズ外しで挟んで外す


KBTA620706

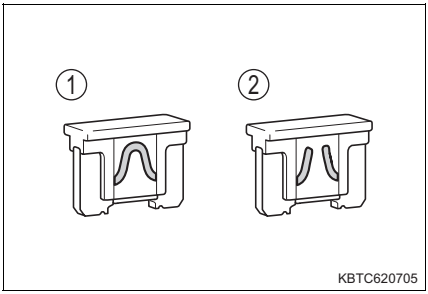
5 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

他に原因が考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



KBTC620705

6 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で取り付ける

知識

■ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 475）
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合、または電気系統の装置が働かない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているダイハツ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のダイハツ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告

■**お車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、お車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■**ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

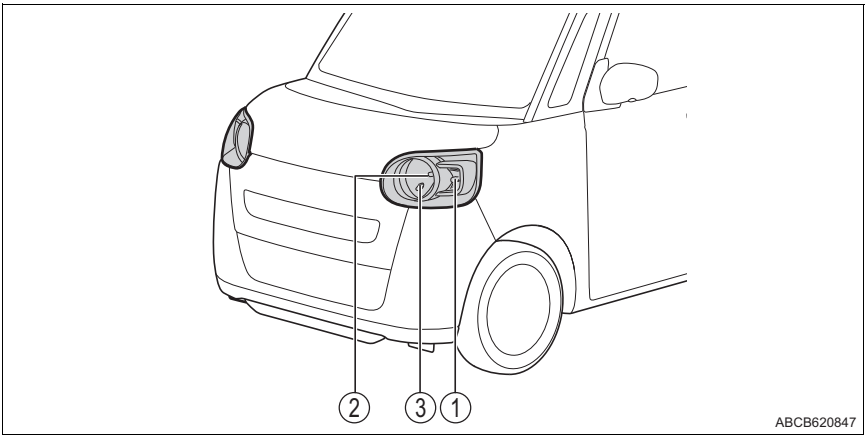
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、ダイハツサービス工場で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 569）

バルブ位置

■ フロント（ハロゲンヘッドランプ装着車）

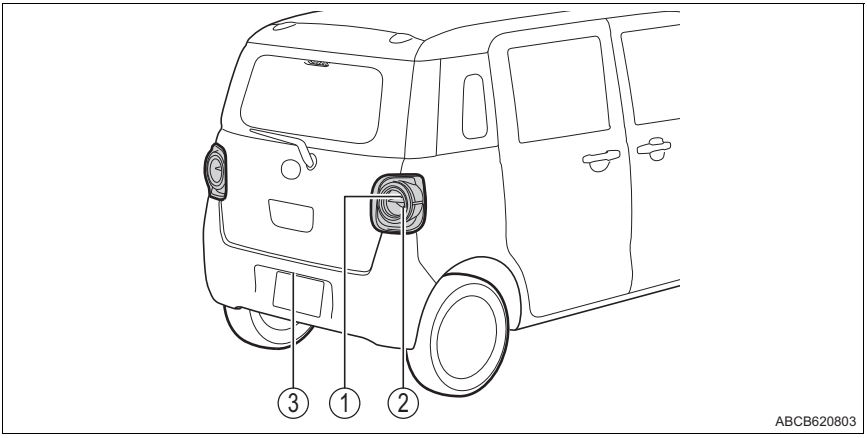


① フロント方向指示／非常点滅灯

② ヘッドランプハイビーム／ロービーム

③ 車幅灯

■ リヤ



① リヤ方向指示／非常点滅灯

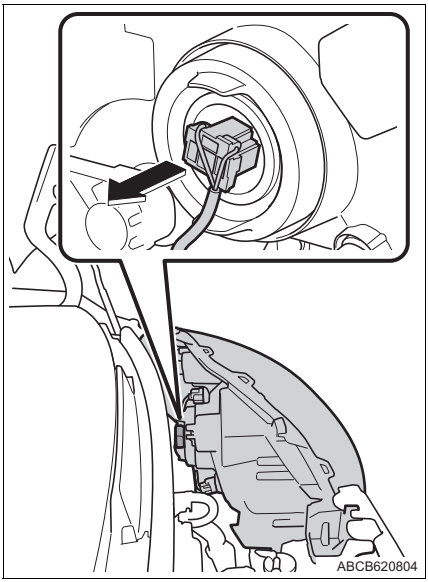
② 後退灯

③ 番号灯

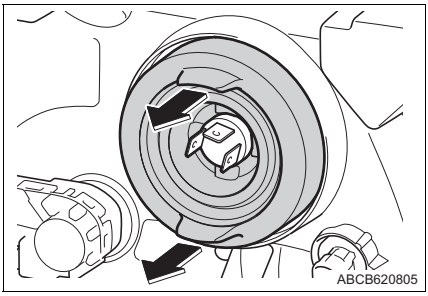
電球交換のしかた

■ ヘッドランプハイビーム／ロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ボンネットを開けて、コネクターを取り外す



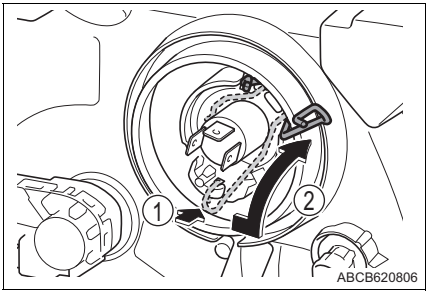
2 ゴムカバーを取りはずす



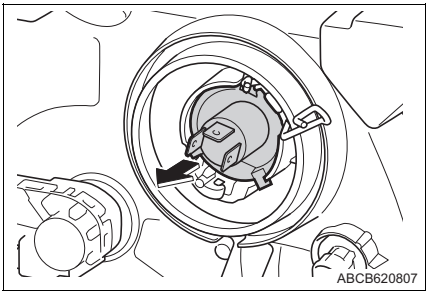
3 留め金を外す

① 留め金を押してフックから外す

② 留め金を起こす

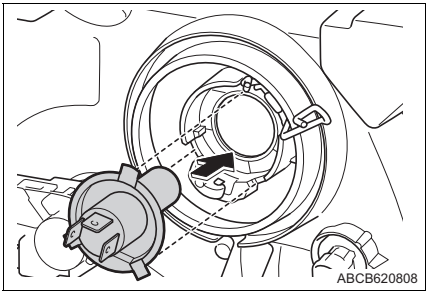


4 電球を取り外す



5 電球を交換し取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて差し込み、固定します。



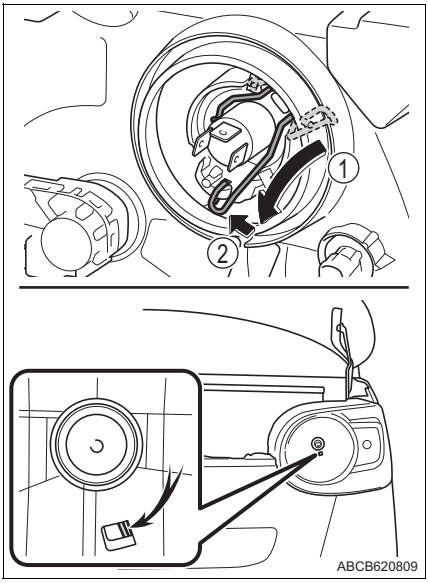
6 留め金を取り付ける

① 留め金を倒す

② 留め金を押しフックにひっかけて固定する

バルブの固定状態は、車両前側のレンズ面からも確認できます。

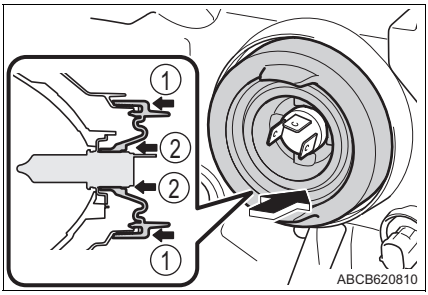
確実に固定されている場合は、留め金が見えます。



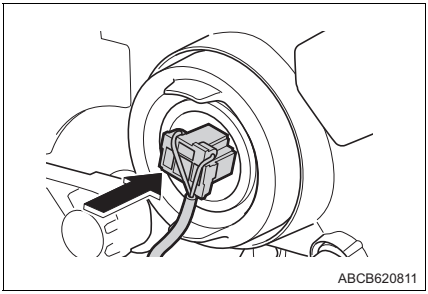
7 ゴムカバーを取り付ける

① ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

② ゴムカバーの内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金属部分が確認できるまで押し込む

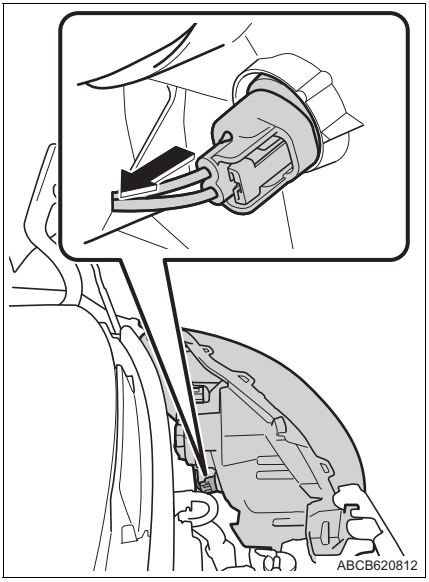


8 コネクターを取り付ける

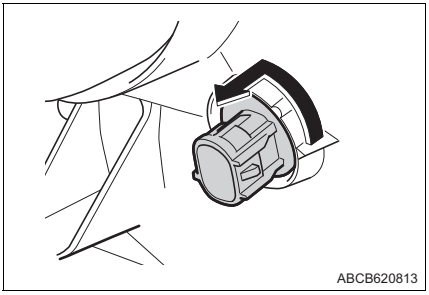


■ **車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）**

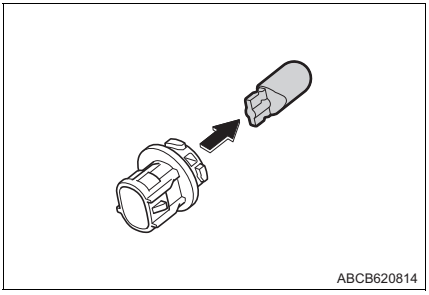
1 ボンネットを開けて、コネクターを取り外す



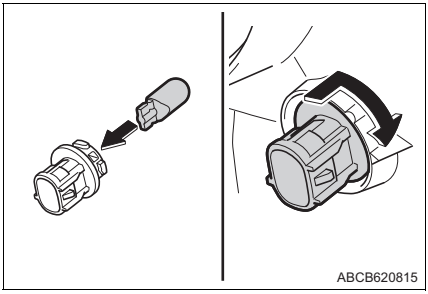
2 ソケットを回して取り外す



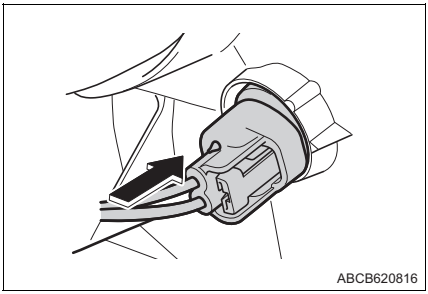
3 電球を取り外す



4 新しい電球を取り付け、ソケットを回して取り付ける

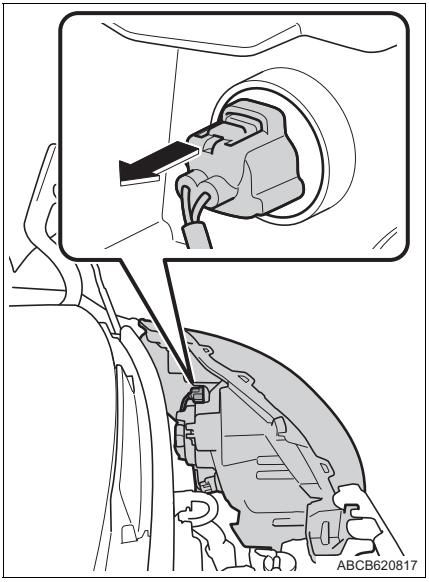


5 コネクターを取り付ける

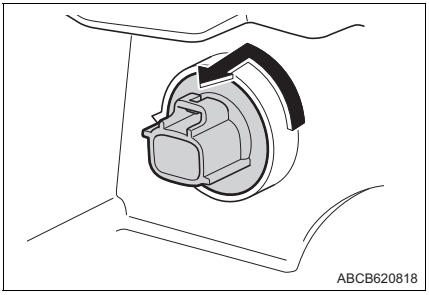


■ フロント方向指示／非常点滅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

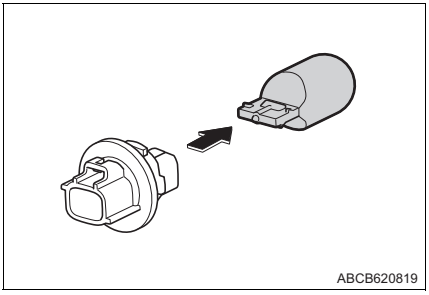
1 ボンネットを開けて、コネクターを取り外す



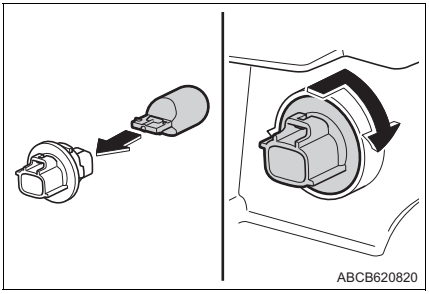
2 ソケットを回して取り外す



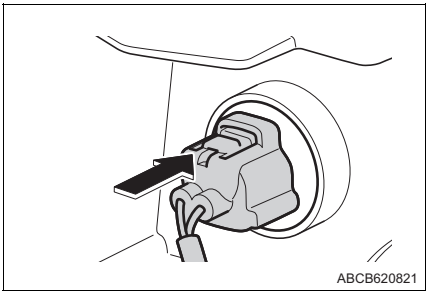
3 電球を取り外す



4 新しい電球を取り付け、ソケットを回して取り付ける

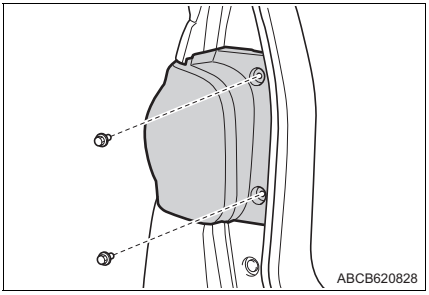


5 コネクターを取り付ける



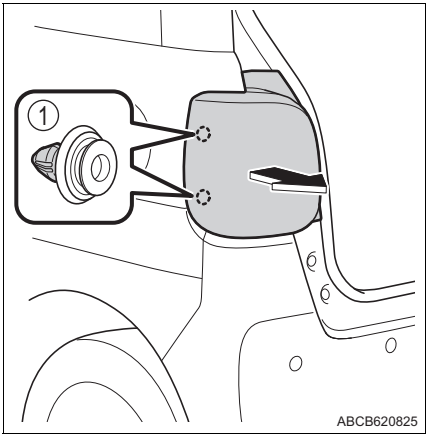
■ **後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯**

1 バックドアを開けて、ボルト（2本）を外す



2 ランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるかん合を外す

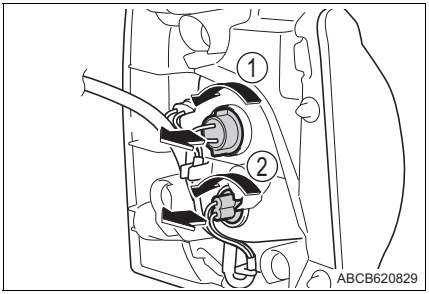
① クリップ



3 ソケットを取り外す

① リヤ方向指示／非常点滅灯

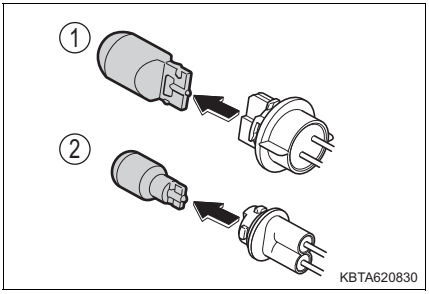
② 後退灯



4 電球を取り外す

① リヤ方向指示／非常点滅灯

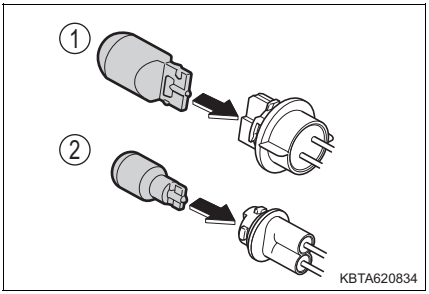
② 後退灯



5 電球を交換し取り付ける

① リヤ方向指示／非常点滅灯

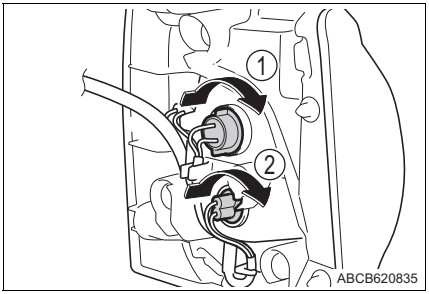
② 後退灯



6 ソケットを取り付ける

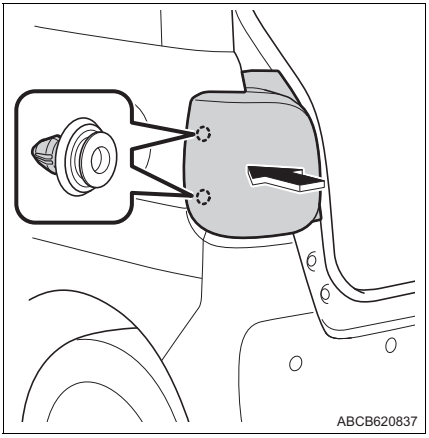
① リヤ方向指示／非常点滅灯

② 後退灯

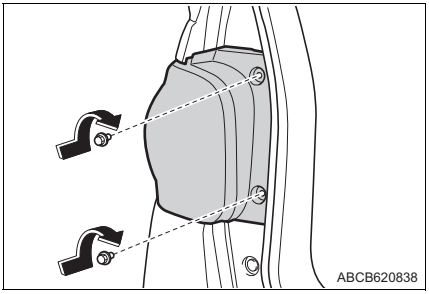


7 ランプ本体を取り付ける

ランプ本体側のクリップと車両側の穴の位置を合わせ、ランプ本体をまっすぐ押し込んでください。

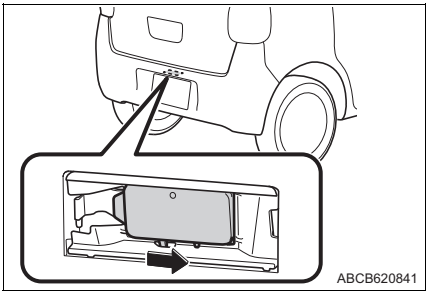


8 ボルト（2 本）を取り付ける

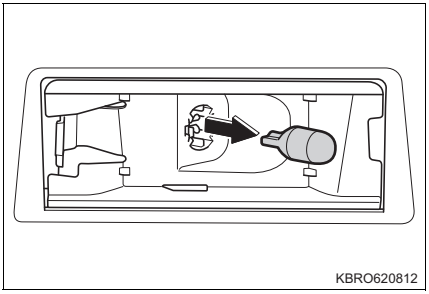


■ **番号灯**

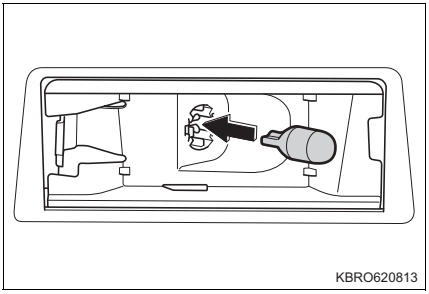
1 レンズをスライドして取り外す



2 電球を取り外す

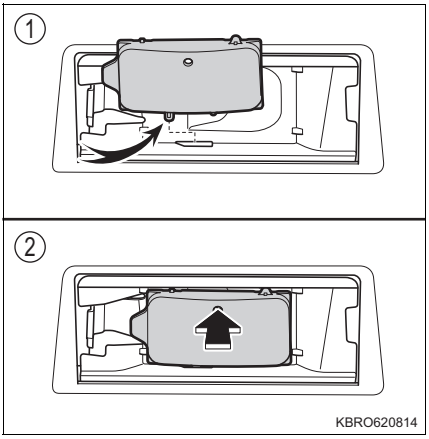


3 新しい電球を取り付ける



4 レンズを取り付ける

レンズの突起部をランプ本体の溝に入れ（①）、矢印の方向に押して（②）取り付ける



■ **その他の電球**

次の電球が切れたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

- ●ヘッドランプハイビーム／ロービーム（LED ヘッドランプ装着車）
- ●車幅灯（LED ヘッドランプ装着車）
- ●フロント方向指示／非常点滅灯（LED ヘッドランプ装着車）
- ●サイド方向指示／非常点滅灯
- ●制動灯／尾灯
- ●ハイマウントストップランプ
- ●フロントフォグランプ★
- ●サイドビューランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

LED ヘッドランプ★・制動灯／尾灯・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 473

⚠ 警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
  やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかり取り付けられていることを確認ください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には 7

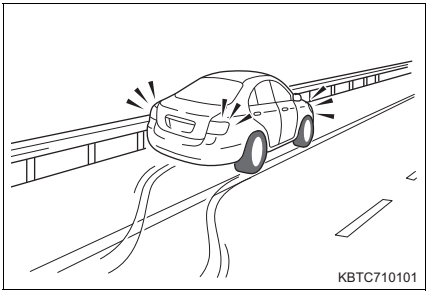
7-1. まず初めに
故障したときは …… 490
非常点滅灯（ハザードランプ） …… 491
発炎筒 …… 492
車両を緊急停止するには … 494
水没・冠水したときは …… 495
車中泊が必要なときは …… 496
7-2. 緊急時の対処法
けん引について …… 497
フューエルポンプシャットオフシステム … 504
警告灯がついたときは …… 505
警告メッセージが表示されたときは …… 513
「スマアシ停止」が表示されたときは …… 534
パンクしたときは …… 539
エンジンがかからないときは …… 552
電子カードキーが正常に働かないときは … 553
バッテリーがあがったときは …… 555
オーバーヒートしたときは …… 559
スタックしたときは …… 562

故障したときは

故障のときはただちに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 491）を点滅させながら、お車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



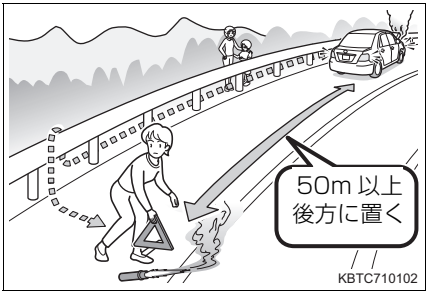
高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

●同乗者を避難させる

●車両の　50m　以上後方に発炎筒（→ P. 492）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 発炎筒は、燃料漏れの際やトンネル内では使用しないでください。

●その後、ガードレールの外側などに避難する

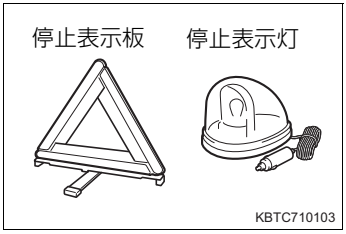


知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板のご購入については、ダイハツサービス工場にお問い合わせください。



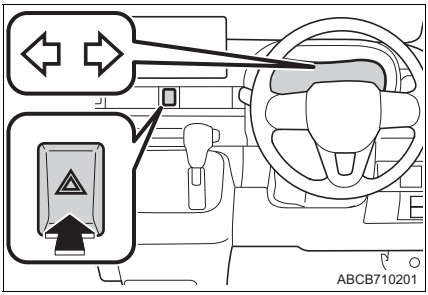
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

再度押すと消灯します。



⚠ 注意

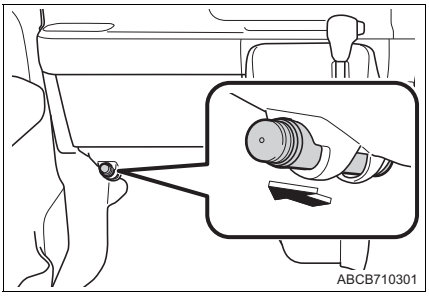
■非常点滅灯について

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

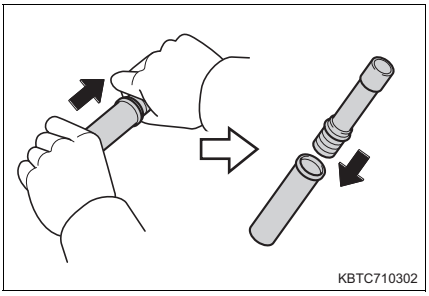
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

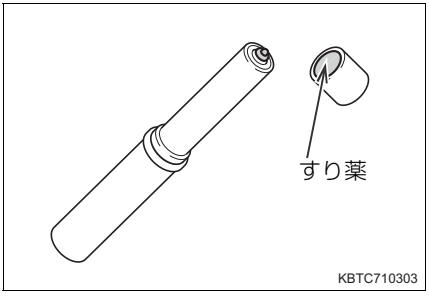
1 助手席足元の発炎筒を取り出す



2 本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む



3 先端のふたを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、ダイハツサービス工場でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまに触れさせない

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかり踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶シフトレバーが N に入った場合

3 減速後、お車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを３秒以上長押しするか、素早く３回以上連続で押してエンジンを停止する



３秒以上長押しする
または
３回以上連続で押す

KBTA710402

5 お車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなるとともにハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

  車外の水位がドアの高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※ の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

けん引について

けん引は、できるだけダイハツサービス工場または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

けん引の前にダイハツサービス工場への連絡が必要な状況

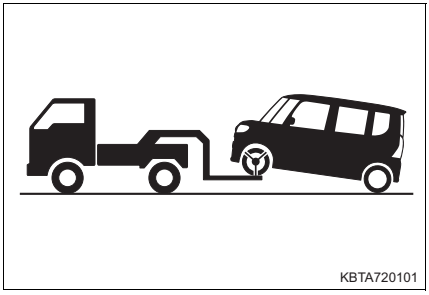
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

●エンジンはかかるがお車が動かない

●異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

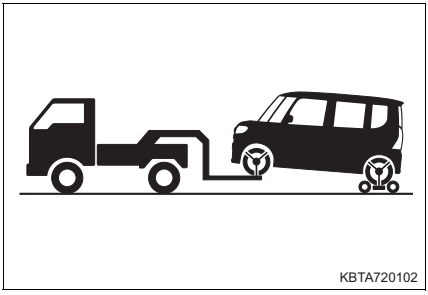
▶前向きにけん引するときは(2WD車)



パーキングブレーキを解除する

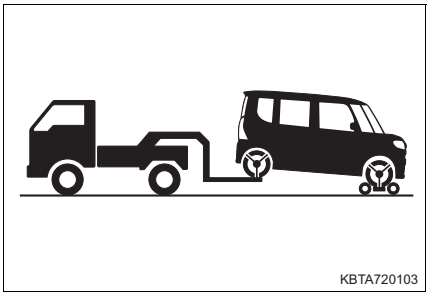
電動パーキングブレーキ装着車は、オートモードを OFF にしてください。
(→ P. 211)

▶前向きにけん引するときは(4WD車)



台車を使用して後輪を持ち上げる

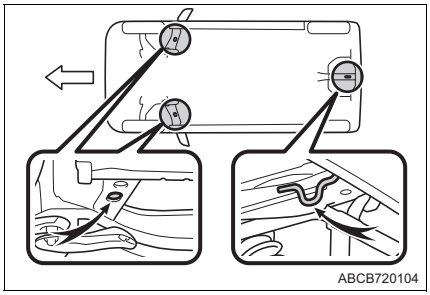
▶後ろ向きにけん引するときは



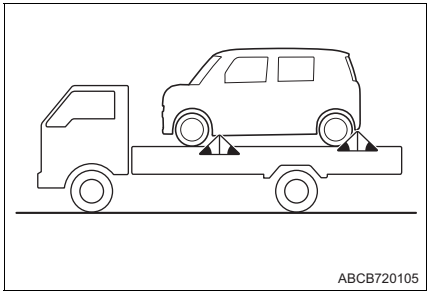
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45° になるように固縛する



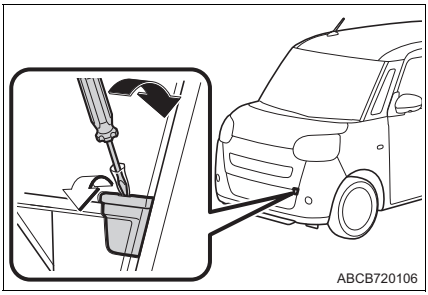
他車にけん引してもらうとき

1 けん引フックを取り出す（→ P. 455）

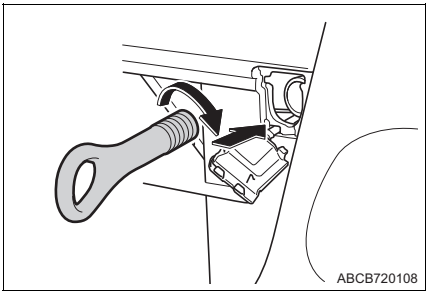
2 けん引フックを取り付ける

マイナスドライバーなどを使ってふたを外す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

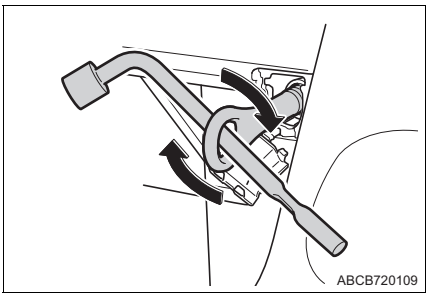


けん引フックを穴に差し込んで回し、軽く締める



ホイールナットレンチ※ や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※ ダイハツサービス工場で購入することができます。

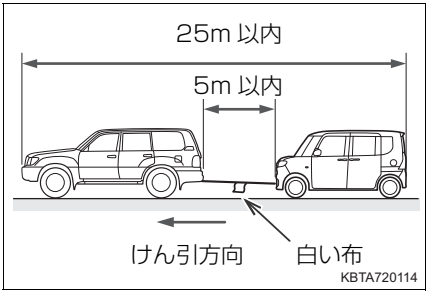


3 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

4 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



5 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

6 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 205

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

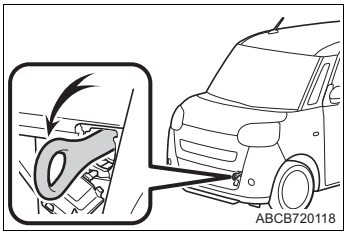
ダイハツサービス工場で購入することができます。

知識

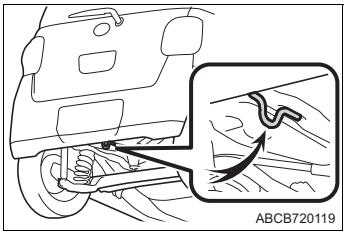
■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。また、リヤ側のフックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引することはできません。

▶フロント



▶リヤ



■けん引が終わったら

けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

⚠ 警告

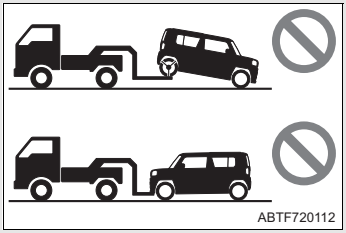
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

▶2WD 車

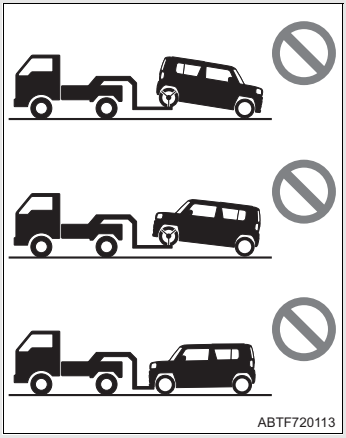
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



⚠ 警告

▶4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したりお車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。

けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを“OFF”にしないでください。

ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

●他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

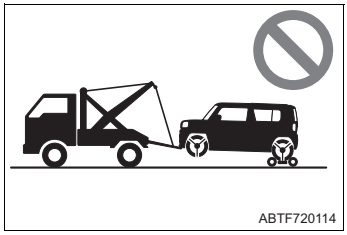
指定の位置にしっかり取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックが外れるおそれがあります。

⚠ 注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車にお車を固縛するとき

ケーブルなどを過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度は 30km/h 以下、距離 50km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■エンジンスイッチが故障したときは

ハンドルロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（2WD 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが停止してしまった場合、フューエルポンプシャットオフシステムが作動している可能性があります。フューエルポンプシャットオフシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

システム作動後にエンジンを再始動するには

1 エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にする

2 エンジンを再始動する

⚠ 警告

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料漏れを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 （赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）** • ブレーキ液の不足 • ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
 （黄色）	**ブレーキ警告灯★** パーキングブレーキの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	**充電警告灯★** 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	**油圧警告灯★** エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
 （赤色点滅または点灯）	**高水温警告灯（警告ブザー）** エンジン冷却水温の異常 （水温の上昇に伴い、点滅から点灯に変わります。→ P. 559） **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	**エンジン警告灯** • エンジン電子制御システムの異常 • 電子制御スロットルの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
CVT	**CVT 警告灯★** CVT 電子制御システムの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	**SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯** • SRS エアバッグシステムの異常 • シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	**ABS 警告灯** ABS の異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
HOLD **（点滅）**	**オートブレーキホールド作動表示灯★** オートブレーキホールド機能の異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 **（赤色）**	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
※2  **（黄色）**	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** 電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート **→ ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。**
	**キーフリー警告灯★** キーフリーシステムの異常 （キーフリー警告灯が点滅したときは→ P. 511） **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 **（黄色）**	**AHB ／ ADB 警告灯** • AHB の異常★ • ADB の異常★ **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 （点滅）  （点滅）  ※3 スマアシ故障	**スマートアシスト OFF 表示灯** **車線逸脱警報 OFF 表示灯** **マスターウォーニング** **スマートアシスト故障警告灯★** スマートアシストの一部機能の異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （点灯）  （点灯） ※3 スマアシ停止	**スマートアシスト OFF 表示灯** **車線逸脱警報 OFF 表示灯** **スマートアシスト停止警告灯★** スマートアシストの機能停止 **→ 表示された各機能停止コードごとに対処してください。（→ P. 534）**
 （黄色）	**ACC 警告灯★** • 全車速追従機能付 ACC の異常 • 全車速追従機能付 ACC の停車保持中のシステム異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （黄色）	**LKC 警告灯★** LKC の異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 	**コーナーセンサー表示灯★（警告ブザー）** **マスターウォーニング** コーナーセンサーの異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 （点灯）	**スリップ表示灯** • ブレーキアシストの異常 • VSC システムの異常 • TRC システムの異常 （VSC・TRC 作動時は点滅します→ P. 382） • ヒルホールドシステムの異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （点滅）	**eco IDLE OFF 表示灯** • eco IDLE システムの異常 • スターターの交換時期 （eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 323） **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
※4  （点滅→消灯）	**eco IDLE OFF 表示灯** バッテリーの交換時期 （eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 323） **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （点滅）	**ブレーキオーバーライドシステム警告灯★** ブレーキオーバーライドシステム異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。** **ドライブスタートコントロール警告灯★** ドライブスタートコントロールの異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （点灯）	**ブレーキオーバーライドシステム警告灯★** ブレーキオーバーライドシステムの作動時 **→ アクセルペダルから足を離す** **ドライブスタートコントロール警告灯★** ドライブスタートコントロールの作動時 **→ ただちにアクセルペダルから足を離す**
	**手放し運転警告灯（警告ブザー※5）** ハンドルの手放し運転をしている **→ ハンドルをしっかりと握って操作してください。**
	**半ドア警告灯※6★（警告ブザー※7）** いずれかのドアまたはボンネットが確実に閉まっていない **→ 全ドアまたはボンネットを閉める**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	**燃料残量警告灯（警告ブザー）** 燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	**運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯※9（警告ブザー※8）** 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**
	**後席シートベルト締め忘れ警告灯※10、11（警告ブザー※12）★** 後席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**
 （点滅）	**エンジンオイル劣化警告灯★** エンジンオイルの交換距離が近づいている※13 **→ もうすぐオイル交換が必要です。（→ P. 85）**
 （点灯）	**エンジンオイル劣化警告灯★** エンジンオイルの交換距離になった※13 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。（→ P. 85）**
 （黄色）	**プラスサポート警告灯★** プラスサポートの異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	**急アクセル時加速抑制警告灯（警告ブザー）★** 速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制が作動 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**
 （点滅）	**パーキングブレーキ表示灯※14** • パーキングブレーキのオーバーヒート **→ しばらくパーキングブレーキの使用を控えてください。パーキングブレーキの温度が下がると使用できるようになります。** • パーキングブレーキの作動が停止した **→ パーキングブレーキを解除しようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけたあとに解除してください パーキングブレーキをかけようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけてください**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

※2 パワーステアリング警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※3 「スマアシ故障」★の表示：
ステレオカメラ、ソナーに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※4 eco IDLE OFF 表示灯：
エンジン始動時に、数秒間点滅します。

※5 手放し運転警告ブザー：
車線逸脱抑制制御機能作動時は、点灯と同時に警告ブザーが鳴ります。
LKC 作動時は、点灯後、さらにハンドル操作をしない状態が続くと警告ブザーが鳴ります。

※6 半ドア警告灯：
開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイ★に表示されます。

※7 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h（スライドドアは約 3km/h）を超えたときにブザーが鳴ります。

※8 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトを締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを締め忘れたままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

※9 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

※10 インナーミラー上部に表示されます。

※11 後席シートベルト締め忘れ警告灯：
後席シートベルトが非装着の状態で、エンジンスイッチを“ON”にしたとき、または後席シートベルトを外すと点灯します。
後席シートベルトを着用する、または車速約 20km/h 以上で走行後約 60 秒経過（警告ブザーが鳴っている場合は約 30 秒経過）すると消灯します。
また、約 5km/h 以下で後席シートベルトを外し、スライドドアを開閉すると点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※12後席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
車速が約 20km/h 以上で乗員が後席シートベルトを外すと約 30 秒間鳴り続けます。一度警告ブザーが鳴ると、約 20km/h 以下で走行しても約 30 秒間鳴り続けます。
後席シートベルトを着用する、または約 5km/h 以下でスライドドアを開閉すると、ブザーが停止します。

※13交換時期の詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

※14パーキングブレーキ表示灯：
電動パーキングブレーキ装着車

ただちに処置してください（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリー警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告灯	警告内容・対処方法
—	 （高速点滅）	**キーフリー警告灯** 電子カードキーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした **→ 電子カードキーを携帯する**※1
5 回	 （高速点滅）	**キーフリー警告灯** エンジンスイッチが “ACC” または “ON” のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた **→ 電子カードキーを携帯して乗車する**
3 回	 （点滅）	**キーフリー警告灯** 電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチを OFF にした **→ 新しい電池に交換する**※2 **（→ P. 469）**

※1 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。（→ P. 469）

※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを “ACC” または “ON” にしたときも点滅します。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE 表示灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告灯	警告内容・対処方法
連続音（約 5 秒間）	 （高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた **→ 運転席ドアを閉める**
連続音（約 5 秒間）	 （高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトを外した **→ 運転席シートベルトを着用する**
連続音（約 5 秒間）	 （高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中にボンネットを開けた **→ ボンネットを閉めたあと、シフトレバーを P にして、エンジンスイッチでエンジンを始動する**

知識

■半ドア警告灯が点灯したときは

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチを “ACC” または “OFF” でドアを開けたまま約 10 分が経過すると、警告灯が自動で消灯します。

■音声認識機能について

スマホ連携ディスプレイオーディオ装着車は、音声認識機能を使用して一部の警告ブザー音の内容を音声で確認することができます。詳しくは、スマホ連携ディスプレイオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

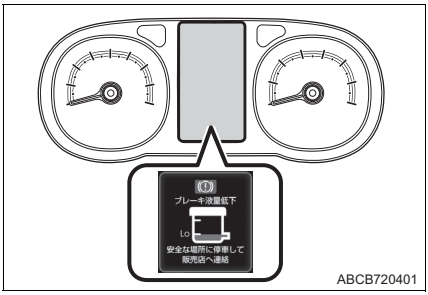
⚠ 警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは★

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★に警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

メッセージと警告作動

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  （赤色）	**ブレーキ液の不足** 車速が約 5km/h を超えたときには警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
  （赤色）	**ブレーキ系統の異常** **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**充電系統の異常** **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	**エンジンオイルの圧力異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
 （赤色）	**エンジン冷却水高温異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	**エンジン電子制御システムの異常** **電子制御スロットルの異常** **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	CVT 電子制御システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	SRS エアバッグシステムの異常 シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 （黄色） （点灯または点滅）	パーキングブレーキ異常のため、作動不可 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 （黄色）	パーキングブレーキの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 HOLD （点滅）	オートブレーキホールド機能の異常 → ブレーキペダルを踏んで停車し、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 HOLD （点滅）	オートブレーキホールド機能の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 （ABS）	ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 （赤色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 （黄色）	**電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。**
	**キーフリーシステムの異常** **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	**自動光軸調整システムの異常** **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （黄色）	**ADB の異常** **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  （点滅）  （点滅） 	スマートアシストの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
  （黄色）	全車速追従機能付 ACC の異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
  （黄色）	全車速追従機能付 ACC の停車保持中のシステム異常★ → ブレーキペダルを踏んで停車し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  （黄色）	LKC の異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	コーナーセンサーの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	コーナーセンサー機能低下 警告ブザーが鳴ります。 → 雨、雪、氷、汚れなどがバンパーのソナーに付着していないか確認し、取り除いてください。
  （点灯）	ブレーキアシストの異常 VSC システムの異常 TRC システムの異常 ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  （点滅）	eco IDLE システムの異常 スターターの交換時期 バッテリーの交換時期 バッテリーの交換時期の場合は、数秒間表示されます。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	車両通信システムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ブレーキオーバーライドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ドライブスタートコントロールの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルから足を離してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**ドライブスタートコントロールの作動時** **→ ただちにアクセルペダルから足を離す**
 	**手放し運転をしている** 車線逸脱抑制制御機能作動時は、メッセージの表示と同時に警告ブザーが鳴ります。 LKC 作動時は、メッセージの表示後、さらにハンドル操作をしない状態が続くと警告ブザーが鳴ります。 **→ ハンドルをしっかりと握って操作してください。**
	**いずれかのドアまたはボンネットが確実に閉まっていない** 開いているドアまたはボンネットが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h（スライドドアは約 3km/h）を超えたときにはブザーが鳴ります。 **→ 全ドアを閉める**
 	**燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 燃料を補給する**
 	**運転席、または助手席シートベルト締め忘れ** 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えたときに表示されます。 **→ シートベルトを着用する**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	**後席シートベルト締め忘れ** 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えてシートベルトを外したときに表示されます。 **→ シートベルトを着用する**
  **（点滅）**	**パーキングブレーキのオーバーヒート** **→ しばらくパーキングブレーキの使用を控えてください。パーキングブレーキの温度が下がると使用できるようになります。**
	**パーキングブレーキが解除されていない状態で走行した** 規定の車速を超えたときに警告ブザーが鳴ります。 **→ パーキングブレーキを解除する**
	**運転席のドアが開いている状態でパーキングブレーキのオートリリース（→ P. 212）をしようとした** **→ 運転席のドアを閉めてから操作する**
	**運転席シートベルトを締めないでパーキングブレーキのオートリリース（→ P. 212）をしようとした** **→ 運転席シートベルトを締めてから操作する**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキを解除しようとした → ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作する
  （点滅）	パーキングブレーキの作動が停止した → パーキングブレーキを解除しようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけたあとに解除してください パーキングブレーキをかけようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけてください
	急坂で停車した → ブレーキペダルを確実に踏んで停車し、周囲の安全を確認し、発進させる
	運転席のドアが開いている状態でオートブレーキホールドスイッチを操作した → 運転席のドアを閉めてからスイッチを操作する
	運転席シートベルトを締めないでオートブレーキホールドスイッチを操作した → 運転席シートベルトを締めてからスイッチを操作する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ブレーキペダルを踏まずにオートブレーキホールドスイッチを操作した → ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作する
	オートブレーキホールド機能のオーバーヒート → しばらくオートブレーキホールド機能の使用を控えてください。ブレーキの温度が下がると使用できるようになります。
	ブレーキ保持が間もなく終了する → ブレーキペダルを踏む
 ※1 	衝突警報機能（対車両・対歩行者）が作動 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
 ※2 	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のエンジン出力の抑制制御が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ※2 	**ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**
	**先行車発進お知らせ機能が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、車両を発進させる**
  **（点滅）**	**車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内に戻す**
  **（点灯）**	**ふらつき警報が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内で適切な運転をする**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**システムが休憩が必要と判断した** **→ 安全な場所に停車し、休憩する**
	**全車速追従機能付 ACC の接近警報が作動★** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ブレーキペダルを踏んで、適切な車間距離を確保してください。**
	**コーナーセンサー作動** 作動しているソナーの箇所が表示されます。 警告ブザーが鳴ることがあります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**
	**車幅灯点灯時に、運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 車幅灯を消灯する**
 	**停車時、ハンドルが左、または右に操作されている** **→ タイヤの向きを確認し、安全に車両を発進させる**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	外気温が約 3 ℃以下になった → 路面凍結の可能性があるため、路面状況を確認し慎重な運転をする
	エンジンオイルの交換距離が近づいている※3 → もうすぐオイル交換が必要です。(→ P. 114)
	エンジンオイルの交換距離になった※3 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。(→ P. 114)
	プラスサポートの異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制が作動★ 警告ブザーが鳴ります。 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

※1 衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ・2 次ブレーキ、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動したとき点灯します。

※2 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のエンジン出力制御、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のエンジン出力制御・ブレーキ制御が作動したとき点灯します。

※3 交換時期の詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示とは異なる場合があります。

■警告メッセージの表示について

エンジンスイッチが “ON” のときに ENTER スイッチを押すと、警告メッセージが非表示になります。
（非表示にしても、数秒後に再表示される警告メッセージがあります）

■「開いています」の警告メッセージが表示されたときは

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチを “ACC” または “OFF” でドアまたはボンネットを開けたまま約 10 分が経過すると、自動で非表示になります。

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

次のような場合は、車線・道路※ を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●作動条件以外の車速で走行しているとき

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります。（→ P. 282）

※ アスファルトと草・土などの境界

■音声認識機能について

→ P. 512

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリーシステムの警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—		電子カードキーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした → **電子カードキーを携帯する**※1

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
5回	3回		エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 電子カードキーを携帯して乗車する**
—	1回		車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした **→ 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する**
—	1回		タッチ & ゴーロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、電子カードキーを車内に戻した **→ 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度タッチ&ゴーロック機能を使用する**
—	1回		エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた **→ 電子カードキーを携帯して施錠する**
—	1回		エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、運転席ドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした **→ 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—		電子カードキーを携帯していない状態で 2 回エンジンをかけようとした **→ 電子カードキーを携帯する※1**
—	—		自動でエンジンスイッチが “OFF” になった • エンジンスイッチが “ACC” のときは 1 時間以上、“ON” のときは 20 分以上経過すると表示されます。 **→ 次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転を保持しバッテリーを充電する**
3 回	—		電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチを “OFF” にした※2 • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 新しい電池に交換する（→ P. 469）**
—	—		エンジンスイッチを押してハンドルロックが解除できなかった **→ ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押す**
—	—		シフトレバーが P 以外の状態でエンジンスイッチを “OFF” にしようとした **→ シフトレバーを P にする**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	1 回		エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした **→ エンジンスイッチを“OFF”にして施錠する**

※1 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。(→ P. 469)

※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも表示されます。

知識

■警告メッセージについて

→ P. 528

■警告メッセージの表示について

→ P. 528

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザーが聞こえない場合があります。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE の警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音（約 5 秒間）	 （高速点滅）	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトを外した • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 運転席シートベルトを着用する**
連続音（約 5 秒間）	 （高速点滅）	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 運転席ドアを閉める**

知識

■警告メッセージについて

→ P. 528

■警告メッセージの表示について

→ P. 528

■警告ブザーについて

→ P. 532

「スマアシ停止」が表示されたときは

スマートアシストの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示され、スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は、次のように対処してください。

また、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、機能停止のメッセージを表示することができます。(→ P. 94)

機能停止コード一覧

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止 2E	 	ブレーキパッドが高温になった **→ 原因状態が解消され、再度エンジンスイッチを“ON”にすると復帰**
スマアシ 停止 5E		雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部に付着している **→ ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰**
スマアシ 停止 6E		フロントワイパーを“高速”で作動させている **→ 原因状態が解消されると復帰**

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止:10E		ACC★・LKC★が視界不良により作動条件を満たさなくなった **→ 原因状態が解消されると復帰**
スマアシ 停止:11E		ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない **→ 原因状態が解消されると復帰**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止:12E	  	ステレオカメラ（車両前側）内が高温になった **→ 原因状態が解消されると復帰**
スマアシ 停止:14E	  	スマートアシスト初期学習中 **→ しばらく走行すると復帰**

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止:15E		雨、雪、氷、汚れなどがリヤソナー部に付着している **→ ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰**
スマアシ 停止:16E		フロントワイパーを“高速”で作動させている **→ 原因状態が解消されると復帰**

※ グレード、オプションなどにより、ディスプレイに表示される文字の配列が異なります。

知識

■機能停止コードについて

- ●処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。
  通常の走行に支障はありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ●「5E」「6E」「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- ●「5E」「6E」はシフトレバーがP・R・N以外のときに表示します。
- ●「10E」「11E」はシフトレバーがR以外のときに表示します。
- ●「15E」「16E」はシフトレバーがRのときに表示します。
- ●「2E」「5E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- ●「5E」が表示されていても、スマートアシストOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が表示されないことがあります。
- ●「15E」「16E」が表示されていても、車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しないことがあります。
- ●シフトレバーがD・S・Bのときは、フロントワイパーを“高速”で作動させていても、「6E」、「スマアシ停止」、警告メッセージが表示されないことがあります。
- ●グレード、オプションなどによる装備の有無によっては、表示されない停止コードがあります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。(→ P. 540)

タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

⚠ 警告

■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

●地面が固く平らで安全な場所に移動する

●パーキングブレーキをかける

●シフトレバーを P に入れる

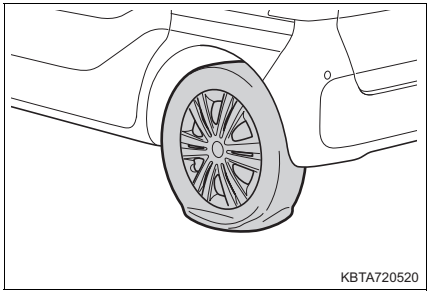
●エンジンを停止する

●非常点滅灯を点滅させる

●タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなり過ぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- パンク修理剤が漏れないようにするため、パンク箇所がわかっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。


KBTA720520

知識

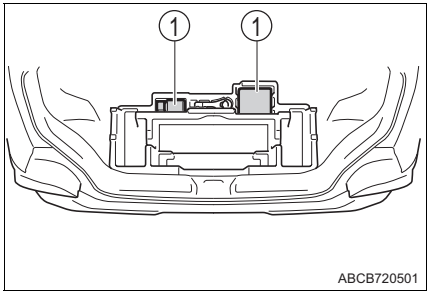
■タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク

次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

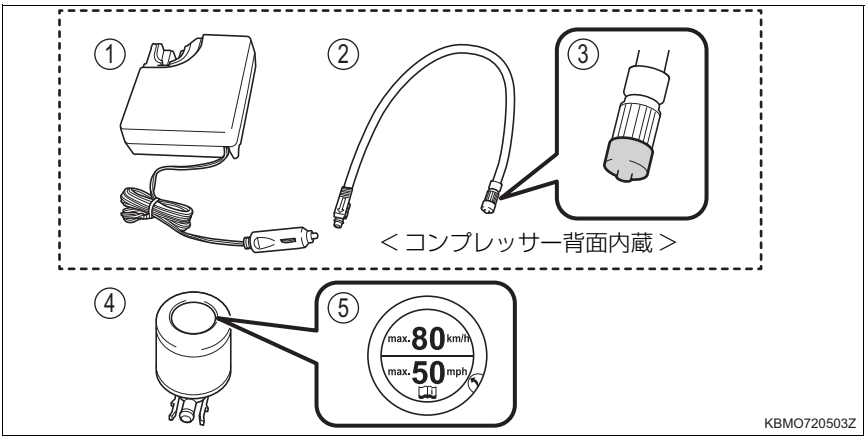
- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかに外れているとき
- ●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●パンク修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理セットの搭載位置

① タイヤパンク応急修理セット



タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称

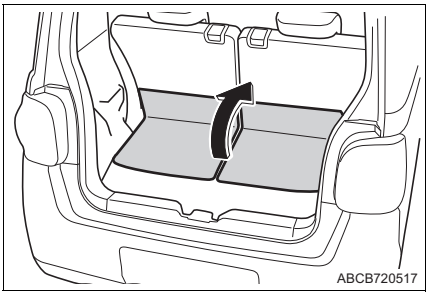


① コンプレッサー
② ホース
③ ホース栓
④ パンク修理剤ボトル
⑤ 速度制限シール

タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

1 リヤシートをいちばん前までスライドする（→ P. 169）

2 カバーを上げる



3 タイヤパンク応急修理セットを取り出す（→ P. 541）

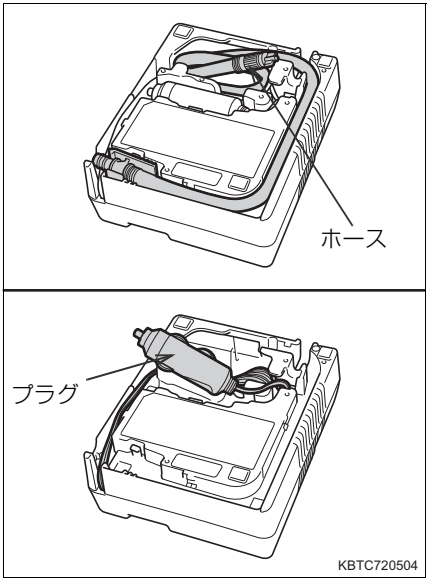
応急修理するとき

1 パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

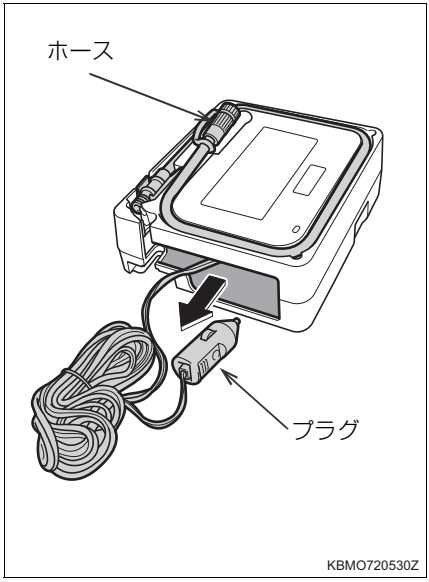
緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
（新しく購入したパンク修理剤ボトルには、緩衝材が入っていません）

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

▶タイプ A



▶タイプ B

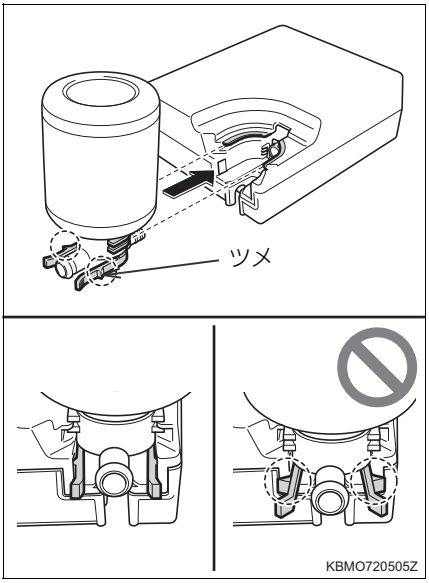


3 パンク修理剤ボトルをよく振る

パンク修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

4 コンプレッサーにパンク修理剤ボトルを強く押し込み固定する

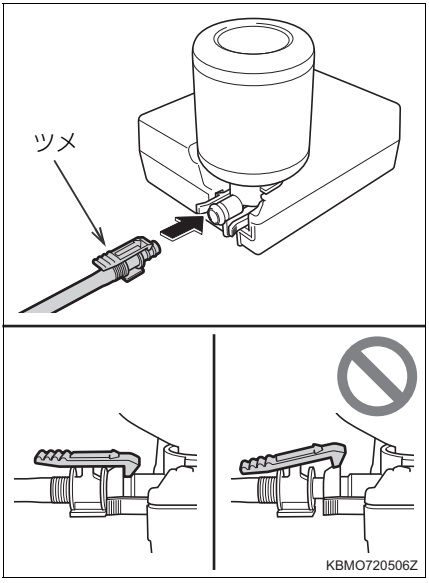
ボトルのツメが固定されるまで、しっかり押し込んでください。



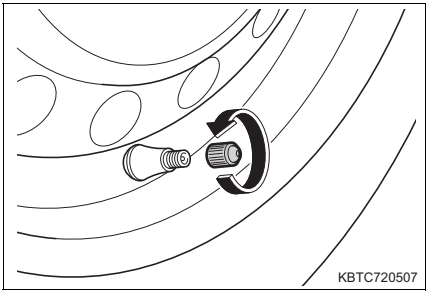
5 パンク修理剤ボトルにホースを差し込む

ホースのツメが固定されるまでしっかり差し込んでください。

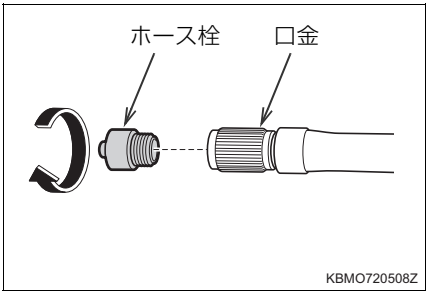
接続部が確実に固定されていることを確認してください。



6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す


KBTC720507

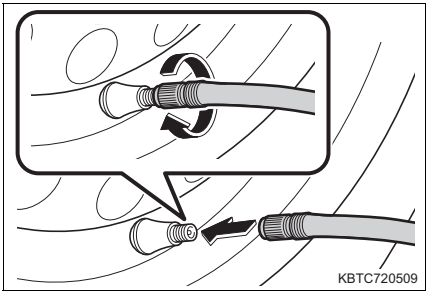
7 ホースの口金からホース栓を取り外す



KBMO720508Z

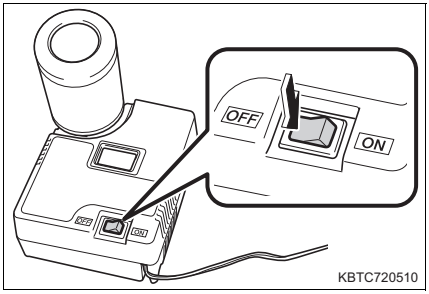
8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホースの口金を回して最後までしっかりねじ込みます。


KBTC720509

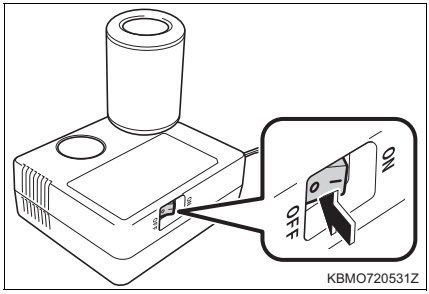
9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する

▶タイプA



KBTC720510

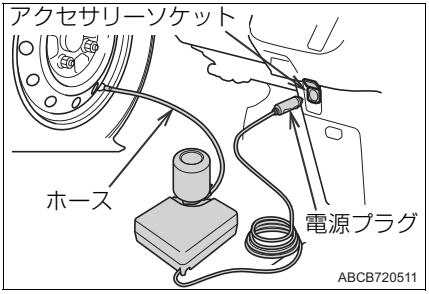
▶タイプB



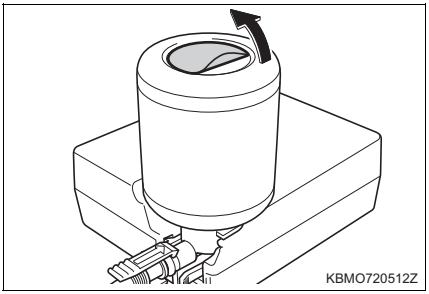
KBMO720531Z

10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリーソケットに差し込む

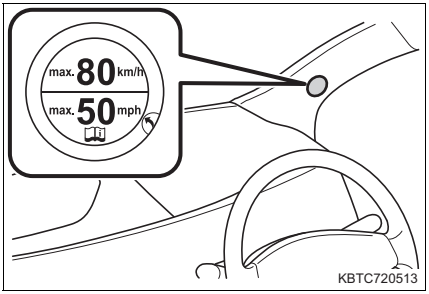
手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリーソケットに差し込んでください。



11 パンク修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



13 タイヤの指定空気圧を確認する

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

14 エンジンを始動する

15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、パンク修理剤と空気を充填する

16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

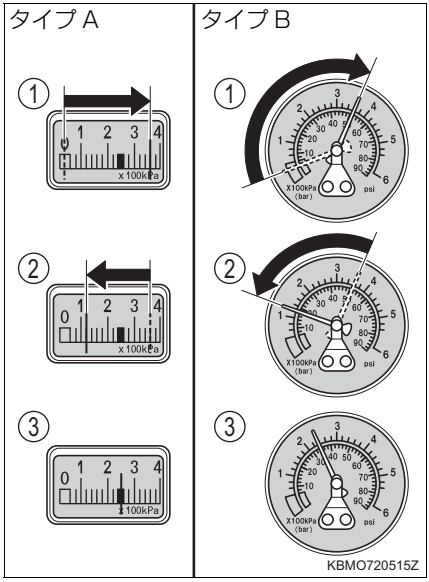
① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくはパンク修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約 300 ～ 400kPa まで上がります。

② 1 分程度(低温の場合は 5 分程度)で実際の空気圧表示になります。

③ 指定空気圧になるまで昇圧します。

次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

- パンク修理剤が 5 分以内に充填できない
- 25 分以内に指定空気圧まで上がらない



17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す

ホースの口金を取り外すときにパンク修理剤が漏れることがあります。

19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

21 一旦パンク修理剤ボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

コンプレッサーに取り付けたボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残ったパンク修理剤がこぼれるおそれがあります。

22 空気が抜けるのを防ぐため、ただちに走行を開始する

急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転してください。

23 約 5km 程度走行後、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする

24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する

- コンプレッサーを車両に接続する
- エンジンを始動する
- コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する

25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する

▶ 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合

手順 6 ～ 23 を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。

▶ 空気圧が 130kPa 以下に低下していた場合

タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

26 異常がなければ、ただちにダイハツサービス工場まで走行する

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
- 100km 以上の距離を走行しないでください。

知識

■応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■タイヤパンク応急修理セットの点検について

●パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はパンク修理剤ボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。

●コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込み、エンジンスイッチを“ACC”にして、作動の確認をしてください。

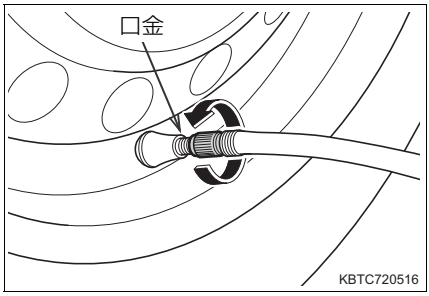
知識

■タイヤパンク応急修理セットについて

- ●タイヤパンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。
- ●タイヤパンク応急修理セットのパンク修理剤ボトルとホースは、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルとホースの交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ●外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- ●タイヤパンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- ●パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- ●パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などでただちにふき取ってください。
- ●コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- ●コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- ●新しいパンク修理剤ボトルは、ダイハツサービス工場でご購入ください。

■空気を入れ過ぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



⚠ 警告

■タイヤパンク応急修理セットについて

●タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●タイヤパンク応急修理セットはお客様のお車専用です。他車には使わないでください。他車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●コンプレッサーの使用中に、作動がにぶくなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30 分以上放置してください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メーターやウインドウガラスなど、運転の妨げになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●お車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルを取られたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。

・空気圧を確認してください。130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。

取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■タイヤパンク応急修理セットについて

●タイヤパンク応急修理セットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●タイヤパンク応急修理セットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧ゲージなどに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 199）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

●燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

●燃料を吸い込み過ぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 199）に従って、エンジンをかけてください。

●エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 60）

スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

●バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 555）

●バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターが回らない場合

●電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 553）

●ハンドルロックに異常がある可能性があります。

スターターが回らない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

●バッテリーのターミナルが外れている可能性があります。

●バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 555）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

電子カードキーが正常に働かないときは

電子カードキーと車両間の通信が妨げられたり（→ P. 128）、電子カードキーの電池が切れたときは、キーフリーシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

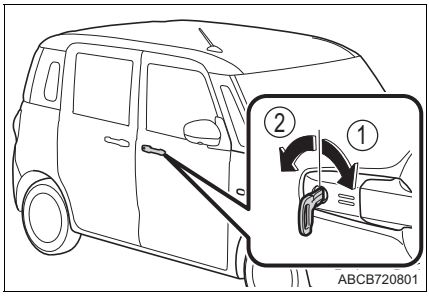
ドアの施錠・解錠

エマージェンシーキー（→ P. 120）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② 全ドア解錠

セキュリティアラームがセットされている場合は、セキュリティアラームが作動します。（→ P. 61）

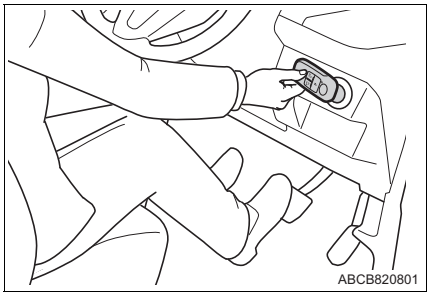


エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる

- エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
- セキュリティアラームの作動が停止します。（→ P. 61）



3 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 469）

■エンジンスイッチモードの切り替え

エンジン始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切り替わります。（→ P. 200）

■電子カードキーが正常に働かない場合

電子カードキーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は、解除してください（→ P. 128）

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 バッテリーの＋端子のカバーを開ける

ツメを押しながら開けます。

2 ブースターケーブルを次の順につなぐ

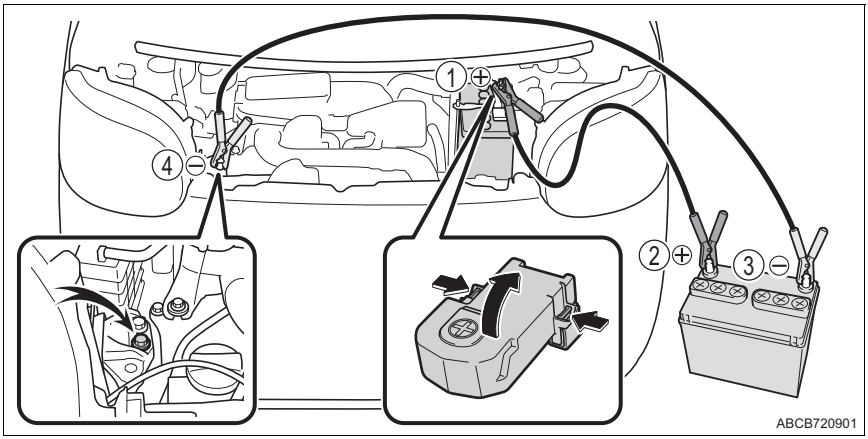
① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

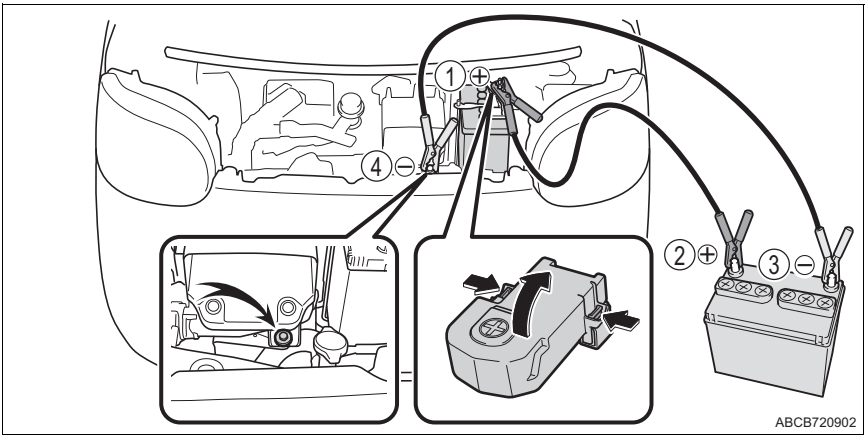
③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す位置につなぐ

▶KF-VE エンジン搭載車



▶KF-VET エンジン搭載車



3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチを一旦“ON”にしてから自車のエンジンをかける

5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順で外す

6 ＋端子のカバーを閉める

エンジンがかかっても、早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがりのときの始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していない間も、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

知識

■バッテリーあがりのときや取り外し時など

●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に作動しますので、問題ではありません。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがりのとき、バッテリー脱着後は、バッテリーを外す前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを“OFF”にしてから行ってください。

バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

⚠ 警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

●バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける

また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

⚠ 警告

■バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは

確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

■お車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。

触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、eco IDLE 専用品です。

同等の性能のものと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリーの端子から直接電装品の電源を取らないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取り外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- ●高水温警告灯（→ P. 505）が赤色に点滅または点灯した
- ●TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車：「エンジン冷却水高温」の警告メッセージ（→ P. 514）が表示された
- ●エンジンの出力が低下した（スピードが出ないなど）
- ●エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

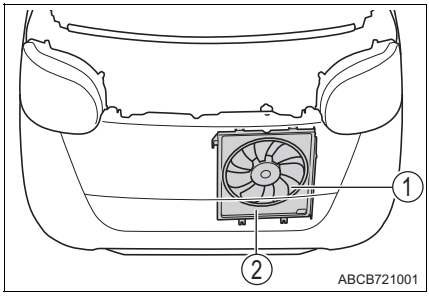
2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水漏れを点検する

① ファン

② ラジエーター

多量の冷却水漏れがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。



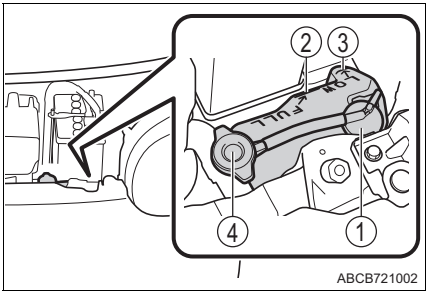
4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバータンク

② “FULL”（上限）

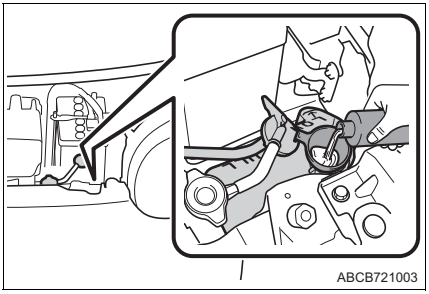
③ “LOW”（下限）

④ ラジエーターキャップ



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水漏れがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF を繰り返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、ダイハツサービス工場に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのダイハツサービス工場で点検を受ける

⚠ 警告

■処置を行う前に

水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ●手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱い場合はラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって吹き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する

2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

3 タイヤの下に木や石などをあてがう

4 エンジンを再始動する

5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

VSC・TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC・TRC を停止してください。（→ P. 382, 383）

⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、お車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

お車が急発進したり、トランスミッションなどに重要な損傷を与えるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤが破裂したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）…… 564
8-2. カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧 …… 570
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 …… 577

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを使用してください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン	30

エンジンオイル

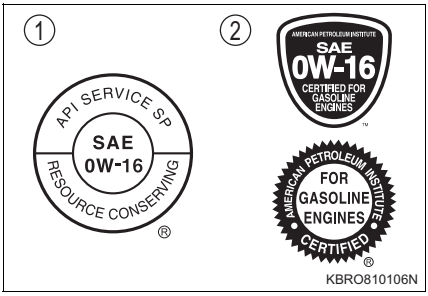
指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値※）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨：アミックス EXTRA 0W-16 適合：アミックス EXTRA 0W-20	KF-VE	3.05	3.25
推奨：アミックス EXTRA 0W-20	KF-VET		

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

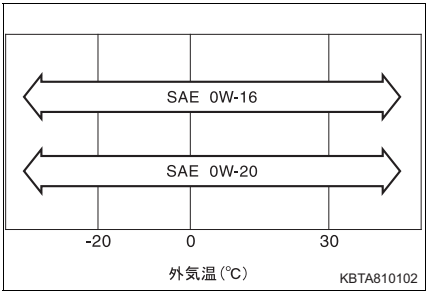
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

次の図に基づき、外気温に適した粘度のものを使用してください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値）
アミックスロングライフクーラント（高防錆力タイプ） 凍結保証温度 濃度 50%　－ 35 ℃	KF-VE	3.4
	KF-VET	

トランスミッション

指定銘柄	駆動方式	容量［L］（参考値※）
アミックス CVT フルード -DFE	ターボ車以外	5.83
	ターボ車	5.75

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください。

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
アミックスディファレンシャル ハイポイドギヤオイル（API GL-5 SAE 80W-90）	0.3

リヤディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
アミックス ATF D3-SP	0.76

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
アミックスブレーキフルード（DOT3 相当）

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	0.5 ～ 3
踏み込んだときの床板とのすき間※	92.9 以上

※ エンジン回転時に 294 N（30 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ（電動パーキングブレーキ非装着車）

項目	基準値（回数）
踏みしろ 踏力 245N（25kgf）のときのノッチ※ 数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

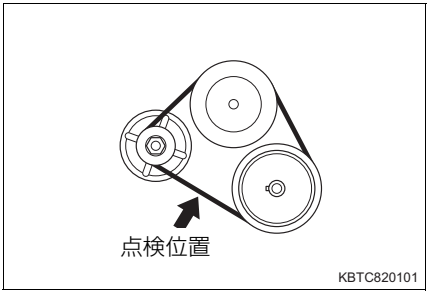
バッテリー

形式
M-42

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
1.5

V リブドベルト

項目	エンジン	基準値［mm］
たわみ量  押力 98N（10kgf）（冷間時）	KF-VE	7.9 ～ 9.7
		自動調整式※
	KF-VET	自動調整式

※ 全車速追従機能付 ACC 装着車

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
155/65R14 75S	14×4 1/2J	240（2.4）	240（2.4）

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハロゲンヘッドランプ装着車 （バルブタイプ：H4）	60/55
	車幅灯★	5
	フロント方向指示／非常点滅灯★	21
	サイド方向指示／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	フロントパーソナルランプ	5
	ルームランプ	8

※表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
LA850S	KF-VE（ガソリン）	FF（前輪駆動）
	KF-VET（ガソリン）	
LA860S	KF-VE（ガソリン）	4WD（4 輪駆動）
	KF-VET（ガソリン）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてダイハツサービス工場で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはダイハツサービス工場へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ キーフリーシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 123）

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
作動の合図（音量）	レベル 5	OFF
		レベル 1 ～ 7

■ キーフリーシステム（→ P. 123）

機能の内容	初期設定	変更後
キーフリーシステムの作動	あり	なし
電子カードキーの室外自動検知機能の作動	あり	なし

■ パワースライドドア（→ P. 143）

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図（ブザー）	標準	大きい
		小さい
電子カードキーのボタンでスライドドアを開閉する	長押し	OFF
		短押し
インストルメントパネル内のパワースライドドアスイッチでスライドドアを開閉する	長押し	短押し
閉作動中のブザー	あり	なし
ワンタッチスイッチの反応時間	0.1 秒	OFF
		0.2 秒
		0.5 秒
予約オープン★待ち時間	1.5 秒	0.5 秒
		2.5 秒
予約オープン★有効時間	3 時間	18 時間

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアロック（→ P. 135）

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応オートドアロック	あり	なし
シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠 （シフト操作連動ドアロック）	なし	あり
シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠 （シフト操作連動アンロック）	あり	なし
エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしたときの全ドア解錠 （エンジンスイッチ“OFF”連動オートドアアンロック）	なし	あり
電子カードキーを携帯して解錠範囲に入ったときの全ドア解錠 （ウェルカムドアロック解除★）	なし	あり
ウェルカムドアロック解除★が作動してから15秒後に自動再ロック	あり	なし

■ バックドア（→ P. 163）

機能の内容	初期設定	変更後
バックドアの右側スイッチ操作による作動	施錠のみ	施錠・解錠

■ 衝突警報機能（→ P. 259）

機能の内容	初期設定	変更後
衝突警報機能の警報タイミング	標準	早い
		遅い

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能（→ P. 280）

機能の内容	初期設定	変更後
車線逸脱警報機能の警報タイミング	標準	早い

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ふらつき警報（→ P. 288）

機能の内容	初期設定	変更後
ふらつき警報の作動	あり	なし

■ 車線逸脱抑制制御機能（→ P. 280）

機能の内容	初期設定	変更後
車線逸脱抑制制御機能の作動	あり	なし

■ LKC（レーンキープコントロール）★（→ P. 314）

機能の内容	初期設定	変更後
LKC の作動	あり	なし

■ 先行車発進お知らせ機能（→ P. 291）

機能の内容	初期設定	変更後
先行車発進お知らせ機能の作動	あり	なし
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング	標準	やや早い
		早い

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★（→ P. 293）

機能の内容	初期設定	変更後
標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動	あり	なし
標識認識機能（進入禁止）作動のブザー	なし	あり

■ 全車速追従機能付 ACC★（→ P. 297）

機能の内容	初期設定	変更後
全車速追従機能付 ACC の先行車認識ブザー	あり	なし

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートエアコン（→ P. 394）

機能の内容	初期設定	変更後
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切り替える	する	しない
オートエアコン使用時の eco IDLE によるアイドリングストップの設定	標準	空調※

※エアコンの作動が優先され、eco IDLE によるエンジン停止が可能な状態になるまでの時間が長くなったり、エンジン停止の時間が短くなったりする場合があります。（→ P. 322）

■ コーナーセンサー（→ P. 332）

機能の内容	初期設定	変更後
コーナーセンサーのブザー（音量）	レベル 2	レベル 1
		レベル 3

■ ランプ（→ P. 79, 112, 219）

機能の内容	初期設定	変更後
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動
電子カードキーで全ドア解錠時に車幅灯、番号灯、尾灯が自動点灯（ウェルカムランプ設定（テールランプ連動））	しない	する

■ ヘッドランプ点灯延長機能（→ P. 220）

機能の内容	初期設定	変更後
ヘッドランプが自動的にオフになるまでの経過時間	30 秒	60 秒
		90 秒
		120 秒

■ メーター（→ P. 86, 116）

機能の内容	初期設定	変更後
メーター照明が夜照度になる感度	0	－2～2

■ イルミネーション（→ P. 403）

機能の内容	初期設定	変更後
ドア開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯する時間	15 秒	OFF
		7.5 秒
		30 秒
室内灯が自動で消灯する	する	しない
エンジンスイッチ“OFF”後の室内灯自動点灯機能	あり	なし
電子カードキーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯（ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動））	する	しない

■ ドアミラー（→ P. 179）

機能の内容	初期設定	変更後
ドアミラースイッチの操作によるドアミラーの格納・復帰	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”で格納・復帰できる	エンジンスイッチが“ON”で格納・復帰できる
オート作動によるドアミラーの復帰	キーフリーシステムによるドアの解錠と連動して復帰する	エンジンスイッチの操作と連動して復帰する
エンジンスイッチの操作によるドアミラーの復帰※	エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にすると復帰する	エンジンスイッチを“ON”にすると復帰する

※オート作動によるドアミラーの復帰の設定をエンジンスイッチの操作と連動に変更した場合

■ フロントワイパー（→ P. 234）

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応間欠作動機能	する	しない

■ リヤワイパー&ウォッシャー（→ P. 236）

機能の内容	初期設定	変更後
リバース連動機能	する	しない
間欠作動時間の調整	標準	早い
		遅い
間欠作動開始時に 4 秒間の低速作動	する	しない
リヤウォッシャー連動機能	しない	する

■ 方向指示レバー（→ P. 207）

機能の内容	初期設定	変更後
レバーを途中まで動かしたときの3回点滅する機能	する	しない
逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の 3 回点滅が始まるまでのレバー保持時間	レベル 2	レベル 1 ～ 4
右左折後に消灯させるハンドルの角度調整	レベル 3	レベル 1 ～ 9

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワースライドドア	●バッテリーの充電・交換後の再接続 ●ヒューズ交換時	P. 152
パワーウインドウ		P. 184

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）…… 580
お車から音が鳴ったときは
（音さくいん）…… 583
アルファベット順さくいん…… 584
五十音順さくいん…… 585

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、ダイハツサービス工場にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

●キーまたはエマージェンシーキーをなくした場合、ダイハツサービス工場でダイハツ純正の新しいキーまたはエマージェンシーキーを作ることができます。（→ P. 120）

●キーまたは電子カードキーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにダイハツサービス工場にご相談ください。（→ P. 122）

施錠・解錠できない

●キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 469）

●エンジンスイッチが“ON”になっていませんか？
施錠するときはエンジンスイッチを“OFF”にしてください。（→ P. 200）

●電子カードキーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは電子カードキーを携帯していることを確認してください。

●電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 128）

スライドドアが開かない

●チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
一旦車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 147）

スライドドアが全開にならない

●中間ストッパーがかかっていませんか？
給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストパー位置で停止します）。給油口を閉じ、一旦スライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。（→ P. 149）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

●ブレーキペダルをしっかり踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 199）
●シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 199）
●キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 125）
●ハンドルロックされていませんか？（→ P. 202）
●キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→ P. 553）
●バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 555）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

●エンジンスイッチが“ON”になっていますか？
エンジンスイッチが“ON”でブレーキを踏んでも解除できないときは（→ P. 205）を参照してください。

エンジンを停止したあとにハンドルが回せなくなった

●盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 201）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

●ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 183）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

●一定時間“ACC”または“ON”（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 201）

警告音が鳴りだした

●警告音が鳴りだしたときは、「お車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 583）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージ★が表示されたとき

●警告灯や警告メッセージ★が表示されたときは、（→ P. 505，513）をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

●お車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理セットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 539）

立ち往生した

●ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 562）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、お車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

お車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 222
パワースライドドアで自動開閉するとき	パワースライドドアメインスイッチが ON のときに、他のパワースライドドアの作動条件を満たしていない状態でドアハンドルを引いた	P. 150
	パワースライドドアメインスイッチが OFF のときにパワースライドドアスイッチを押した	P. 150
	全開するときにドアハンドルの操作が不十分だった	P. 151
パワースライドドアで自動開閉しているとき	パワースライドドアメインスイッチを OFF にした	P. 151
	給油扉を開けた	P. 151
	車速が約 3km/h 以上になった	P. 151
	挟み込み防止機能が作動した	P. 151

走行しているとき

状況	原因	詳細
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 194

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）…… P. 394
ABS
（アンチロックブレーキシステム）…… P. 381
ACC
（アクセサリー）…… P. 200
（アダプティブクルーズコントロール）…… P. 297
ADB
（アダプティブドライビングビーム）…… P. 228
AHB
（オートハイビーム）…… P. 224
CTA
（コーナリングトレースアシスト）…… P. 381
EDR
（イベントデータレコーダー）…… P. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）…… P. 381
HDMI
（ハイディフィニションマルチメディアインターフェイス）…… P. 424
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）…… P. 565
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）…… P. 41
LKC
（レーンキープコントロール）…… P. 314
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）…… P. 31
TRC …… P. 381
USB
（ユニバーサルシリアルバス）…… P. 422
VSC …… P. 381

五十音順さくいん

あ

アイドリングストップ …… 322
アイドリングストップ時間 ……78, 92
eco IDLE（エコアイドル）…… 322
eco IDLE OFF スイッチ … 323
eco IDLE OFF 表示灯 …… 323
eco IDLE 表示灯 …… 322
アウターハンドル（ドアハンドル） …… 133
アウターミラー …… 179
オート作動…… 180
調整…… 179
アクセサリーソケット …… 421
アシストグリップ …… 431
アンチロックブレーキシステム（ABS）…… 381
アンテナ …… 434
アームレスト …… 420

い

イグニッションスイッチ …… 199
位置交換（タイヤローテーション） …… 450
イベントデータレコーダー（EDR）…… 8
イモビライザー機能 ……60
イルミネーテッドエントリーシステム（ドア連動）
カスタマイズ機能…… 570
作動について…… 405
点灯する部位…… 403
インジケーター ……70
インナーミラー（ルームミラー） …… 178
インパネアッパーボックス …… 407

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 …… 475
方向指示レバー …… 207
ワット数 …… 569
ウインドウ…… 182
ウォッシャー ……234, 236
パワーウインドウ …… 182
リヤウインドウデフォッガー …… 396
ウインドウロックスイッチ（パワーウインドウOFF スイッチ）…… 183
ウェルカムオープン機能…… 148
ウェルカムドアロック解除…… 138
ウェルカムランプ設定…… 79, 112
ウォッシャー……234, 236
液の補給 …… 448
スイッチ ……234, 236
タンク容量 …… 567
冬の前の準備・点検 …… 388
ウォーニングランプ（警告灯）…… 505
動けなくなったときは（スタックした）…… 562
運転…… 188
環境に配慮した運転 …… 191
寒冷時の運転 …… 388
正しい運転姿勢 …… 24
手順 …… 188
運転席シートベルト締め忘れ警告灯 …… 509

え

エアコン
オートエアコン …… 394
フィルターの交換 …… 462

エアバッグ …… 31
SRS エアバッグ警告灯 …… 506
作動条件…… 35
配置…… 31
HDMI 端子 …… 424
エマージェンシーキー（メカニカルキー） …… 120
エマージェンシーストップシグナル（緊急ブレーキシグナル） …… 382
LED イルミネーション…… 219
電球（バルブ）の交換…… 475
ランプスイッチ（ライトスイッチ）…… 219
LKC（レーンキープコントロール）…… 314
エンジン
イグニッションスイッチ…… 199
エンジンがかからない…… 552
エンジン警告灯…… 505
エンジンスイッチ…… 199
オーバーヒート…… 559
かけ方…… 199
ボンネット…… 443
エンジンイモビライザーシステム表示灯（セキュリティ表示灯）…60
エンジンオイル …… 564
エンジンオイル劣化… 509, 527
定期点検…… 447
冬の前の準備・点検…… 388
メンテナンスデータ…… 564
油圧警告表示…… 505
エンジンスイッチ
操作方法…… 199
エンディング画面 ……98
AHB（オートハイビーム） …… 224
ADB（アダプティブドライビングビーム）…… 228

お

オイル
油脂類の容量と銘柄 …… 564
応急修理セット…… 539
お子さまを乗せるとき…… 40
ウインドウロックスイッチ（パワーウインドウOFF スイッチ）…… 183
エアバッグに関する警告 …… 32
お子さまのシートベルト着用 …… 28
お子さまを乗せるときの警告 …… 29
キーの電池に関する警告 … 471
シートベルトに関する警告 … 29
チャイルドシート …… 41
チャイルドシートの取り付け …… 53
発炎筒の取り扱いに関する警告 …… 493
バックドアに関する警告 … 165
バッテリーに関する警告 … 557
パワーウインドウに関する警告 …… 184
お手入れ
外装 …… 434
シートベルト …… 440
内装 …… 439
オドメーター…… 77, 90
機能 …… 77, 90
表示切り替えスイッチ … 76, 89
オートエアコン…… 394
オートドアロック・アンロック機能 …… 135
オートブレーキホールド機能… 215
オートライト（自動点灯・消灯機能）…… 219

オートレベリングシステム
作動について…… 222
オーバーヒート …… 559
オープナー
給油口…… 240
バックドア…… 163
ボンネット…… 443
オープニング画面 ……96
オープントレイ …… 412

か

外気温度表示 ……78, 92
外装の電球（バルブ） …… 475
交換要領…… 475
ワット数…… 569
格納式アシストグリップ …… 431
カスタマイズ機能 …… 570
ガソリンスタンドでの情報 …… 600
型式 …… 569
カップホルダー …… 409
ガラスの曇り取り
（リヤウインドウ
デフォッガー）…… 396
ガレージジャッキ …… 446
冠水路走行 …… 197
寒冷時の運転 …… 388
カーテンシールドエアバッグ ……31
カーペット …… 440
洗浄…… 440
フロアマットの取り付け方……22

き

給油 …… 238
給油のしかた…… 240
メンテナンスデータ…… 564
緊急時のシートベルト固定機構 …27
緊急時の対処
イベントデータレコーダー
（EDR） …… 8
エンジンがかからない …… 552
オーバーヒートした …… 559
キーの電池が切れた …469, 553
キーを失くした ……120, 122
警告灯がついた …… 505
警告メッセージが
表示された …… 513
けん引 …… 497
故障したときは …… 490
車中泊が必要なときは …… 496
車両を緊急停止する …… 494
水没・冠水したときは …… 495
スタックした …… 562
電子カードキーが
正常に働かない …… 553
発炎筒 …… 492
バッテリーがあがった …… 555
パンクした …… 539
非常点滅灯
（ハザードランプ） …… 491
緊急ブレーキシグナル
（エマージェンシー
ストップシグナル） …… 382
キー…… 120
イグニッション
スイッチ …… 199
エンジンが始動できない … 552
エンジンスイッチ …… 199
キーナンバープレート …… 120
キーの構成 …… 120
キーの電池が切れた …… 469
キーを失くした ……120, 122
正常に働かない …… 553
施錠・解錠ができない …… 553

電子カードキー…… 120
電子カードキーの
作動範囲 …… 125
電池交換…… 469
メカニカルキー
（エマージェンシー
キー） …… 120, 553
キーフリーシステム …… 123
アンテナの位置…… 125
エンジンスイッチ
（プッシュボタン
スタートスイッチ） …… 199
エンジンの始動…… 199
カスタマイズ機能…… 570
警告ブザー…… 126, 528
作動範囲…… 125
正常に働かない…… 553
節電機能…… 128
電波がおよぼす影響に
ついて …… 132
ドアの施錠・解錠…… 123
キーレスエントリー
（ワイヤレス機能） …… 123
キーフリーシステム…… 123

く

空気圧（タイヤ） …… 568
空調（エアコン）
オートエアコン…… 394
フィルターの交換…… 462
区間距離計
（トリップメーター） ……77, 90
機能……77, 90
表示切り替えスイッチ……76, 89
曇り取り
フロントウインドウ
ガラス …… 396
リヤウインドウ
デフォッガー …… 396
クラクション（ホーン）…… 176
クリアランスランプ
（車幅灯）…… 219
ランプスイッチ
（ライトスイッチ） …… 219
電球（バルブ）の交換 …… 475
クリップ
フロアマット …… 22
クリーンエアフィルター…… 462
グローブボックス…… 407

け

警音器（ホーン）…… 176
計器類（メーター）…… 73
TFT カラーマルチ
インフォメーション
ディスプレイ …… 88
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 75
警告灯…… 505
アンチロックブレーキ
システム（ABS）…… 506
運転席シートベルト
締め忘れ …… 509
eco IDLE OFF 表示灯 …… 508
SRS エアバッグ…… 506
LKC …… 507
エンジン …… 505
エンジンオイル劣化 …… 509
AHB …… 506
ACC …… 507
ADB …… 506
高水温 …… 505
後席シートベルト
締め忘れ …… 509
コーナーセンサー表示灯 … 507

車線逸脱警報 OFF 表示灯 … 507
充電…… 505
助手席シートベルト
締め忘れ …… 509
CVT …… 506
スマートアシスト
OFF 表示灯…… 507
スマートアシスト故障…… 507
スリップ表示灯…… 508
手放し運転…… 508
ドライブスタート
コントロール …… 508
燃料残量…… 509
パワーステアリング…… 506
半ドア…… 508
プリテンショナー…… 506
ブレーキ…… 505
ブレーキオーバーライド
システム …… 508
マスターウォーニング…… 507
油圧…… 505
警告ブザー
運転席シートベルト
締め忘れ …… 509, 521
eco IDLE …… 328, 512, 533
キーフリーシステム… 126, 528
後席シートベルト
締め忘れ …… 509, 522
コーナーセンサー…… 333, 526
車線逸脱警報機能・
路側逸脱警報機能 … 250, 525
衝突回避支援ブレーキ
機能 …… 248, 524
衝突警報機能…… 248, 524
助手席シートベルト
締め忘れ …… 509, 521
セキュリティアラーム……61
接近警報 ……306, 526
先行車発進
お知らせ機能 ……252, 525
手放し運転 ……251, 521
パワーステアリング …506, 516
半ドア走行時 ……508, 521
パーキングブレーキ
未解除走行時 …… 71, 522
ふらつき警報 ……251, 525
ブレーキ ……505, 513
ブレーキ制御付
誤発進抑制機能（前方・後方）
……249, 524
ランプ消し忘れ ……222, 526
リバース …… 206
警告メッセージ…… 513
化粧ミラー
（バニティミラー）…… 419
けん引
けん引されるとき …… 497
フック …… 499

こ

交換
エアコンフィルター …… 462
キーの電池 …… 469
タイヤ …… 454
電球（バルブ）…… 475
ヒューズ …… 472
ワイパーゴム …… 464
工具（ツール）…… 454
光軸調整ダイヤル…… 221
後席シートベルト
締め忘れ警告灯 …… 509
航続可能距離…… 77, 91
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 …… 475
ワット数 …… 569

小物入れ …… 412
コンライト
（自動点灯・消灯装置） …… 219
コーナーセンサー …… 332

さ

サイドエアバッグ ……31
サイドビューランプ …… 230
サイド方向指示灯（側面方向指示灯）
電球（バルブ）の交換…… 475
方向指示レバー…… 207
ワット数…… 569
サイドミラー（ドアミラー） … 179
操作…… 179
ミラーヒーター…… 396
三角表示板収納スペース …… 418
サンバイザー …… 419

し

室内灯（インテリアランプ） … 403
フロントパーソナル
ランプ …… 404
ルームランプ…… 404
ワット数…… 569
始動のしかた …… 199
シフトポジション …… 204
シフトレバー
シフトレバーが
シフトできない …… 205
CVT …… 204
リバース警告ブザー…… 206
シフトロックシステム …… 205
車線逸脱警報機能・
路側逸脱警報機能 …… 280
車線逸脱抑制制御機能 …… 280
車速
スピードメーター……73, 74
車中泊が必要なときは …… 496
ジャッキ
ガレージジャッキ …… 446
車載ジャッキ …… 454
タイヤ交換 …… 454
ジャッキハンドル…… 454
車幅灯…… 219
ランプスイッチ
（ライトスイッチ） …… 219
電球（バルブ）の交換 …… 475
車両カスタマイズ機能…… 570
車両型式…… 569
車両仕様（スペック） …… 569
車両データの記録…… 7
車両を緊急停止するには…… 494
収納装備…… 406
手動光軸調整ダイヤル…… 221
ジュニアシート…… 41
仕様（車両仕様） …… 569
衝突回避支援ブレーキ機能
（対車両・対歩行者）…… 259
衝突警報機能
（対車両・対歩行者）…… 259
初期設定…… 577
TFT カラーマルチ
インフォメーション
ディスプレイ …… 115
パワーウインドウ …… 184
パワースライドドア …… 152
助手席シートベルト
締め忘れ警告灯 …… 509
ショッピングフック…… 432
シート
お手入れ …… 440
シートアレンジ …… 174
シートに関する警告 …168, 171
シートの調整に関する
警告 ……168, 171

シートヒーター…… 401
正しい運転姿勢…… 24
チャイルドシート…… 41
チャイルドシートの固定…… 53
調整…… 168, 169
フロントシート…… 168
ヘッドレスト…… 172
リヤシート…… 169
シートヒーター …… 401
シートベルト …… 26
お子さまの着用…… 29
お手入れ…… 440
緊急時のシートベルト
固定機構 …… 27
シートベルト
締め忘れ警告灯 …… 509
正しく着用するには…… 26
チャイルドシートの固定…… 53
着け方・外し方…… 26
妊娠中の方の着用…… 29
シートベルト締め忘れ警告灯 … 509
シートベルトプリテンショナー … 27
機能…… 27
プリテンショナー警告灯…… 506
CTA（コーナリング
トレースアシスト）…… 381
CVT
シフトレバーが
シフトできない …… 205
CVT …… 204

す

スイッチ
アイドリングストップシステム
（eco IDLE） …… 323
イグニッション…… 199
ウインドウロック…… 183
ウェルカムオープン予約…… 148
ウォッシャー …… 234, 236
エンジンスイッチ …… 199
オーディオ操作スイッチ … 402
オートブレーキ
ホールドスイッチ …… 215
コーナーセンサー …… 332
シートヒーター …… 401
スマートアシスト
OFF スイッチ …… 246
全車速追従機能付 ACC…… 298
D assist 切替…… 205
ドアミラー …… 179
パワーウインドウ …… 182
パワースライドドア
スイッチ …… 145
パワースライドドア
メインスイッチ …… 146
非常点滅灯
（ハザードランプ） …… 491
VSC・TRC OFF …… 382
フォグランプ …… 233
フロントパーソナル
ランプ …… 404
メーター操作スイッチ … 76, 89
ランプスイッチ
（ライトスイッチ） …… 219
リヤウインドウ
デフォッガー …… 396
ワイパー …… 234, 236
スタック…… 562
スターター
エンジンの始動 …… 199
スターターが回らない …… 552
ステアリングスイッチ…… 402
オーディオ操作 …… 402
全車速追従機能付 ACC…… 298
D assist 切替…… 205

ステアリングホイール
（ハンドル） …… 176
位置調整…… 176
パワーステアリング
警告灯 …… 506
ステレオカメラ …… 245
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換…… 475
スノータイヤ（冬用タイヤ） … 388
スピードメーター ……73, 74
スペック（車両仕様） …… 569
スポット表示 ……95
スマートアシスト …… 242
スマートアシスト
機能停止コード …… 534
スマートパノラマ
パーキングアシスト …… 350
アシスト画面…… 353
アシストを開始する…… 354
アシストを中止する…… 358
メッセージについて…… 368
スモールランプ（車幅灯） …… 219
電球（バルブ）の交換…… 475
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 219
ワット数…… 569
スライドドア …… 143
キーフリーシステム…… 144
スライドドア
イージークローザー …… 150
ドアガラス…… 182
パワースライドドア…… 144
半ドア警告灯…… 508
ロックレバー…… 143
ワイヤレスリモコン…… 144
スライドドアイージークローザー
スライドドア…… 150

せ

清掃
アルミホイール …… 435
外装 …… 434
シートベルト …… 440
内装 …… 439
制動灯
電球（バルブ）の交換 …… 475
積算距離計
（オドメーター）…… 77, 90
機能 …… 77, 90
表示切り替えスイッチ … 76, 89
セキュリティアラーム…… 61
停止方法 …… 61
セキュリティ表示灯…… 60
接近警報
（全車速追従機能付 ACC） … 306
先行車発進お知らせ機能…… 291
洗車…… 434
全車速追従機能付 ACC
（アダプティブクルーズ
コントロール） …… 297
前照灯（ヘッドランプ）…… 219
手動光軸調整ダイヤル …… 221
電球（バルブ）の交換 …… 475
ヘッドランプ
点灯延長機能 …… 220
ライトセンサー …… 222
ランプ消し忘れ
警告ブザー …… 222
ランプ消し忘れ防止機能 … 222
ランプスイッチ
（ライトスイッチ） …… 219

そ

速度計
（スピードメーター）…… 73, 74

側面方向指示灯
（サイド方向指示灯）…… 207
ソナー …… 245, 332

た

タイヤ …… 450
空気圧…… 568
交換…… 454
締め付けトルク…… 459
点検…… 450
パンク応急修理セット…… 539
パンクしたときは…… 539
冬用タイヤ…… 388
ホイールサイズ…… 568
ローテーション
（位置交換）…… 450
タイヤが空回りする
（スタックした）…… 562
タイヤチェーン …… 388
タッチ & ゴーロック機能
（パワースライドドア）…… 147
ターンシグナルランプ
（方向指示灯）…… 207
電球（バルブ）の交換…… 475
方向指示レバー…… 207
ワット数…… 569

ち

チェンジレバー（シフトレバー）
シフトレバーが
シフトできない …… 205
CVT …… 204
リバース警告ブザー…… 206
チェーン（タイヤチェーン）… 388
チャイルドシート …… 41
ISOFIX バーでの取り付け …… 56
シートベルトでの固定…… 54
選択方法…… 41
取り付け方 …… 53
チャイルドプロテクター…… 147
駐車ブレーキ（パーキング
ブレーキ）……209, 210
操作 ……209, 210
未解除走行時
警告ブザー …… 72, 522
メンテナンスデータ …… 567
チルトステアリング…… 176

つ

ツール（工具）…… 454

て

D assist 切替ステアリング
スイッチ …… 205
TFT カラーマルチ
インフォメーション
ディスプレイ …… 88
デッキボード…… 417
デフォッガー
フロントガラス …… 396
リヤウインドウ
デフォッガー …… 396
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）…… 475
ワット数 …… 569
点検基準値
（メンテナンスデータ）…… 564
電子カードキー
キーの電池が切れた …… 553
作動範囲 …… 125
正常に働かないとき …… 553
電池交換 …… 469
電池交換（キー）…… 469
テールランプ（尾灯）…… 219
電球（バルブ）の交換 …… 475

ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 219

と

ドア …… 133
オートドアロック・
アンロック機能 …… 135
キーフリーシステム…… 123
チャイルドプロテクター…… 147
ドアガラス…… 182
ドアポケット…… 412
半ドア警告灯…… 508, 521
ロックレバー
（パワードアロック）…… 134
ドアガラス …… 182
ドアハンドル
（アウターハンドル） …… 133
ドアポケット …… 412
ドアミラー …… 179
オート作動…… 180
操作…… 179
ミラーヒーター…… 396
ドア連動（イルミネーテッド
エントリーシステム）…… 405
盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム …… 60
セキュリティアラーム…… 61
時計 ……75, 88
時計の調整 …… 76, 101
トップテザーアンカー ……58
トランスミッション …… 204
操作…… 204
メンテナンスデータ…… 566
トリップインフォメーション
……77, 90
トリップメーター ……77, 90
機能……77, 90
表示切り替えスイッチ … 76, 89

な

内装
お手入れ …… 439
収納装備 …… 406

に

荷物
積むときの注意 …… 198
ラゲージルーム …… 417

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタックした）…… 562

ね

燃料
ガソリンスタンドでの
情報 …… 600
給油 …… 238
種類 …… 564
燃料計 …… 73
燃料残量警告灯 ……509, 521
容量 …… 564

は

排気ガス…… 39
ハイビーム（ヘッドランプ）… 219
電球（バルブ）の交換 …… 475
ランプスイッチ
（ライトスイッチ） …… 219
ワット数 …… 569
挟み込み防止装置
パワーウインドウ …… 183
パワースライドドア …… 152
ハザードランプ
（非常点滅灯）…… 491

スイッチ…… 491
電球（バルブ）の交換…… 475
ワット数…… 569
発炎筒 …… 492
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換…… 475
ワット数…… 569
バックカメラ …… 339
バックドア …… 163
バッテリー
バッテリーあがりを
防止するために …… 558
バッテリーがあがった…… 555
冬の前の準備・点検…… 388
バニティミラー
（化粧ミラー） …… 419
パノラマモニター …… 343
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）… 475
ワット数…… 569
パワーウインドウ …… 182
ウインドウロックスイッチ
（パワーウインドウ
OFF スイッチ）…… 183
閉めることが
できないときは …… 183
操作…… 182
挟み込み防止機能…… 183
パワーステアリング …… 381
パワーステアリング
警告灯 …… 506
パワースライドドア …… 144
操作…… 144
挟み込み防止機能…… 152
パワードアロック
（ロックレバー） …… 134
パワーモード …… 205
パンクした…… 539
番号灯（ライセンスプレート
ランプ） …… 219
電球（バルブ）の交換 …… 475
ランプスイッチ
（ライトスイッチ） …… 219
ワット数 …… 569
ハンドル
（ステアリングホイール）…… 176
位置調整 …… 176
パワーステアリング
警告灯 …… 506
ハンドルポジションモニター…… 96
ハンドルロック…… 201
パーキングブレーキ……209, 210
操作 ……209, 210
未解除走行時
警告ブザー …… 71, 522
メンテナンスデータ …… 567

ひ

非常点滅灯
（ハザードランプ）…… 491
スイッチ …… 491
電球（バルブ）の交換 …… 475
ワット数 …… 569
尾灯（テールランプ）…… 219
電球（バルブ）の交換 …… 475
ランプスイッチ
（ライトスイッチ） …… 219
ヒューズ…… 472
標識認識機能（進入禁止／
最高速度／一時停止） …… 293
表示灯…… 70
日よけ（サンバイザー）…… 419
ヒルホールドシステム…… 381
ヒーター
オートエアコン …… 394

シートヒーター…… 401

ふ

ファンベルトの点検基準値 …… 568
V リブドベルトの点検基準値 … 568
フォグランプ …… 233
スイッチ…… 233
電球（バルブ）交換…… 475
ブザー
運転席シートベルト
締め忘れ …… 509, 521
eco IDLE …… 328, 512, 533
キーフリーシステム
…… 126, 511, 528
後席シートベルト
締め忘れ …… 509, 522
コーナーセンサー…… 333, 526
車線逸脱警報機能…… 525
車線逸脱警報機能・
路側逸脱警報機能 …… 250
衝突回避支援ブレーキ
機能 …… 248, 524
衝突警報機能…… 248, 524
助手席シートベルト
締め忘れ …… 509, 521
セキュリティアラーム……61
接近警報…… 306, 526
先行車発進
お知らせ機能 …… 252, 525
手放し運転…… 251, 521
パワーステアリング… 506, 516
半ドア走行時…… 508, 521
パーキングブレーキ
未解除走行時 …… 71, 522
ふらつき警報…… 251
ブレーキ…… 505, 513
ブレーキ制御付
誤発進抑制機能（前方・後方）
……249, 525
ランプ消し忘れ ……222, 526
リバース …… 206
フック
けん引フック …… 499
ショッピングフック …… 432
フロアマット固定フック …… 22
プッシュボタン
スタートスイッチ …… 199
冬の前の準備
（寒冷時の運転）…… 388
冬用タイヤ…… 388
フューエルメーター（燃料計）… 73
フューエルリッド（給油口）
給油のしかた …… 238
プラスサポート…… 375
ふらつき警報…… 288
ブレーキ
パーキングブレーキ …209, 210
ブレーキ警告灯 …… 505
メンテナンスデータ …… 567
ブレーキアシスト…… 381
機能 …… 381
スリップ表示灯 …… 508
ブレーキ制御付
誤発進抑制機能 …… 270
ブレーキ付近から
キーキー音が聞こえる …… 194
ブレーキフルード…… 567
フロアマット…… 22
フロントシート…… 168
お手入れ …… 440
シートヒーター …… 401
正しい運転姿勢 …… 24
調整 …… 168

フロントシート調整に
関する警告 …… 168
ヘッドレスト…… 172
フロントターン
シグナルランプ …… 207
電球（バルブ）の交換…… 475
方向指示レバー…… 207
フロントパーソナルランプ
スイッチ…… 404
ワット数…… 569
フロントフォグランプ …… 233
スイッチ…… 233
電球（バルブ）交換…… 475
フロント方向指示灯 …… 207
電球（バルブ）の交換…… 475
方向指示レバー…… 207
ブースターケーブルの
つなぎ方 …… 555

へ

平均燃費 ……77, 91
ヘッドランプ …… 219
手動光軸調整ダイヤル…… 221
電球（バルブ）の交換…… 475
ヘッドランプ
点灯延長機能 …… 220
ライトセンサー…… 222
ランプ消し忘れ警告
ブザー …… 222
ランプ消し忘れ防止機能…… 222
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 219
ワット数…… 569
ヘッドレスト …… 172
ベビーシート ……41

ほ

ホイール
交換 …… 454
メンテナンスデータ …… 568
ホイールナットレンチ…… 454
方向指示灯…… 207
電球（バルブ）の交換 …… 475
方向指示レバー …… 207
ワット数 …… 569
補給口（燃料）…… 238
保証…… 9
ホッとカップホルダー…… 409
ボトルホルダー…… 409
ボンネット
開けかた …… 443
ホーン（警音器）…… 176

ま

マスターウォーニング…… 507
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 75

み

ミラー
インナーミラー …… 178
ドアミラー …… 179
バニティミラー …… 419

め

メカニカルキー
（エマージェンシーキー）…… 120
メンテナンスデータ…… 564
メーター（計器類）…… 73
警告灯 …… 505
TFT カラーマルチ
インフォメーション
ディスプレイ …… 88
表示切り替えスイッチ … 76, 89

表示灯…… 70
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 75

ゆ

雪道で滑って動けない
（スタックした） …… 562
油脂類 …… 564
USB ソケット
充電用…… 422
通信用／ HDMI 端子 …… 424
ユーザーカスタマイズ機能 …… 570

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯） …… 219
電球（バルブ）の交換…… 475
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 219
ワット数…… 569
ライトセンサー …… 222
ラゲージアンダーボックス …… 418
ラゲージルーム
デッキボード…… 417
ラゲージアンダーボックス… 418
ラジエーター（冷却装置）
オーバーヒート…… 559
メンテナンスデータ…… 566
ランプ
ウェルカムランプ…… 141
室内灯…… 403
前照灯（ヘッドランプ）…… 219
電球（バルブ）の交換…… 475
非常点滅灯
（ハザードランプ）…… 491
フロントパーソナル
ランプ …… 404
フロントフォグランプ…… 233
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）…… 207
ライトセンサー …… 222
ランプ消し忘れ防止機能 … 222
ルームランプ …… 404
ワット数 …… 569
ランプ消し忘れ防止機能…… 222
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 219

り

リヤウインドウデフォッガー
スイッチ …… 396
リヤシート…… 169
調整 …… 169
ヘッドレスト …… 172
リヤシートに関する警告 … 171
リヤ方向指示灯…… 207
電球（バルブ）の交換 …… 475
方向指示レバー …… 207
ワット数 …… 569
リヤワイパー…… 236

る

ルームミラー
（インナーミラー）…… 178
ルームランプ…… 404
スイッチ …… 404
ワット数 …… 569

れ

冷却水…… 566
冬の前の準備・点検 …… 388
メンテナンスデータ …… 566
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート …… 559
メンテナンスデータ …… 566

レバー
シフト…… 204
方向指示…… 207
ボンネット解除…… 443
ロック（ドア）…… 134

ろ

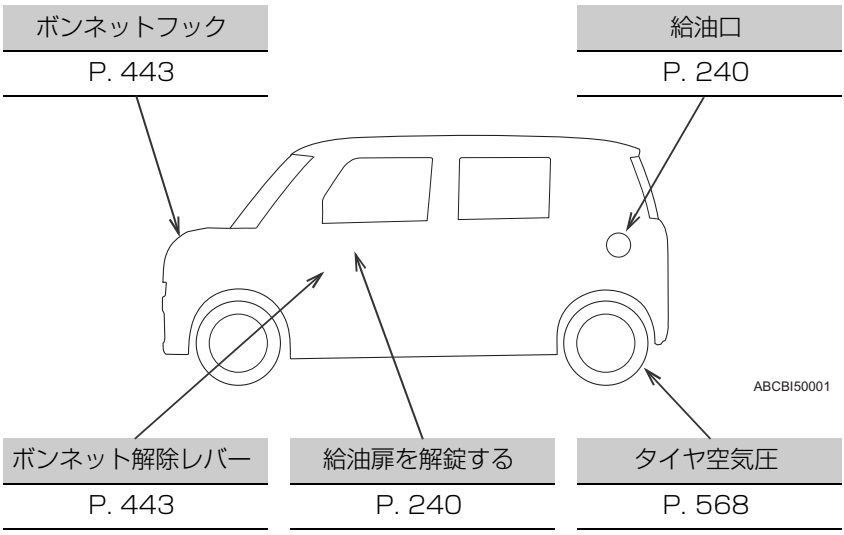
ロック
ウインドウロック…… 183
ウェルカムドア
ロック解除 …… 138
キーフリーシステム…… 123
シフトロックシステム…… 205
ドア…… 133
ワイヤレスリモコン…… 134

わ

ワイパー＆
ウォッシャー …… 234, 236
ワイパーブレード
（寒冷地用）…… 390
ワイヤレス充電機能（Qi）…… 425
ワイヤレスリモコン
操作…… 134
電池交換…… 469
ワックス …… 434
ワット数 …… 569

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	30L	
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン	P. 238, 564
タイヤが冷えているときの空気圧		P. 568
エンジンオイル容量（参考値）		P. 564
エンジンオイルの種類		P. 564

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（Aは一時使用中止時、Bは解体返納時に必要です）

- A　自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書
- B　解体届出書
- A B　自動車検査証
- A B　車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）
- A B　軽自動車税申告書
- A B　印鑑

A 一時使用中止時

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

2番窓口

申請書類の確認

⇩

3番窓口

検査手数料収納

⇩

2番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

2番窓口

申請書類の確認

⇩

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（Cは使用者・所有者を変更した場合、Dは引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

- C D 自動車検査証記入申請書
- C D 自動車検査証
- C D 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後３か月以内のもの）
- C 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者が変わった場合に必要です）
- C D 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）
- C 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書
- D 軽自動車税申告書
- C D 印鑑

C D（ナンバー変更あり）

２番窓口

申請書類の確認

⇩

７番窓口

ナンバー頒布

⇩

５番窓口

申請書の受付、および検査証交付

⇩

６番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

７番窓口

ナンバー頒布

C D（ナンバー変更なし）

２番窓口

申請書類の確認

⇩

６番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

５番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。

お問い合わせには、あらかじめ次の事項について確認の上、ご連絡願います。

⑴車名および型式、登録番号
⑵ご購入年月日
⑶走行距離
⑷お客様のご住所、お名前、電話番号

●印刷＝2025年5月8日　●発行＝2025年5月15日

250515-1

01999-B2669

ダイハツ工業株式会社

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール　0800-500-0182
受付時間　9：00～17：00
〒563-8651　大阪府池田市ダイハツ町1番1号

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。（https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html）

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。